

食育に関するアンケート調査
報告書

令和4年6月
成田市

目 次

I. 調査概要

1. 調査概要	2
（1）調査目的	2
（2）調査対象・抽出方法	2
（3）調査方法及び調査期間	2
（4）回答状況	2
（5）報告書を読む際の留意点	2

II. 調査結果

1. 一般市民調査	4
（1）あなた自身のことについて	4
（2）「食育」について	8
（3）あなたの食生活や健康について	19
（4）あなたの生活や体について	42
（5）食の安全・環境への理解について	47
（6）「郷土料理」や「伝統的な行事食」について	52
（7）「農業体験」について	57
（8）「地産地消」について	61
（9）市に期待することについて	66
2. 小学5年生・中学2年生調査	68
（1）あなた自身のことについて	68
（2）「食育」について	69
（3）食事・食生活について	70
（4）「食文化」について	98
（5）あなたの生活や体について	100

Ⅲ. 自由回答	
1. 一般市民調査 自由回答	107
Ⅳ. アンケート調査のまとめ	
1. アンケート調査のまとめ	113
Ⅴ. 調査票	
1. 一般市民調査票	117
2. 小学5年生・中学2年生調査票	123

I. 調查概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

第3次成田市食育推進計画を策定するにあたり、市民の食生活に関する実態や、食育に関するニーズ等を把握・分析し、計画の基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査対象・抽出方法

調査対象	抽出方法
① 一般市民	市内在住の20歳以上の市民2,000人を対象とし、住民基本台帳より無作為に抽出しました。
② 小学5年生・中学2年生	市内公立小中学校に通う小学5年生・中学2年生の児童生徒全員を対象に実施しました。※義務教育学校を含む

(3) 調査方法及び調査期間

○調査方法

一般市民へのアンケートは、郵送による配布・回答。

小学5年生・中学2年生へのアンケートは、授業の一環として学校でのタブレットを使用したwebアンケートによる配布・回答。

○調査期間

令和4年2月14日(月)～3月31日(木)

(4) 回答状況

調査名	配布数	回答数 (回答率)	参考：前回調査 回答数(回答率)
① 一般市民	2,000	844 (42.2%)	846 (42.3%)
② 小学5年生・中学2年生	2,399	2,059 (85.8%)	2,156 (94.4%)

※前回調査の配布数は①2,000件、②2,285件

(5) 報告書を読む際の留意点

○調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。

○複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。

○選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

○前回調査との比較で、趣旨が同一の場合、表現を今回調査に統一していることがあります。

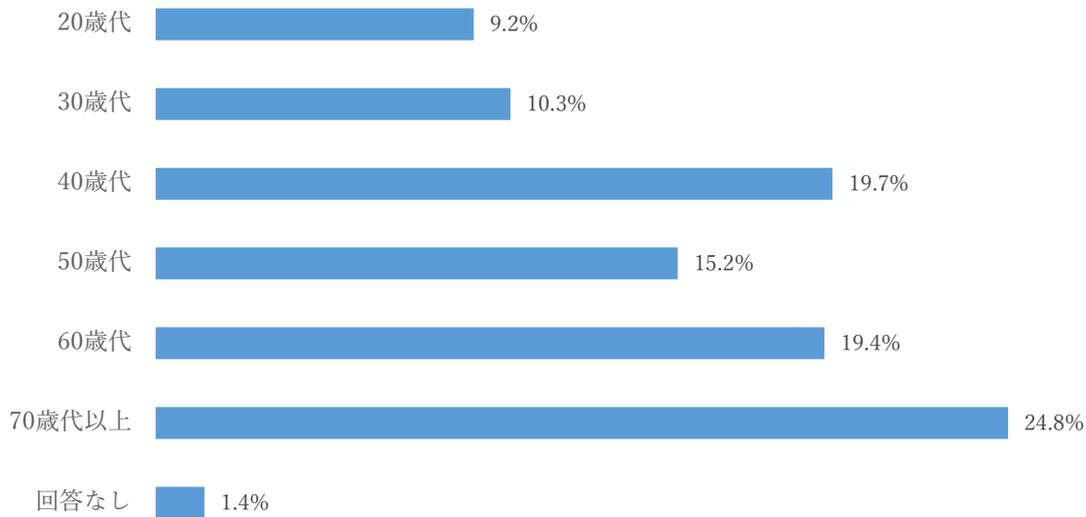
II. 調查結果

1. 一般市民調査

(1) あなた自身のことについて

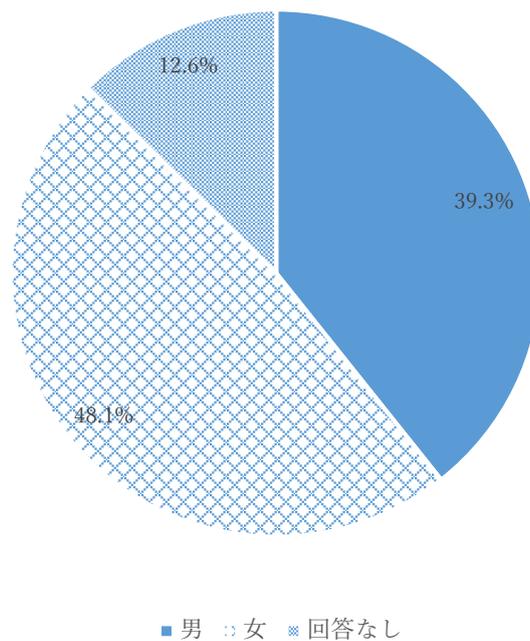
■年代

回答者の年齢は、「70歳代以上」が24.8%と最も多く、次いで「40歳代」が19.7%、「60歳代」が19.4%の順となっています。



■性別

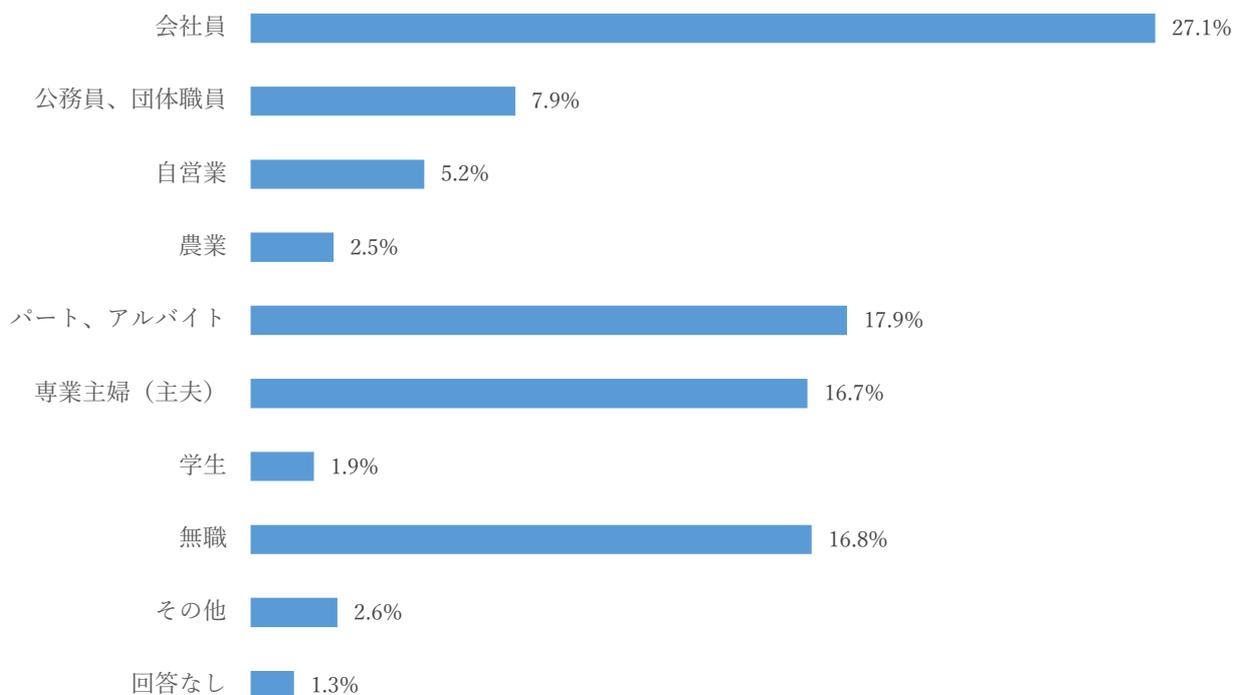
回答者の性別は、「男性」が39.3%、「女性」が48.1%であり、女性が男性を10ポイント近く上回っています。



■職業

回答者の職業は、「会社員」(27.1%)が最も多く、次いで「パート、アルバイト」(17.9%)、「専業主婦(主夫)」(16.7%)の順となっています。

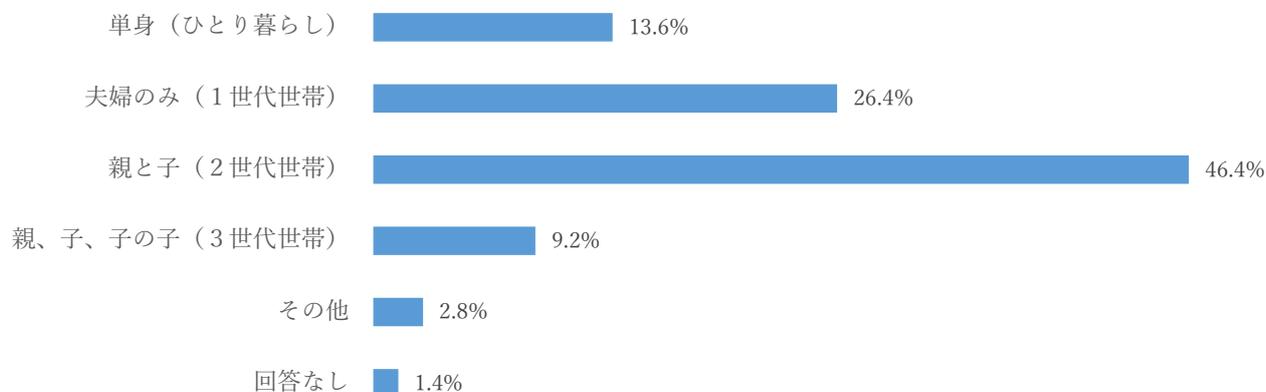
年代別にみると、20～50歳代では「会社員」、60歳代では「専業主婦(主夫)」、70歳代以上では「無職」との回答が最も多くなっています。



	回答者数	会社員	公務員、団体職員	自営業	農業	パート、アルバイト	専業主婦(主夫)	学生	無職	その他	回答なし
全体	844人	27.1%	7.9%	5.2%	2.5%	17.9%	16.7%	1.9%	16.8%	2.6%	1.3%
20歳代	78人	44.9%	11.5%	1.3%	0.0%	11.5%	5.1%	19.2%	1.3%	3.8%	1.3%
30歳代	87人	51.7%	17.2%	3.4%	1.1%	13.8%	8.0%	0.0%	2.3%	1.1%	1.1%
40歳代	166人	38.6%	13.3%	4.2%	0.6%	27.1%	11.4%	0.0%	0.6%	3.6%	0.6%
50歳代	128人	38.3%	11.7%	5.5%	3.1%	25.8%	10.9%	0.8%	2.3%	1.6%	0.0%
60歳代	164人	17.1%	3.0%	6.7%	2.4%	20.7%	25.0%	0.0%	19.5%	3.7%	1.8%
70歳代以上	209人	3.3%	0.5%	7.2%	5.3%	8.1%	24.9%	0.0%	46.9%	1.9%	1.9%

■同居家族

同居家族は、「親と子（2世代世帯）」（46.4%）が最も多く、次いで「夫婦のみ（1世代世帯）」（26.4%）、「単身（ひとり暮らし）」（13.6%）、「親、子、子の子（3世代世帯）」（9.2%）の順となっています。



■18歳以下の子どもの学年

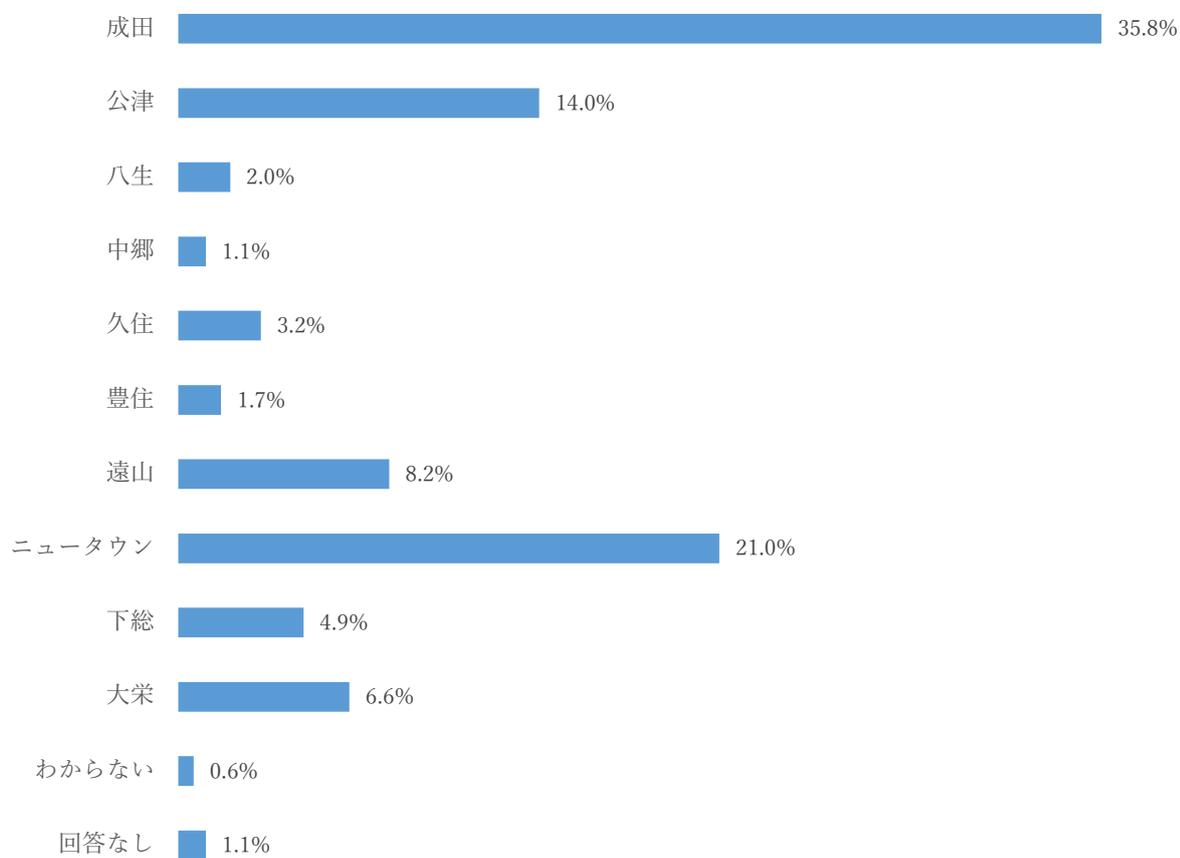
（就学前：79人、小学生：100人、中学生：76人、15歳（中学生を除く）から18歳以下：66人）

18歳以下の子どもの学年については、「小学生」（31.2%）が最も多く、次いで「就学前」（24.6%）、「中学生」（23.7%）、「15歳（中学生を除く）から18歳以下」（20.6%）の順となっています。



■居住地区

居住地区は、「成田」(35.8%)が最も多く、次いで「ニュータウン」(21.0%)、「公津」(14.0%)、「遠山」(8.2%)、「大栄」(6.6%)の順となっています。

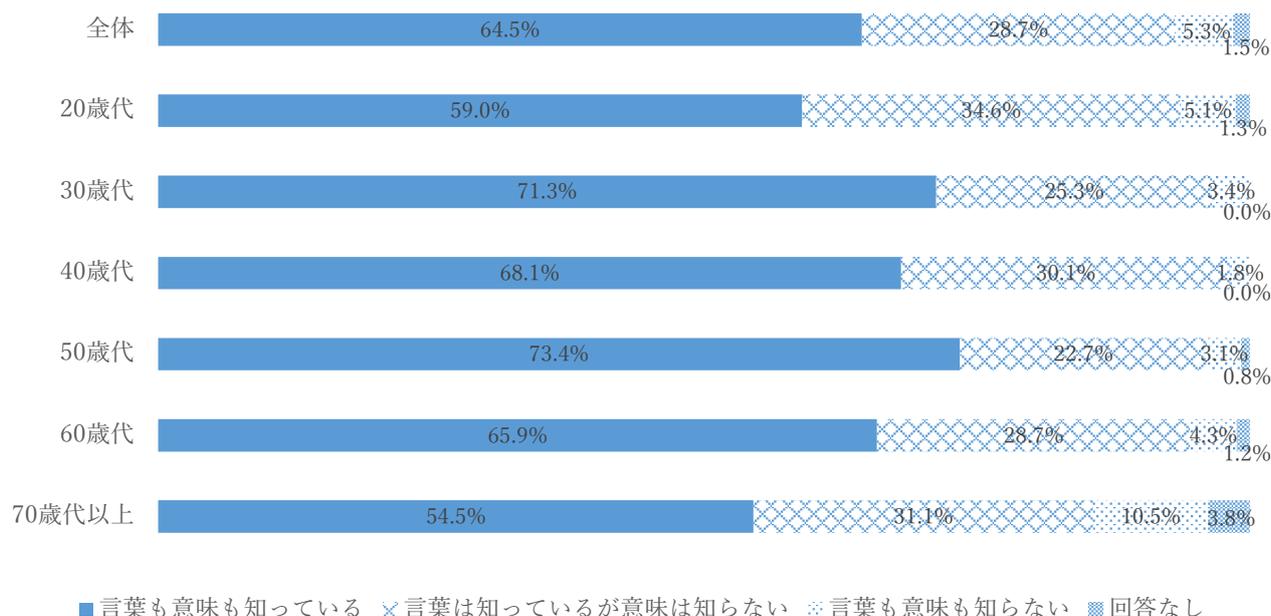


(2) 「食育」について

問1 「食育」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

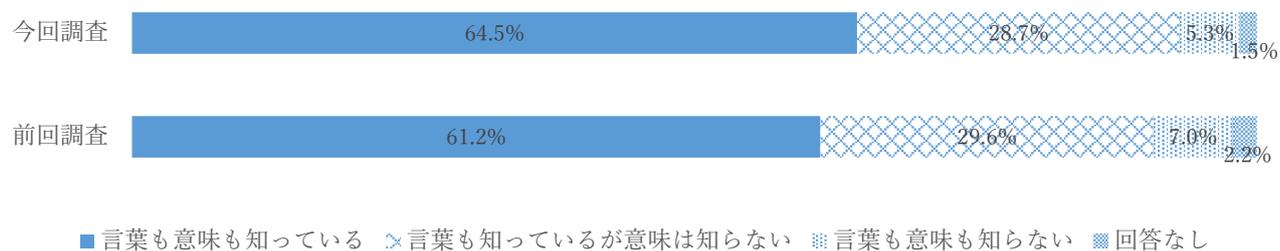
「食育」という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」(64.5%)、「言葉は知っているが意味は知らない」(28.7%)を合わせると、9割を超えています。

年代別では、「言葉も意味も知っている」との回答は、50歳代で最も高く、7割を超えています。また、70歳代以上で「言葉も意味も知らない」との回答が他の年代を上回ります。



【前回調査との比較】

「言葉も意味も知っている」との回答は、前回調査に比べて3.3ポイントほど上回っています。

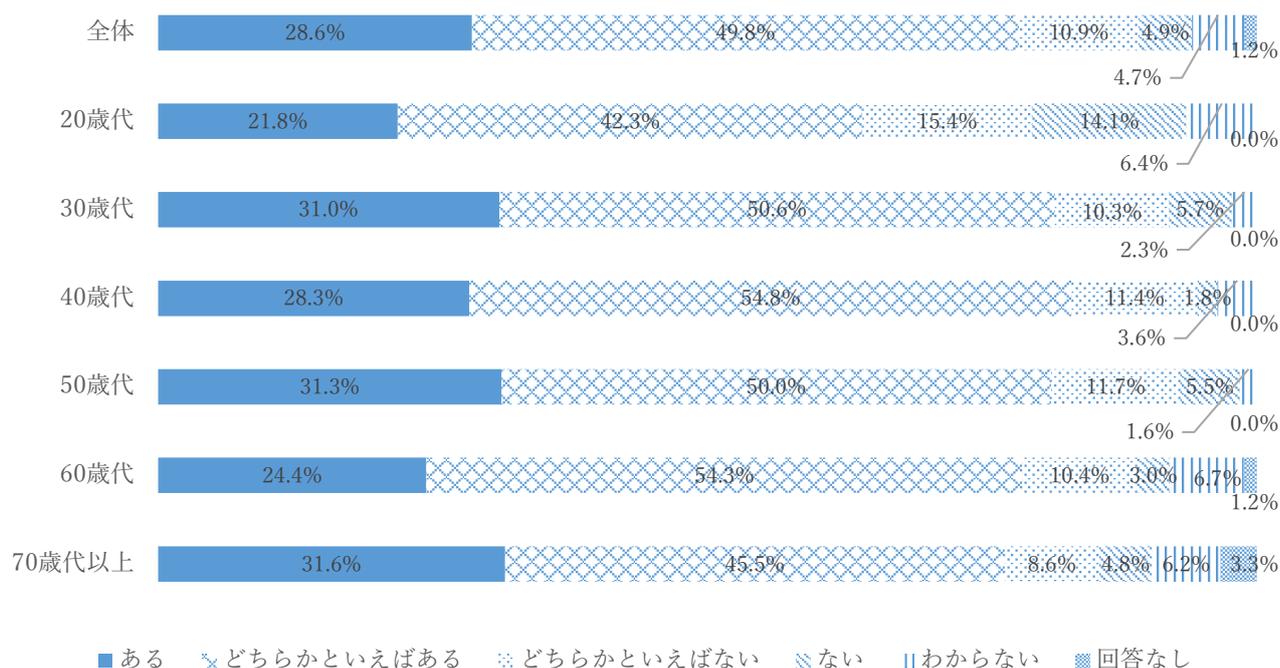


問2 「食育」に関心がありますか。(あてはまるもの1つに○)

「ある」(28.6%)と「どちらかといえばある」(49.8%)を合わせた『ある』は、78.4%と8割近くとなっています。

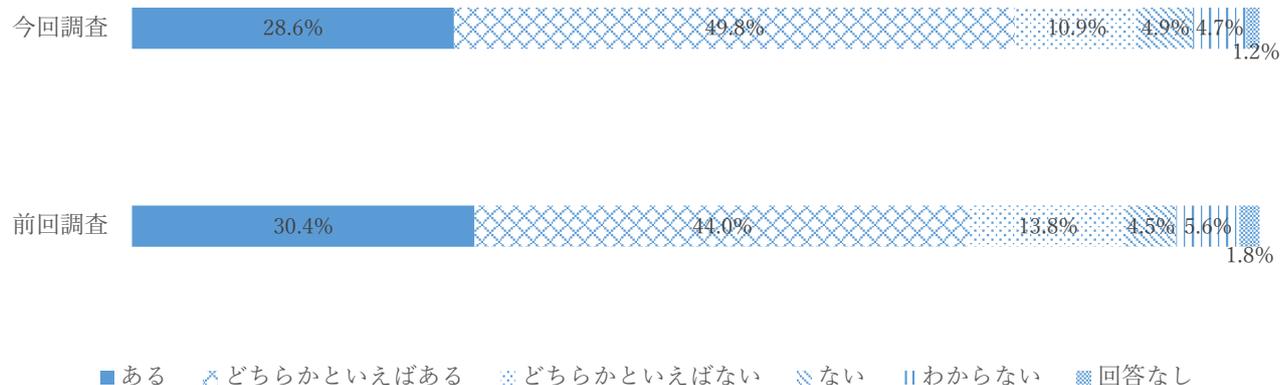
年代別では、「食育」に関心が『ある』との回答は、40歳代で最も高く、8割を超えています。

一方で、「どちらかといえはない」と「ない」を合わせた、「食育」に関心が『ない』との回答は、20歳代で約3割と他の年代を上回ります。



【前回調査との比較】

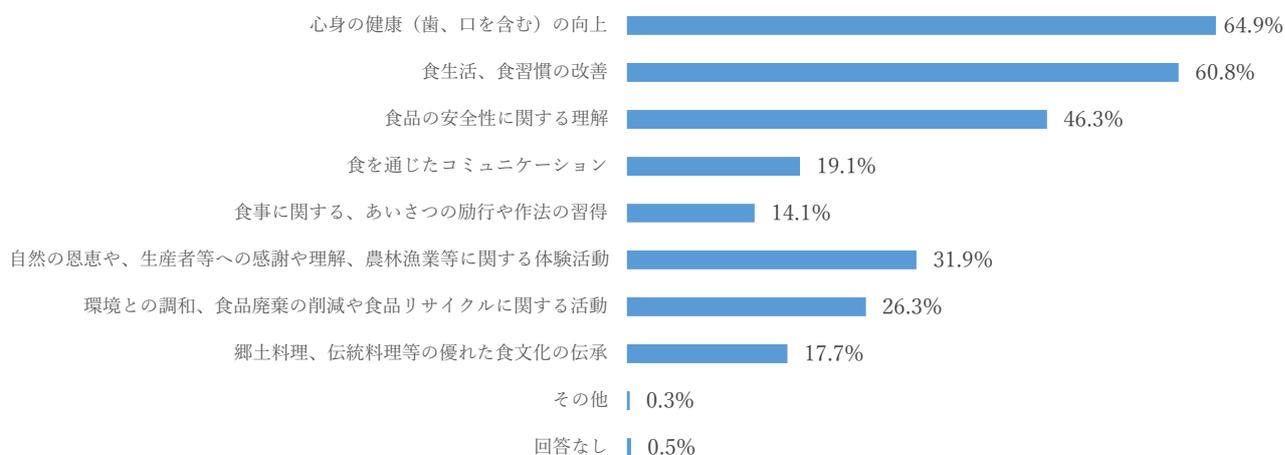
食育への関心が『ある』との回答は、4.0ポイント増加しており、認知度とともに関心がやや高まっていることがわかります。



問3 問2で「1. ある」「2. どちらかといえばある」と答えた方におたずねします。関心がある項目に○をつけてください。(あてはまるもの3つまでに○)

「食育」に関心がある理由では、「心身の健康（歯、口を含む）の向上」（64.9%）、「食生活、食習慣の改善」（60.8%）、「食品の安全性に関する理解」（46.3%）の3つが上位にあげられています。

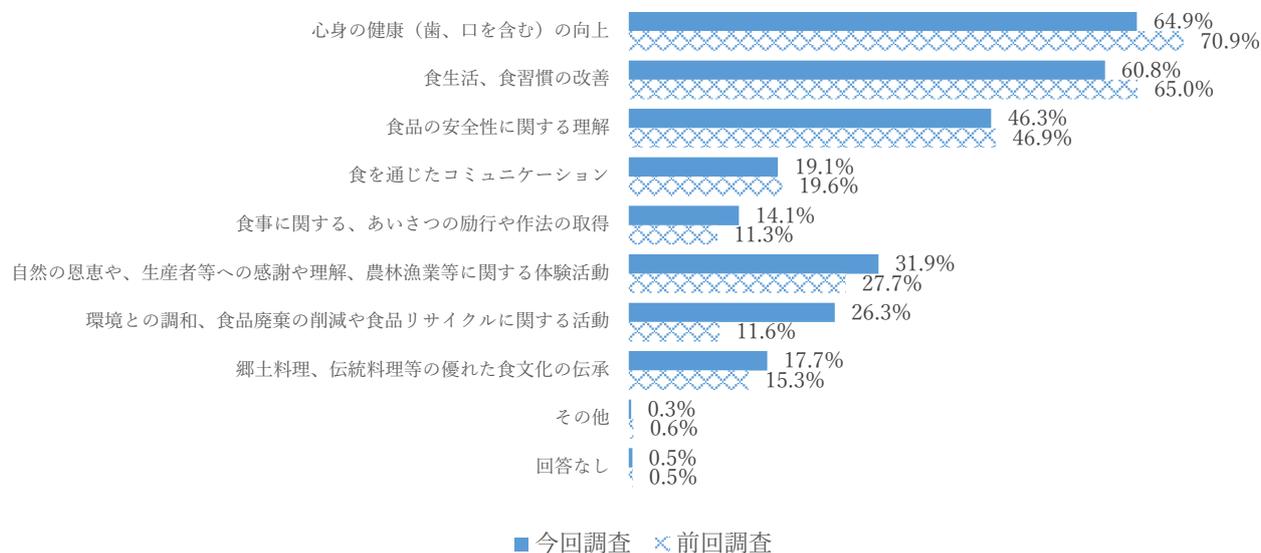
「食育」に関心のある理由は年代によって若干異なり、20～40歳代では「食生活、食習慣の改善」、50歳代以上では「心身の健康（歯、口を含む）の向上」との回答が最も多くあげられています。（40歳代は「心身の健康（歯、口を含む）の向上」も同率。）また、40歳代では「自然の恩恵や、生産者等への感謝や理解、農林漁業等に関する体験活動」、60歳代以上では「食品の安全性に関する理解」との回答が他の年代よりも多くなっています。



		回答者数	心身の健康（歯・口を含む）の向上	善食生活、食習慣の改善	食品の安全性に関する理解	コミュニケーション	食を通じたコミュニケーション	習得	食事に関する、あいさつの励行や作法の習得	体験活動	農林漁業等に関する	等への感謝や理解、生産者	自然の恩恵や生産者	動	サイ	廃棄の削減や食品リ	環境との調和、食品	伝承	等の優れた食文化の	郷土料理、伝統料理	その他	回答なし
全体		661人	64.9%	60.8%	46.3%	19.1%	14.1%	31.9%	26.3%	17.7%	0.3%	0.5%										
年代	20歳代	50人	54.0%	76.0%	28.0%	16.0%	18.0%	20.0%	18.0%	30.0%	0.0%	0.0%										
	30歳代	71人	63.4%	69.0%	29.6%	29.6%	28.2%	32.4%	23.9%	14.1%	0.0%	0.0%										
	40歳代	138人	55.1%	55.1%	42.8%	27.5%	20.3%	41.3%	27.5%	26.8%	0.0%	0.0%										
	50歳代	104人	67.3%	64.4%	38.5%	19.2%	9.6%	32.7%	31.7%	18.3%	1.0%	1.9%										
	60歳代	129人	71.3%	59.7%	56.6%	16.3%	7.0%	31.0%	26.4%	16.3%	0.8%	0.0%										
	70歳代以上	161人	70.2%	57.1%	59.0%	10.6%	8.1%	28.6%	25.5%	9.3%	0.0%	0.6%										

【前回調査との比較】

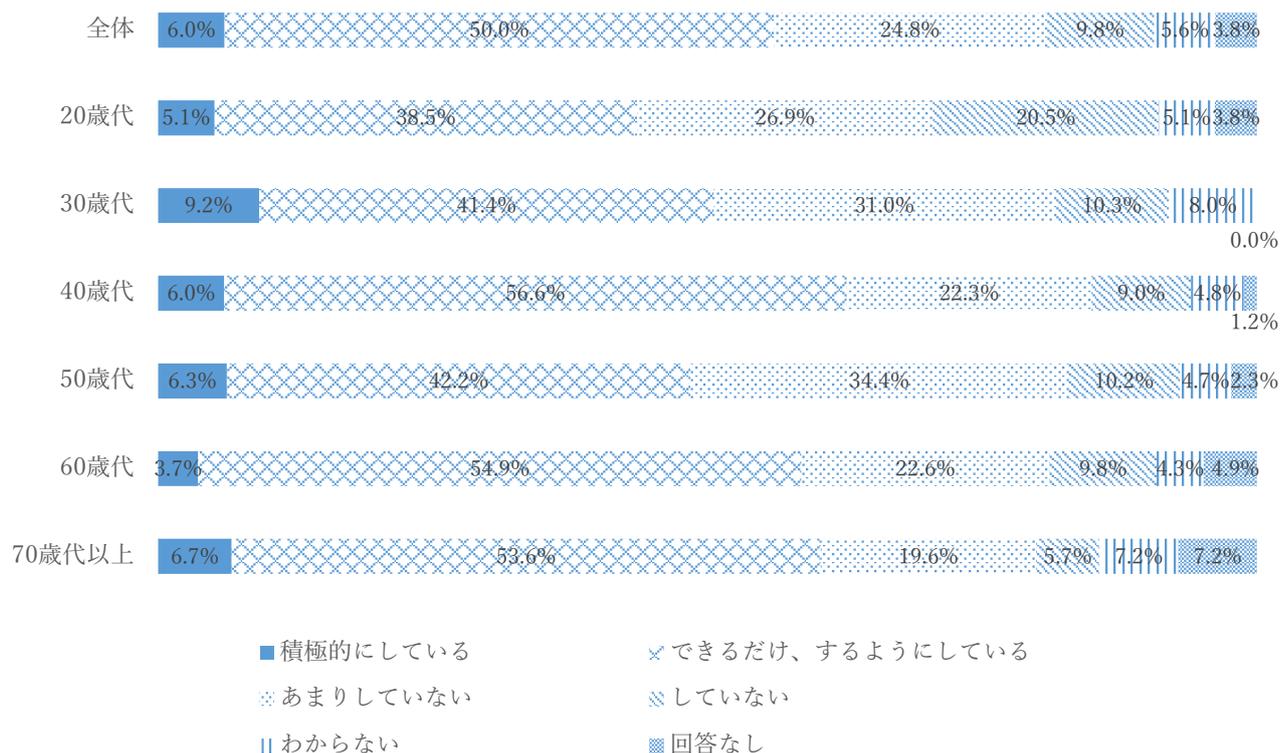
上位の3項目に変化はありませんが、「環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動」で、今回調査が前回調査の回答を大きく上回っており、関心の高さがうかがえます。



問4 日頃から「食育」を実践していますか。(あてはまるもの1つに○)

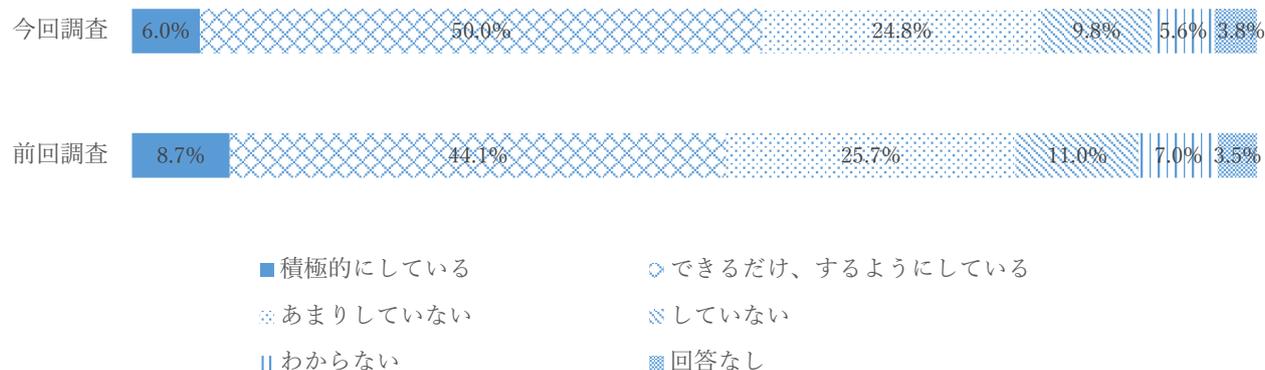
食育の実践について、「積極的にしている」(6.0%)と「できるだけ、するようにしている」(50.0%)を合わせた『している』との回答は56.0%となっています。年代別では、『している』との回答は、40歳代で最も高く、6割を超えています。

一方で、「あまりしていない」と「していない」を合わせた『していない』との回答は、20歳代で約5割と他の年代を上回ります。



【前回調査との比較】

『している』との回答は、前回調査に比べやや増加しているものの、食育の実践を『していない』割合は、今回調査が前回調査を2.1ポイントほど下回っています。

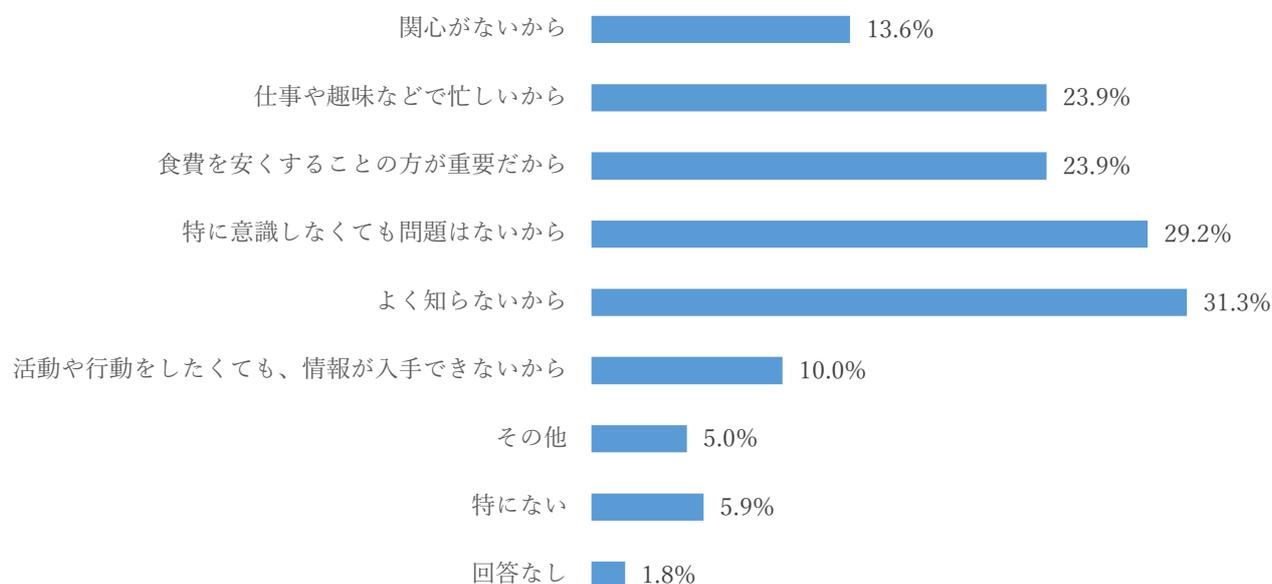


問5 問4で「3. あまりしていない」「4. していない」「5. わからない」と答えた方におたずねします。あなたが食育を実践していない理由は何ですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

食育を実践していない人にその理由をたずねたところ、「よく知らないから」(31.3%)が最も多く、次いで「特に意識しなくても問題はないから」(29.2%)、「仕事や趣味などで忙しいから」(23.9%)、「食費を安くすることの方が重要だから」(23.9%)などが主な回答となっています。

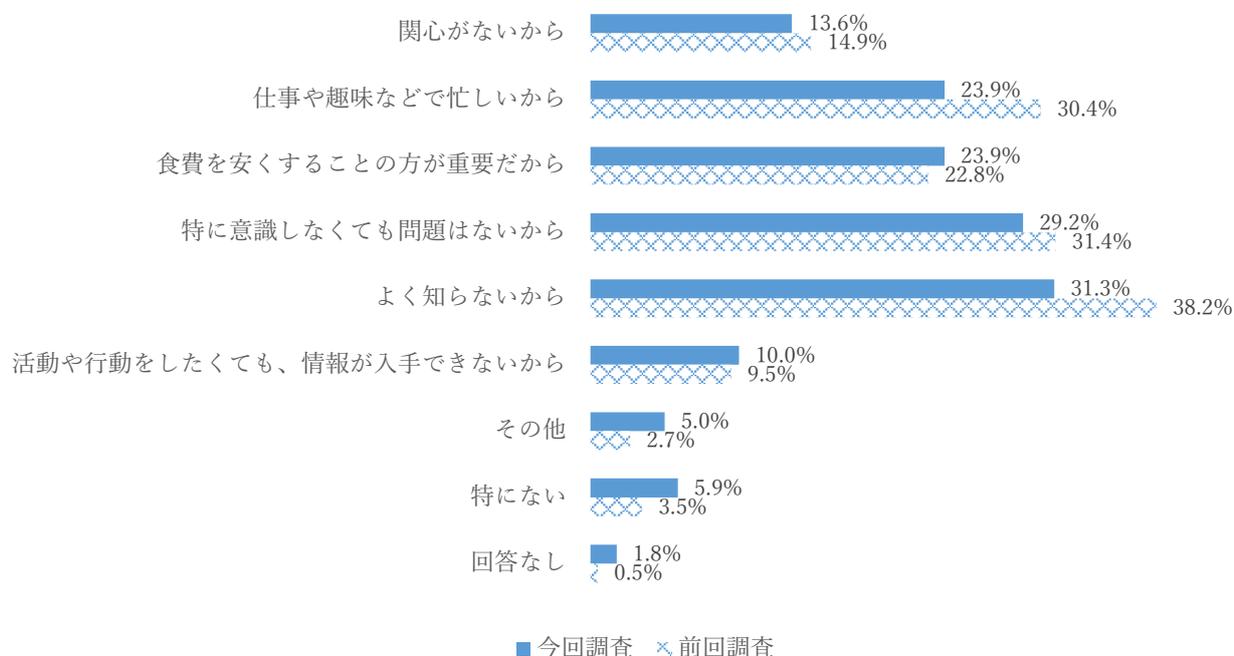
年代別では、20歳代及び40歳代は「よく知らないから」、30歳代は「仕事や趣味などで忙しいから」、50歳代以上は「特に意識しなくても問題はないから」が最も多くあげられています。(50歳代は「食費を安くすることの方が重要だから」も同率。)



	回答者数	関心がないから	仕事や趣味などで忙しいから	食費を安くすることの方が重要だから	問題はないから	特に意識しなくても問題はないから	よく知らないから	活動や行動をしたくても、情報が入手できないから	その他	特になし	回答なし
全体	339人	13.6%	23.9%	23.9%	29.2%	31.3%	10.0%	5.0%	5.9%	1.8%	
年代	20歳代	41人	17.1%	29.3%	12.2%	14.6%	36.6%	4.9%	4.9%	4.9%	4.9%
	30歳代	43人	14.0%	39.5%	32.6%	14.0%	32.6%	9.3%	0.0%	7.0%	0.0%
	40歳代	60人	15.0%	31.7%	26.7%	23.3%	41.7%	11.7%	6.7%	0.0%	0.0%
	50歳代	63人	11.1%	28.6%	31.7%	31.7%	19.0%	11.1%	1.6%	6.3%	1.6%
	60歳代	60人	13.3%	15.0%	21.7%	35.0%	30.0%	13.3%	6.7%	10.0%	0.0%
	70歳代以上	68人	13.2%	7.4%	16.2%	44.1%	30.9%	7.4%	8.8%	7.4%	4.4%

【前回調査との比較】

前回調査の上位項目である「よく知らないから」や「特に意識しなくても問題はないから」との回答は減少している一方、「食費を安くすることの方が重要だから」や「活動や行動をしたくても、情報が入手できないから」、「特にない」との回答は増加しています。

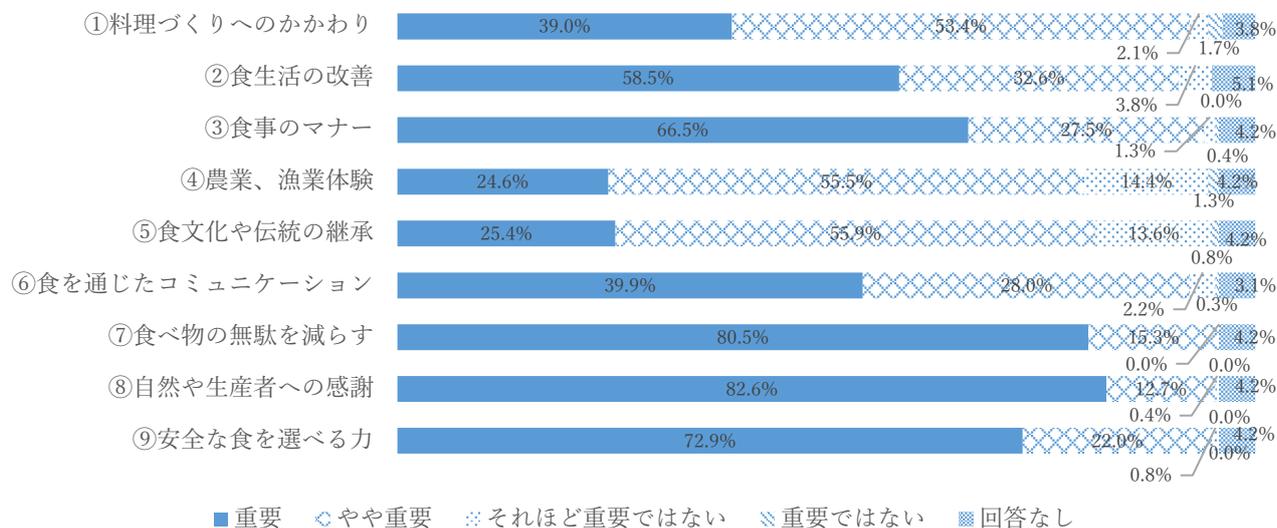


問6 18歳以下のお子様がいらっしゃる方におたずねします。

子どもに対する以下の食育について、どのくらい重要だと思いますか。

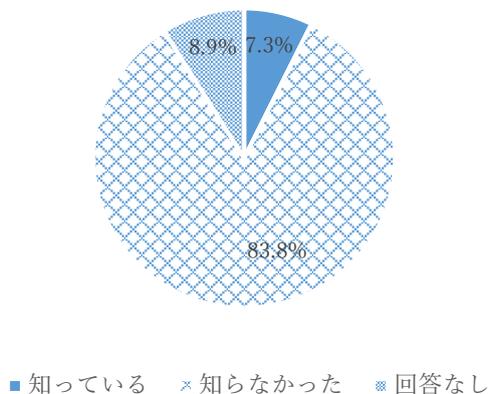
(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

子どもに対する食育についての各取組の重要性については、「重要」との回答は「食べ物の無駄を減らす」「自然や生産者への感謝」「安全な食を選べる力」で7割を超え多くなっています。また、「やや重要」を合わせた『重要』との回答は、すべての項目で6割を超えています。



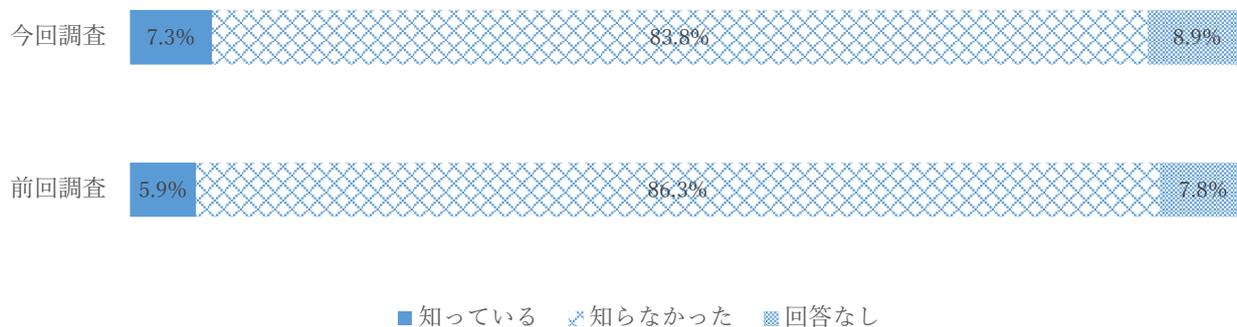
問7 毎年6月は、食育月間であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

「食育月間」の認知度は、「知らなかった」が8割を超えています。



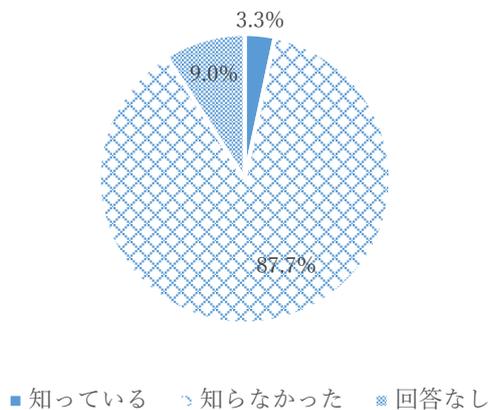
【前回調査との比較】

「知っている」、「知らなかった」との回答は、ともにほぼ横ばいであり、食育月間の認知度は高まっているとは言えない状況にあります。



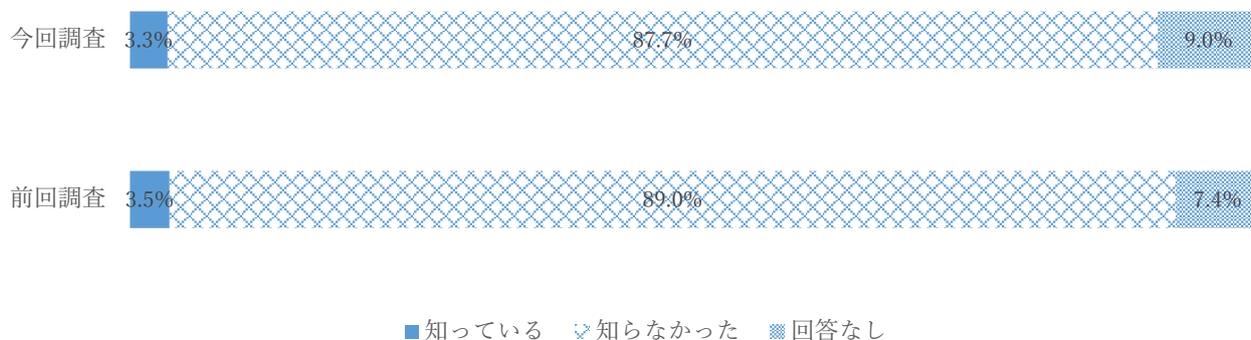
問8 毎月19日は、食育の日であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

「食育の日」の認知度は、「知らなかった」が9割近くとなっています。



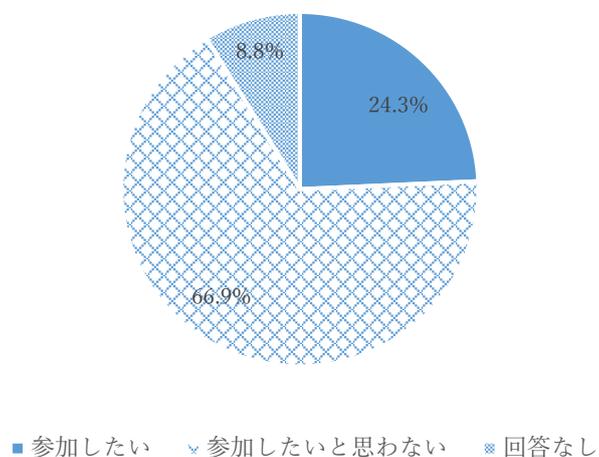
【前回調査との比較】

「知っている」、「知らなかった」との回答は、ともにほぼ横ばいであり、食育月間の認知度と同様に、食育の日の認知度は高まっているとは言えない状況にあります。



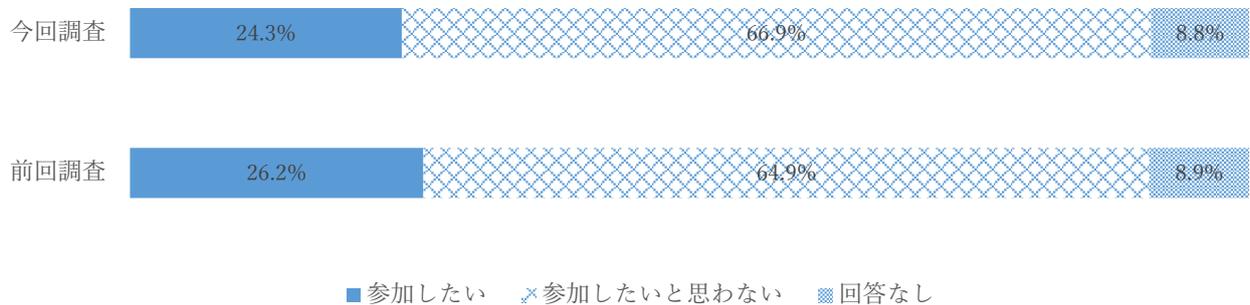
問9 食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加してみたいと思いますか。
(いずれか1つに○)

食育推進に関わるボランティア活動への参加希望については、「参加したい」が24.3%、「参加したくないと思わない」が66.9%となっています。



【前回調査との比較】

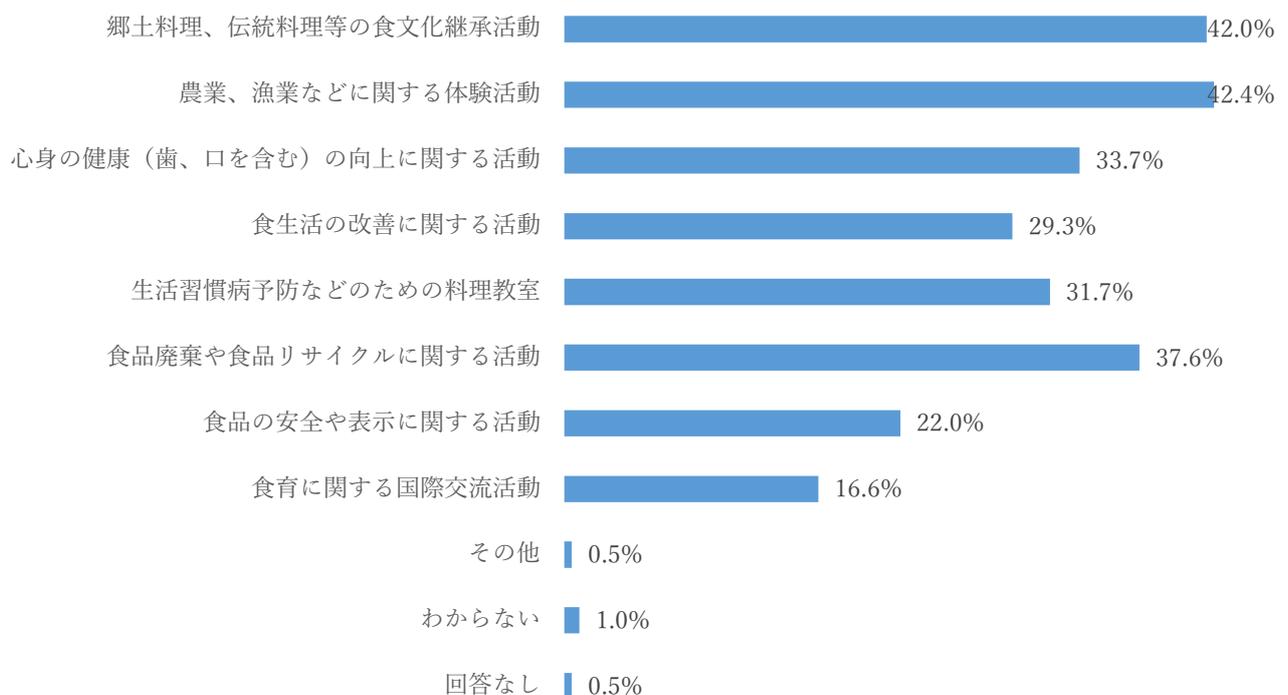
「参加したい」との回答は、前回調査に比べ 1.9 ポイント減少しています。



問10 問9で「1. 参加したい」と答えた方におたずねします。どのようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

参加してみたいボランティア活動では、「農業、漁業などに関する体験活動」(42.4%)が最も多く、次いで「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」(42.0%)、「食品廃棄や食品リサイクルに関する活動」(37.6%)、「心身の健康(歯、口を含む)の向上に関する活動」(33.7%)、「生活習慣病予防などのための料理教室」(31.7%)などが主な回答となっています。

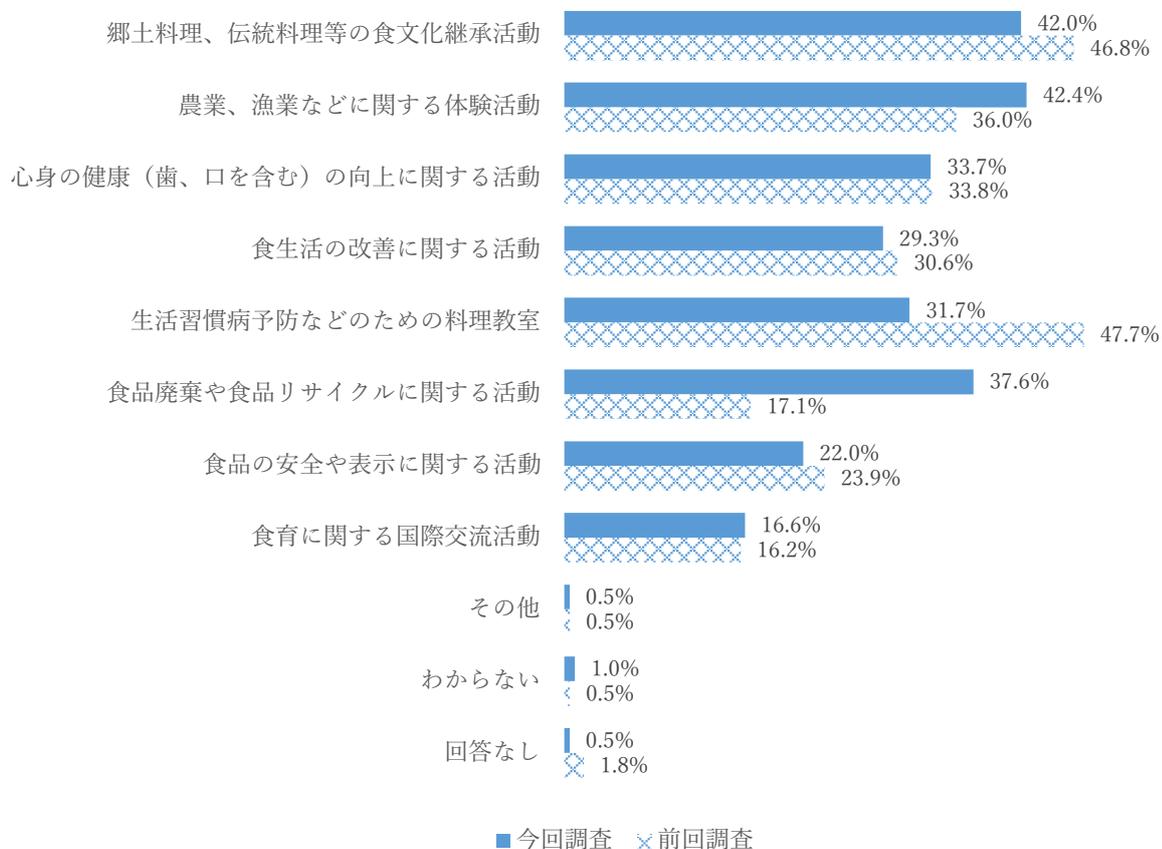
年代別では、20歳代及び40～50歳代では「農業、漁業などに関する体験活動」、30歳代及び60歳代では「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」、70歳代以上では「食品廃棄や食品リサイクルに関する活動」が最も多くあげられています。



	回答者数	等の食文化継承活動	郷土料理、伝統料理	する体験活動	農業、漁業などに関する活動	を含む（歯、口）の向上に関する活動	心身の健康（歯、口）	る生活の改善に関する活動	食生活の改善に関する活動	の生活習慣病予防などのための料理教室	イクルに関する活動	食品廃棄や食品リサイクルに関する活動	食品の安全や表示に関する活動	食品の安全や表示に関する活動	流活動	食育に関する国際交流活動	その他	わからない	回答なし
全体	205人	42.0%	42.4%	33.7%	29.3%	31.7%	37.6%	22.0%	16.6%	0.5%	1.0%	0.5%							
年代	20歳代	22人	22.7%	50.0%	45.5%	45.5%	22.7%	27.3%	18.2%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%						
	30歳代	26人	46.2%	42.3%	23.1%	19.2%	38.5%	30.8%	19.2%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%						
	40歳代	48人	50.0%	62.5%	22.9%	27.1%	25.0%	43.8%	25.0%	20.8%	2.1%	0.0%	0.0%						
	50歳代	34人	44.1%	52.9%	35.3%	17.6%	29.4%	26.5%	20.6%	26.5%	0.0%	2.9%	0.0%						
	60歳代	46人	47.8%	23.9%	39.1%	32.6%	39.1%	39.1%	17.4%	6.5%	0.0%	2.2%	0.0%						
	70歳代以上	26人	26.9%	23.1%	38.5%	34.6%	26.9%	57.7%	30.8%	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%						

【前回調査との比較】

前回調査の上位項目である「生活習慣病予防などのための料理教室」や「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」との回答は減少、「農業、漁業などに関する体験活動」や「食品廃棄や食品リサイクルに関する活動」との回答が増加しています。



(3) あなたの食生活や健康について

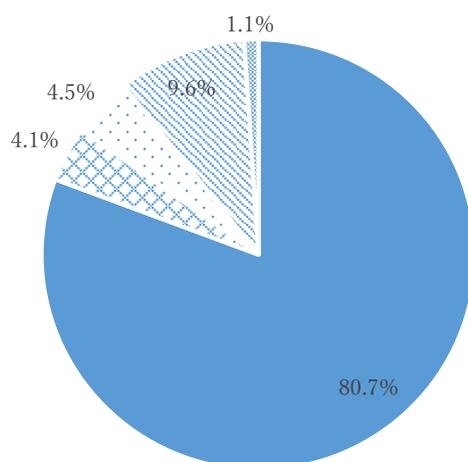
問11 朝食を食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

※栄養ドリンク剤、野菜ジュース等のみの場合は含みません。

朝食の習慣では、「ほぼ毎日食べている」が8割を超えています。

性別では、女性に比べ男性で「ほとんど食べない」と回答する人が多くなっています。

性・年代別では、「ほとんど食べない」や「週に2～3日食べる」との回答は、20～40歳代の男性が他の年代より多く、20歳代の女性では3割を超えており、働き盛りの男性や若い女性で朝食の欠食が多い状況がうかがえます。

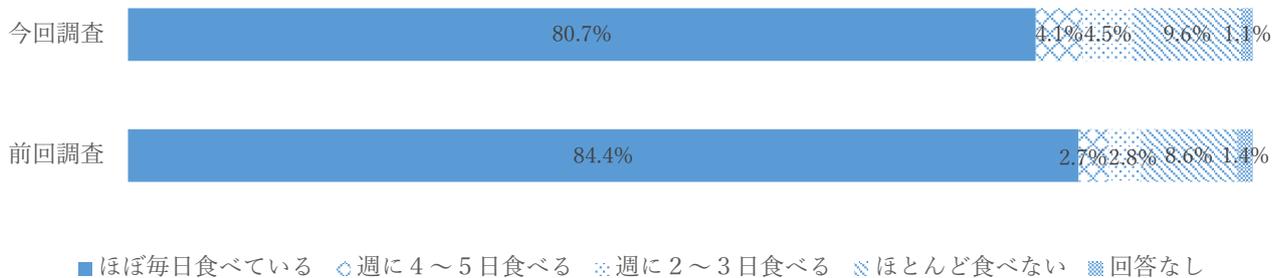


■ ほぼ毎日食べている ◐ 週に4～5日食べる ◑ 週に2～3日食べる ✕ ほとんど食べない ※ 回答なし

		回答者数	ほぼ毎日食べている	週に4～5日食べる	週に2～3日食べる	ほとんど食べない	回答なし
全体		844人	80.7%	4.1%	4.5%	9.6%	1.1%
性別	男性	332人	75.9%	4.8%	5.7%	11.7%	1.8%
	女性	406人	84.5%	3.7%	3.7%	7.9%	0.2%
男性	20歳代	31人	54.8%	19.4%	12.9%	9.7%	3.2%
	30歳代	37人	59.5%	8.1%	16.2%	13.5%	2.7%
	40歳代	52人	67.3%	5.8%	7.7%	19.2%	0.0%
	50歳代	60人	73.3%	3.3%	5.0%	16.7%	1.7%
	60歳代	66人	81.8%	3.0%	3.0%	9.1%	3.0%
	70歳代以上	86人	93.0%	0.0%	0.0%	5.8%	1.2%
女性	20歳代	41人	56.1%	9.8%	9.8%	24.4%	0.0%
	30歳代	50人	82.0%	6.0%	4.0%	8.0%	0.0%
	40歳代	90人	80.0%	5.6%	5.6%	8.9%	0.0%
	50歳代	55人	87.3%	1.8%	1.8%	7.3%	1.8%
	60歳代	83人	92.8%	1.2%	1.2%	4.8%	0.0%
	70歳代以上	84人	94.0%	1.2%	2.4%	2.4%	0.0%

【前回調査との比較】

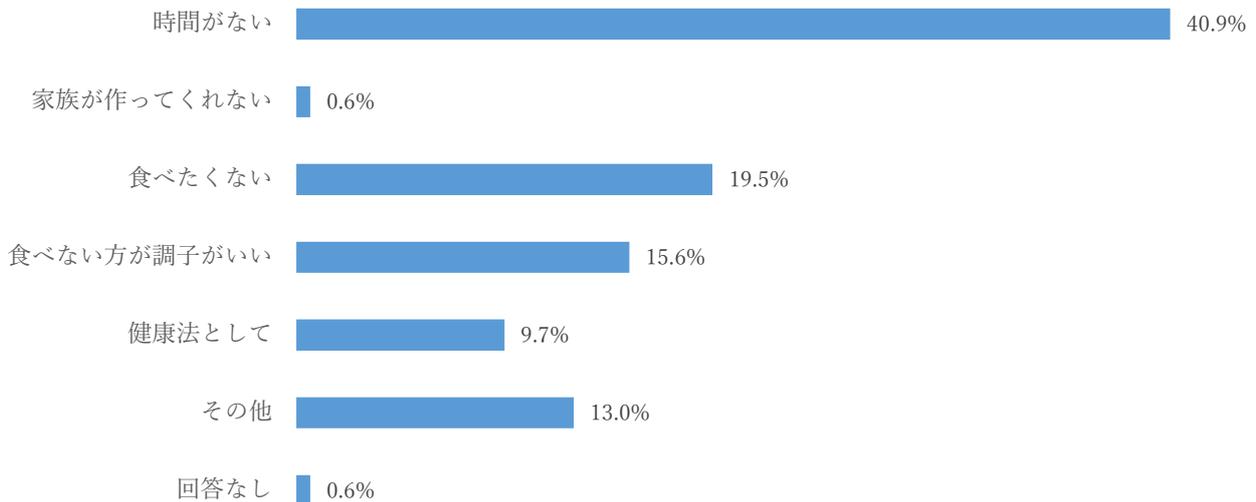
「ほぼ毎日食べている」との回答は、前回調査から減少し、「週に4～5日食べる」「週に2～3日食べる」「ほとんど食べない」との回答が増加しています。



問12 問11で「2. 週に4～5日食べる」「3. 週に2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○)

朝食を食べない日がある人にその理由をたずねたところ、「時間がない」(40.9%)が最も多く、次いで「食べたくない」(19.5%)、「食べない方が調子がいい」(15.6%)の順となっています。

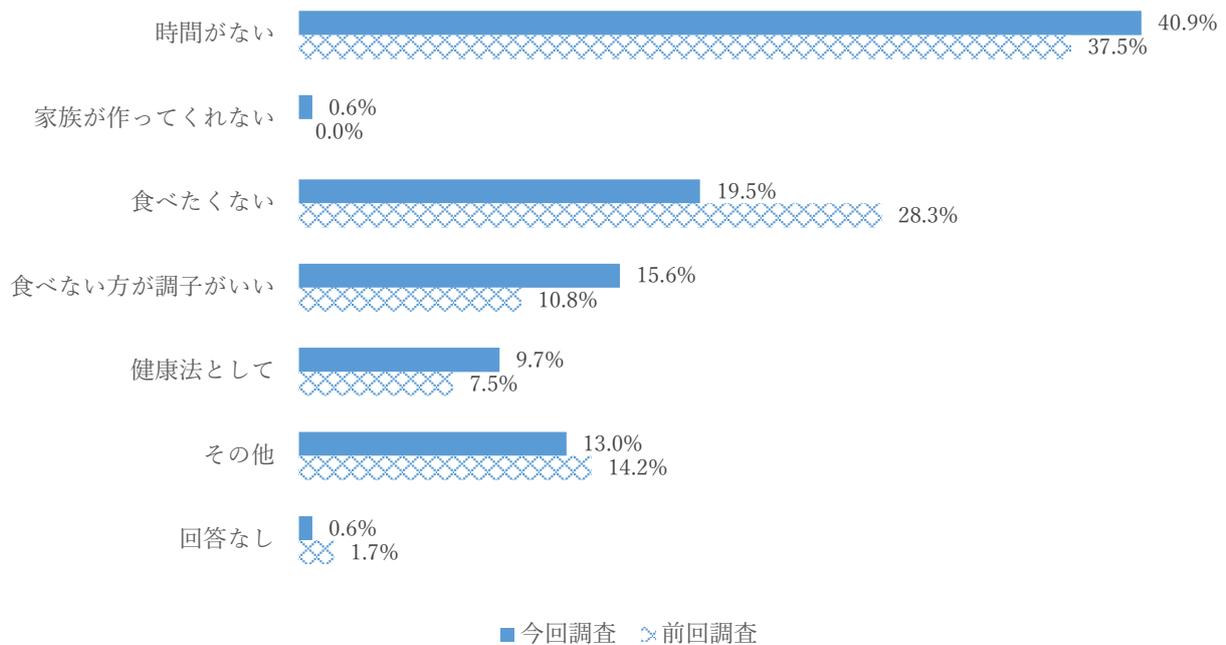
年代別では、20～50歳代では「時間がない」、60歳代以上では「食べたくない」が最も多くあげられています。



	回答者数	時間がない	家族が作ってくれない	食べたくない	食べない方が調子がいい	健康法として	その他	回答なし	
全体	154人	40.9%	0.6%	19.5%	15.6%	9.7%	13.0%	0.6%	
年代	20歳代	35人	65.7%	0.0%	8.6%	14.3%	2.9%	8.6%	0.0%
	30歳代	23人	56.5%	0.0%	8.7%	17.4%	4.3%	13.0%	0.0%
	40歳代	42人	38.1%	2.4%	21.4%	16.7%	9.5%	11.9%	0.0%
	50歳代	24人	29.2%	0.0%	20.8%	12.5%	20.8%	12.5%	4.2%
	60歳代	17人	17.6%	0.0%	35.3%	11.8%	11.8%	23.5%	0.0%
	70歳代以上	12人	8.3%	0.0%	33.3%	25.0%	16.7%	16.7%	0.0%

【前回調査との比較】

前回調査・今回調査ともに最も多くあげられている「時間がない」との回答は、やや増加し、「食べたくない」との回答が8ポイント以上減少しています。

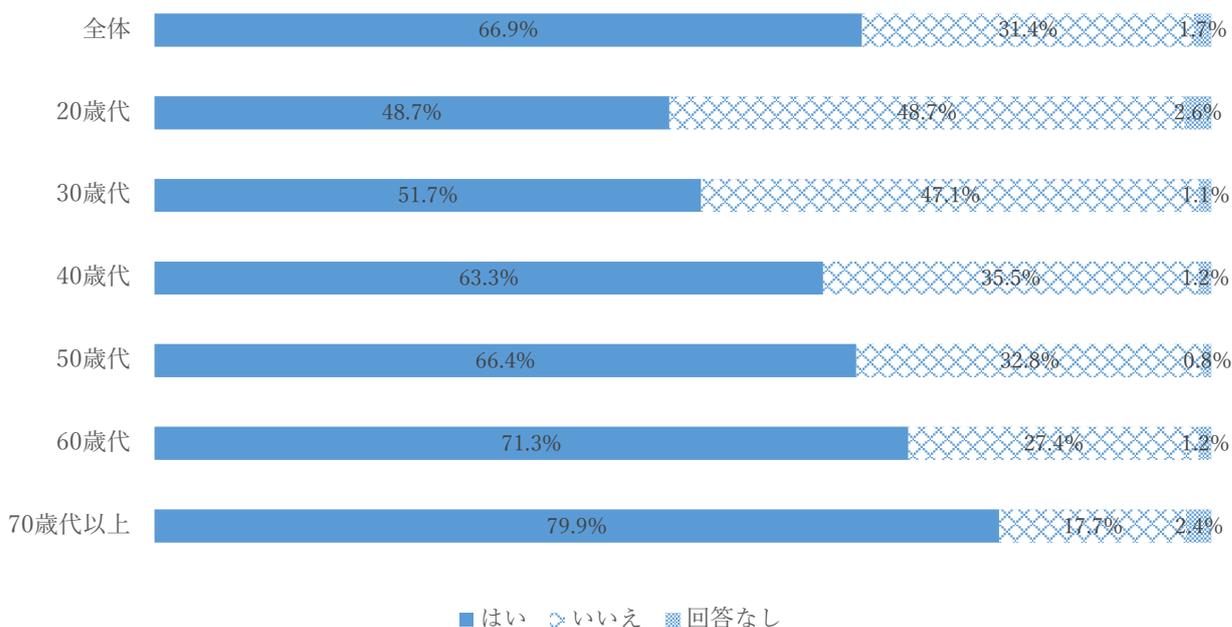


問13 栄養バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜を組み合わせた食事）を、1日2回以上心がけていますか。（いずれか1つに○）

※主食は米、パン、麺類を使った料理、主菜は魚、肉、卵、大豆などを使った料理、副菜は野菜、きのこ、海藻などを使った料理を言います。

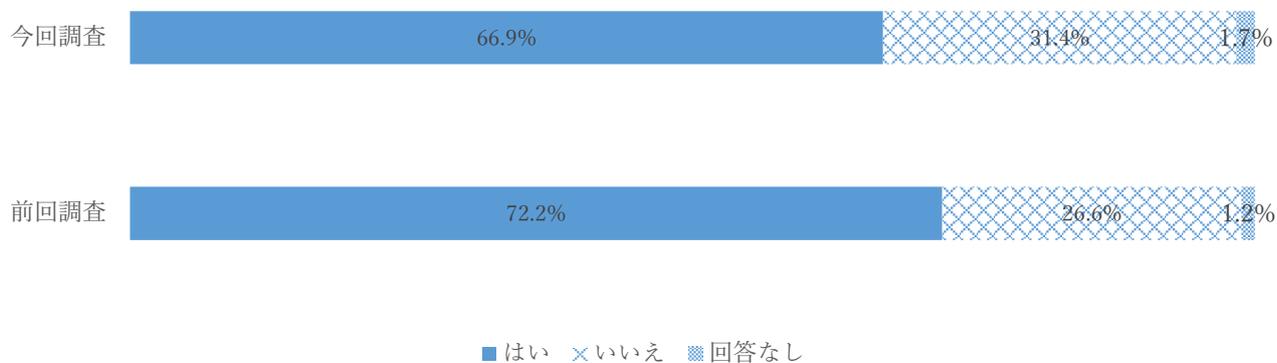
栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけているかでは、「はい」が7割近くとなっています。

年代別では、年代が高くなるほど、バランスのとれた食事を心がけている人の割合が多い傾向にあります。



【前回調査との比較】

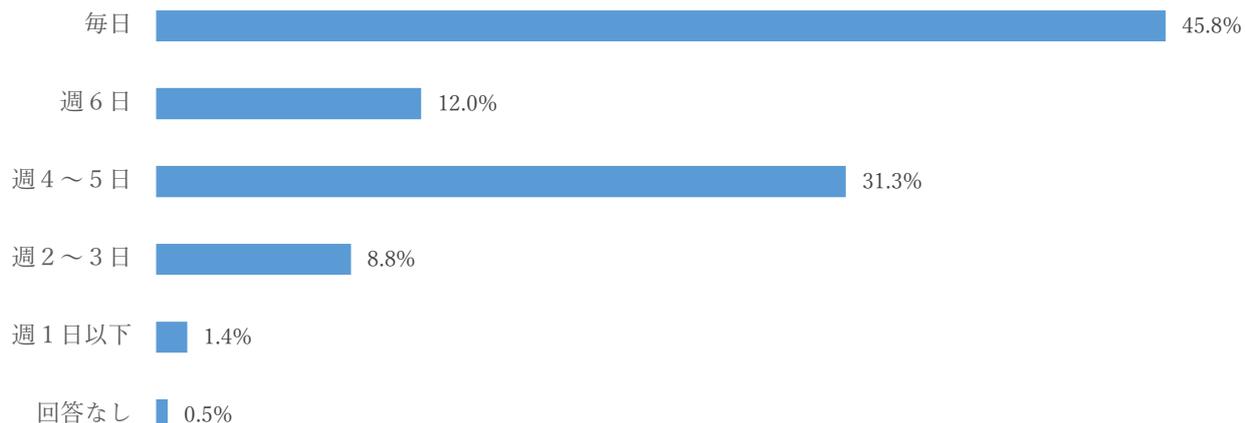
「はい」との回答は、前回調査に比べ5ポイント以上減少しています。



問14 問13で「1. はい」と答えた方におたずねします。栄養バランスのとれた食事を1日2回以上とっている日は週に何日ありますか。(あてはまるもの1つに○)

栄養バランスのとれた食事を1日2回以上とっている日が週に何日あるかについては、「毎日」が45.8%で最も多く、次いで「週4～5日」(31.3%)、「週6日」(12.0%)などであり、週4日以上は1日2回栄養バランスのとれた食事をとっている人が全体の9割近くとなっていることがわかります。

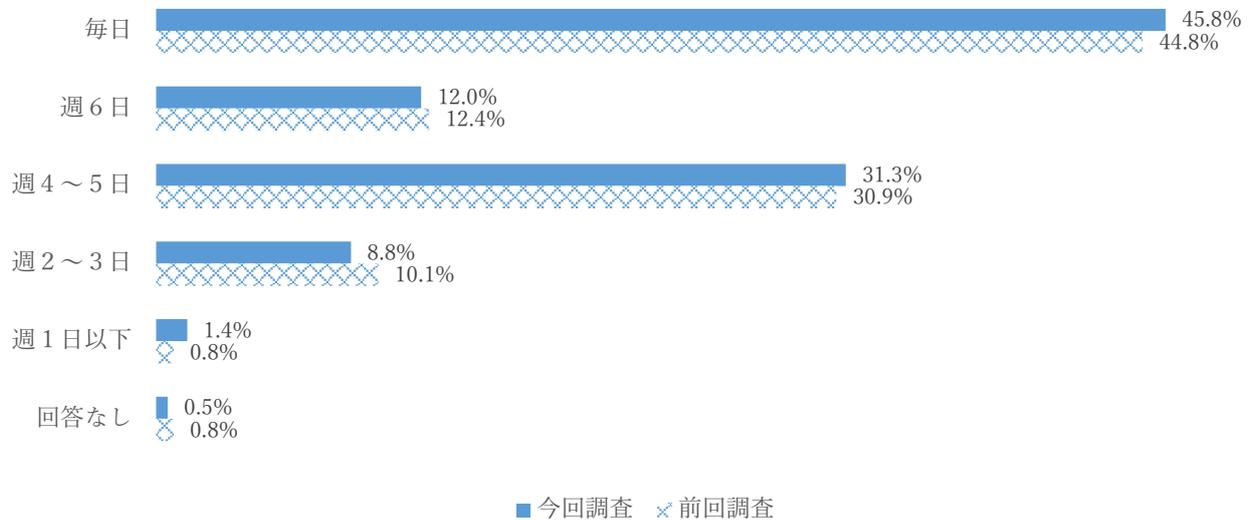
年代別では、30歳代以上では「毎日」、20歳代では「週4～5日」との回答が最も多く、若い世代では、栄養バランスのとれた食事をとっている頻度がやや低くなっています。



		回答者数	毎日	週6日	週4～5日	週2～3日	週1日以下	回答なし
全体		565人	45.8%	12.0%	31.3%	8.8%	1.4%	0.5%
年代	20歳代	38人	26.3%	7.9%	39.5%	23.7%	2.6%	0.0%
	30歳代	45人	42.2%	11.1%	24.4%	17.8%	4.4%	0.0%
	40歳代	105人	46.7%	12.4%	33.3%	6.7%	0.0%	1.0%
	50歳代	85人	44.7%	12.9%	32.9%	7.1%	1.2%	1.2%
	60歳代	117人	42.7%	16.2%	34.2%	6.8%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	167人	53.9%	10.2%	26.9%	6.6%	2.4%	0.0%

【前回調査との比較】

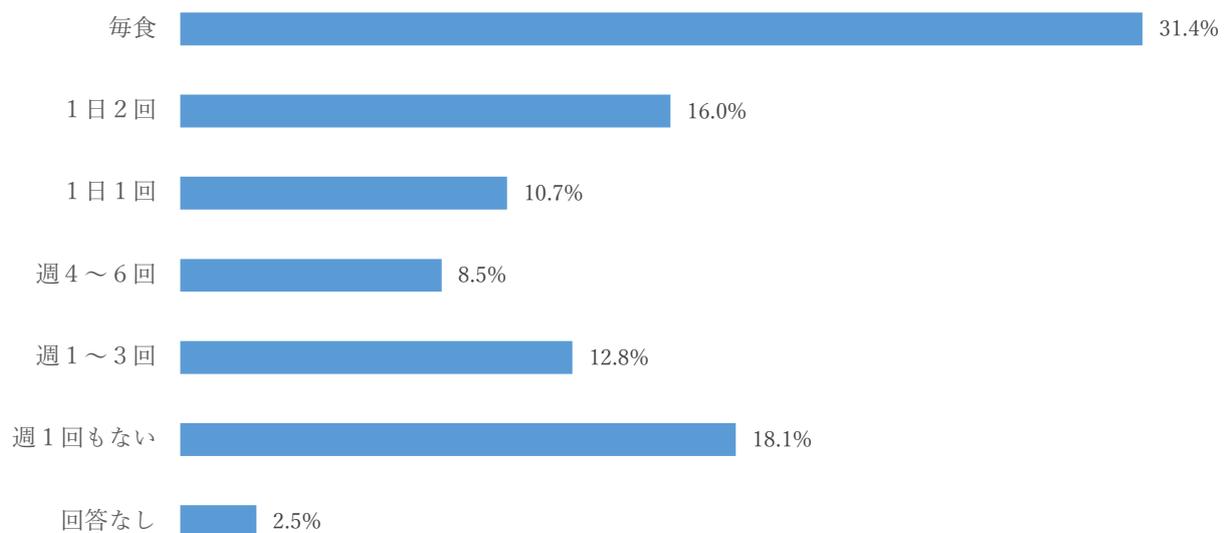
前回調査と比較し、「毎日」「週4～5日」「週1日以下」との回答は、前回調査から微増していますが、いずれの回答もほぼ横ばいとなっています。



問15 普段、料理を作りますか。(あてはまるもの1つに○)

料理の習慣では、「毎食」が31.4%で最も多く、次いで「1日2回」(16.0%)、「1日1回」(10.7%)と合わせると、1日1回以上自分で料理を作っている人は、6割近くとなっています。一方、「週1回もない」と回答した人は、18.1%となっています。

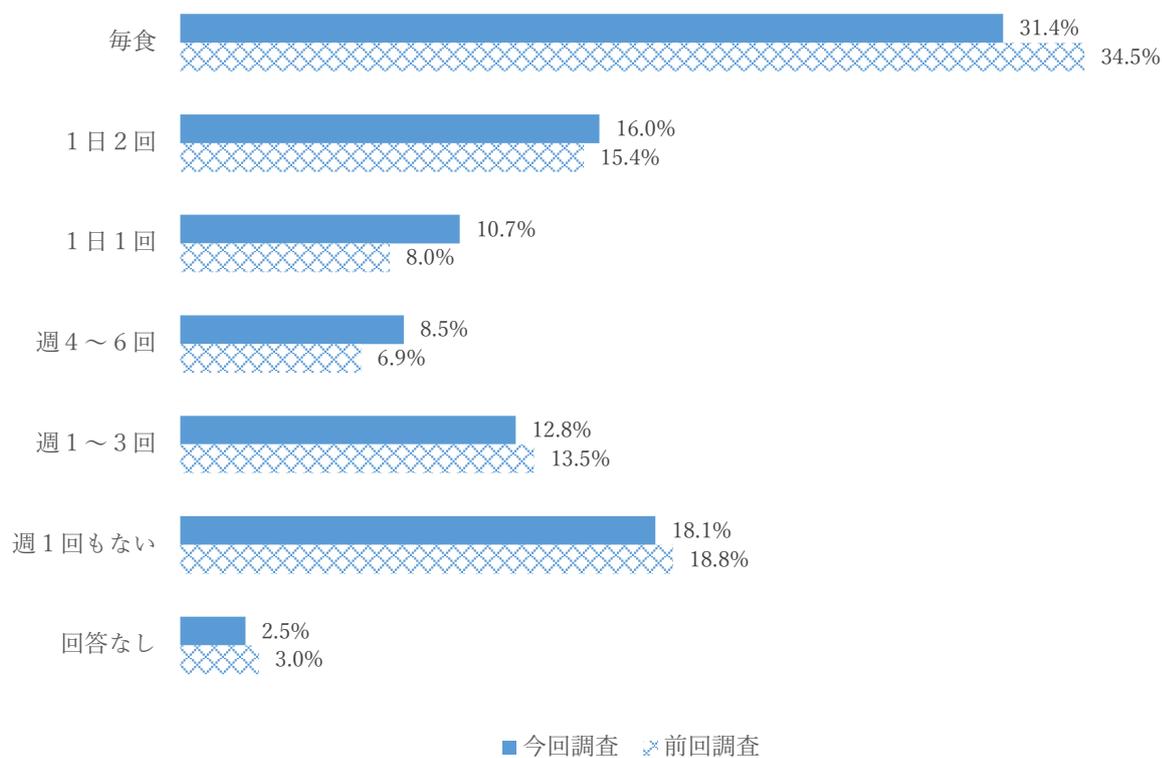
性別では、料理を作る頻度は、男性に比べ女性が圧倒的に高いことが分かります。



		回 答 者 数	毎 食	1 日 2 回	1 日 1 回	週 4 ～ 6 回	週 1 ～ 3 回	週 1 回 も ない	回 答 なし
全体		844人	31.4%	16.0%	10.7%	8.5%	12.8%	18.1%	2.5%
性 別	男性	332人	12.7%	6.9%	11.7%	9.6%	20.2%	36.4%	2.4%
	女性	406人	44.8%	23.6%	11.1%	7.6%	6.4%	4.2%	2.2%

【前回調査との比較】

料理を作る頻度は、前回調査に比べ「毎食」との回答が減少していますが、各項目について大きな変動は見られません。



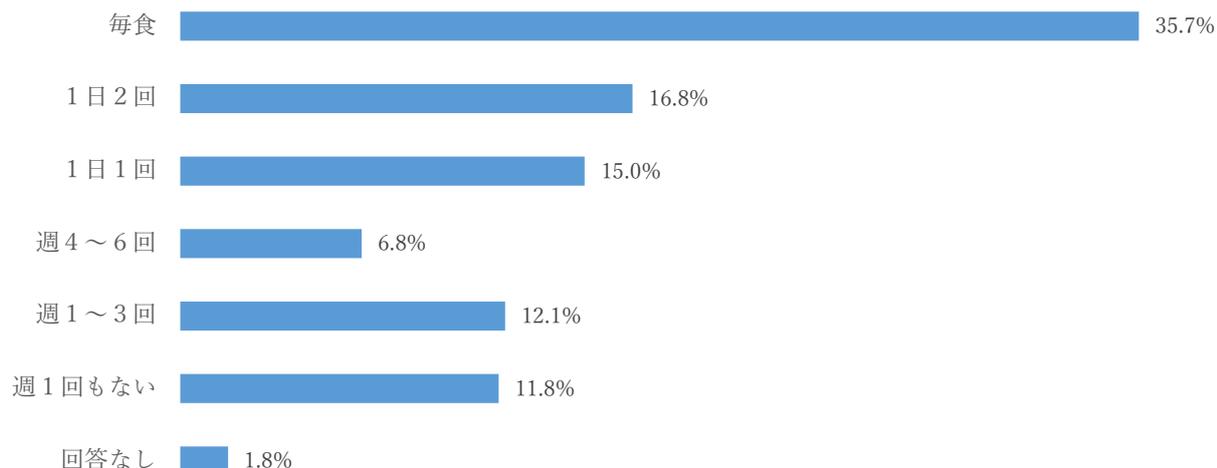
問16 普段、家族や友人と一緒に食事をとっていますか。(あてはまるもの1つに○)

※オンラインを活用した食事を含む。

家族、友人との食事状況は、「毎食」が35.7%で最も多く、「1日2回」(16.8%)、「1日1回」(15.0%)と合わせると1日1回以上家族・友人と食事している人は、7割近くとなっています。

年代別では、30歳代以上では「毎食」、20歳代では「週1～3回」との回答が最も多くなっています。

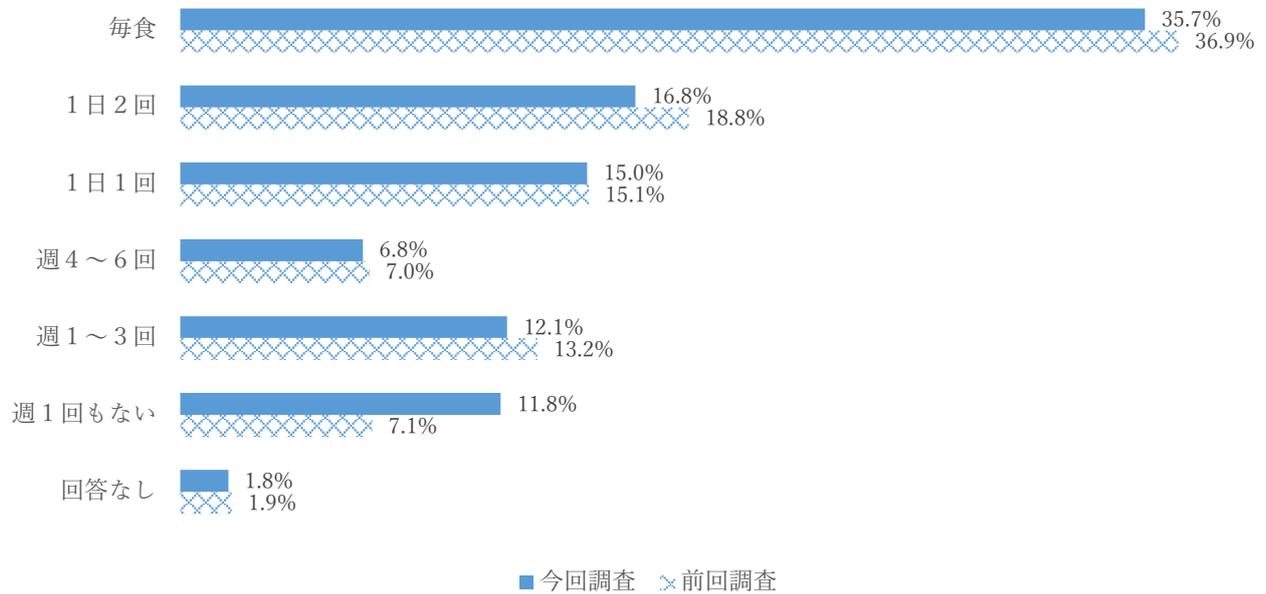
一方で、70歳代以上では、「週1回もない」との回答が約2割と他の年代を上回っています。



		回答者数	毎食	1日2回	1日1回	週4～6回	週1～3回	週1回もない	回答なし
全体		844人	35.7%	16.8%	15.0%	6.8%	12.1%	11.8%	1.8%
年代	20歳代	78人	17.9%	11.5%	17.9%	14.1%	20.5%	15.4%	2.6%
	30歳代	87人	34.5%	20.7%	14.9%	6.9%	12.6%	10.3%	0.0%
	40歳代	166人	28.3%	24.7%	20.5%	6.6%	15.7%	4.2%	0.0%
	50歳代	128人	31.3%	16.4%	23.4%	7.8%	10.2%	10.2%	0.8%
	60歳代	164人	42.7%	17.1%	14.0%	7.9%	6.1%	11.6%	0.6%
	70歳代以上	209人	45.5%	11.5%	6.2%	2.4%	11.5%	17.7%	5.3%

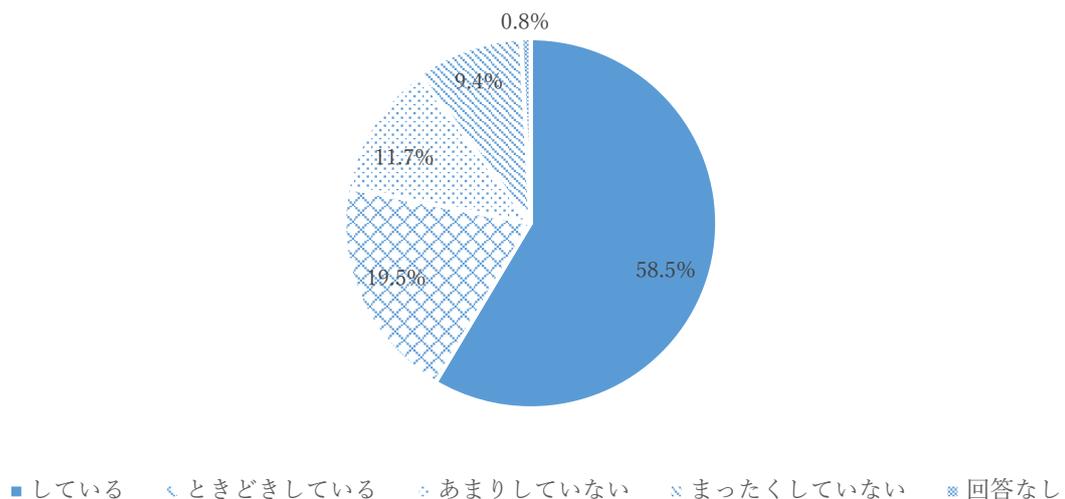
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、家族や友人との食事状況は、「週1回もない」との回答が増加しています。



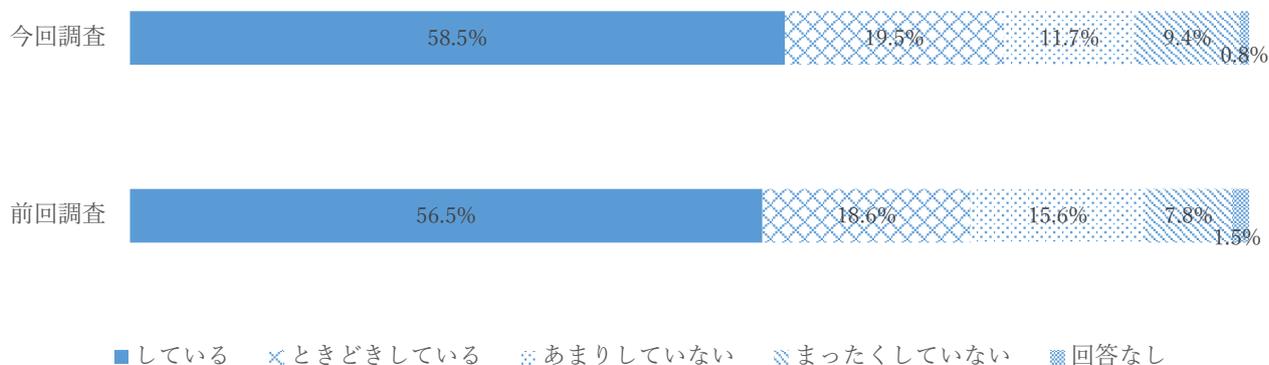
問17 食事の際、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。
(あてはまるもの1つに○)

食事のあいさつをしているかについては、「している」が58.5%で最も多く、次いで「ときどきしている」が19.5%、「あまりしていない」が11.7%となっています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、あいさつを「あまりしていない」、「まったくしていない」との回答は減少しています。



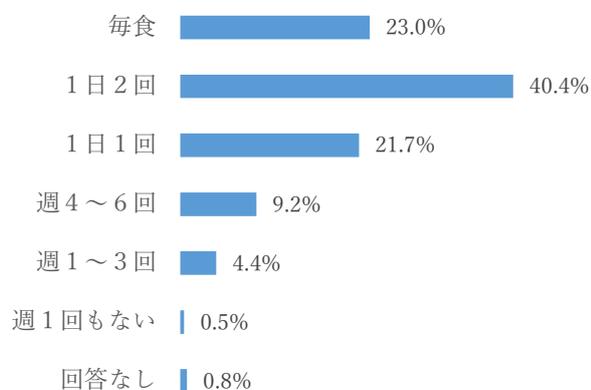
問18 普段、次の食品を、どれくらい食べて（飲んで）いますか。

（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

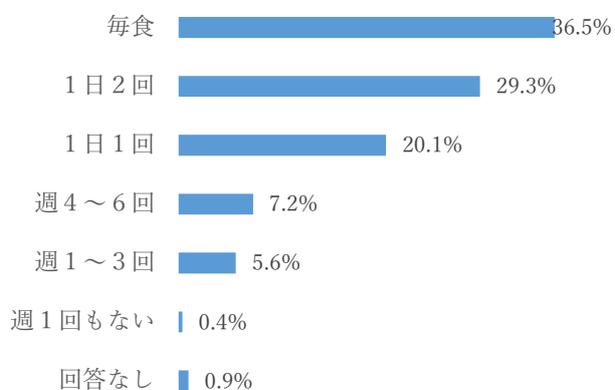
普段食べている食品では、「米」や「野菜類」は1日2回以上とっている割合が高く、いずれも6割を超えています。「果物」、「魚類」、「甘いもの（ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒー、清涼飲料水など）」「惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など（宅配やテイクアウト含む）」は、「週1～3回」が最も高くなっています。

「肉類」は「週4～6回」（36.8%）と「週1～3回」（34.4%）がほぼ同程度となっており、「外食（ファーストフードやレストランなど、飲食店での食事）」は、「週1回もない」（55.1%）、「週1～3回」（39.7%）が多くなっています。

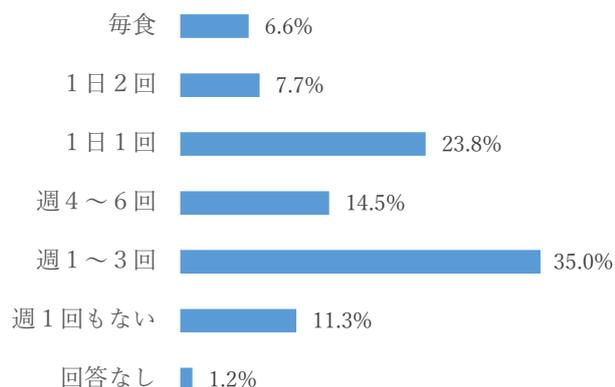
①米



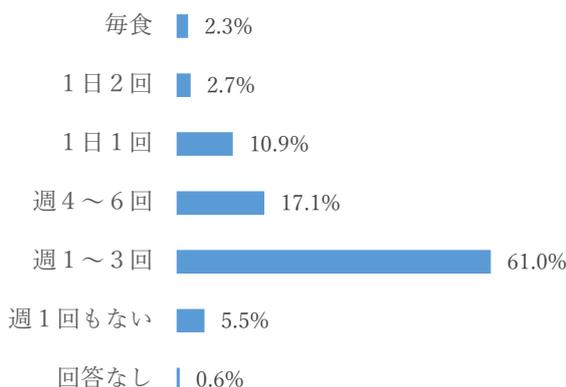
②野菜類



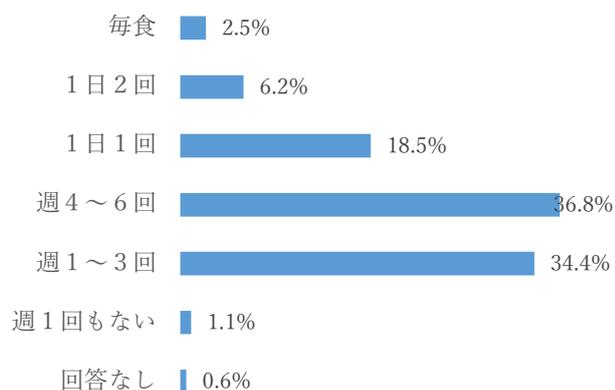
③果物



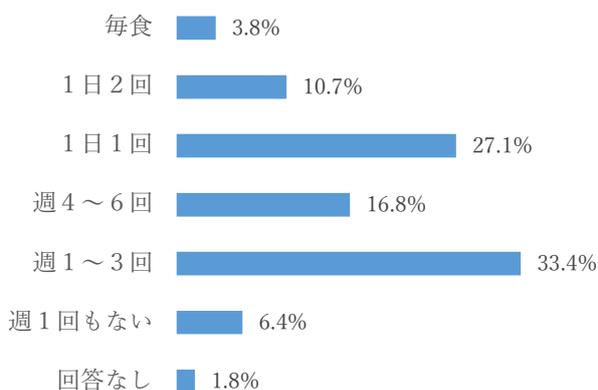
④魚類



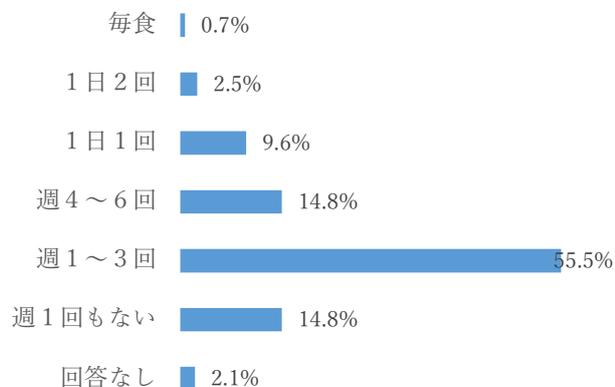
⑤肉類



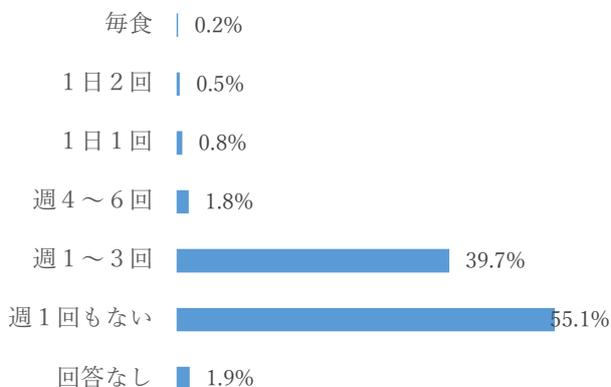
⑥甘いもの（ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒー、清涼飲料水など）



⑦惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など（宅配やテイクアウト含む）



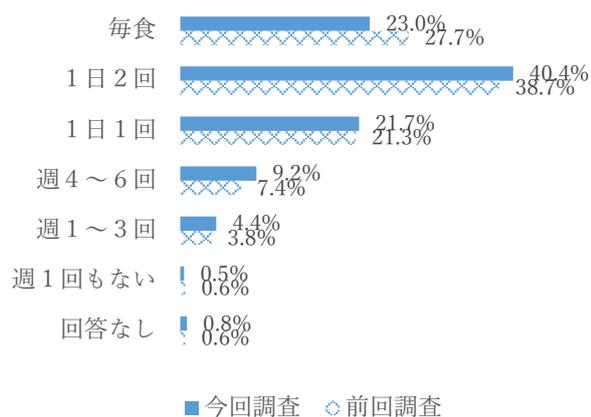
⑧外食（ファーストフードやレストランなど、飲食店での食事）



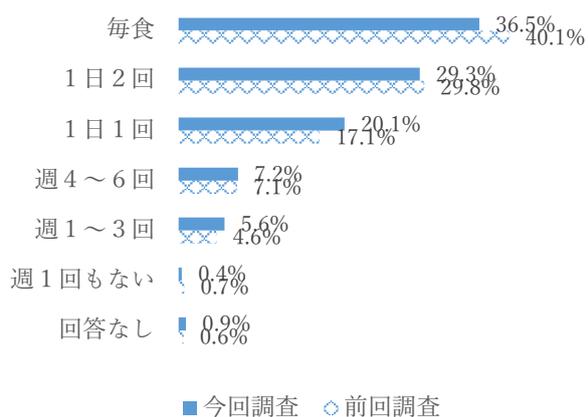
【前回調査との比較】

食品を食べる（飲む）頻度について、「毎食」との回答は、①米、②野菜類、⑥甘いもの（ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒー、清涼飲料水など）で減少しています。一方、④魚類、⑤肉類、⑦惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など（宅配やテイクアウト含む）、⑧外食（ファーストフードやレストランなど、飲食店での食事）では大きな変化は見られませんでした。

①米



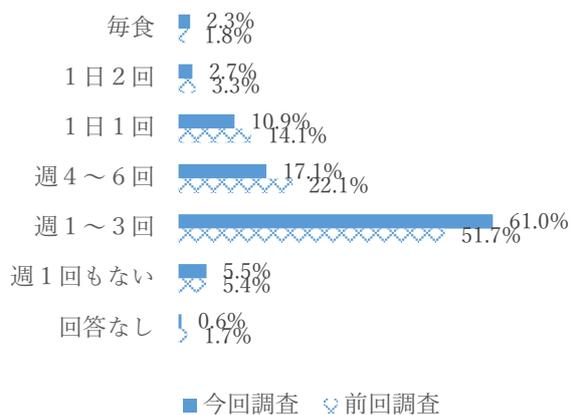
②野菜類



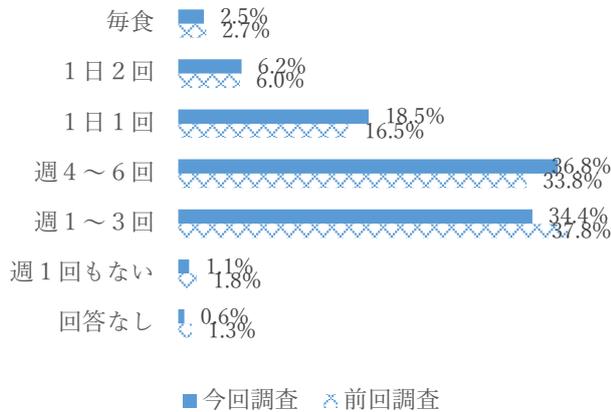
③果物

新規のため、前回比較なし。

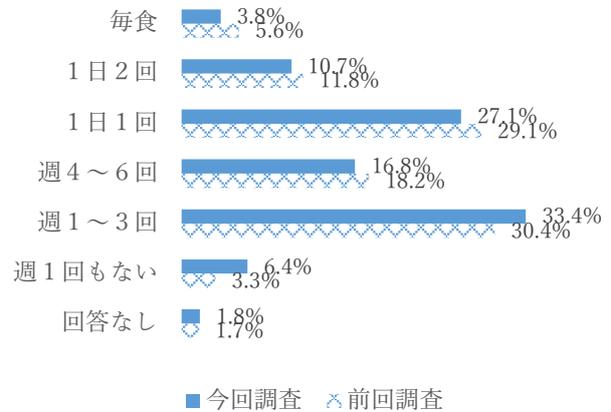
④魚類



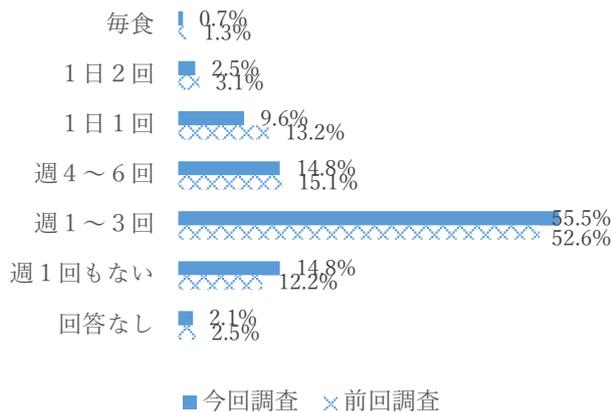
⑤肉類



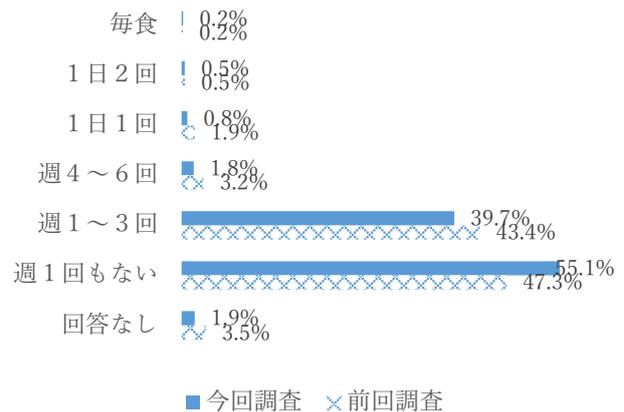
⑥甘いもの (ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒー、清涼飲料水など)



⑦惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など (宅配やテイクアウト含む)



⑧外食 (ファーストフードやレストランなど、飲食店での食事)



問19 健全な食生活を実践するため、このような指針などを参考にしていますか。

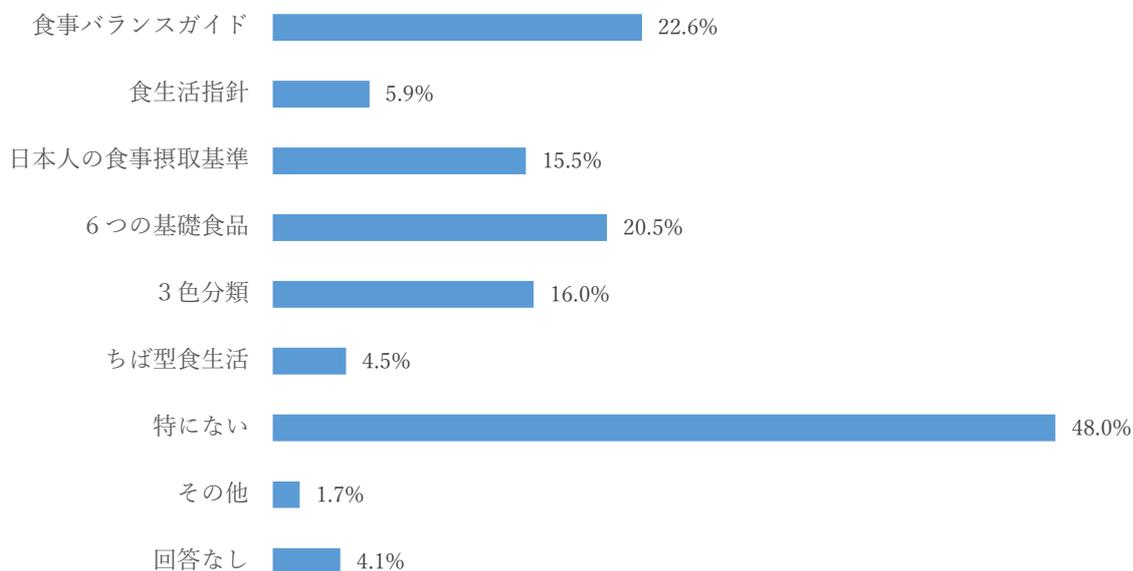
(あてはまるもの3つまでに○)

食生活で参考にしている指針では、「特にない」が48.0%で最も多くなっていますが、「食事バランスガイド」(22.6%)、「6つの基礎食品」(20.5%)、「3色分類」(16.0%)などが上位にあげられています。

年代別では、すべての年代で、「特にない」が最も高く、60歳代では「6つの基礎食品」との回答が他の年代を大きく上回っています。

【参考】

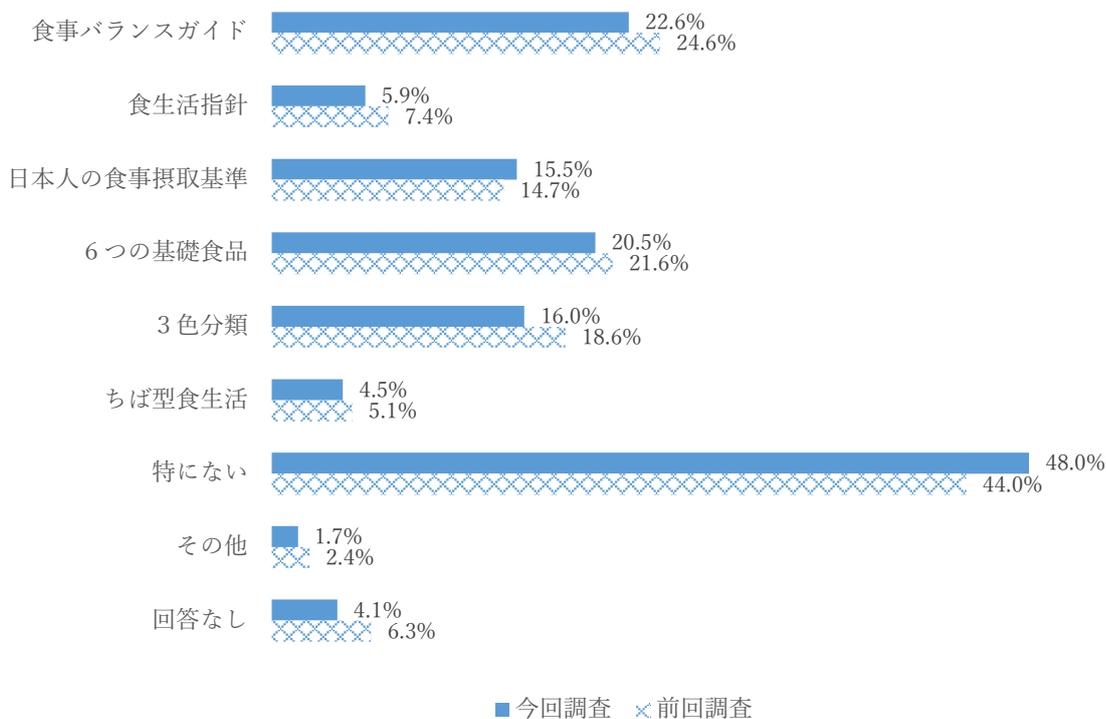
指針名	内容
食事バランスガイド	「何を」「どれだけ」食べたらいいかをコマの形で表したものの。
食生活指針	望ましい食生活を実践するための指針。
日本人の食事摂取基準	1日に必要なエネルギー、栄養素の摂取量の目安を示したものの。
6つの基礎食品	栄養成分の類似している食品を六群に分類したものの。
3色分類	食品の体内での主な働きを3つに分け主な食品を分類したものの。
ちば型食生活 (グー・パー食生活)	鮮度が良く栄養たっぷりでおいしい千葉県産の農畜産物や水産物を上手に取り入れたバランスのよい食事。おかずの量はおおよその目安として、主菜は「グー」副菜は「パー」で示したものの。



	回答者数	食事バランスガイド	食生活指針	日本人の食事摂取基準	6つの基礎食品	3色分類	ちば型食生活	特にない	その他	回答なし	
全体	844人	22.6%	5.9%	15.5%	20.5%	16.0%	4.5%	48.0%	1.7%	4.1%	
年代	20歳代	78人	21.8%	7.7%	17.9%	15.4%	19.2%	2.6%	48.7%	1.3%	2.6%
	30歳代	87人	16.1%	8.0%	19.5%	19.5%	21.8%	4.6%	46.0%	2.3%	0.0%
	40歳代	166人	25.3%	2.4%	14.5%	19.3%	17.5%	3.6%	51.8%	0.6%	0.0%
	50歳代	128人	14.1%	6.3%	17.2%	21.1%	13.3%	3.1%	50.0%	3.1%	1.6%
	60歳代	164人	28.7%	4.9%	13.4%	27.4%	17.1%	5.5%	47.6%	1.2%	3.7%
	70歳代以上	209人	23.9%	7.2%	13.9%	18.2%	12.4%	5.3%	45.0%	1.9%	11.5%

【前回調査との比較】

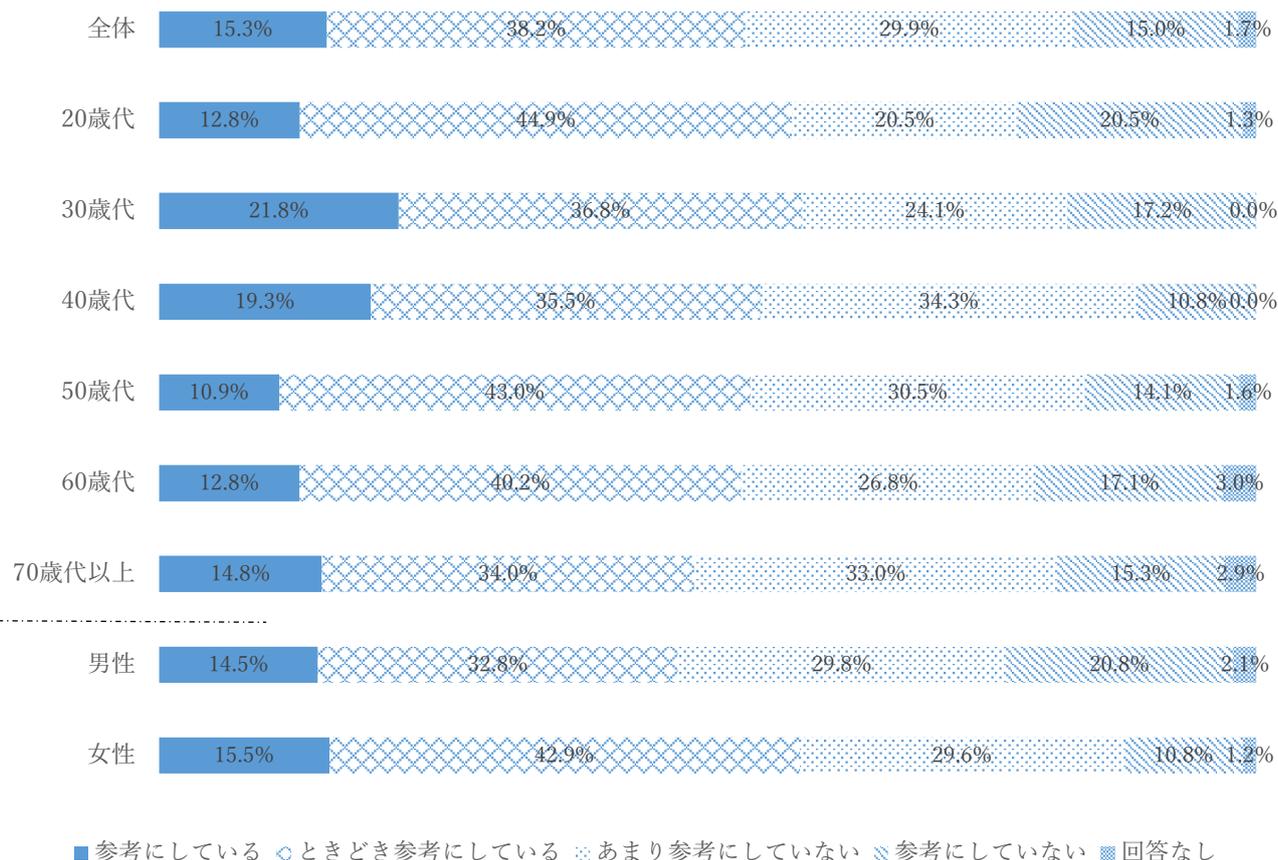
前回調査と比較すると、「特にない」との回答が増加しています。また、それに伴い「日本人の食事摂取基準」以外の指針では、今回調査では減少しています。



問20 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)

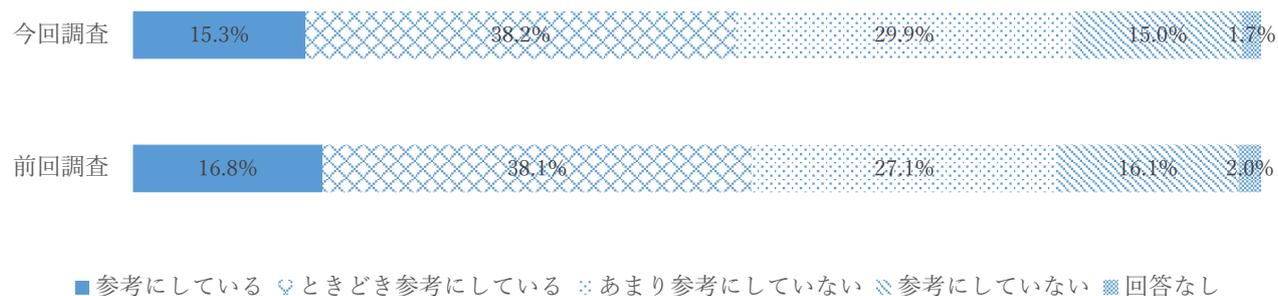
食品購入時に栄養成分表示を参考にしているかについては、「参考にしている」と「ときどき参考にしている」を合わせた『参考にしている』が53.5%となっています。

年代別では、30歳代で『参考にしている』割合が6割近くとなっており、他の年代を上回っています。



【前回調査との比較】

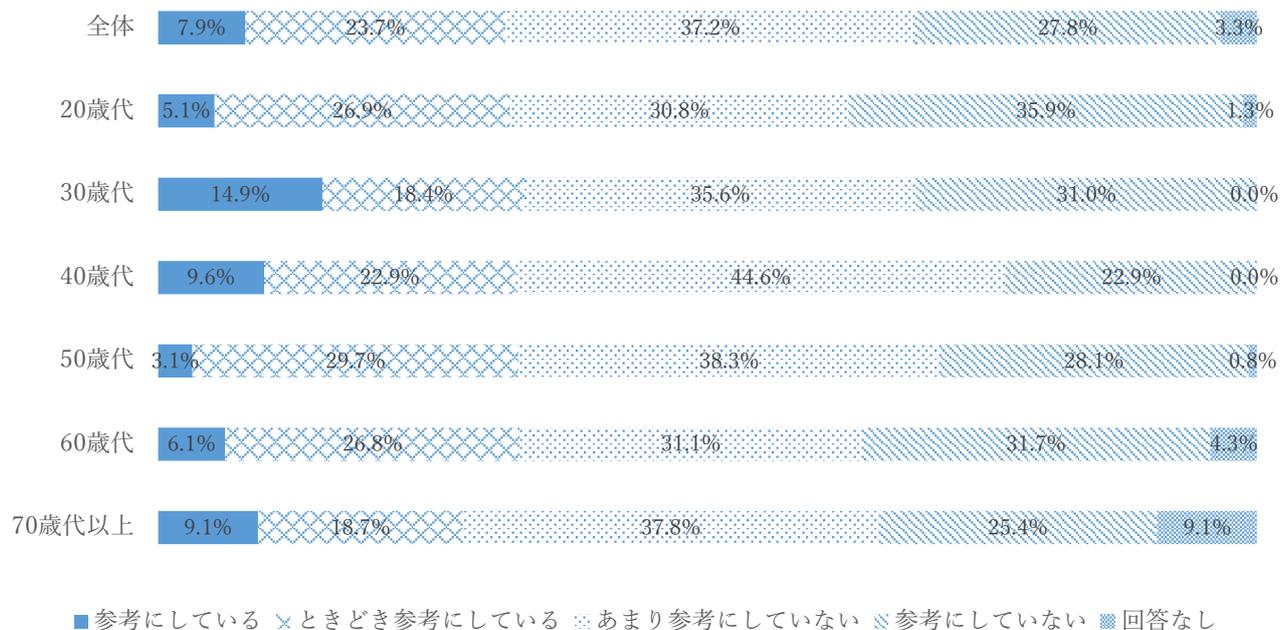
食品購入時に栄養成分表示を『参考にしている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。



問2 1 外食の際、栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)

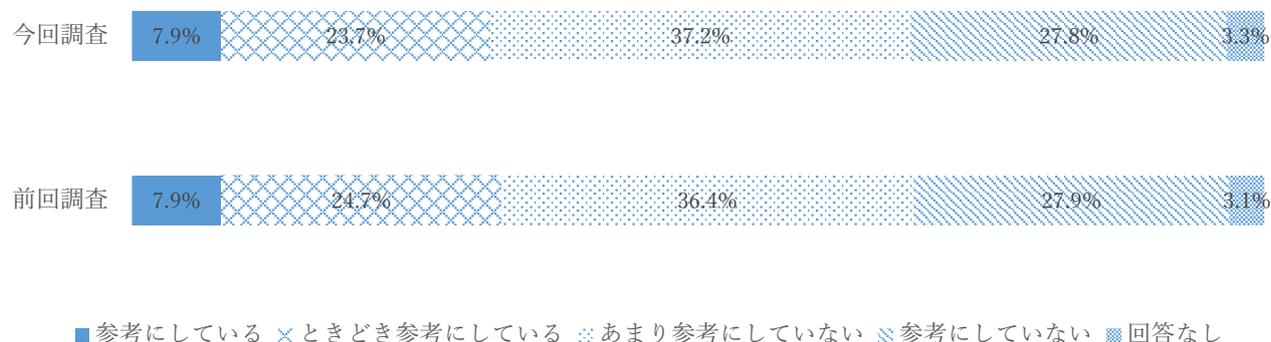
外食時に栄養成分表示を参考にしているかについては、「参考にしている」と「ときどき参考にしている」を合わせた『参考にしている』が31.6%となっており、食品の購入時よりも参考にしている割合が低い傾向にあります。

年代別でみると、40歳代で「あまり参考にしていない」と「参考にしていない」を合わせた『参考にしていない』割合が7割近くとなっており、他の年代に比べ多くなっています。



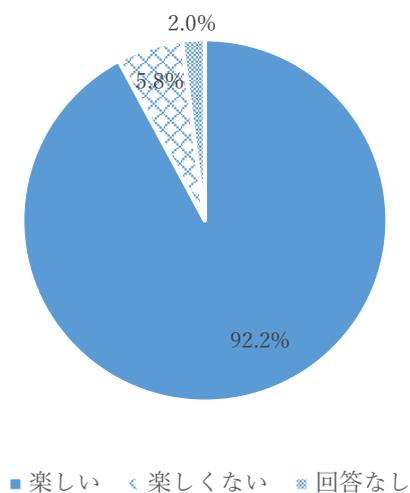
【前回調査との比較】

外食時に栄養成分表示を『参考にしている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。



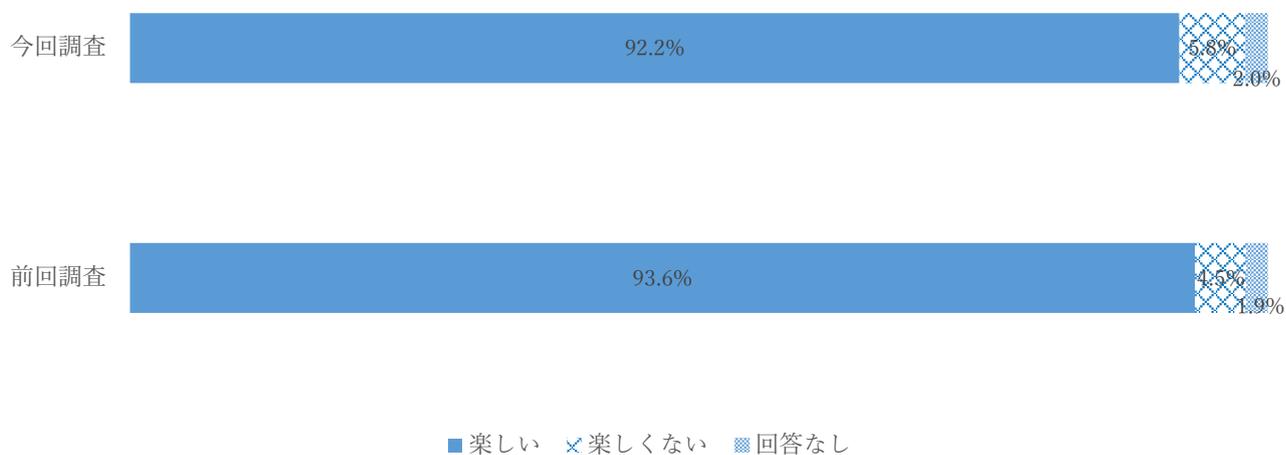
問2 2 食事は楽しいですか。(いずれか1つに○)

食事が楽しいかどうかについては、「楽しい」が92.2%と9割以上を占めています。



【前回調査との比較】

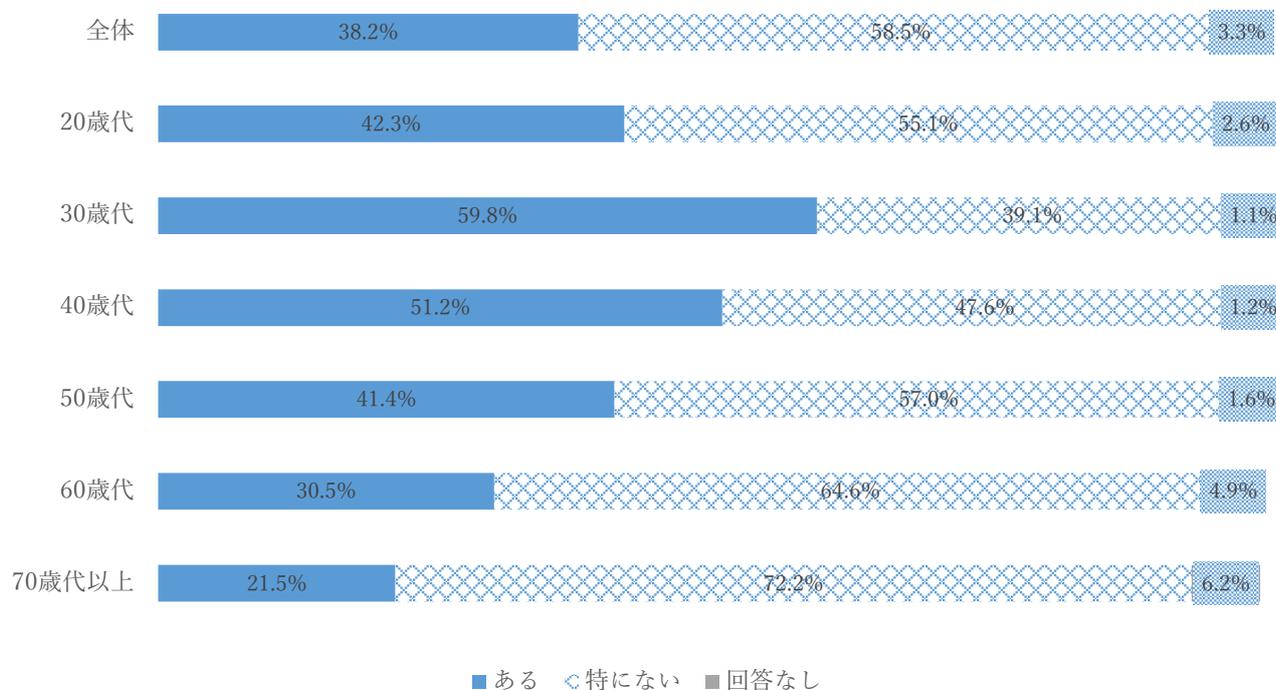
食事が「楽しい」との回答は減少しており、それに伴い「楽しくない」との回答が増加しています。



問23 日頃の食生活で、悩みや不安はありますか。(いずれか1つに○)

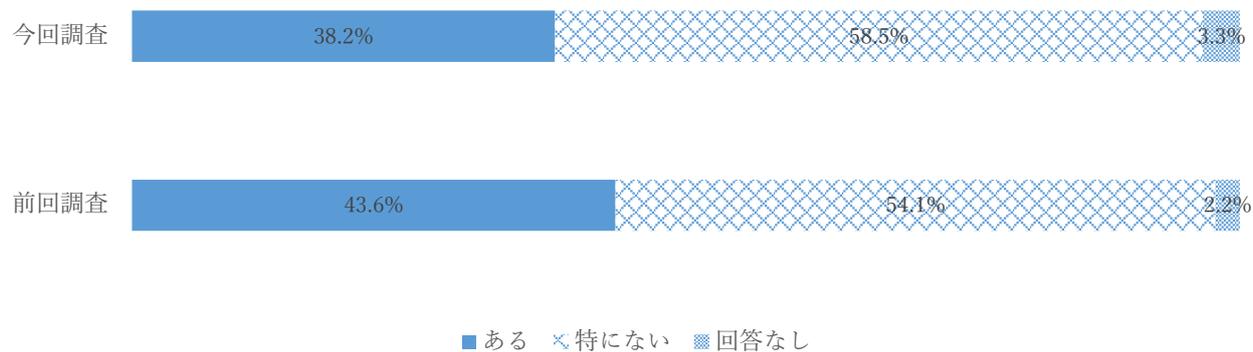
食生活の悩みや不安が「ある」とする人は、38.2%となっています。

年代別では、悩みや不安が「特にない」との回答は、30歳代以上で年齢が高いほど多くなる傾向にあり、70歳代以上では7割を超えています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、悩みや不安が「ある」との回答は減少しています。

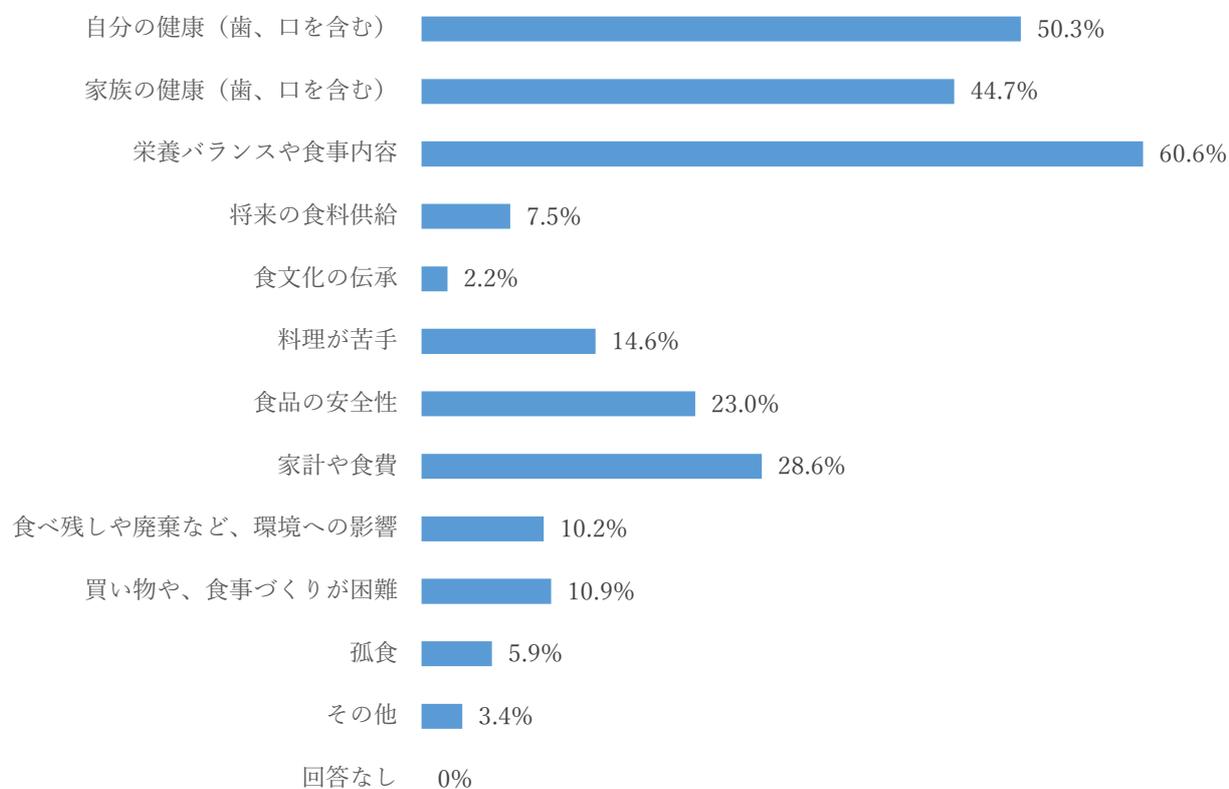


問24 問23で「1. ある」と回答した方におたずねします。どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

食生活上の悩みや不安の具体的内容では、「栄養バランスや食事内容」(60.6%)が最も多く、次いで「自分の健康(歯、口を含む)」(50.3%)、「家族の健康(歯、口を含む)」(44.7%)、「家計や食費」(28.6%)が主な回答となっています。

性別では、男性は「自分の健康(歯、口を含む)」(63.9%)が最も多く、次いで「栄養バランスや食事内容」(61.9%)、女性は「栄養バランスや食事内容」(63.5%)が最も多く、次いで「家族の健康(歯、口を含む)」(49.2%)となっています。

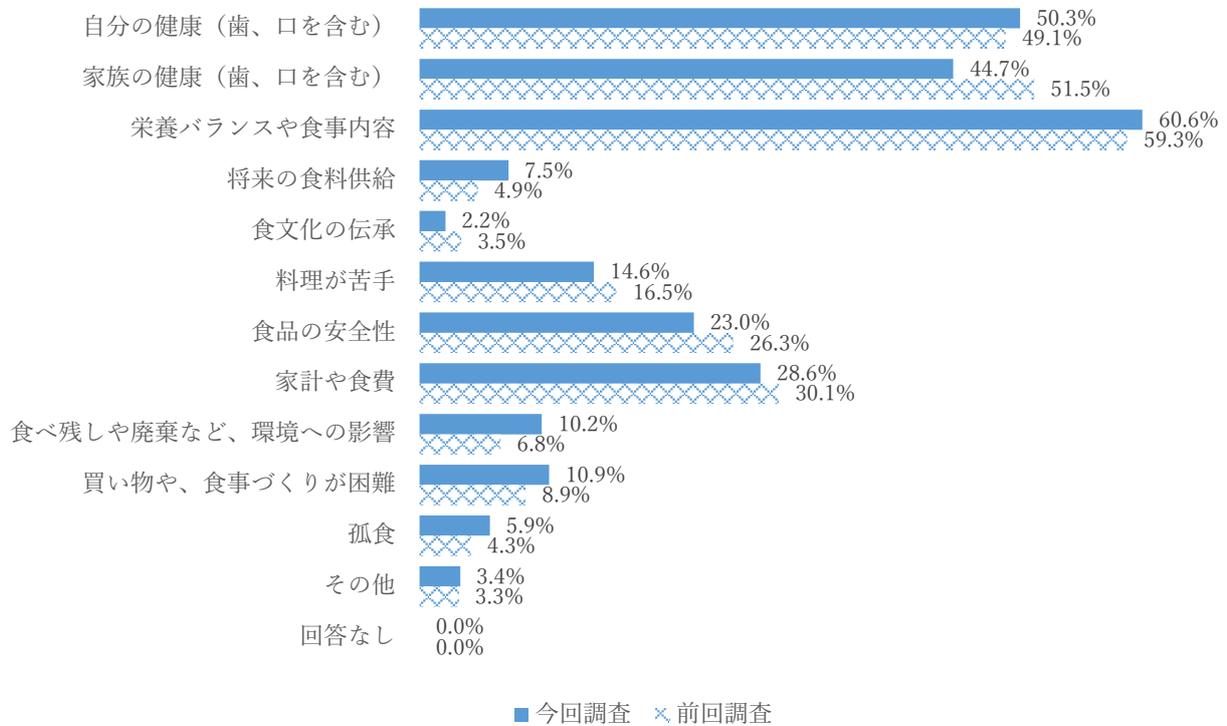
性・年代別では、悩みや不安の内容は多岐にわたりますが、20歳代の男性で「自分の健康(歯、口を含む)」、70歳以上の男性で「料理が苦手」、60歳代の女性で「食品の安全性」が他の属性を大きく上回っています。



		回答者数	自分の健康（歯、口を含む）	家族の健康（歯、口を含む）	栄養バランスや食事内容	将来の食料供給	食文化の伝承	料理が苦手	食品の安全性	家計や食費	食べ残しや廃棄など、環境への影響	買い物や、食事づくりが困難	孤食	その他
全体		322人	50.3%	44.7%	60.6%	7.5%	2.2%	14.6%	23.0%	28.6%	10.2%	10.9%	5.9%	3.4%
性別	男性	97人	63.9%	30.9%	61.9%	8.2%	4.1%	12.4%	16.5%	26.8%	9.3%	5.2%	8.2%	1.0%
	女性	189人	41.3%	49.2%	63.5%	6.9%	1.1%	16.9%	25.4%	30.2%	10.6%	13.2%	5.8%	5.3%
男性	20歳代	9人	88.9%	0.0%	66.7%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	16人	56.3%	31.3%	62.5%	18.8%	6.3%	12.5%	18.8%	31.3%	6.3%	6.3%	12.5%	0.0%
	40歳代	19人	63.2%	42.1%	63.2%	5.3%	5.3%	0.0%	26.3%	36.8%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%
	50歳代	21人	61.9%	33.3%	57.1%	4.8%	0.0%	4.8%	19.0%	19.0%	9.5%	0.0%	9.5%	0.0%
	60歳代	18人	61.1%	44.4%	88.9%	0.0%	5.6%	16.7%	11.1%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳代以上	14人	64.3%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	42.9%	7.1%	21.4%	0.0%	28.6%	21.4%	7.1%
女性	20歳代	23人	56.5%	21.7%	78.3%	0.0%	0.0%	26.1%	21.7%	43.5%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%
	30歳代	36人	30.6%	63.9%	69.4%	2.8%	0.0%	19.4%	11.1%	38.9%	8.3%	8.3%	0.0%	2.8%
	40歳代	54人	35.2%	53.7%	63.0%	7.4%	1.9%	20.4%	25.9%	29.6%	16.7%	11.1%	0.0%	5.6%
	50歳代	26人	57.7%	69.2%	53.8%	7.7%	0.0%	3.8%	23.1%	23.1%	7.7%	15.4%	3.8%	7.7%
	60歳代	27人	51.9%	44.4%	66.7%	14.8%	3.7%	11.1%	44.4%	25.9%	11.1%	11.1%	14.8%	0.0%
	70歳代以上	22人	27.3%	27.3%	45.5%	9.1%	0.0%	18.2%	27.3%	13.6%	4.5%	31.8%	18.2%	9.1%

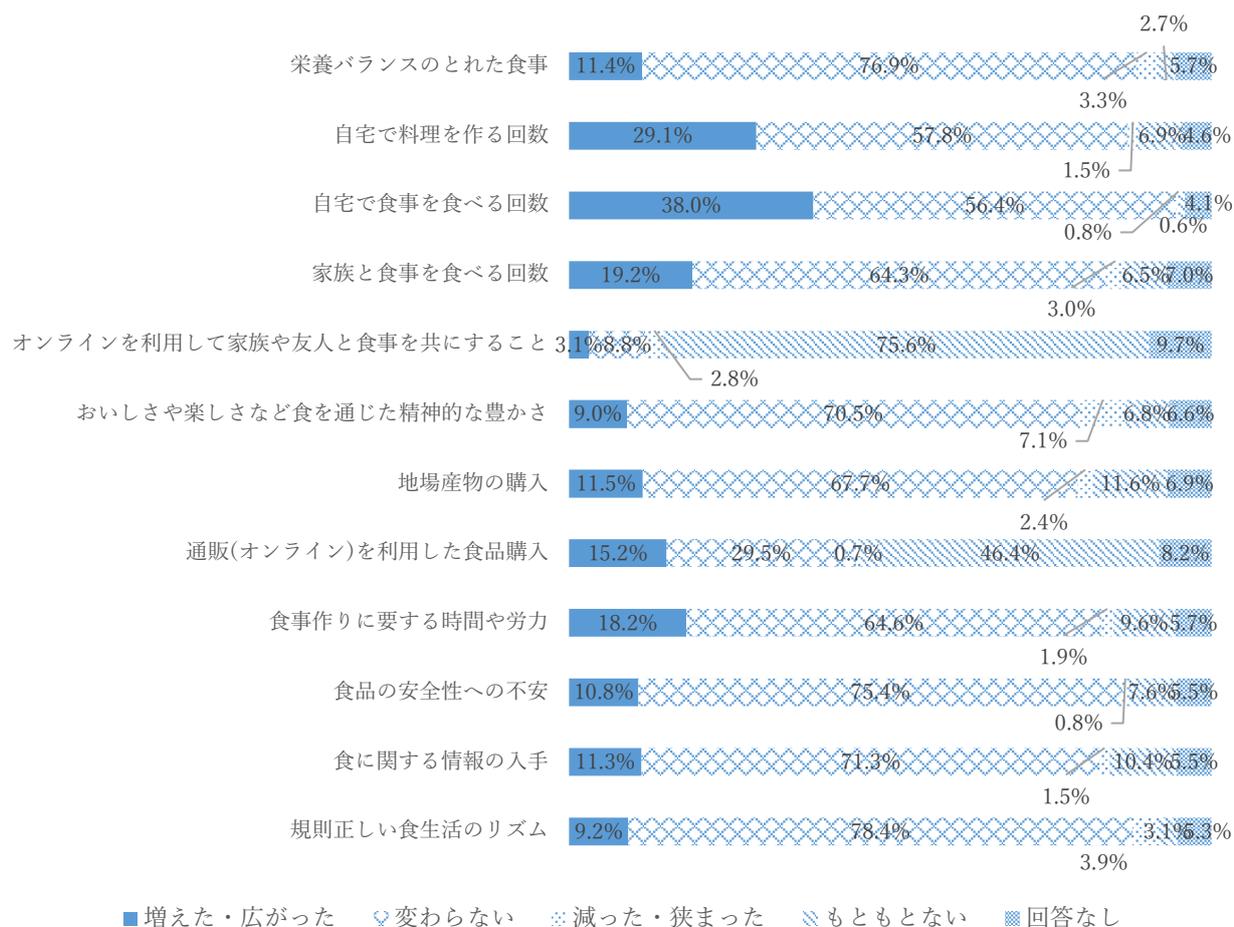
【前回調査との比較】

「家族の健康（歯、口を含む）」との回答は前回調査に比べ6ポイント以上減少しています。また、「食べ残しや廃棄など、環境への影響」との回答は、3ポイント以上増加しています。



問25 新型コロナウイルス感染症の発生により、あなたの食生活はどのように変わりましたか。(それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

新型コロナウイルス感染症の発生による、食生活の変化については、「変わらない」との回答が割合として大きくなっております。また、「増えた・広がった」との回答は、「自宅で食事を食べる回数」(38.0%)が最も多く、次いで「自宅で料理を作る回数」(29.1%)「家族と食事を食べる回数」(19.2%)の順となっています。



【前回調査との比較】

新規設問のため、前回調査との比較なし。

(4) あなたの生活や体について

問26 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」(84.6%)、「言葉は知っているが意味は知らない」(10.8%)を合わせると、9割を超えています。

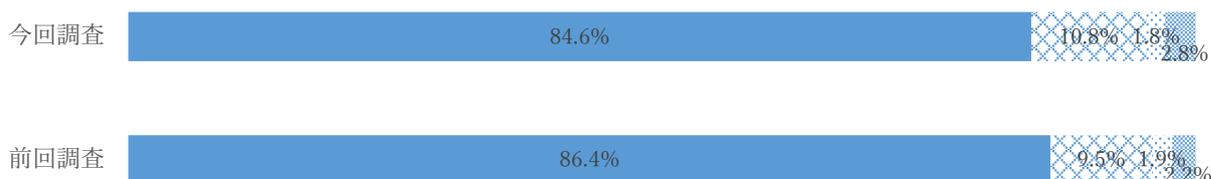
年代別では、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」と「言葉も意味も知らなかった」との回答は、70歳代以上で、他の年代に比べやや多くなっています。



■ 言葉も意味も知っている × 言葉は知っているが意味は知らない ∴ 言葉も意味も知らない ■ 回答なし

【前回調査との比較】

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の認知度は、ほぼ横ばいとなっています。

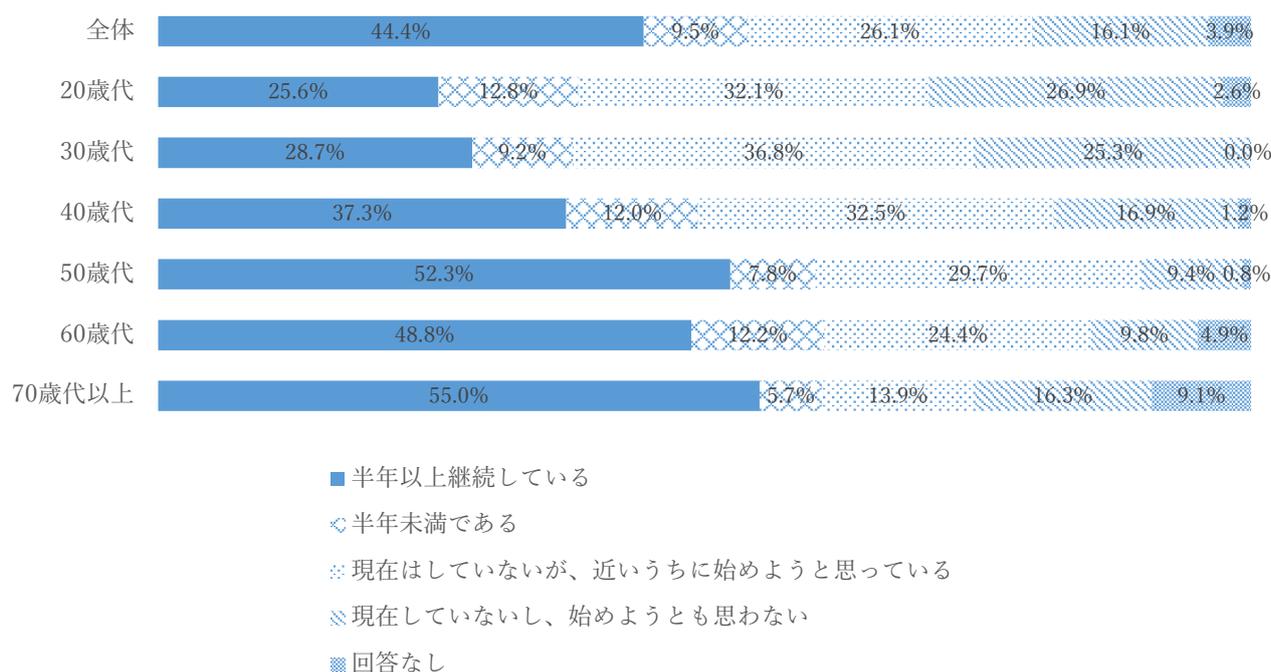


■ 言葉も意味も知っている × 言葉は知っているが意味は知らない ∴ 言葉も意味も知らない ■ 回答なし

問27 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）や、生活習慣病の予防や改善のため、適切な食事や、定期的な運動などを継続的に実施していますか。（あてはまるもの1つに○）

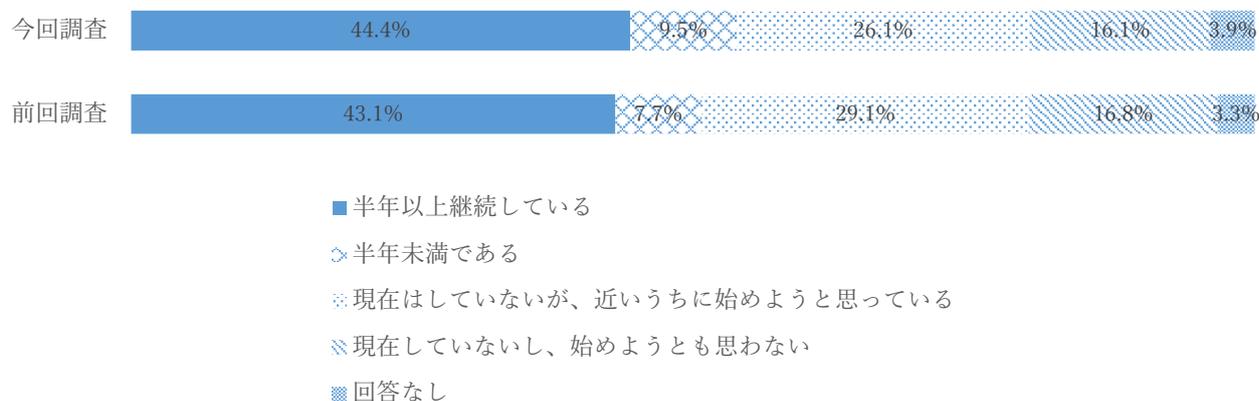
内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）や生活習慣病の予防や改善のための対策については、「半年以上継続している」（44.4%）が最も多く、「半年未満である」（9.5%）、「現在はしていないが、近いうちに始めようと思っている」（26.1%）と合わせ、予防や改善の意識を持っている人の割合は、8割となっています。

年代別でみると、実際に対策をしている人の割合は、50歳代以上で6割を超え多くなっています。



【前回調査との比較】

内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）や、生活習慣病の予防や改善のため、適切な食事や、定期的な運動などを継続的に実施している人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。

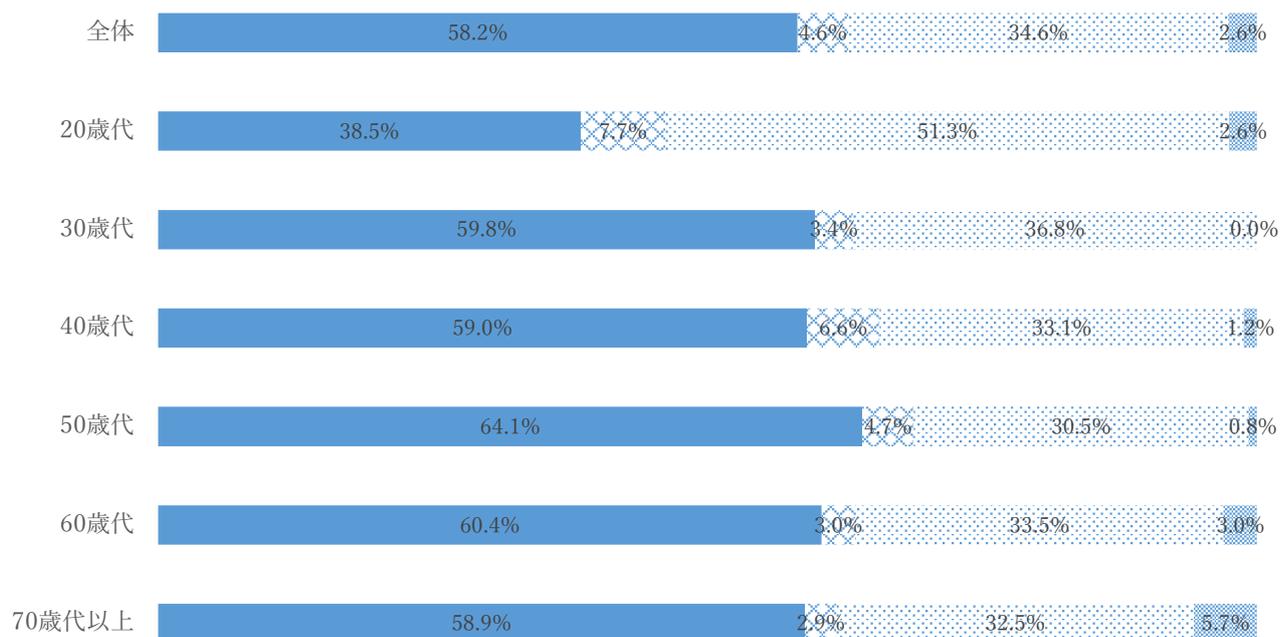


問28 「8020運動」という言葉や、その意味を知っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

「8020運動」という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」(58.2%)、「言葉は知っているが意味は知らない」(4.6%)を合わせると、6割を超えています。

年代別では、「言葉も意味も知っている」との回答は、50歳代で最も高く、6割を超えています。「言葉も意味も知らない」との回答は、20歳代で他の年代を大きく上回っています。



■ 言葉も意味も知っている ✕ 言葉も知っているが意味は知らない ⋯ 言葉も意味も知らない ■ 回答なし

【前回調査との比較】

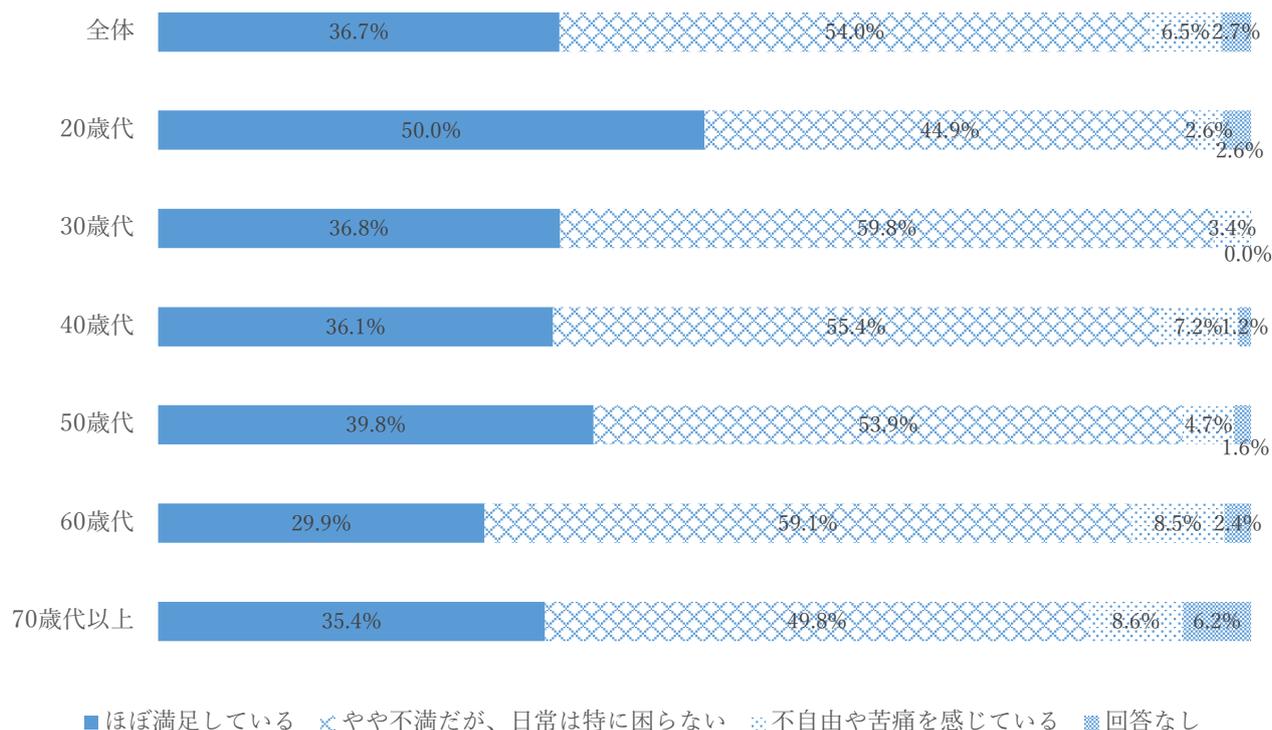
新規設問のため、前回調査との比較なし。

問29 歯や口の健康状態について、現在どのように感じていますか。

(あてはまるもの1つに○)

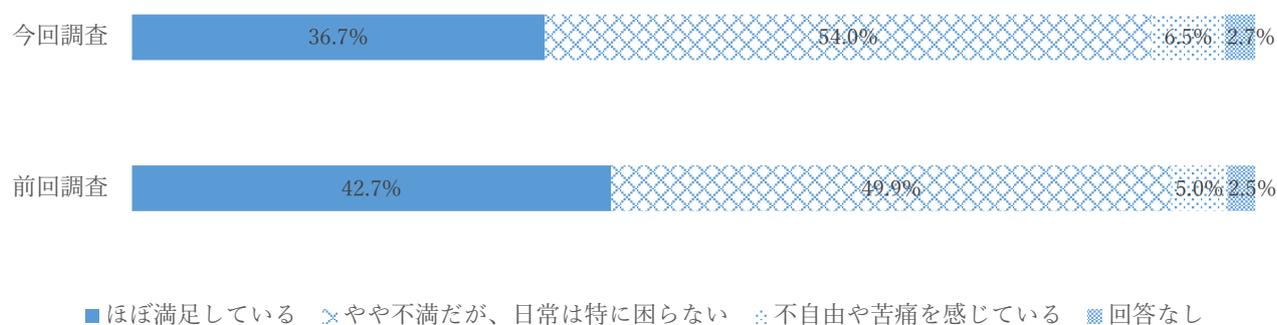
歯や口の健康状態については、「ほぼ満足している」が36.7%となっています。

年代別では、20歳代を除きすべての年代で、「やや不満だが、日常は特に困らない」との回答が「ほぼ満足している」の割合を上回っています。また、「不自由や苦痛を感じている」との回答は、60歳代以上で他の年代に比べやや多くなっています。



【前回調査との比較】

歯や口の健康状態は、「不自由や苦痛を感じている」との回答が微増しています。

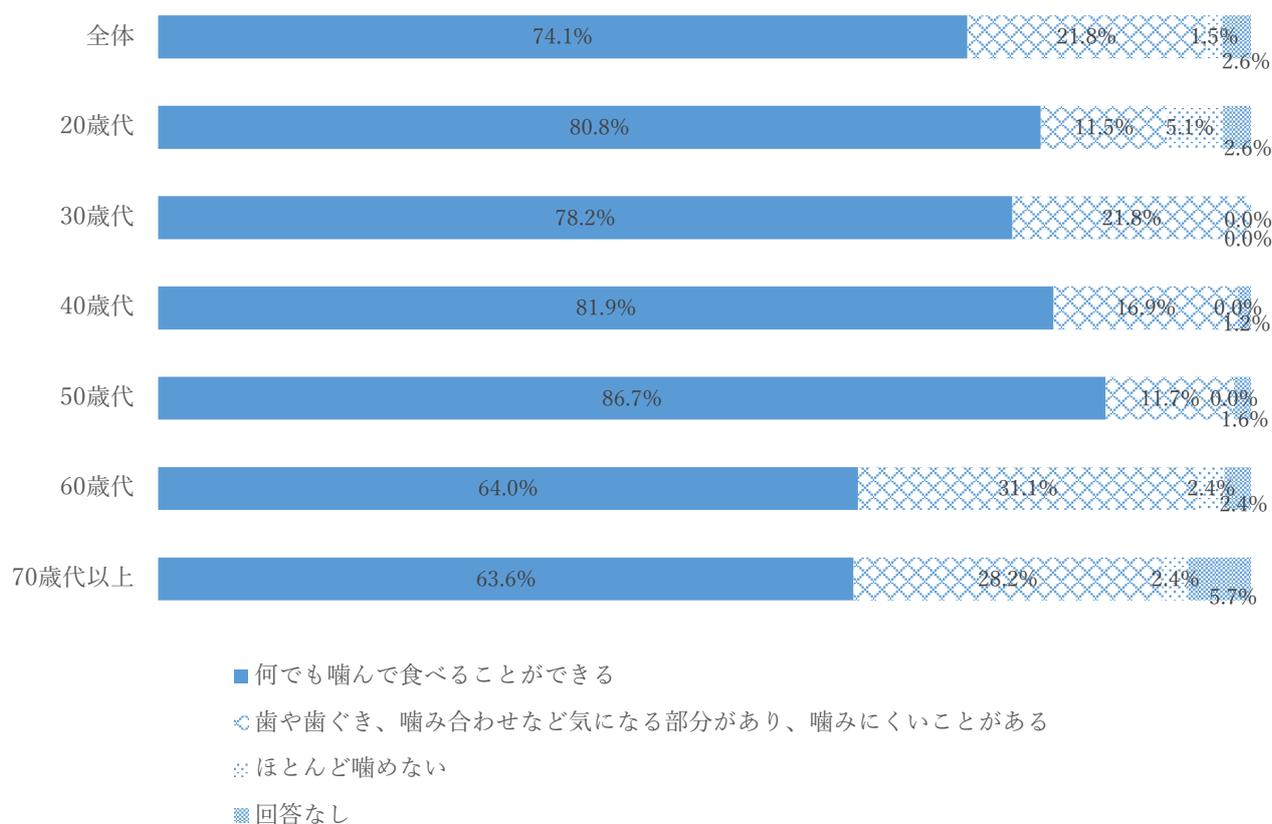


問30 食事を嚙んで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。

(あてはまるもの1つに○)

食事を嚙んで食べる時の状態は、「何でも嚙んで食べることができる」が74.1%となっています。

年代別では、20歳代と40～50歳代で「何でも嚙んで食べることができる」との回答が8割を超えています。また、60歳代以上では「歯や歯ぐき、嚙み合わせなど気になる部分があり、嚙みにくいことがある」との回答が約3割と、他の年代に比べ、歯や歯ぐき、嚙み合わせなどに課題を抱えている人が多いことがうかがえます。



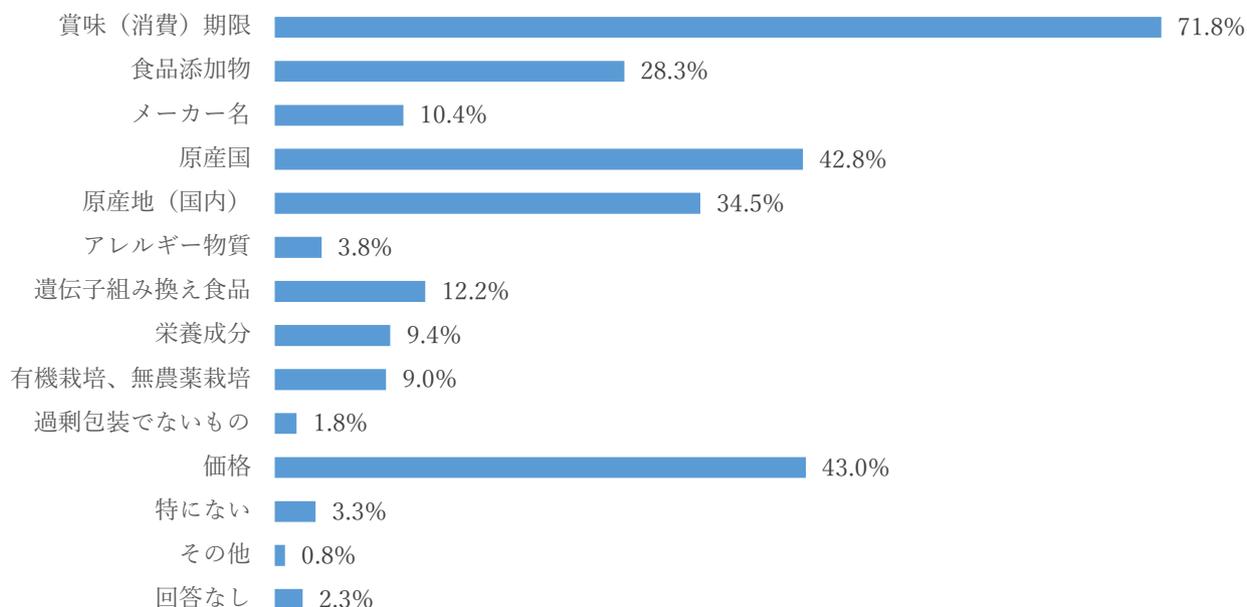
【前回調査との比較】

新規設問のため、前回調査との比較なし。

(5) 食の安全・環境への理解について

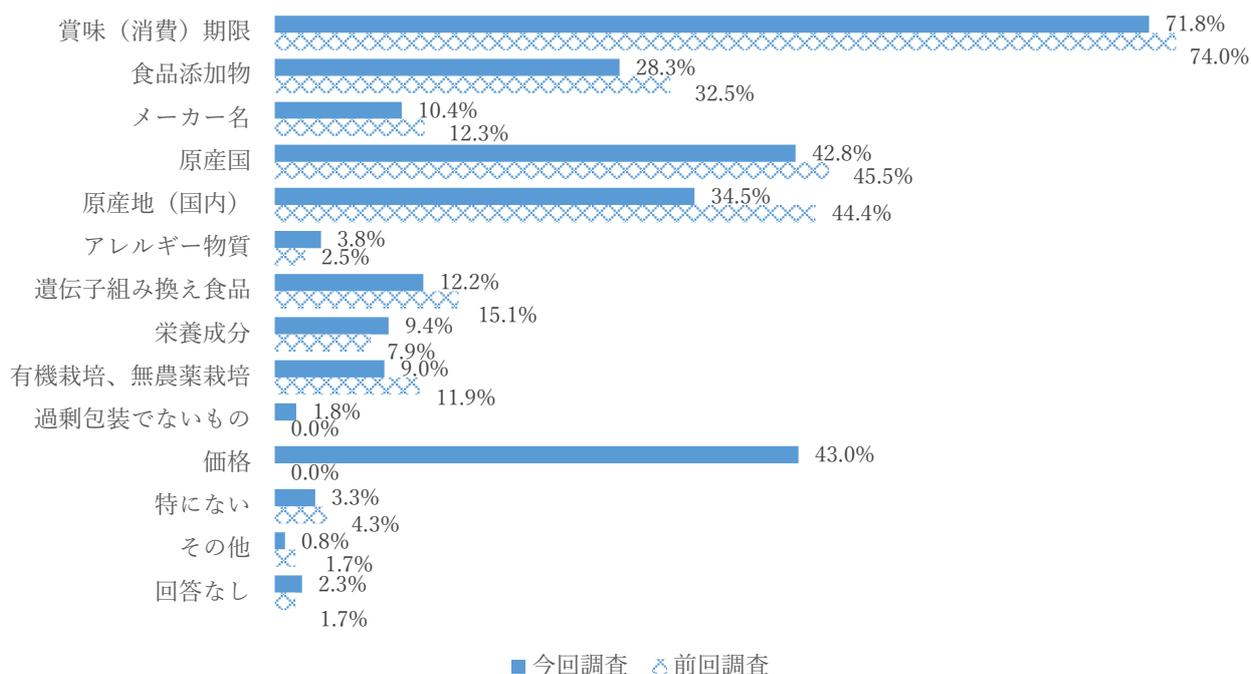
問31 食品を選ぶとき、どのような点に気をつけていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

食品選びで気をつけていることでは、「賞味（消費）期限」が71.8%で最も多く、次いで「価格」(43.0%)、「原産国」(42.8%)、「原産地（国内）」(34.5%)の順となっています。



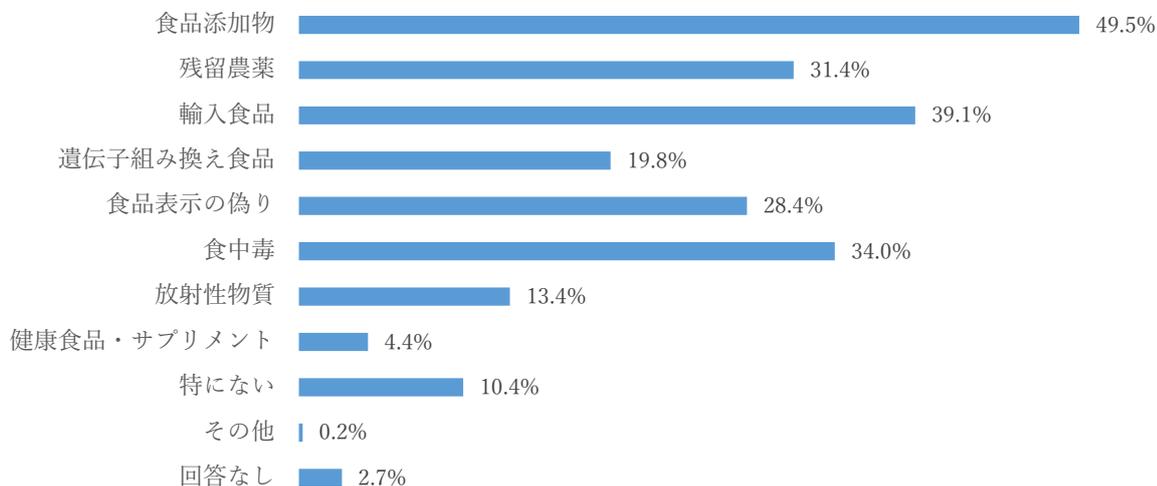
【前回調査との比較】

前回調査と選択肢が異なるため、単純な比較はできませんが、「賞味（消費）期限」との回答が最も多く、新たに追加された項目である「価格」が次いで高い割合となっています。



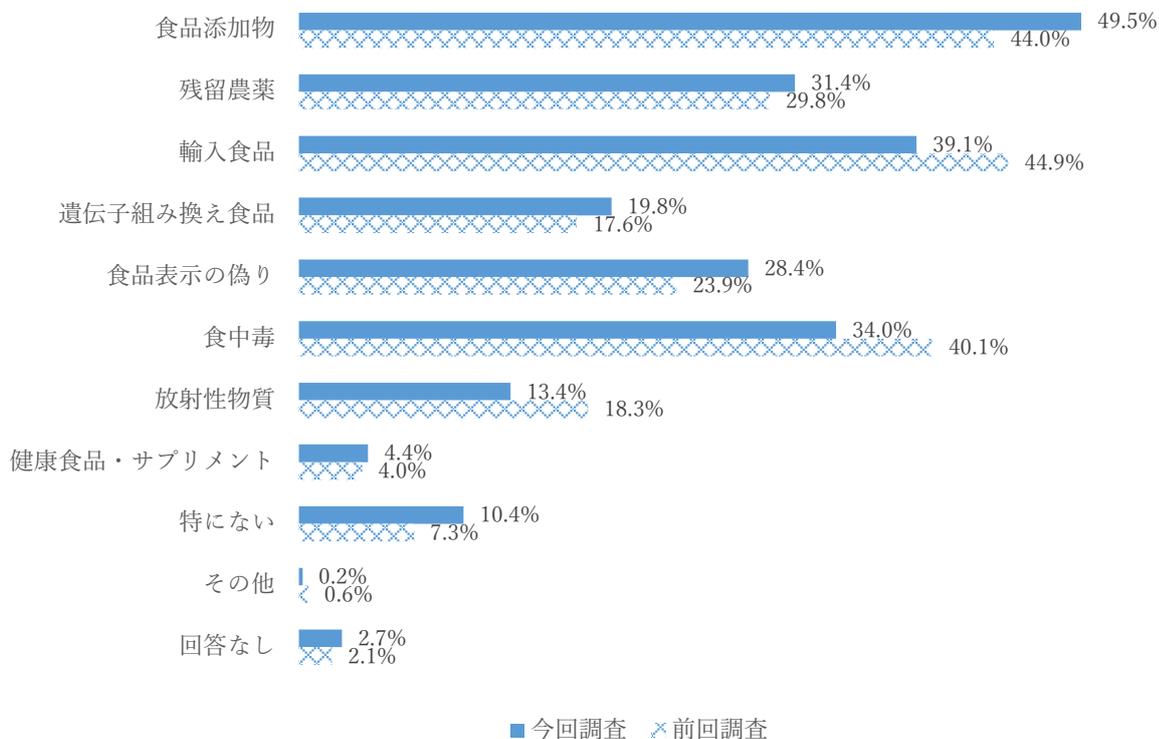
問3 2 日頃、食の安全に関して不安に思うことは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

食の安全に関して不安に思うことでは、「食品添加物」(49.5%)が最も多く、次いで「輸入食品」(39.1%)、「食中毒」(34.0%)、「残留農薬」(31.4%)、「食品表示の偽り」(28.4%)の順となっています。



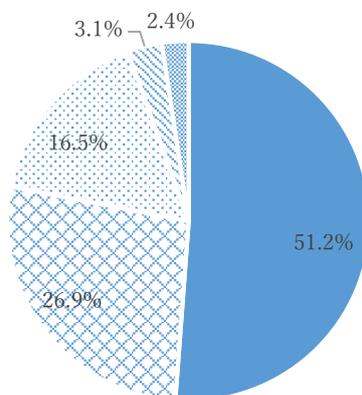
【前回調査との比較】

前回調査と選択肢が異なるため、単純な比較はできませんが、「食品添加物」や「食品表示の偽り」について関心が高くなっています。



問33 食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしていますか。
(あてはまるもの1つに○)

食べ残しを減らす努力をしている人は、「している」(51.2%)、「ときどきしている」(26.9%)を合わせて78.1%と、全体の7割以上を占めています。



■ している ▲ ときどきしている ※ 気にかけているが、なかなかできていない ◆ していない ※ 回答なし

【前回調査との比較】

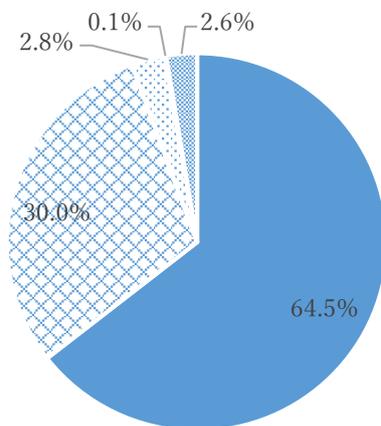
食品を買い過ぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らす努力をしている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。



■ している ▲ ときどきしている ※ 気にかけているが、なかなかできていない ◆ していない ※ 回答なし

問3 4 飲食店やスーパー、または家庭において、食べ残しや食品の廃棄が発生していること
 に関して「もったいない」と感じる場合がありますか。(あてはまるもの1つに○)

食べ残しや廃棄についてもったいないと感じているかどうかについては、「いつも感じている」
 (64.5%)、「ときどき感じる」(30.0%)を合わせて94.5%と9割を超えています。



■ いつも感じている ▨ ときどき感じる ▩ あまり感じない ■ まったく感じていない ▤ 回答なし

【前回調査との比較】

食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して「もったいない」と感じる割合は、ほぼ
 横ばいとなっており、「いつも感じている」「ときどき感じる」を合わせた割合は高水準となっ
 ています。

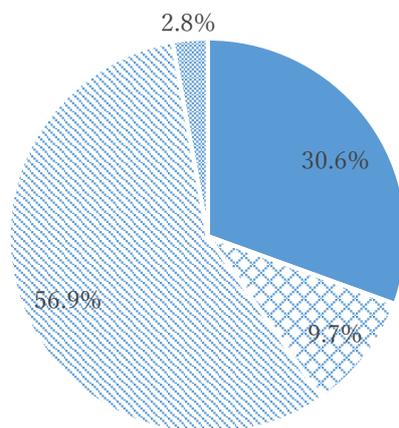


■ いつも感じている ▨ ときどき感じる ▩ あまり感じない ■ まったく感じていない ▤ 回答なし

問35 「ローリングストック」という言葉や、その意味を知っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

「ローリングストック」という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」(30.6%)、「言葉は知っているが意味は知らない」(9.7%)を合わせると約4割となっています。一方、「言葉も意味も知らない」(56.9%)は5割を超えています。



■ 言葉も意味も知っている \ 言葉は知っているが意味は知らない x 言葉も意味も知らない ※ 回答なし

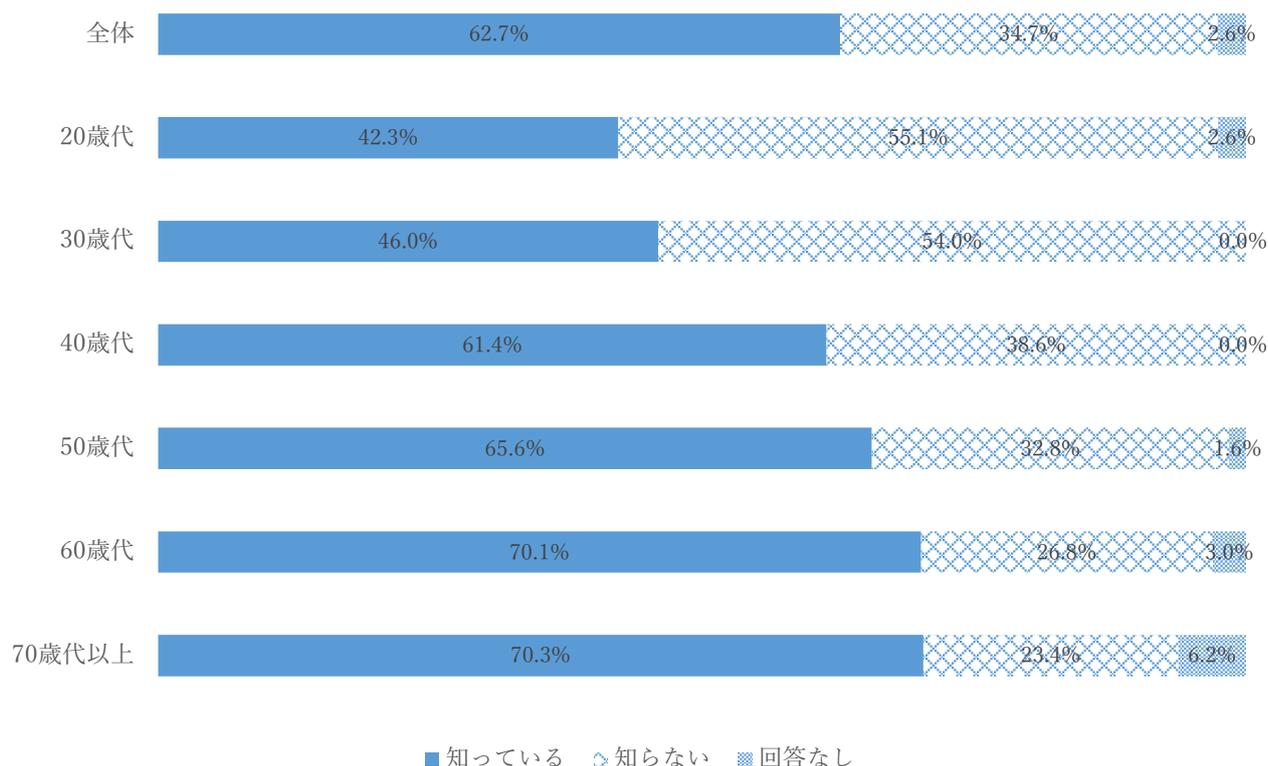
【前回調査との比較】

新規設問のため、前回比較なし。

(6) 「郷土料理」や「伝統的な行事食」について

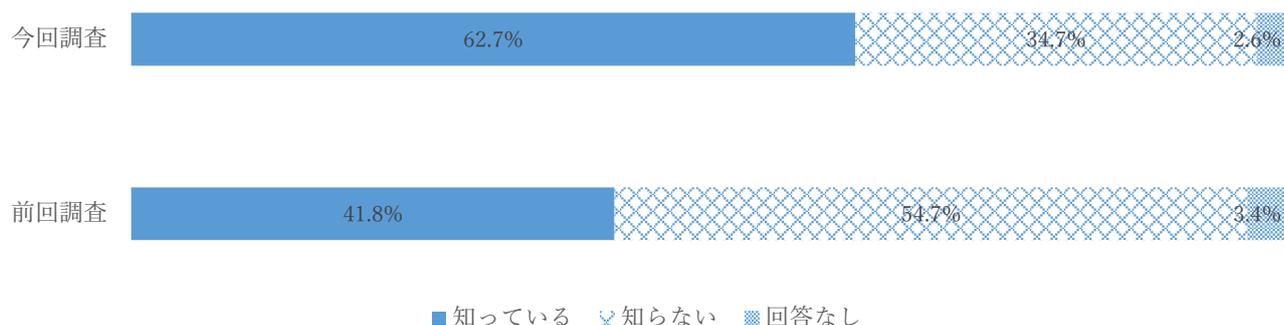
問36 成田市の地場産物(さつまいもや米など)を知っていますか。
(いずれか1つに○)

成田市の地場産物(さつまいもや米など)を知っている人は、62.7%となっています。
年代別では、70歳代以上で知っている人の割合が最も多くなっている一方、20歳代では知っている人の割合が最も少なくなっています。



【前回調査との比較】

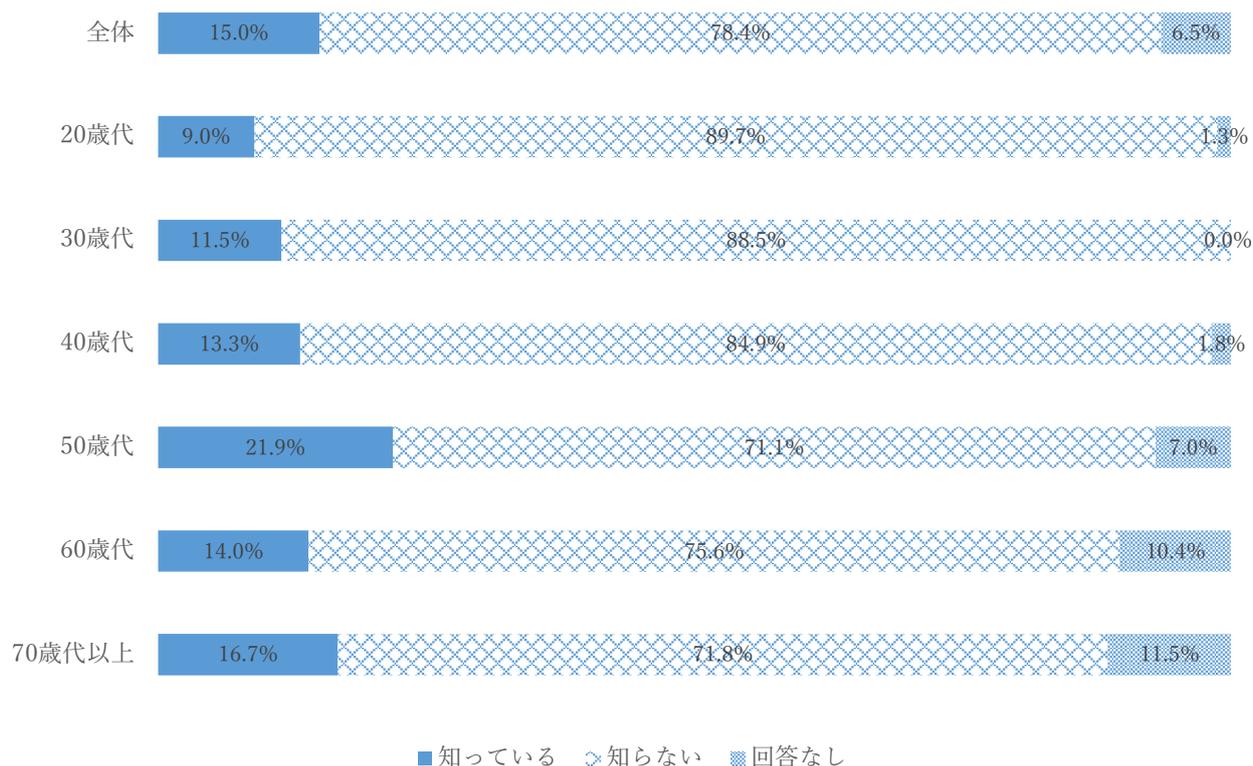
成田市の地場産物(さつまいもや米など)を「知っている」との回答は、20ポイント以上増加しており、認知度は高まっております。



問37 成田市の郷土料理（昔からある料理）を知っていますか。（いずれか1つに○）
 知っている方は、（ ）の中に知っているものをお書きください。

成田市の郷土料理（昔からある料理）を知っている人は、15.0%となっています。

また、具体的な郷土料理としては、「うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）」（74人）、「鉄砲漬け」（33人）、「太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司」（26人）などの料理が上位にあげられています。

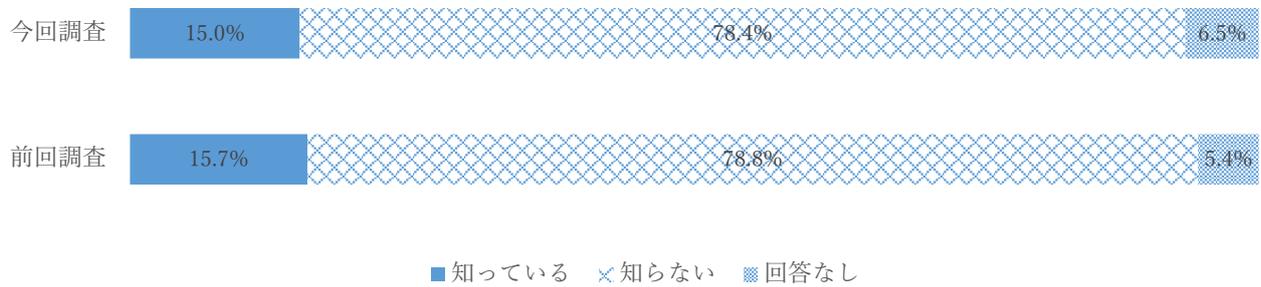


<具体的な郷土料理>

	内容	人
第1位	うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ丼）	74
第2位	鉄砲漬け	33
第3位	太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司	26
第4位	ようかん・栗ようかん	12
第5位	川魚料理（川魚の甘露煮、鯉こく、鯉の洗い）	7
第6位	ピーナッツ味噌	6
第6位	佃煮	6
第8位	きんぴら	4
第8位	大浦ごぼうの煮付	4
第8位	漬物	4
その他	（みつめの）ぼたもち、芋の煮っころがし、坊入 等	—

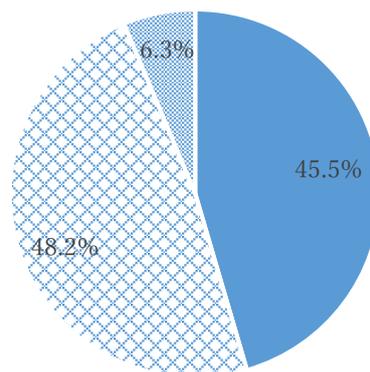
【前回調査との比較】

成田市の郷土料理（昔からある料理）を知っている人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。



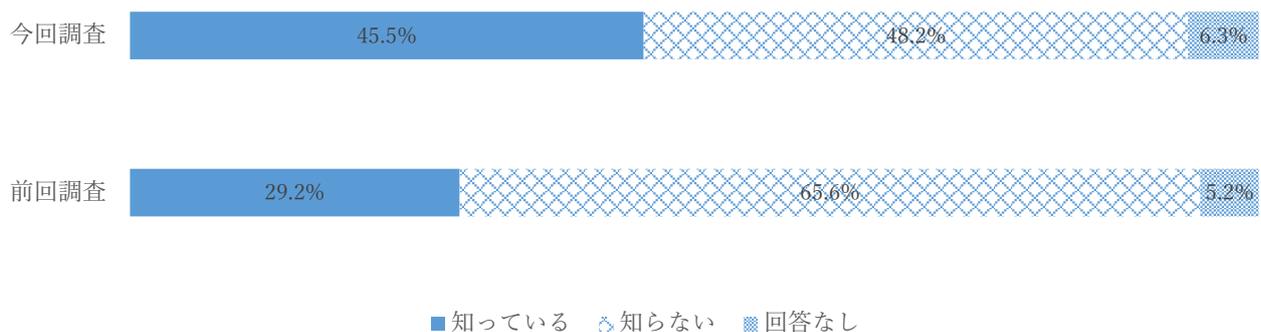
問38 伝統的な行事食を知っていますか。(いずれか1つに○)

伝統的な行事食を知っている人は、45.5%となっています。



【前回調査との比較】

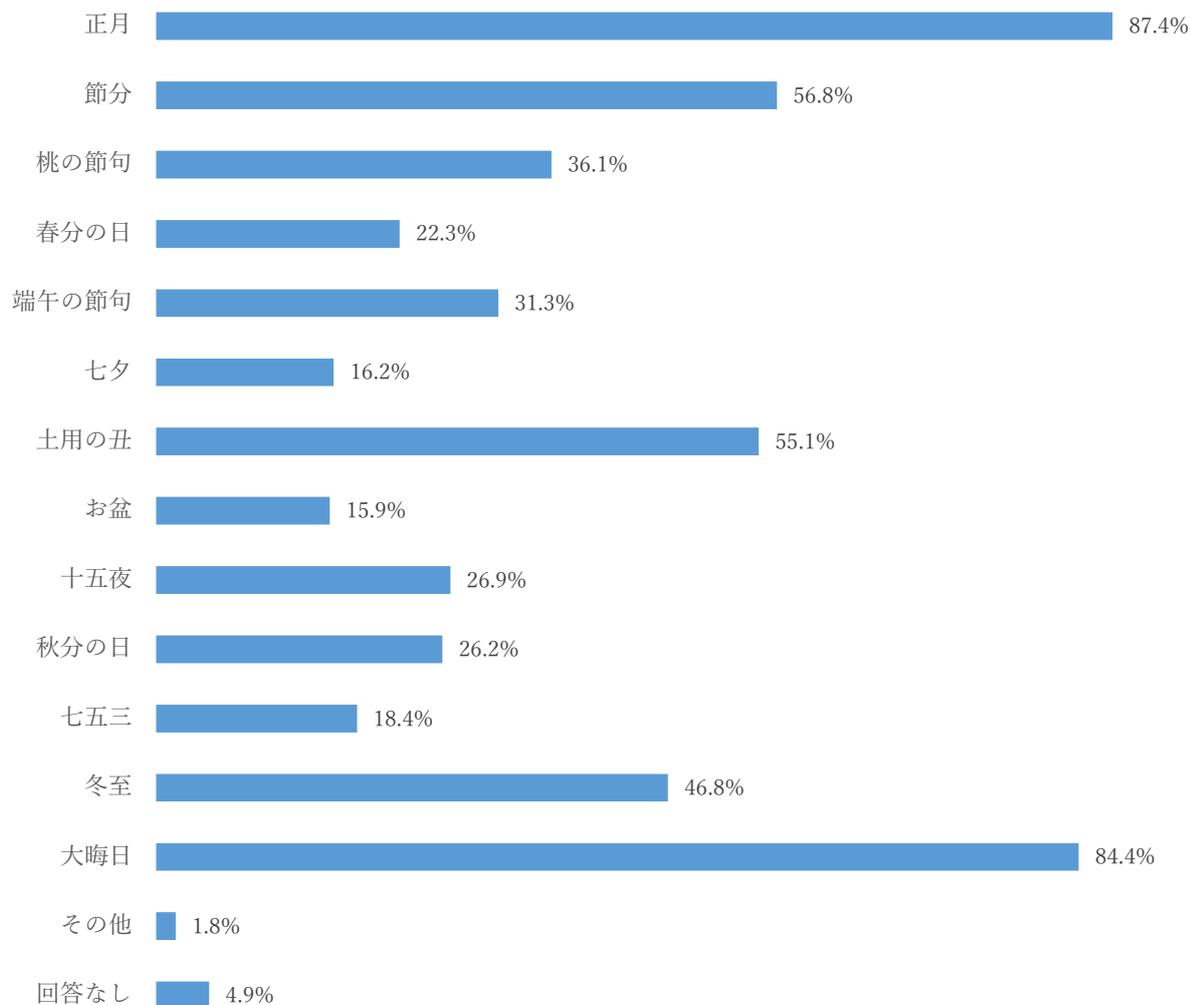
伝統的な行事食を「知っている」との回答は、16ポイント以上増加しており、認知度が高まっています。



問39 行事食を伴う伝統行事のうち、ご自宅で行っている行事はありますか。

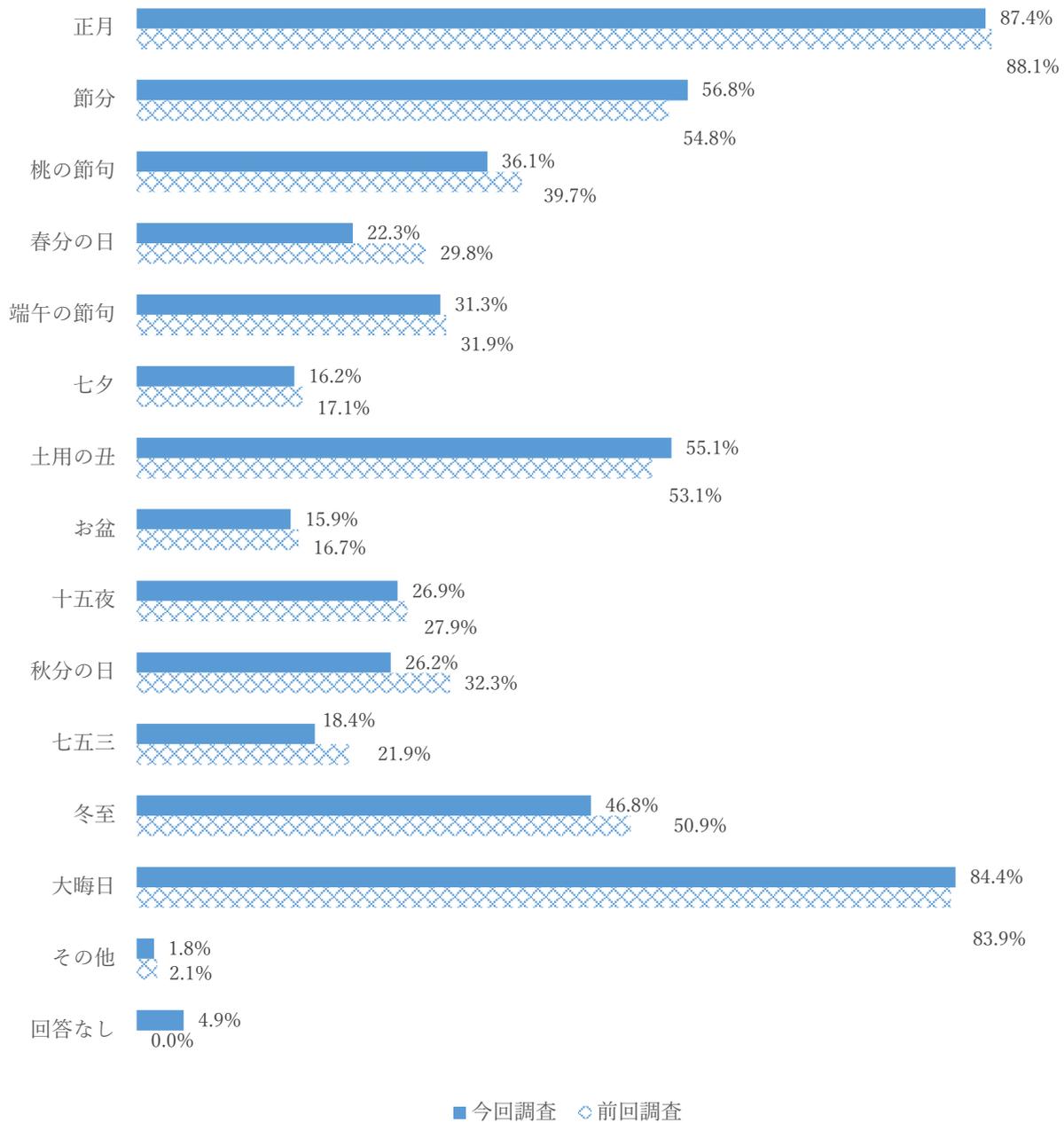
(行っている番号に○)

自宅で行っている行事食を伴う伝統行事は、「正月（1月…おせち、お雑煮、七草粥など）」（87.4%）、「大晦日（12月…そばなど）」（84.4%）が多く、次いで「節分（2月…大豆、いわし料理、恵方巻きなど）」（56.8%）、「土用の丑（7月…うなぎなど）」（55.1%）などが5割台で同程度となっています。



【前回調査との比較】

行事食を伴う伝統行事のうち、自宅で行っている行事について、「正月」次いで「大晦日」という上位項目は変わりません。



(7)「農業体験」について

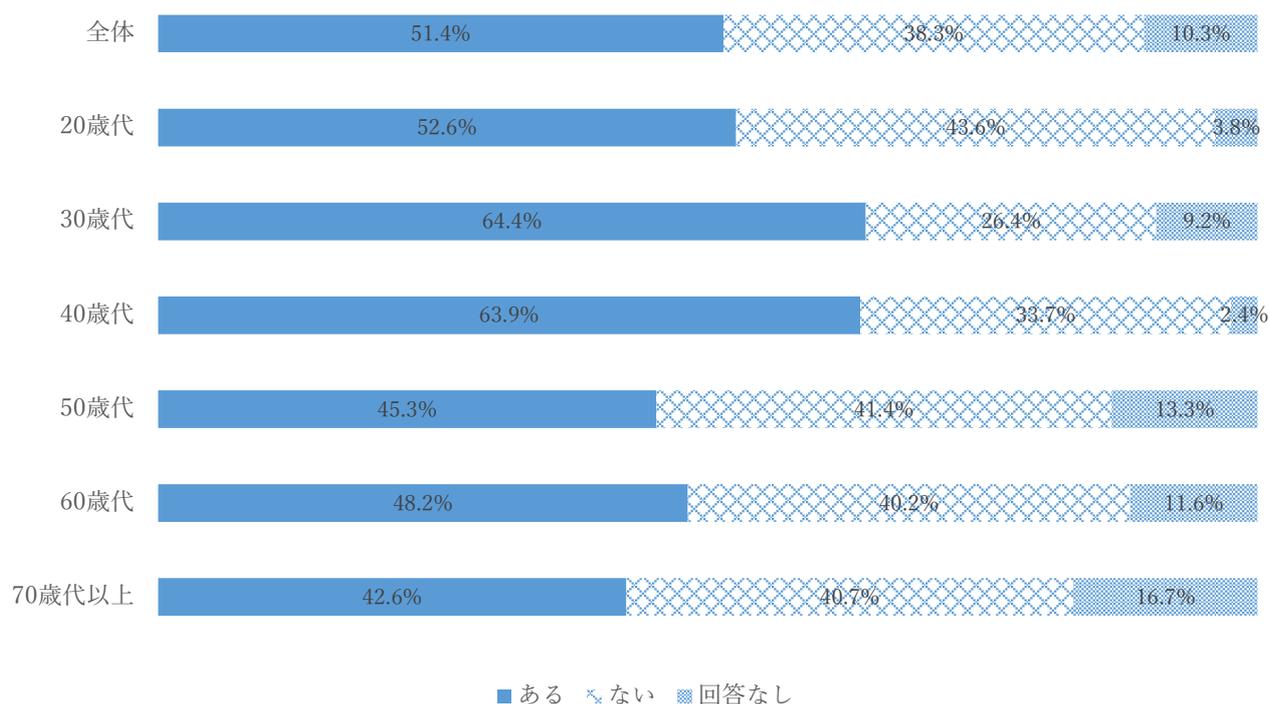
問40 農家の方、農業に携わっている方以外の方に、おたずねします。

あなた、またはご家族の方が、農業に関する体験をされたことはありますか。

(いずれか1つに○)

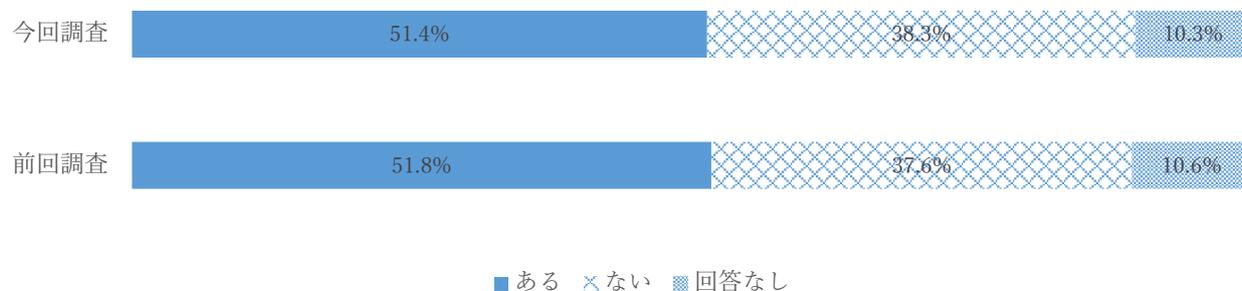
農業体験の有無では、約半数が「ある」と回答しています。

年代別では、農業体験をしたことのある人は、40歳代以下ではいずれの世代も5割を超えています。



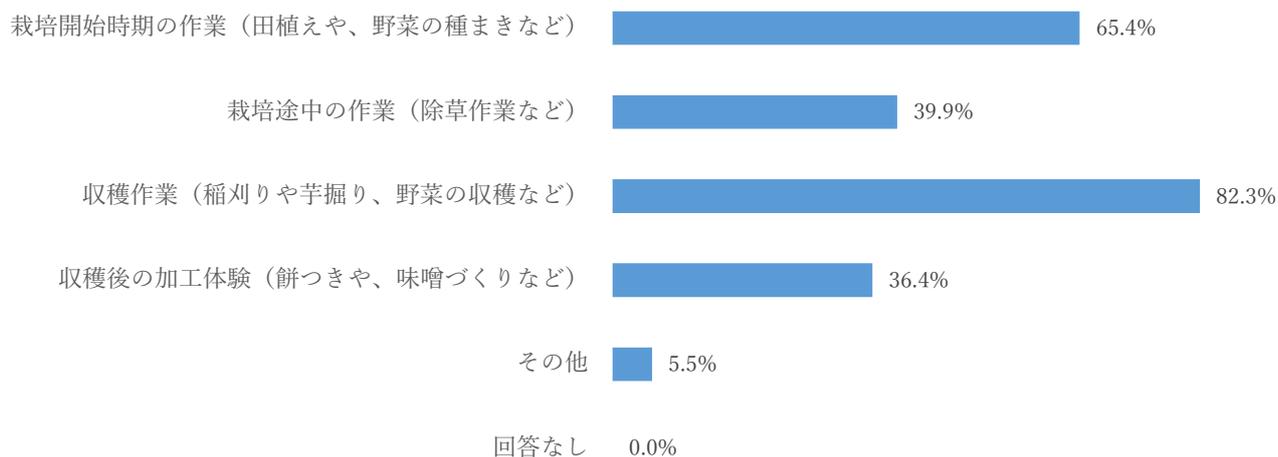
【前回調査との比較】

農業体験をしたことがある人の割合は、ほぼ横ばいとなっています。



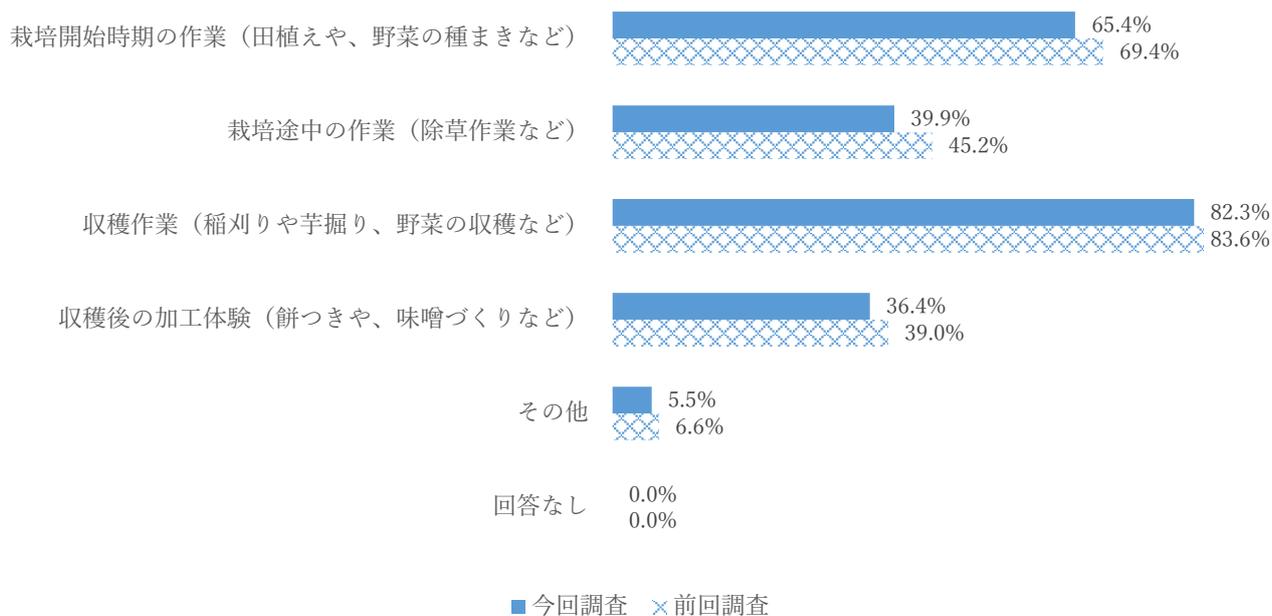
問4 1 問4 0で「1. ある」と回答された方におたずねします。参加されたことのある体験は、どのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

農業の体験者に具体的な内容をたずねたところ、「収穫作業（稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など）」(82.3%)が最も多く、次いで「栽培開始時期の作業(田植えや、野菜の種まきなど)」(65.4%)、「栽培途中の作業（除草作業など）」(39.9%)の順となっています。



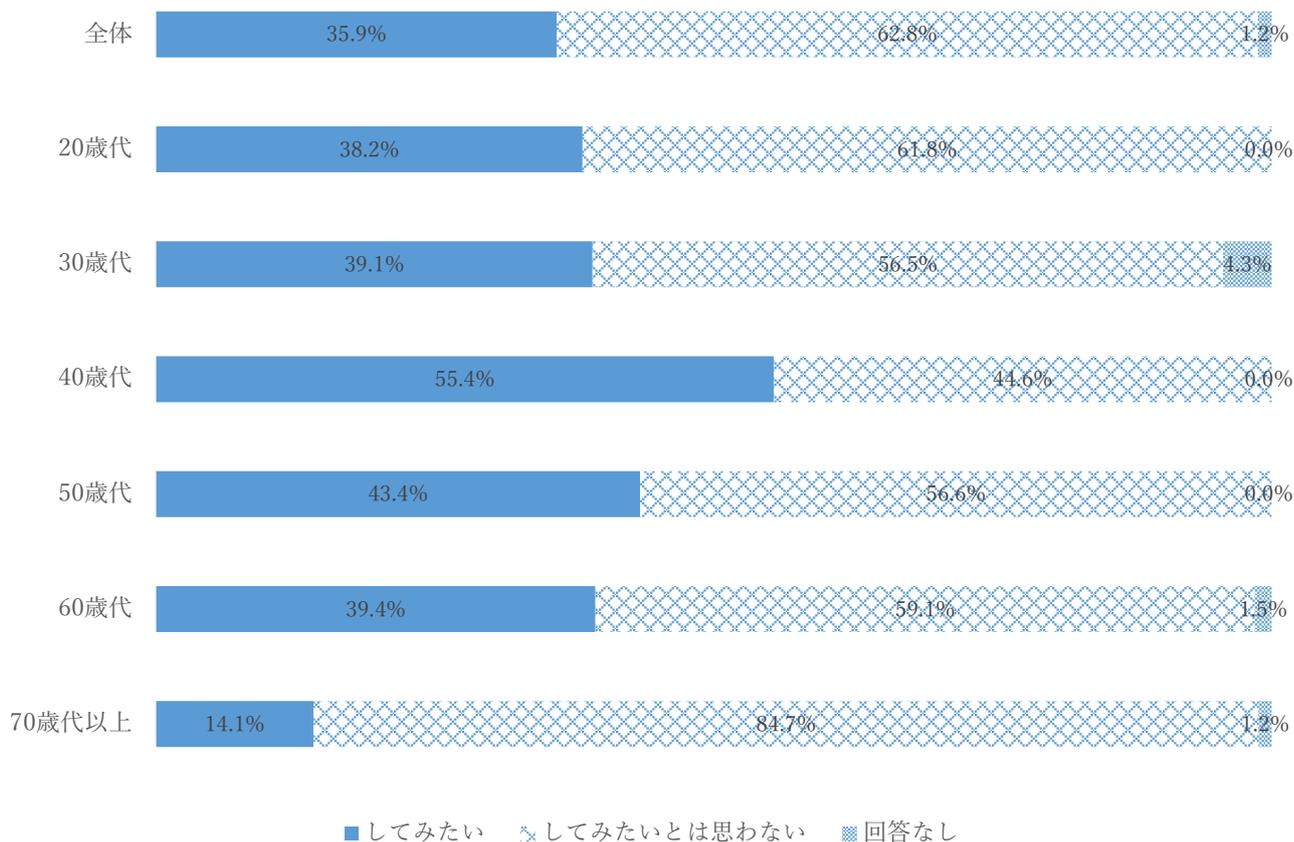
【前回調査との比較】

体験の種類について、「収穫作業（稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など）」次いで「栽培開始時期の作業（田植えや、野菜の種まきなど）」という上位項目は変わりません。



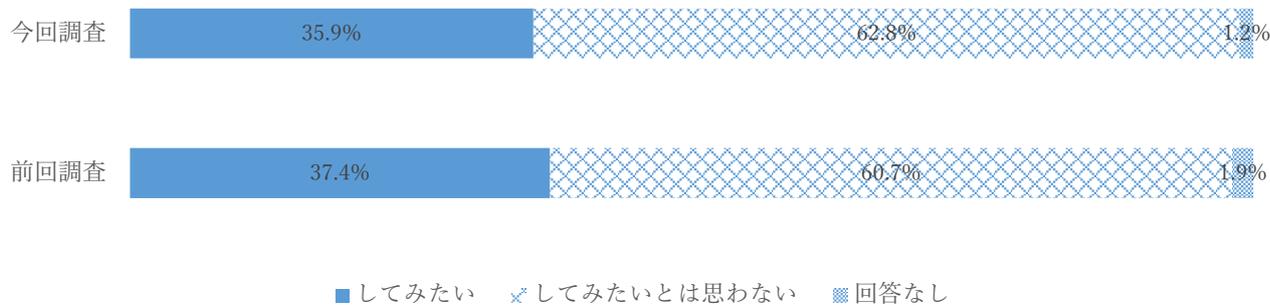
問4 2 問4 0で「2. ない」と回答された方におたずねします。農業に関する体験をしてみたいですか。(いずれか1つに○)

農業体験がない人の今後の体験希望では、「してみたい」(35.9%)、「してみたいと思わない」(62.8%)となっています。年代別では、40歳代で「してみたい」との回答が多くなっています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、農業に関する体験を「してみたい」との回答は、微減しています。

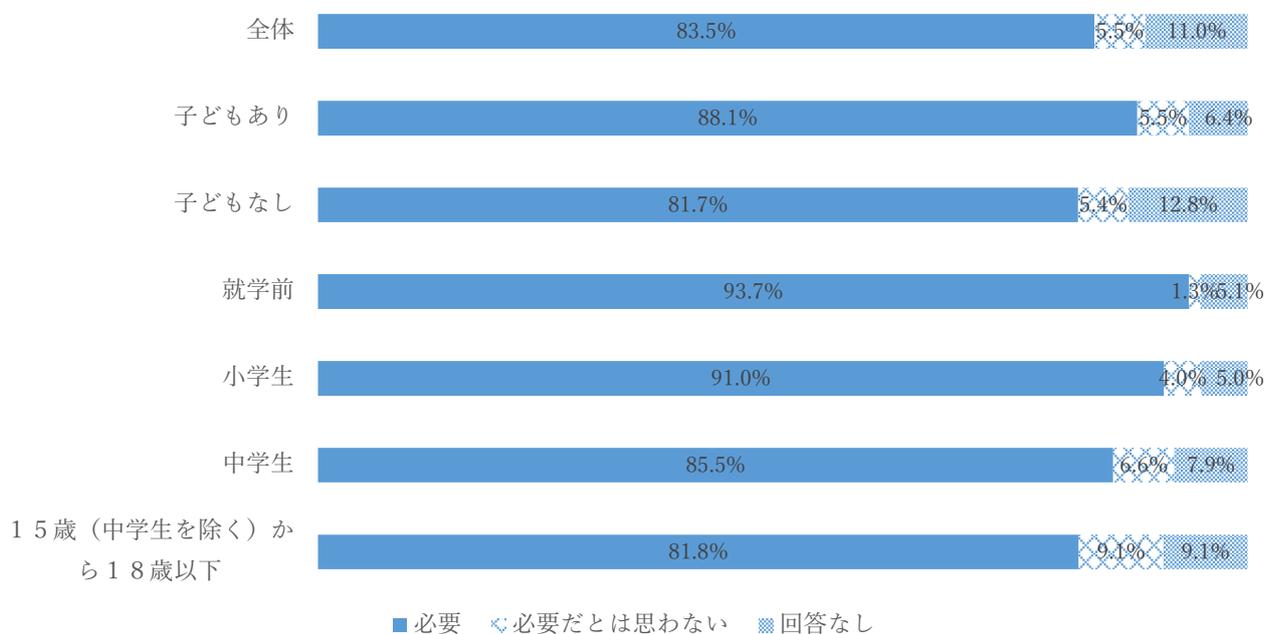


問43 子ども達の食育を進めていくうえで農業に関する体験は必要だと思いますか。
 いずれかを選び、理由もお書きください。

子ども達の食育を進めるうえで農業に関する体験が必要だと思っている人は、83.5%となっています。

特に0～18歳以下の子どもがいる家庭では、子どもたちの食育を進める上で農業体験が「必要」との回答が9割近くとなっています。

また、子どもの年齢別では、年齢が下がるほど「必要」との回答が増える傾向にあります。「必要」と考える理由としては、「食べ物のありがたさを知るため」「食材がどのように作られているのか知ることによって興味や関心が深まると思うから」などの内容が数多く寄せられました。一方で、「必要だとは思わない」理由としては、「体験しなくても学ぼうと思えば学べる」「体験を1日したぐらいではわからない」などがあげられています。



【前回調査との比較】

前回調査と比べ「必要」との回答が、6ポイント以上増加しています。

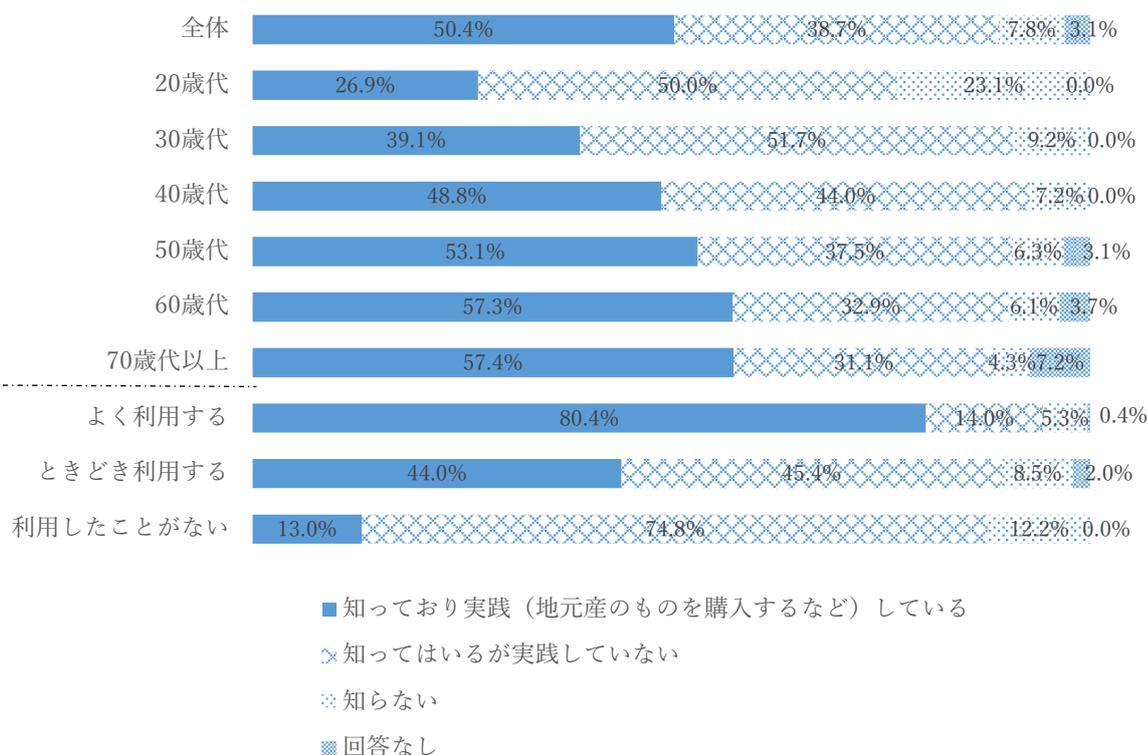


(8) 「地産地消」について

問4 4 地域で生産されたものを、できるだけ、その地域で消費する「地産地消」の考えを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

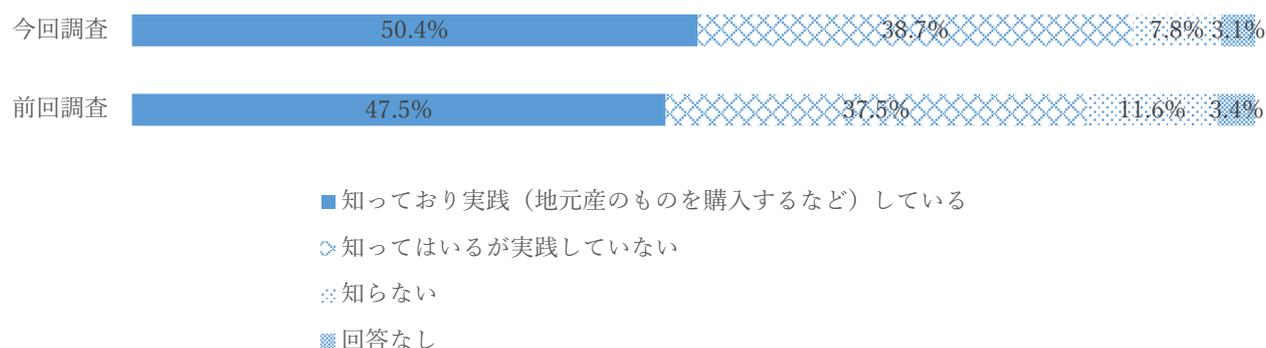
「地産地消」の認知度は、「知っており実践(地元産のものを購入するなど)している」(50.4%)、「知ってはいるが実践していない」(38.7%)、「知らない」(7.8%)となっています。

また、「地産地消」を「知っており実践(地元産のものを購入するなど)している」との回答は、農産物直売所を「よく利用する」人ほど多くなっており、「利用したことがない」人とは大きな差が見られます。



【前回調査との比較】

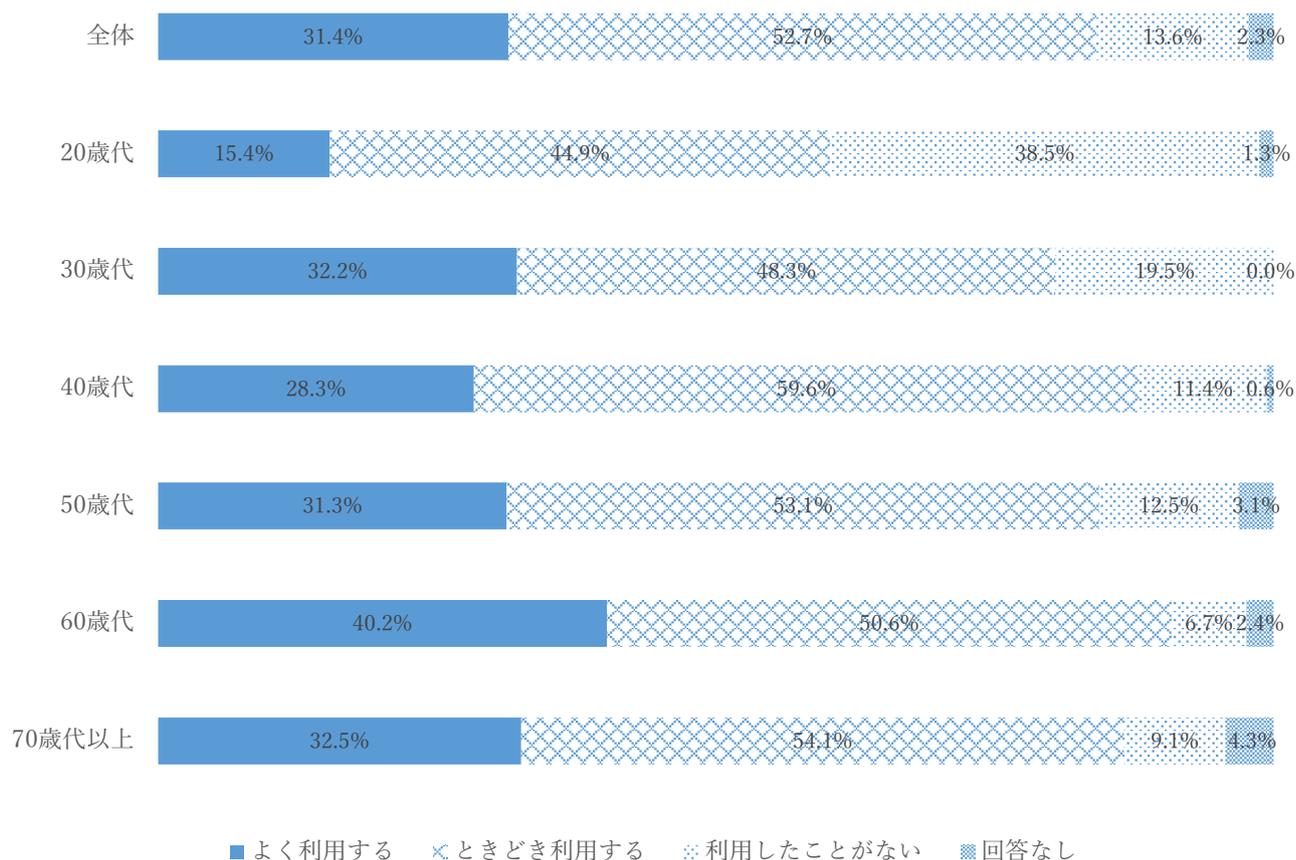
前回調査と比較すると、「知っており実践(地元産のものを購入するなど)している」、「知ってはいるが実践していない」との回答が増加しており、「地産地消」の認知度は高まっています。



問45 地元でとれた野菜や果物などを販売している、農産物直売所を利用したことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

農産物直売所の利用状況では、「よく利用する」(31.4%)、「ときどき利用する」(52.7%)を合わせ、8割以上の方が農産物直売所を『利用する』としています。

年代別では、60歳代で、「よく利用する」割合が最も多くなっています。



【前回調査との比較】

「よく利用する」、「ときどき利用する」との回答は、前回調査からほぼ横ばいとなっています。

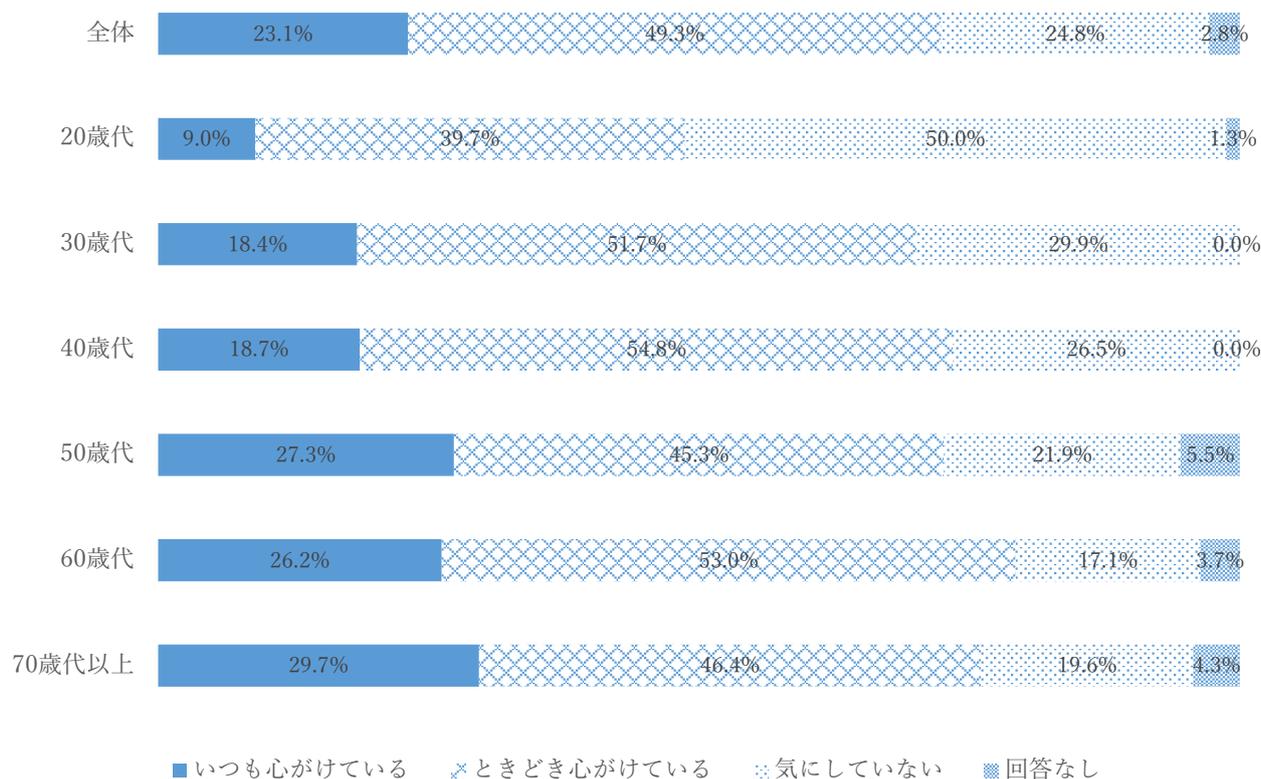


問46 産地表示を確認して、地元産を購入するよう心がけていますか。

(あてはまるもの1つに○)

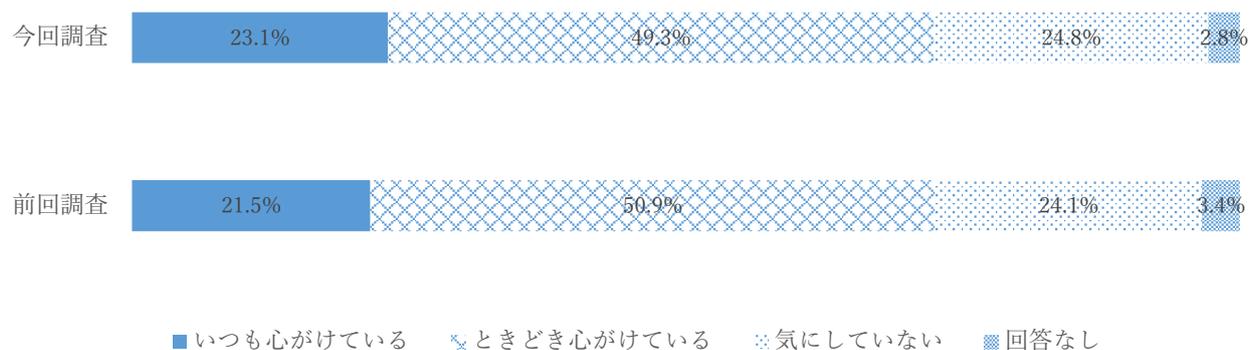
地元産の購入については、「いつも心がけている」(23.1%)、「ときどき心がけている」(49.3%)を合わせ、7割以上の方が地元産の購入を『心がけている』としています。

また、『心がけている』割合は、年齢が高いほど多い傾向にあります。



【前回調査との比較】

産地表示を確認して、地元産の購入を『心がけている』割合は、前回調査から横ばいとなっています。

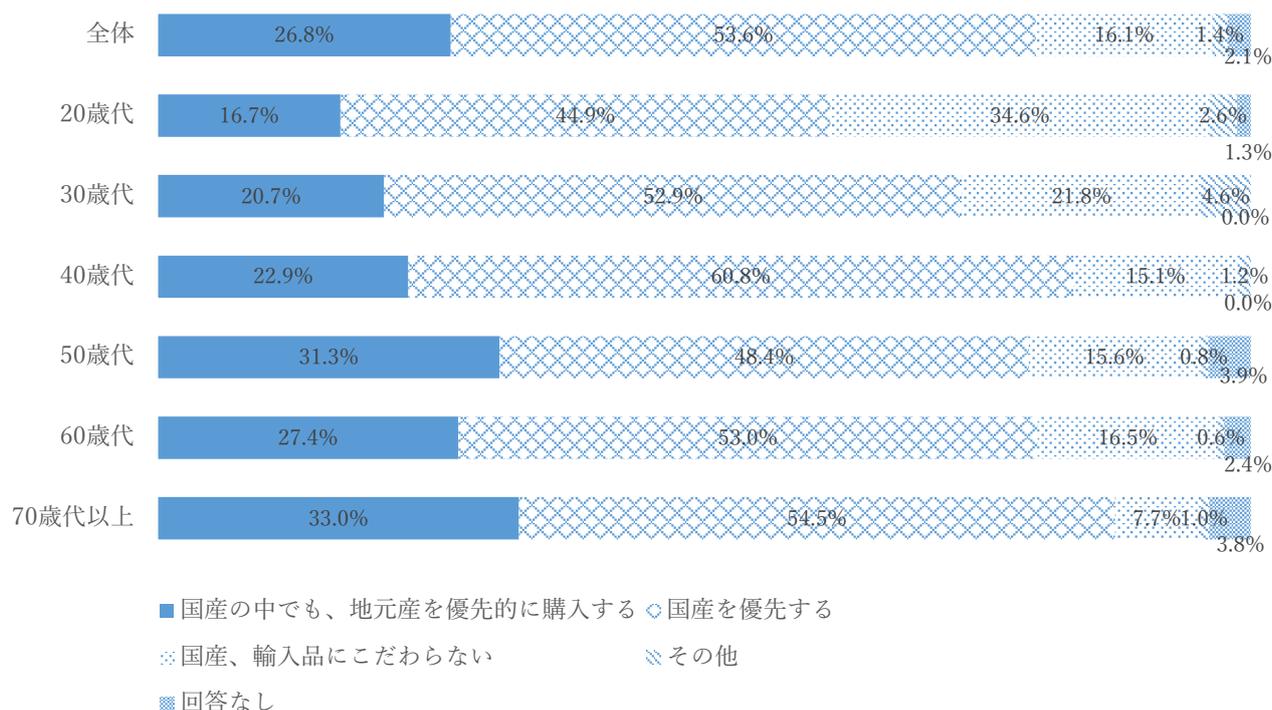


問47 食材を購入するとき、あなたの考えに一番近いものはどれですか。

(あてはまるもの1つに○)

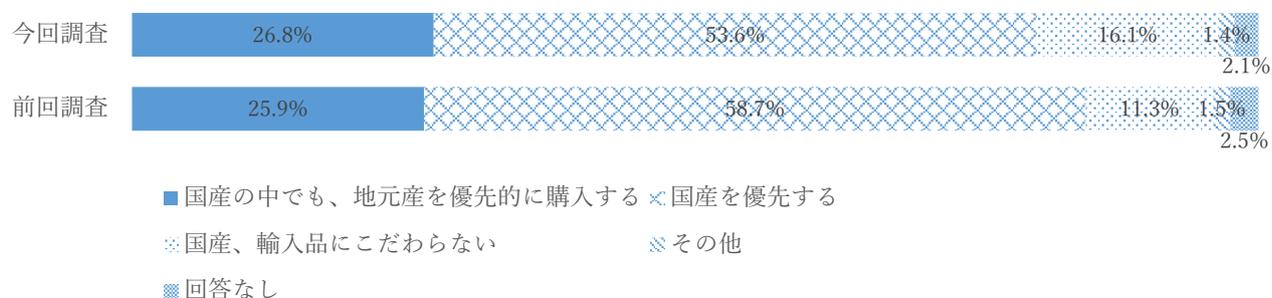
食材購入の考え方では、「国産を優先する」(53.6%)が最も多く、次いで「国産の中でも、地元産を優先的に購入する」(26.8%)と、国産・地元産を優先する割合が高いことがうかがえます。

年代別では、いずれの世代も「国産を優先する」が最も多くあげられていますが、20歳代では「国産、輸入品にこだわらない」との回答が3割超えと、他の年代に比べ多くなっています。



【前回調査との比較】

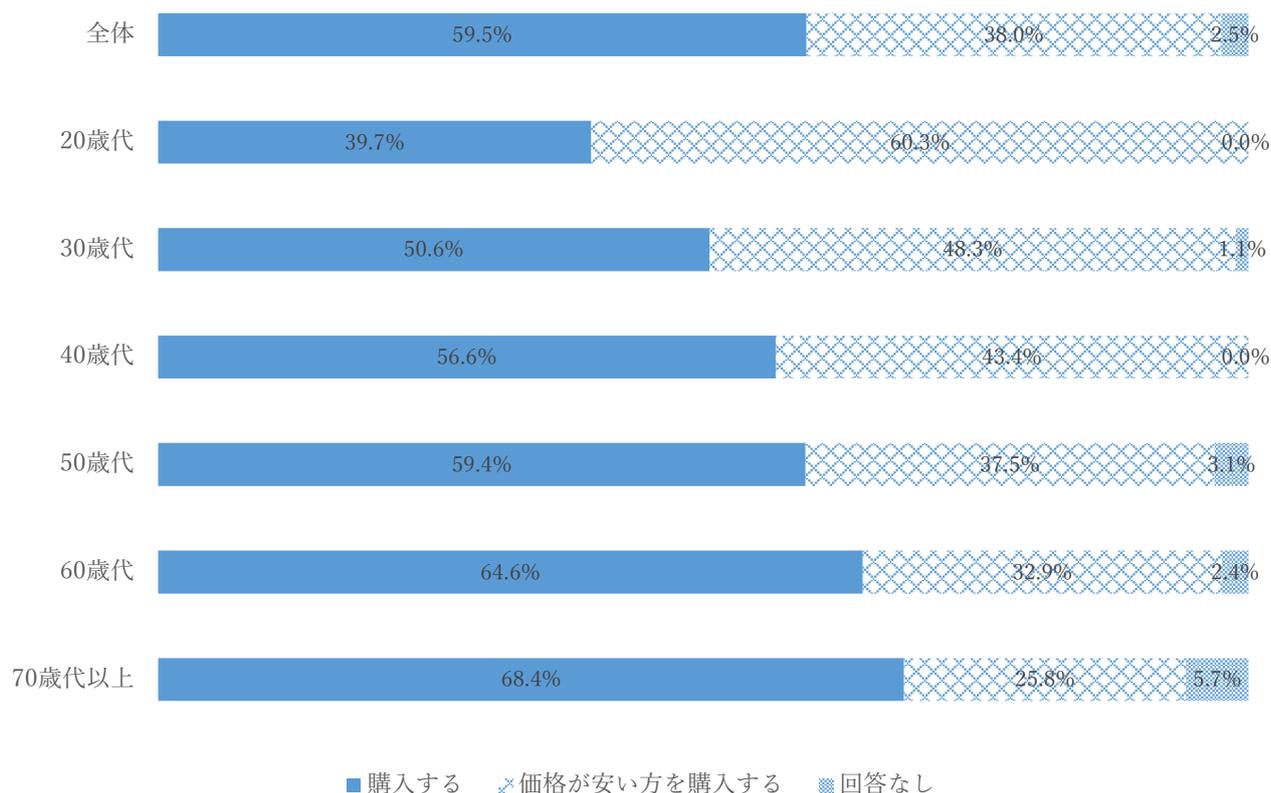
前回調査と比較すると、「国産、輸入品にこだわらない」との回答が4ポイント以上増加しています。



問48 地元農産物で、安全、安心なものであれば少し価格が高めでも購入しますか。
(いずれか1つに○)

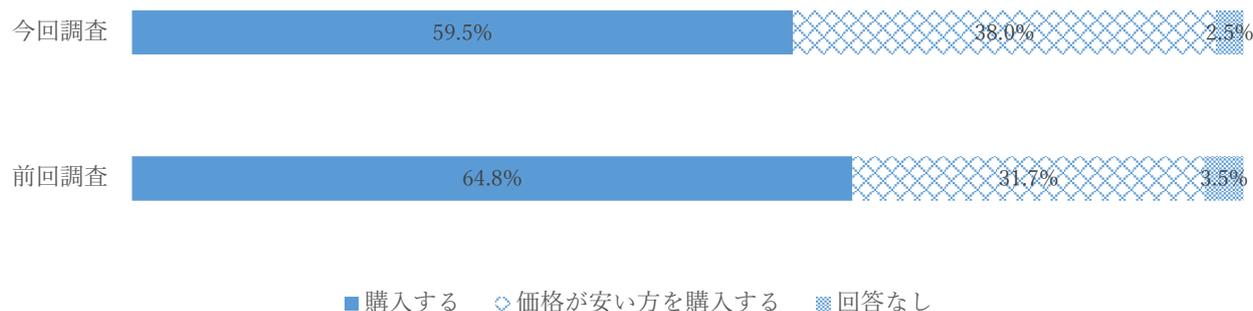
食材の購入について、価格が少し高めでも地元産を購入する人の割合は、59.5%となっています。

年代別では、年齢が高いほど「購入する」割合が多くなっています。20歳代のみ「価格が安い方を購入する」との回答が上回っています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、地元農産物で、安全、安心なものであれば少し価格が高めでも「購入する」との回答は、5ポイント以上減少しています。



(9) 市に期待することについて

問49 食育に関して、市に期待することは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

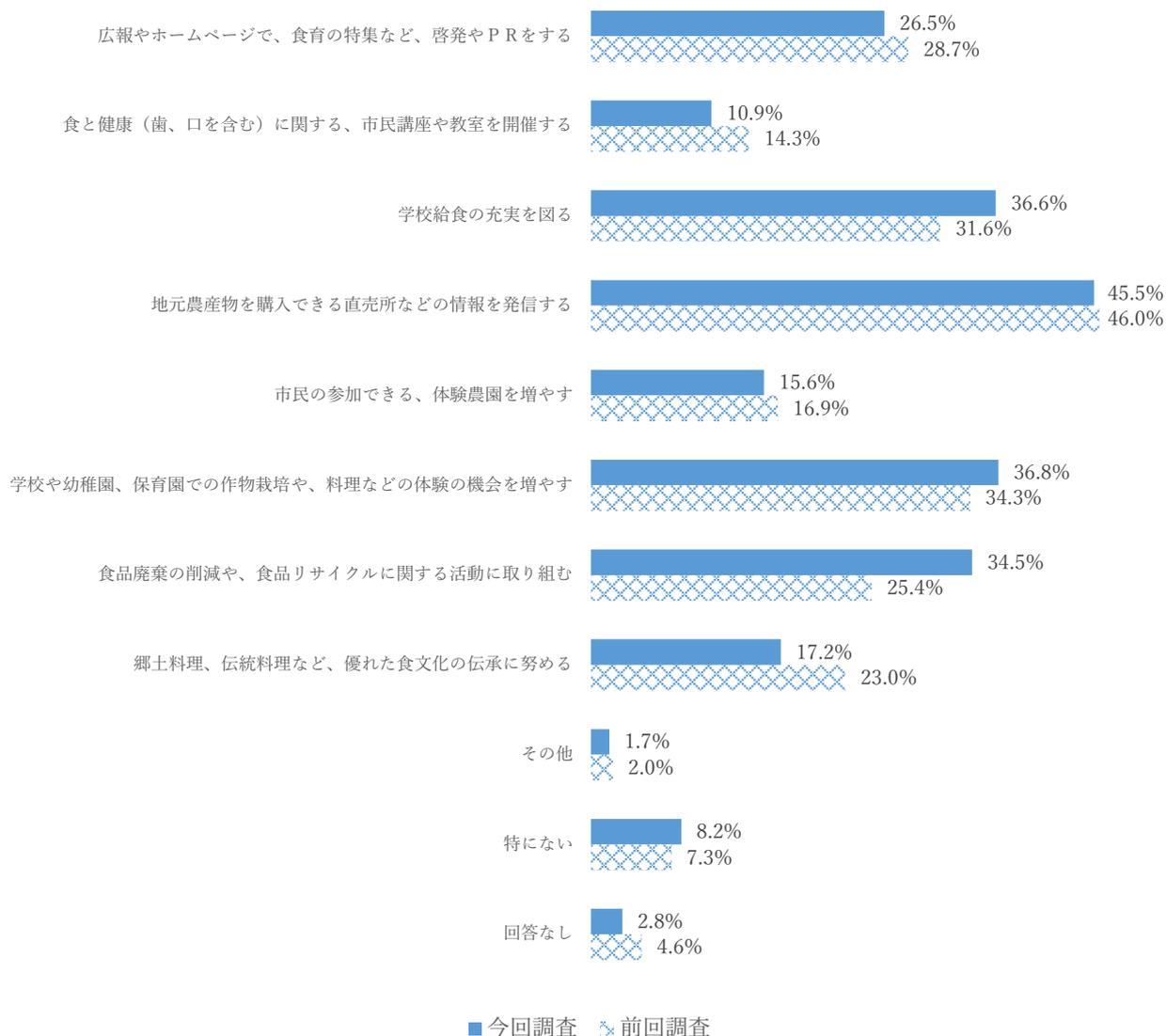
市に期待する食育に関する施策では、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」(45.5%)が最も多く、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」(36.8%)、「学校給食の充実を図る」(36.6%)が主な回答となっています。

年代別では、20～30歳代で「学校給食の充実を図る」、40歳代で「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、50歳代以上で「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」との回答が最も多くなっています。(20歳代は、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」も同率。)

		回答者数	広報やホームページで、啓発やPRをする	市民講座や教室を開催する	食と健康(歯、口を含む)に関する、市民講座や教室を開催する	学校給食の充実を図る	地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する	市民の参加できる、体験農園を増やす	学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす	食品廃棄の削減や、食品リサイクルに関する活動に取り組む	郷土料理、伝統料理など、優れた食文化の伝承に努める	その他	特になし	回答なし
全体		844人	26.5%	10.9%	36.6%	45.5%	15.6%	36.8%	34.5%	17.2%	1.7%	8.2%	2.8%	
年代	20歳代	78人	17.9%	12.8%	33.3%	33.3%	15.4%	32.1%	28.2%	24.4%	0.0%	15.4%	1.3%	
	30歳代	87人	11.5%	8.0%	60.9%	33.3%	19.5%	56.3%	40.2%	14.9%	0.0%	4.6%	0.0%	
	40歳代	166人	13.9%	4.8%	53.6%	34.3%	21.1%	56.6%	39.8%	17.5%	3.6%	5.4%	0.0%	
	50歳代	128人	28.1%	13.3%	30.5%	51.6%	20.3%	34.4%	32.8%	17.2%	3.1%	5.5%	4.7%	
	60歳代	164人	36.0%	13.4%	30.5%	56.7%	12.8%	29.9%	32.3%	15.2%	1.2%	7.3%	2.4%	
	70歳代以上	209人	37.8%	12.9%	22.5%	51.2%	9.1%	22.5%	34.0%	17.2%	1.0%	11.5%	6.2%	

【前回調査との比較】

「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」、次いで「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、「学校給食の充実を図る」という上位3項目は変わりませんが、「郷土料理、伝統料理など、優れた食文化の伝承に努める」との回答は5ポイント以上減少し、「食品廃棄の削減や、食品リサイクルに関する活動に取り組む」との回答は9ポイント以上増加しています。

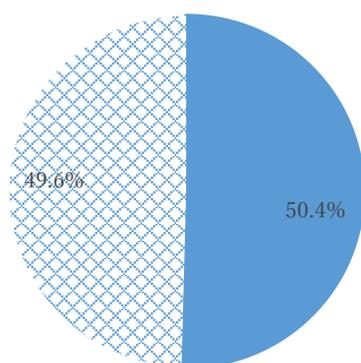


2. 小学5年生・中学2年生調査

(1) あなた自身のことについて

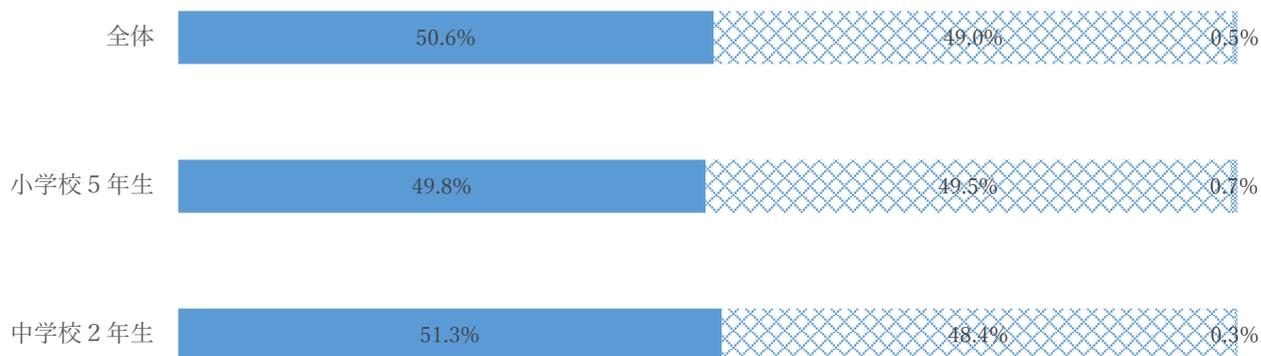
問1 あなたの学年と性別を選んでください。

学年は、「小学5年生」が50.4%、「中学2年生」が49.6%となっています。



■ 小学校5年生 × 中学校2年生

性別は、小学5年生では、「男子」が49.8%、「女子」が49.5%、中学2年生では、「男子」が51.3%、「女子」が48.4%となっています。

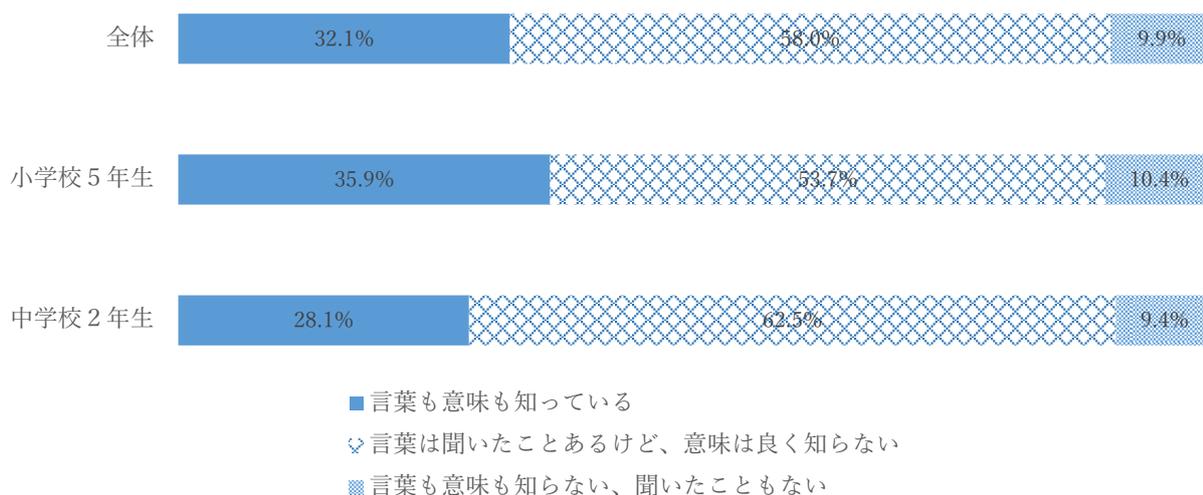


■ 男子 × 女子 ▨ 回答なし

(2) 「食育」について

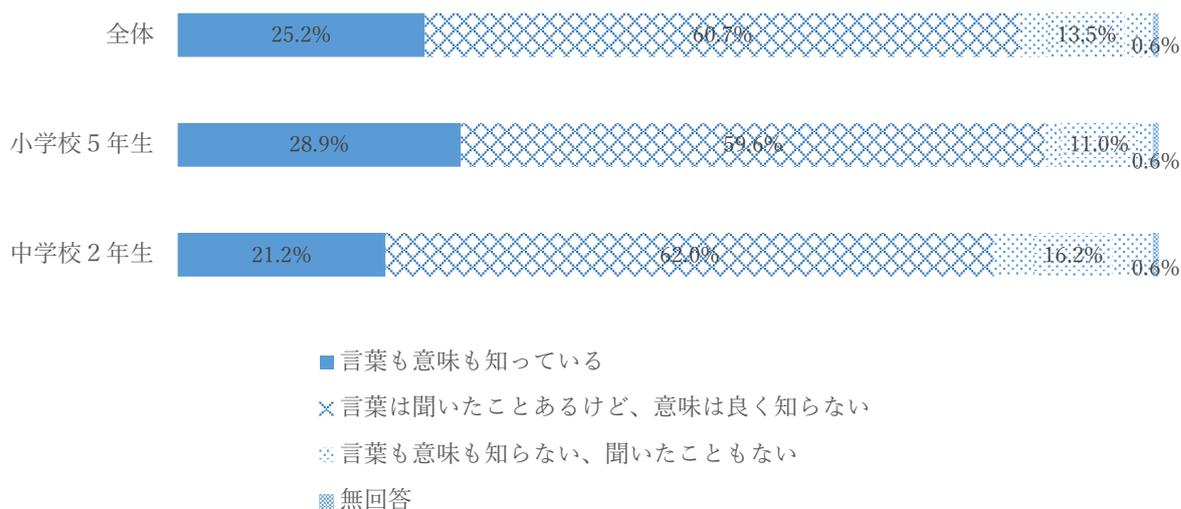
問2 「食育」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

「食育」の認知度は、「言葉も意味も知っている」と「言葉は聞いたことがあるけど、意味は良く知らない」を合わせた『知っている』割合は、小学5年生が89.6%、中学2年生が90.6%となっています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」との回答は小学5年生・中学2年生ともに6ポイント以上増加しています。



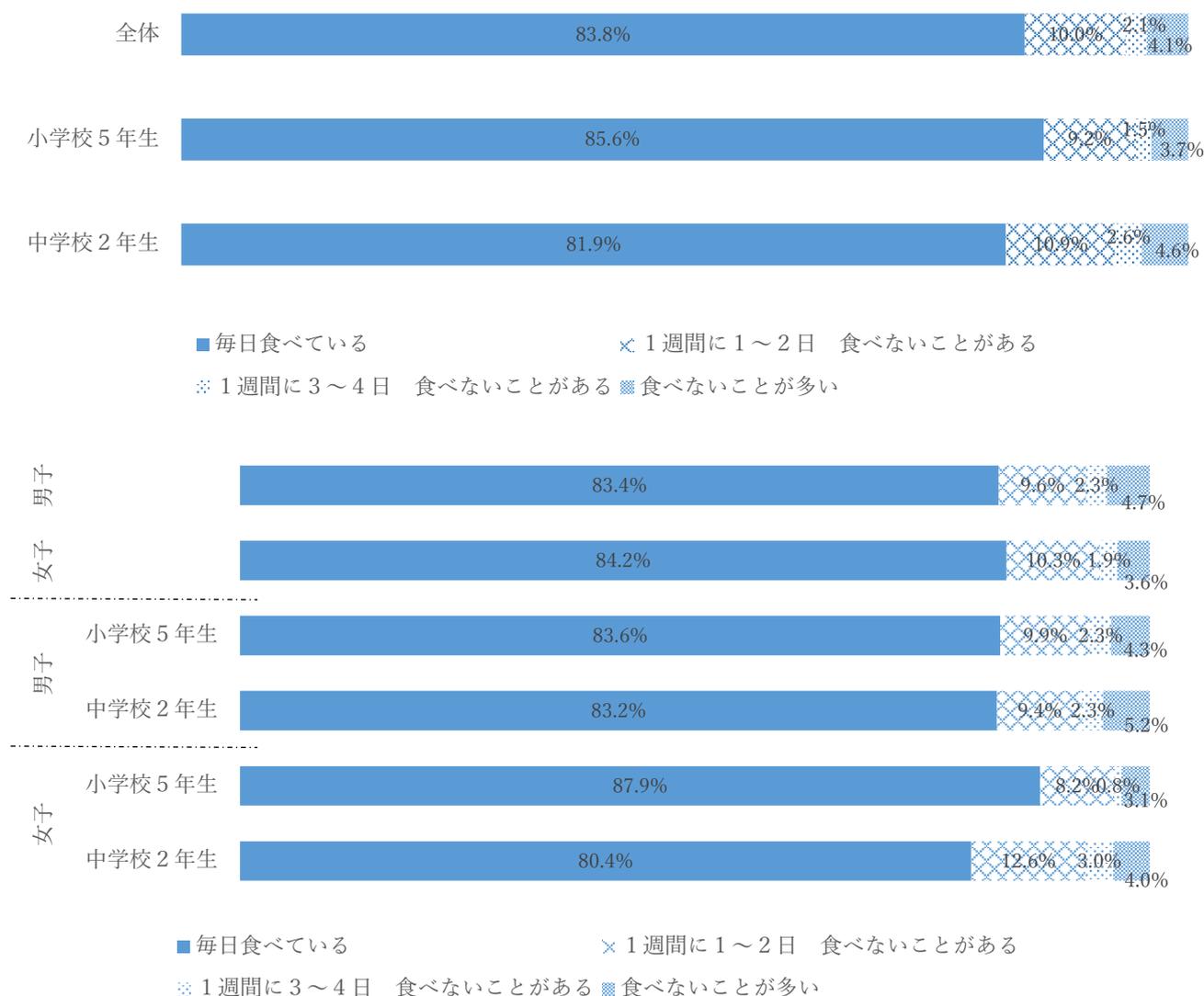
(3) 食事・食生活について

問3 朝ごはんを毎日食べていますか。1つ選んでください。

朝ごはんの習慣では、「毎日食べている」が小学5年生で85.6%、中学2年生で81.9%となっています。

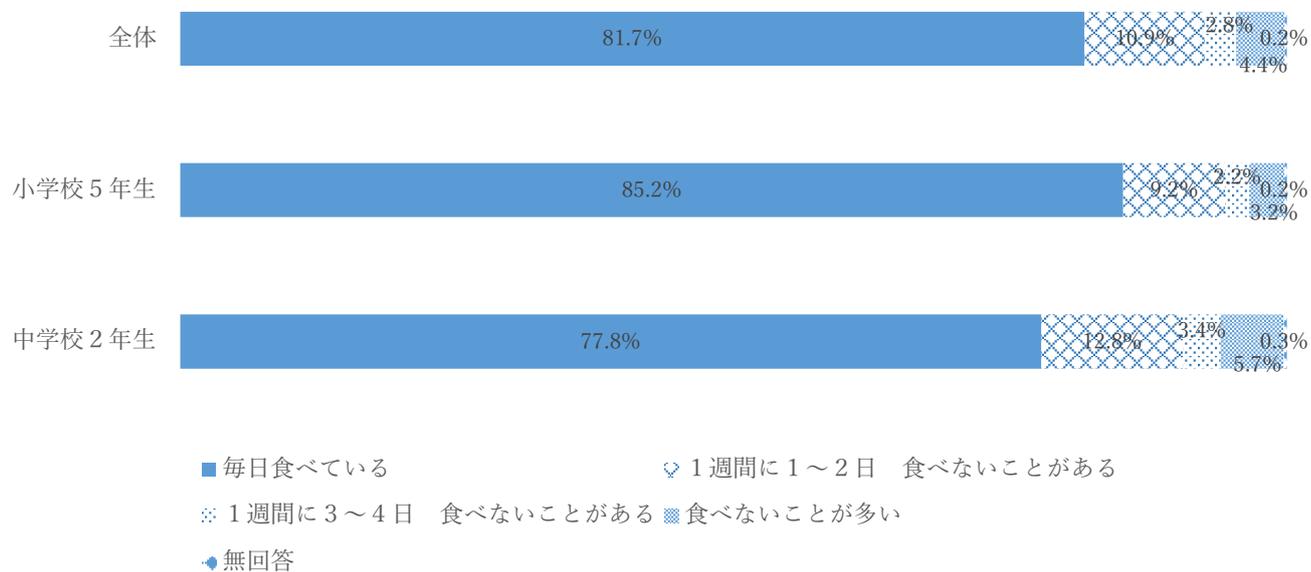
学年別では、朝ごはんを『食べない』（週に1日でも食べないことがある）割合は、小学5年生に比べ中学2年生で多くなっています。

性・学年別でみると、『食べない』割合は、男女ともに中学2年生で多くなっています。



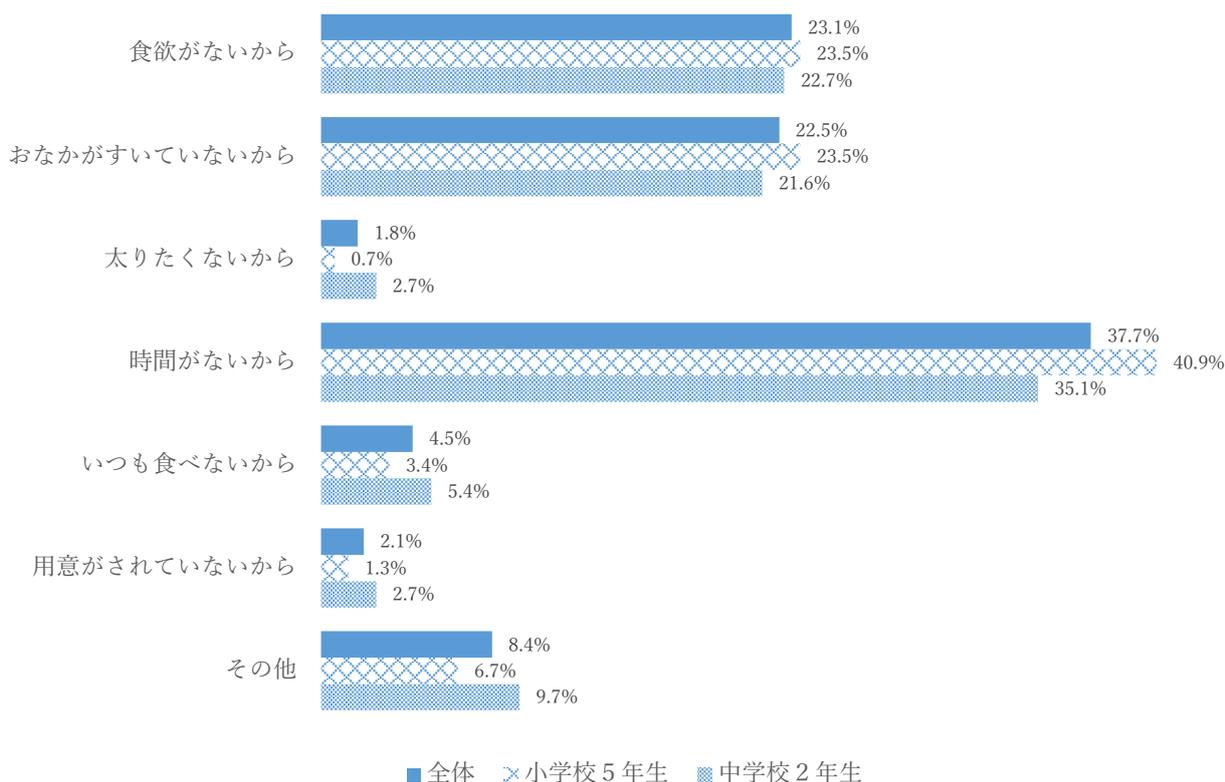
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「毎日食べている」との回答は上昇しています。



問4 問3で「1週間に1～2日 食べないことがある」「1週間に3～4日 食べないことがある」「食べないことが多い」を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。1つ選んでください。

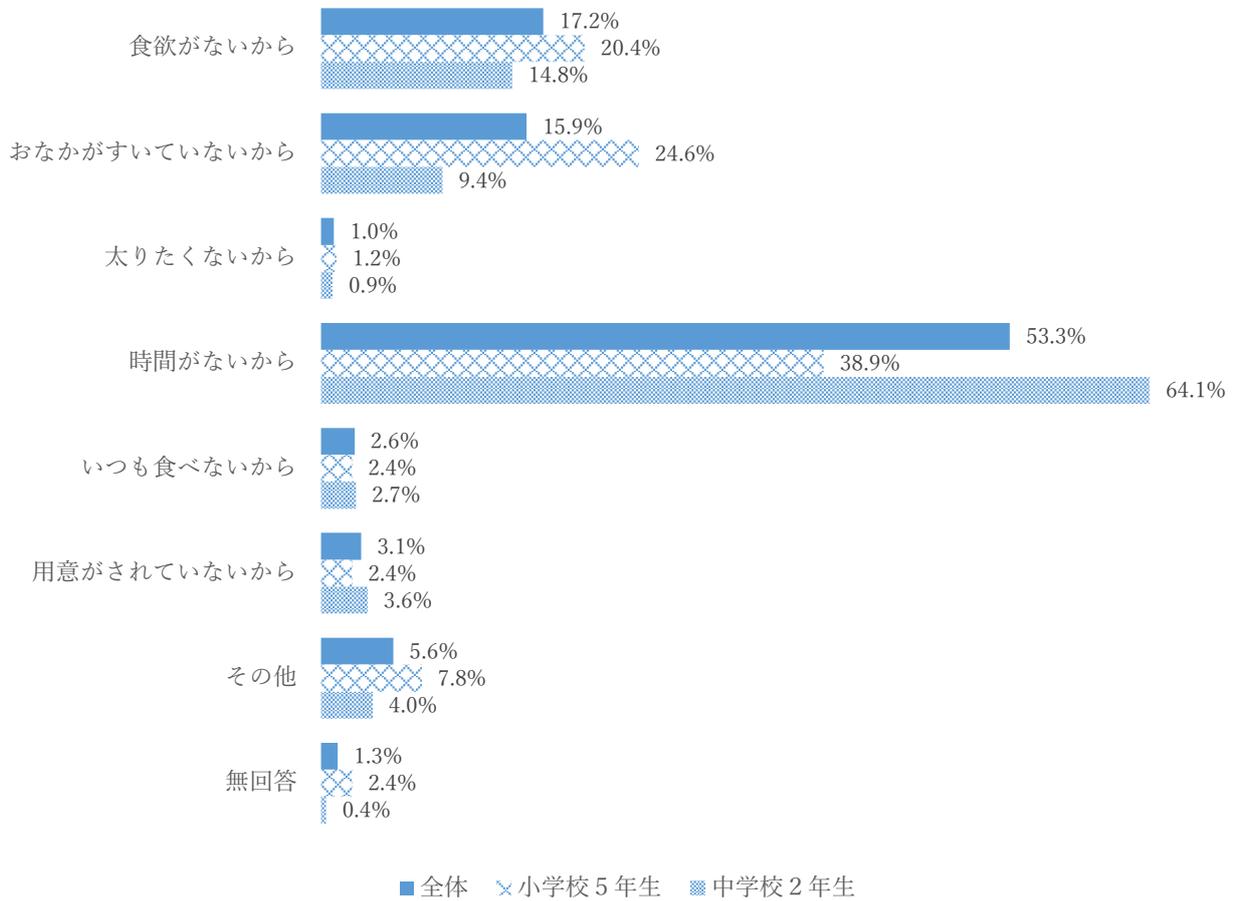
朝ごはんを食べない理由としては、小学5年生・中学2年生ともに「時間がないから」が最も多く、次いで小学5年生は「食欲がないから」「おなかがすいていないから」が同率、中学2年生は「食欲がないから」「おなかがすいていないから」の順となっています。



		回答者数	食欲がないから	おなかがすいていないから	太りたくないから	時間がないから	いつも食べないから	用意がされていないから	その他
全体		334人	23.1%	22.5%	1.8%	37.7%	4.5%	2.1%	8.4%
性別	男子	173人	26.6%	23.7%	2.3%	33.5%	4.0%	2.3%	7.5%
	女子	159人	18.9%	21.4%	1.3%	42.1%	5.0%	1.9%	9.4%
男子	小学校5年生	85人	28.2%	22.4%	1.2%	40.0%	2.4%	0.0%	5.9%
	中学校2年生	88人	25.0%	25.0%	3.4%	27.3%	5.7%	4.5%	9.1%
女子	小学校5年生	62人	16.1%	25.8%	0.0%	41.9%	4.8%	3.2%	8.1%
	中学校2年生	97人	20.6%	18.6%	2.1%	42.3%	5.2%	1.0%	10.3%

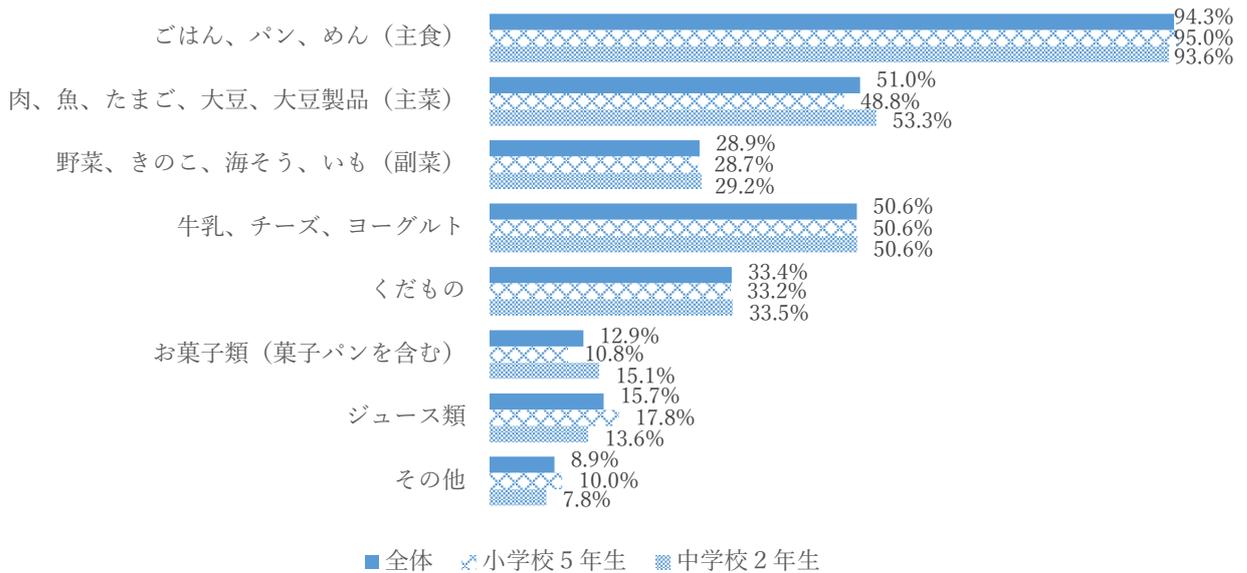
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「時間がないから」「食欲がないから」「おなかがすいていないから」の上位3項目に変化はありませんが、中学2年生で「時間がないから」との回答は大幅に減少しており、生活の変化がうかがえます。



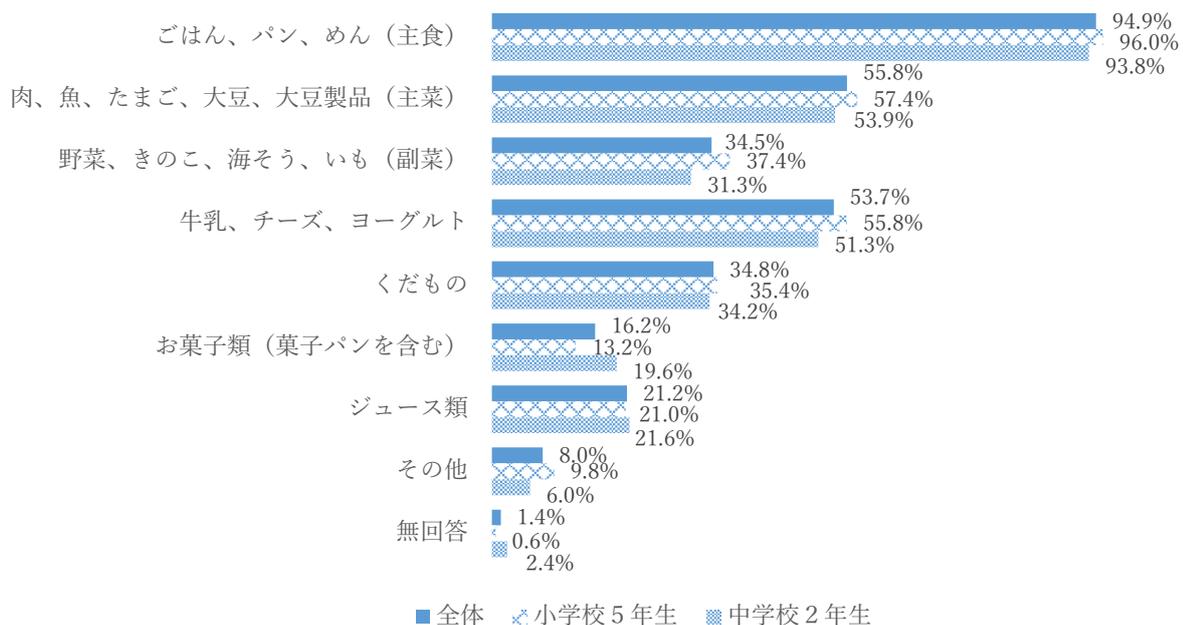
問5 ふだん、どのような朝ごはんを食べていますか。あてはまるもの、すべてを選んでください。

朝ごはん食べているものについて「ごはん、パン、めん（主食）」は、ほとんどの児童・生徒があげており、次いで小学5年生は「牛乳、チーズ、ヨーグルト」「肉、魚、たまご、大豆、大豆製品（主菜）」、中学2年生は「肉、魚、たまご、大豆、大豆製品（主菜）」「牛乳、チーズ、ヨーグルト」の順となっており、学年による大きな違いは見られません。



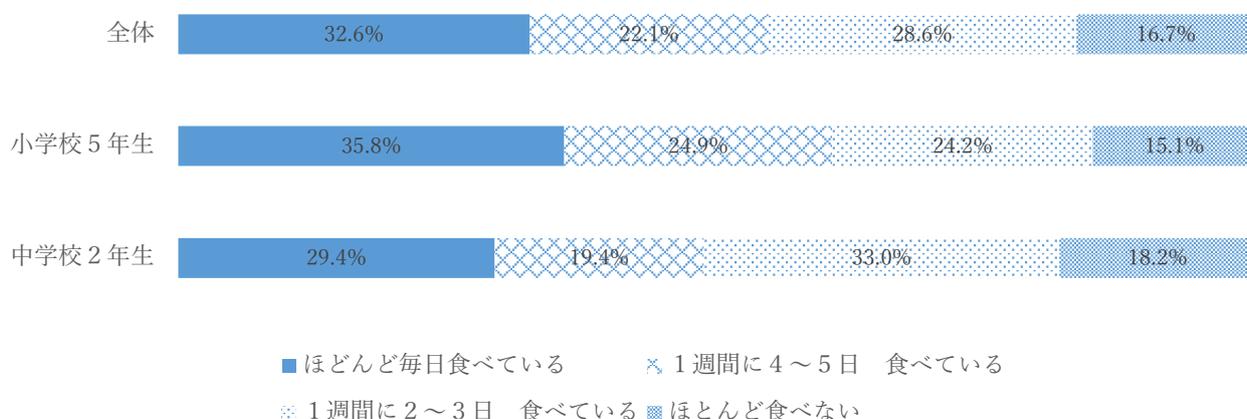
【前回調査との比較】

「ごはん、パン、めん（主食）」「肉、魚、たまご、大豆、大豆製品（主菜）」「牛乳、チーズ、ヨーグルト」という上位3項目に変化はありません。



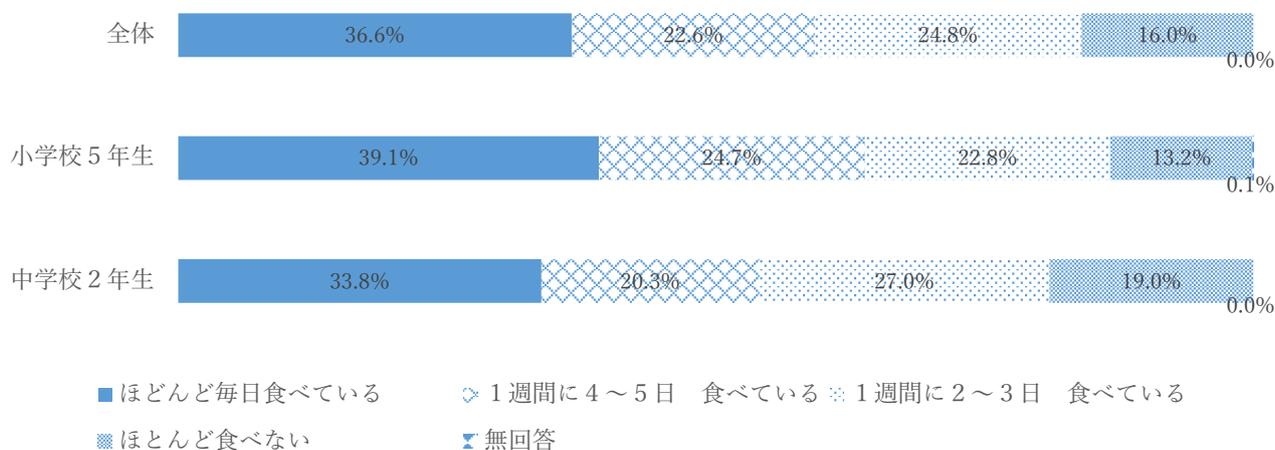
問6 学校から帰って、夕ごはんまでの間、おやつを食べますか。1つ選んでください。

おやつの習慣は、小学5年生で「ほとんど毎日食べている」、中学2年生で「1週間に2～3日食べている」との回答が最も多くなっております。



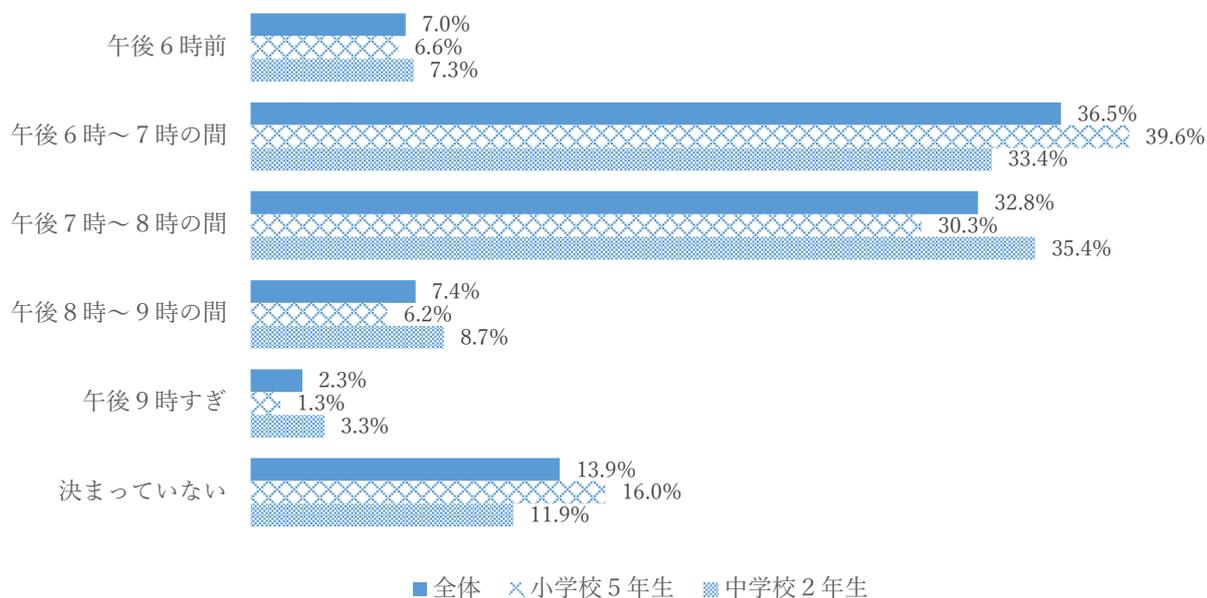
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「ほとんど毎日食べている」割合が小学5年生・中学2年生ともに減少しています。



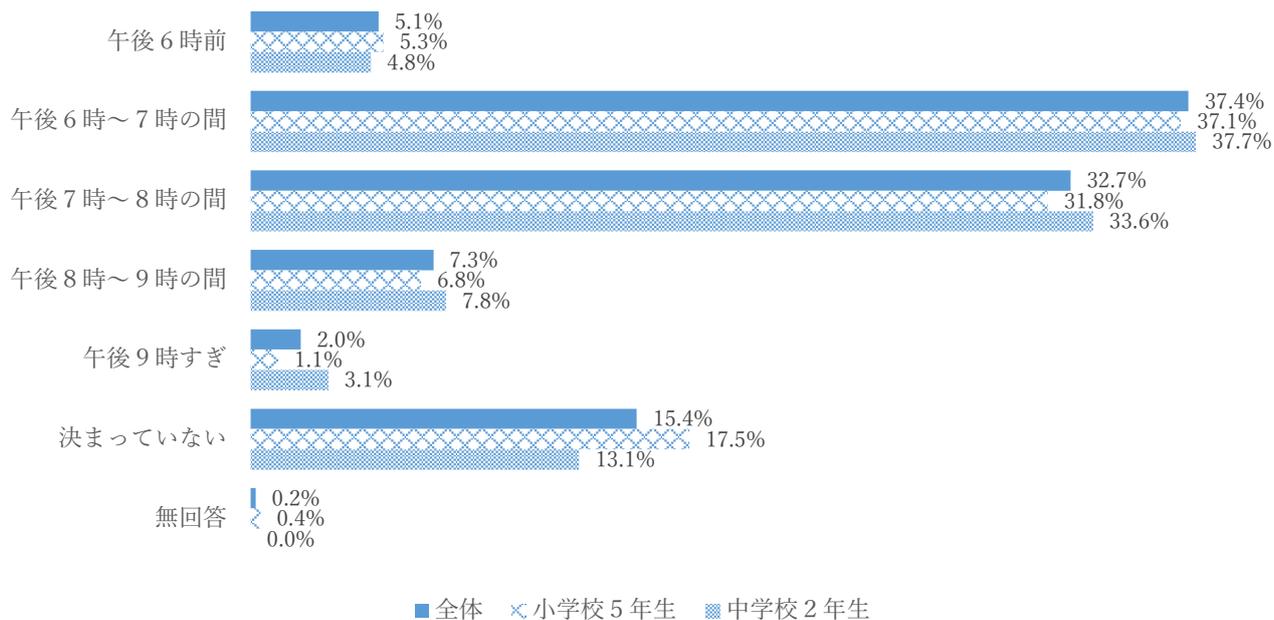
問7 夕ごはんは、何時ごろ食べ始めますか。平日の時間で教えてください。1つ選んでください。

夕食の時間は、小学5年生で「午後6時～7時の間」、中学2年生で「午後7時～8時の間」との回答が最も多くなっています。



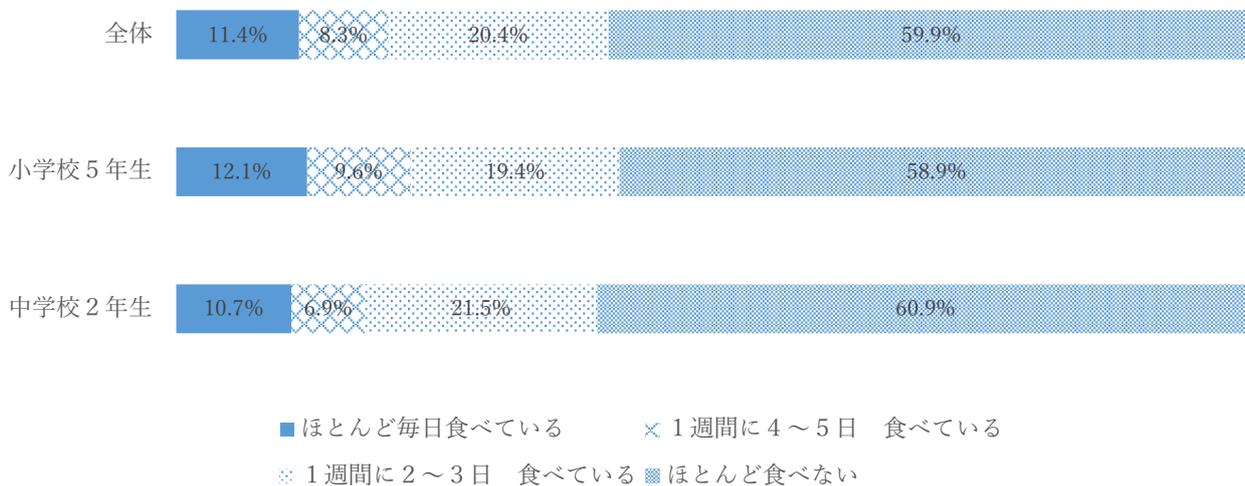
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、夕食の時間については、「午後6時前」との回答は微増、夕食の時間が「決まっていない」との回答は減少しています。



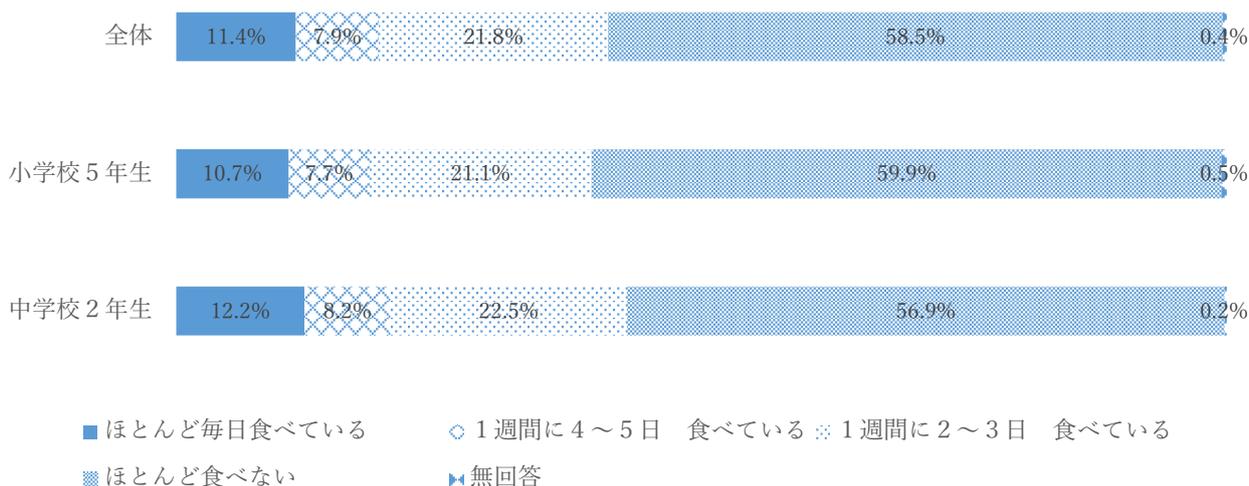
問8 夕ごはんの後、ねるまでの間に何か食べますか。1つ選んでください。

夜食の習慣は、「ほとんど食べない」が最も多く、小学5年生で58.9%、中学2年生で60.9%となっています。また、「ほとんど毎日食べる」は、小学5年生で12.1%、中学2年生で10.7%となっています。



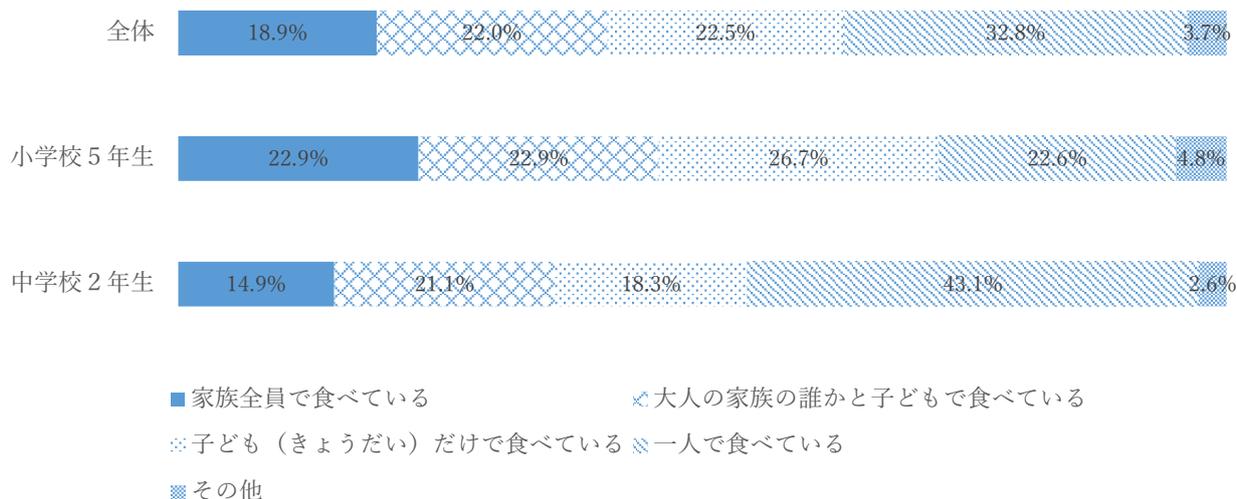
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「1週間に2～3日食べている」割合は若干減少しております。また、「ほとんど毎日食べる」割合は小学5年生で微増、中学2年生で微減しています。



問9 朝ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

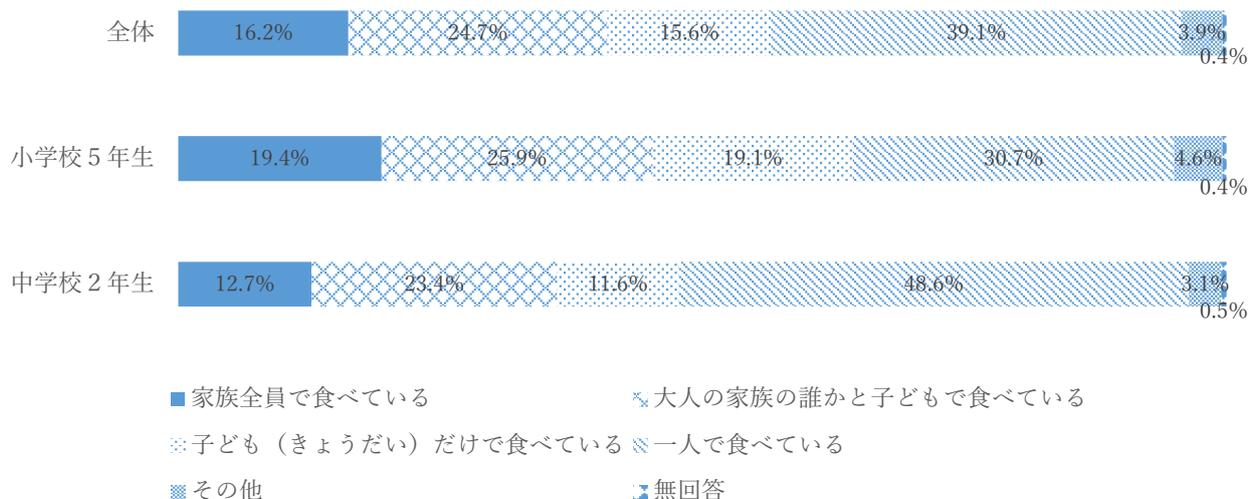
朝食を誰と食べているかについては、「一人で食べている」との回答は、小学5年生で約2割、中学2年生で約4割となっており、「子ども（きょうだい）だけで食べている」を合わせると、小学5年生・中学2年生ともに、約半数が子ども（きょうだい）だけで朝食を食べていることが分かります。



【前回調査との比較】

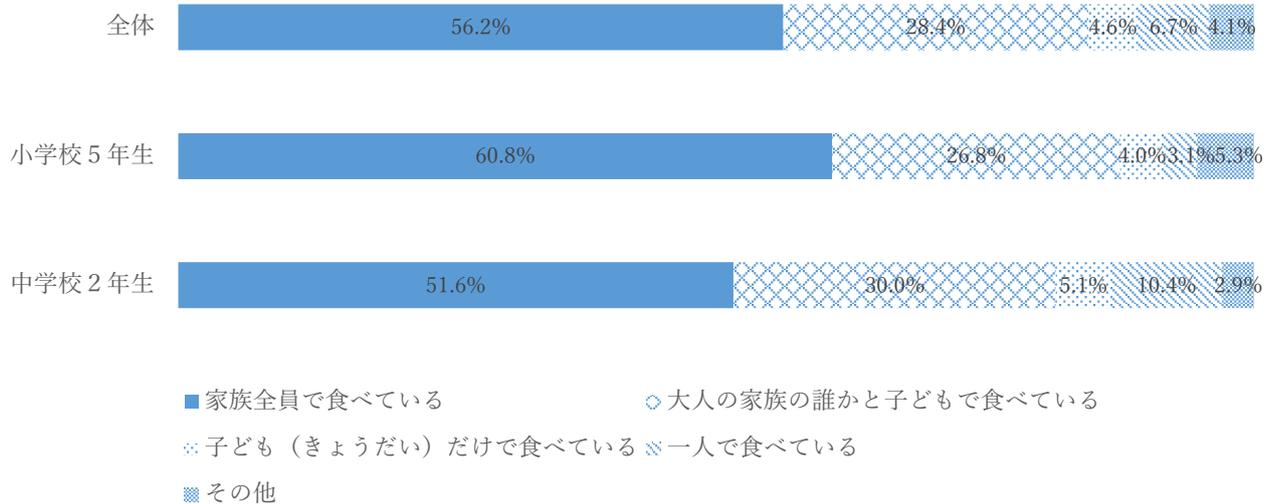
前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「一人で食べている」割合は減少しています。

一方、「子ども（きょうだい）だけで食べている」割合は増加しております。



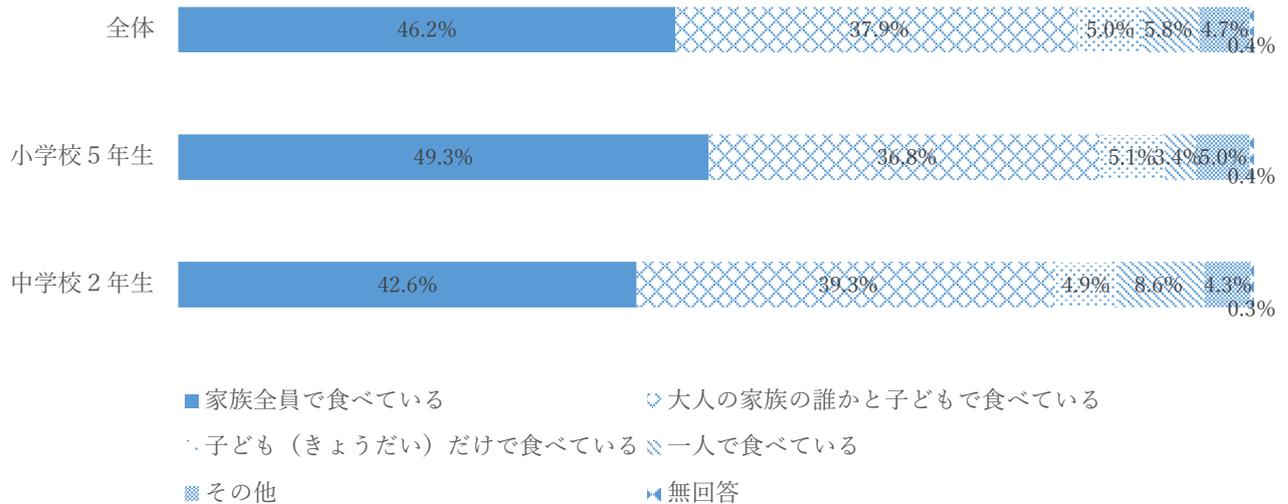
問10 夕ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

夕食を誰と食べているかについては、小学5年生・中学2年生ともに「家族全員で食べている」「大人の家族の誰かと子どもで食べている」の順となっており、8割以上は大人と一緒に夕食を食べています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「家族全員で食べている」との回答が増加しています。また、「大人の家族の誰かと子どもで食べている」「子ども（きょうだい）だけで食べている」との回答が減少しています。

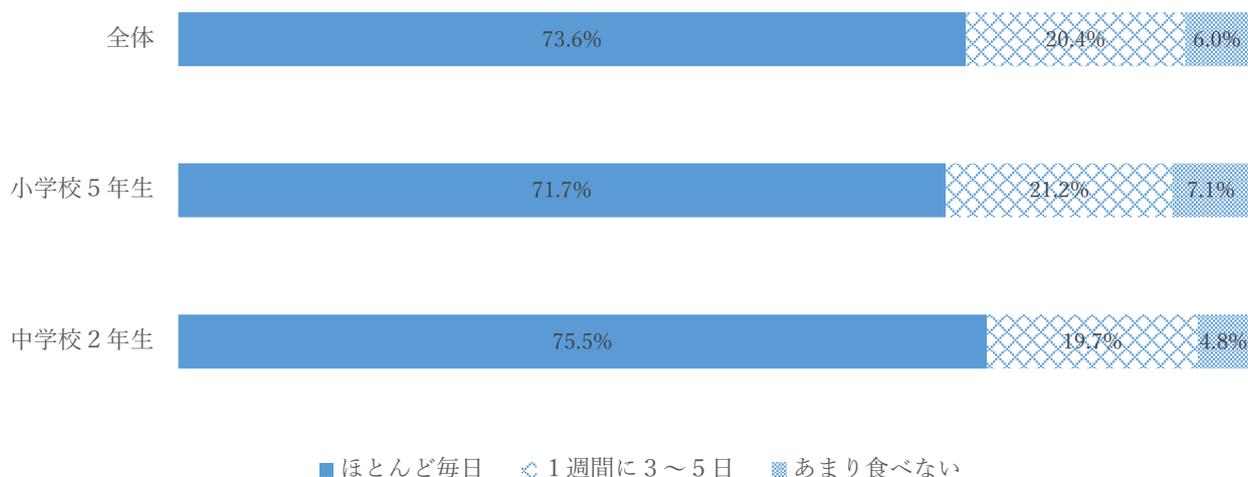


問11 次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

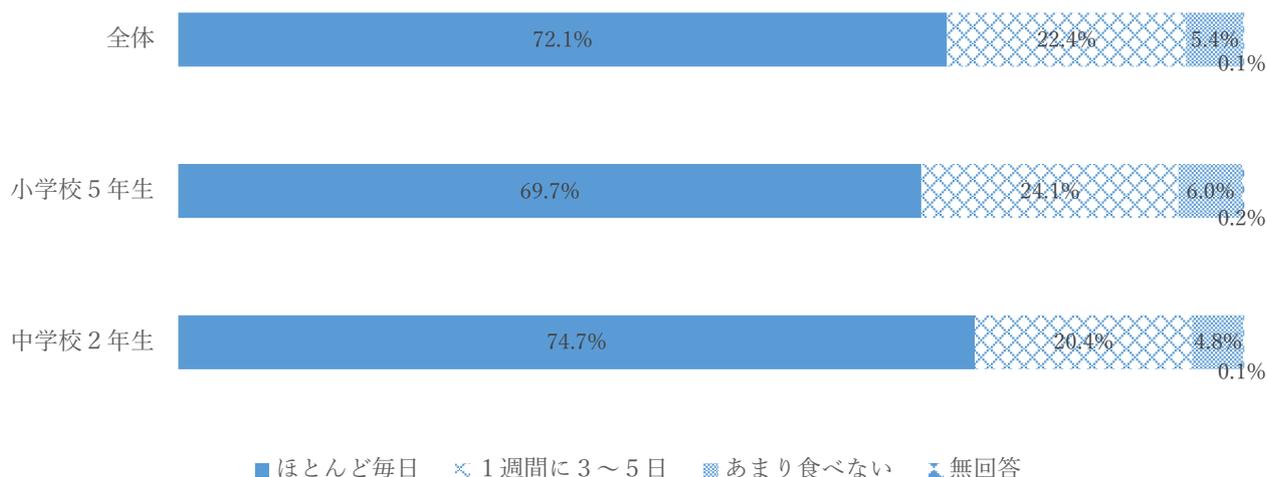
野菜の摂取状況は、小学5年生、中学2年生ともに「ほとんど毎日」が最も多く7割程度となっています。くだもの摂取状況は、「1週間に3～5日」が最も多く、小学5年生・中学2年生ともに4割台となっています。

また、魚の摂取状況についても「1週間に3～5日」が最も多く、小学5年生・中学2年生ともに6割台となっています。

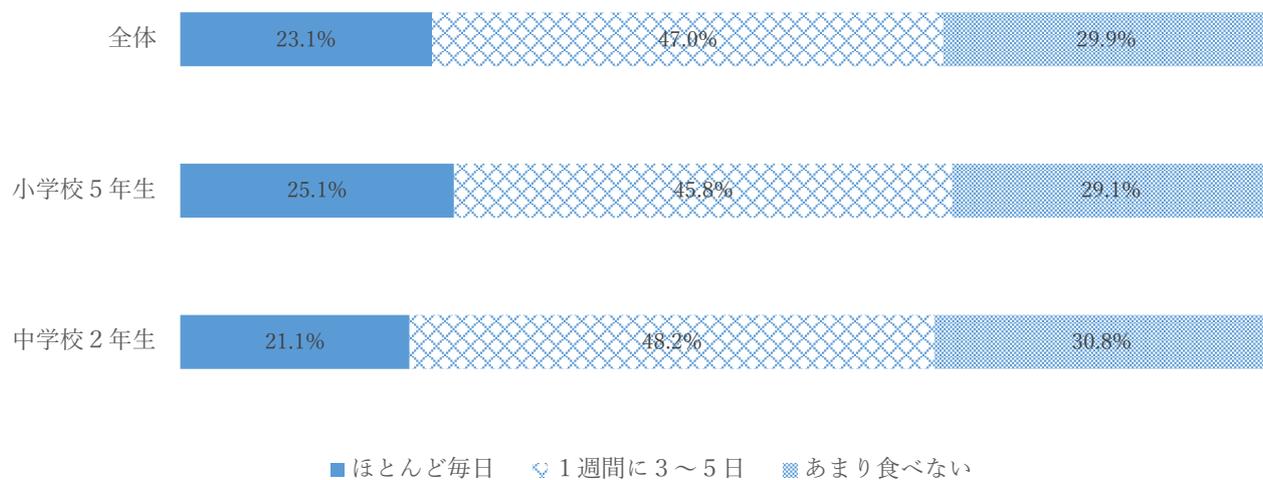
① 野菜



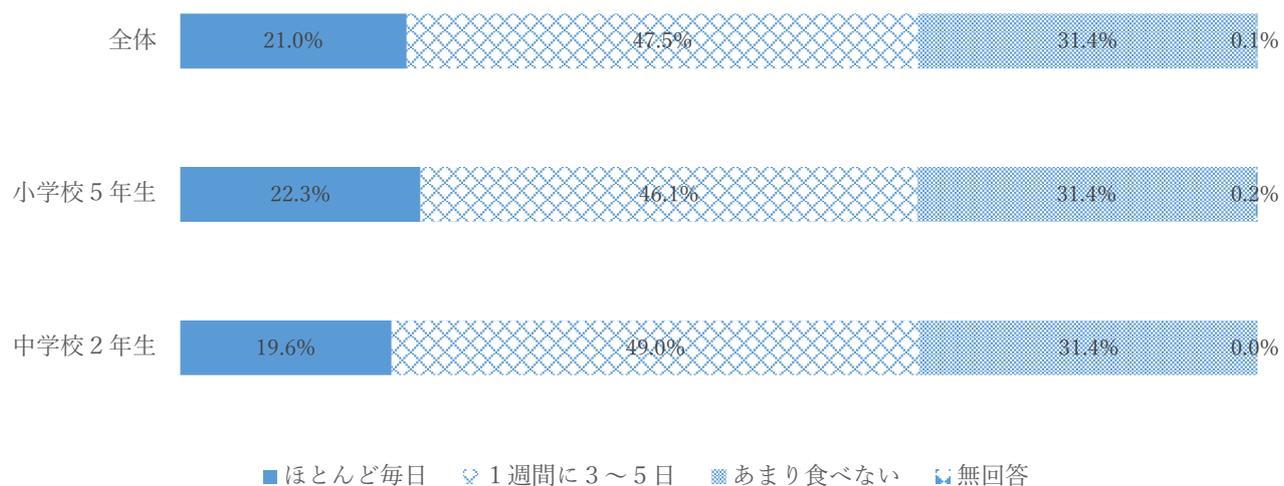
【前回調査】



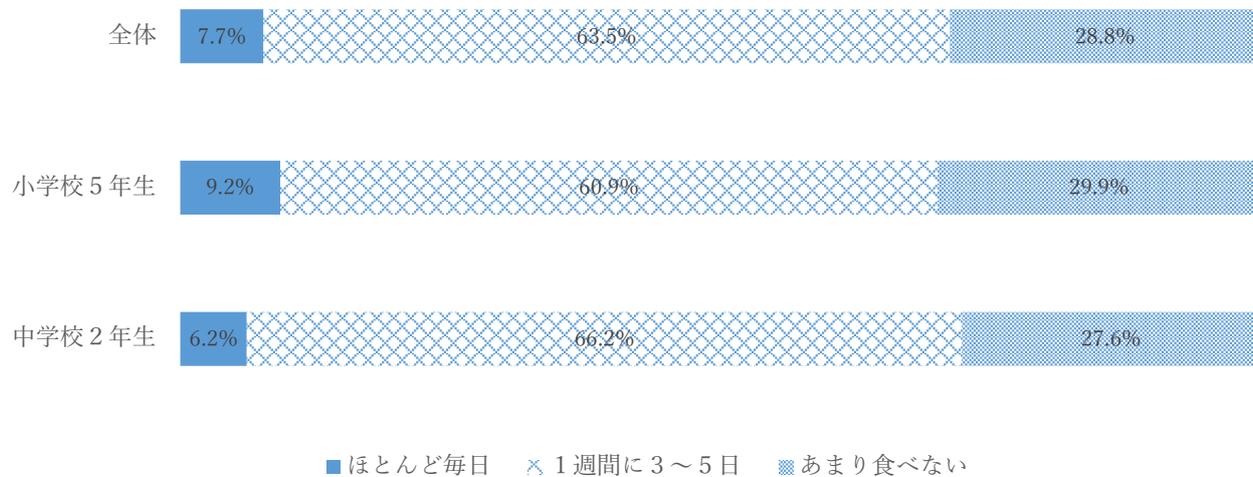
② くだもの



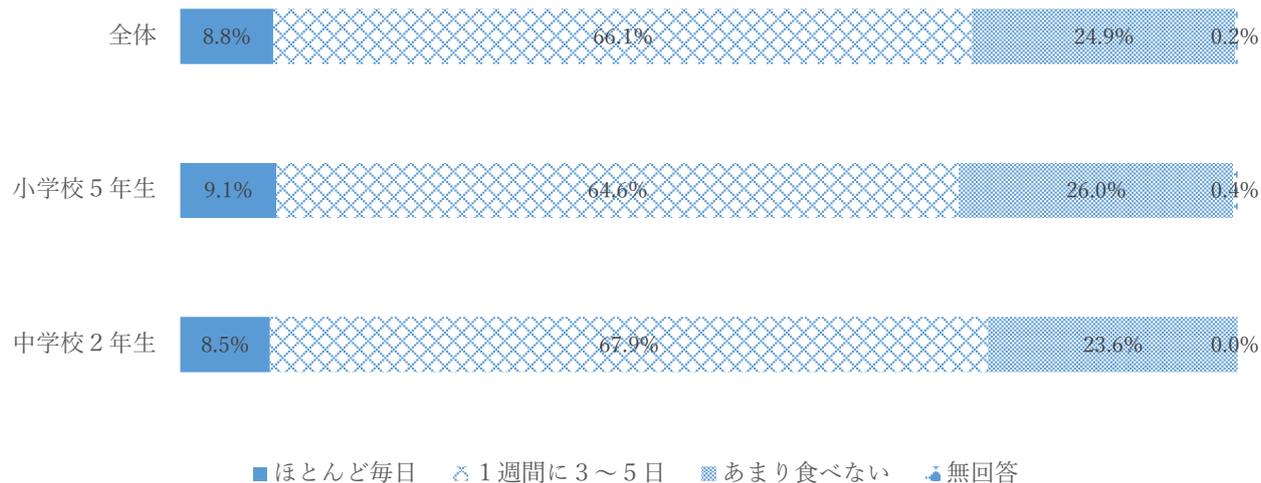
【前回調査】



③ 魚



【前回調査】

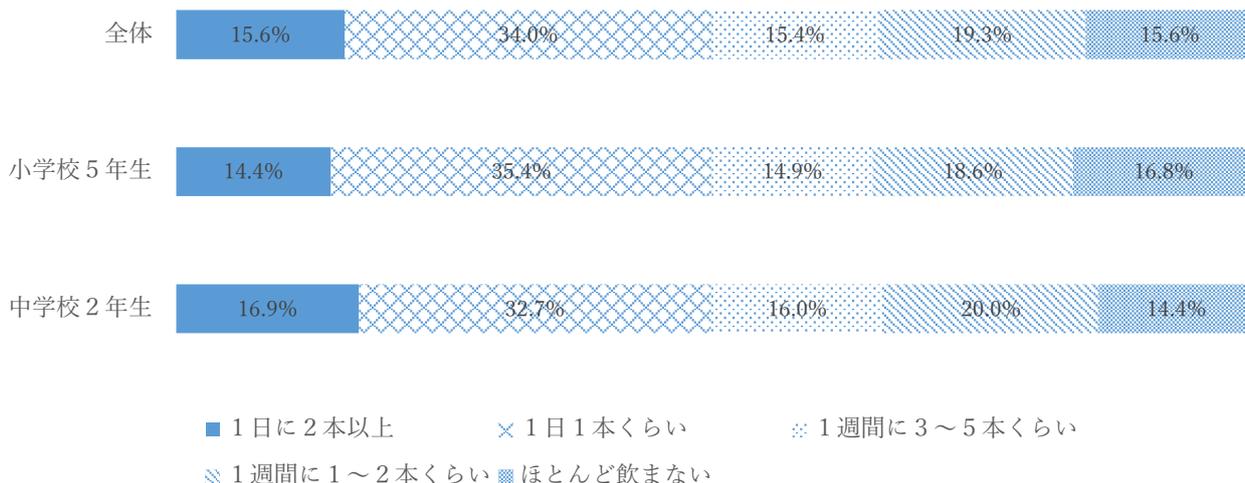


【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、野菜・くだものは「ほとんど毎日」の割合が増加していますが、魚は「あまり食べない」割合が増加しています。

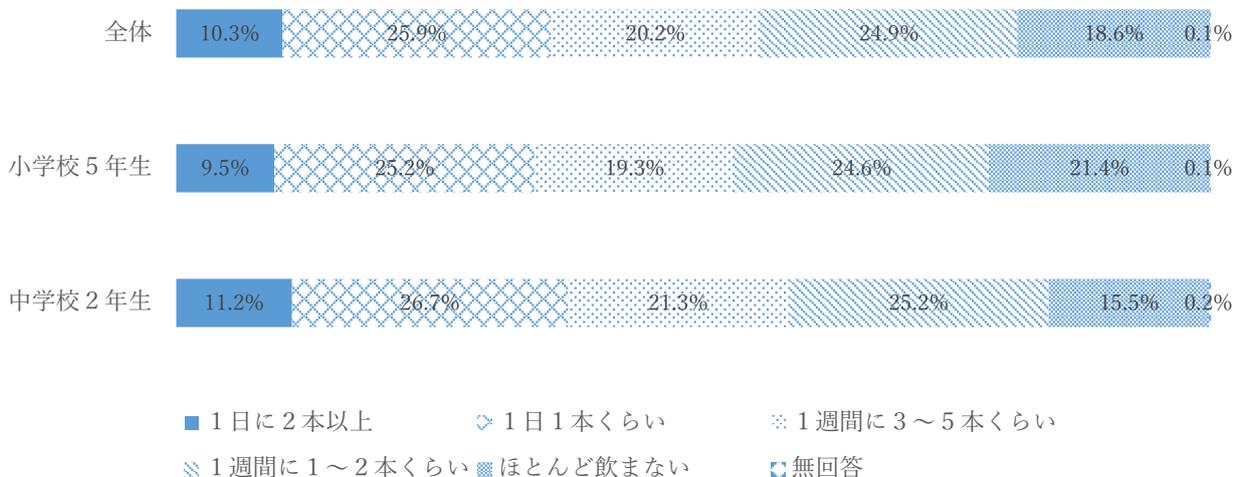
問12 あなたは、水、お茶、牛乳以外の飲み物をどのくらい飲みますか。
 (1本というのはペットボトル500mlのことです。)
 1つ選んでください。

水、お茶、牛乳以外の飲み物（清涼飲料水）の摂取量は、小学5年生・中学2年生ともに「1日1本くらい」が3割を超え、最も多くなっています。



【前回調査との比較】

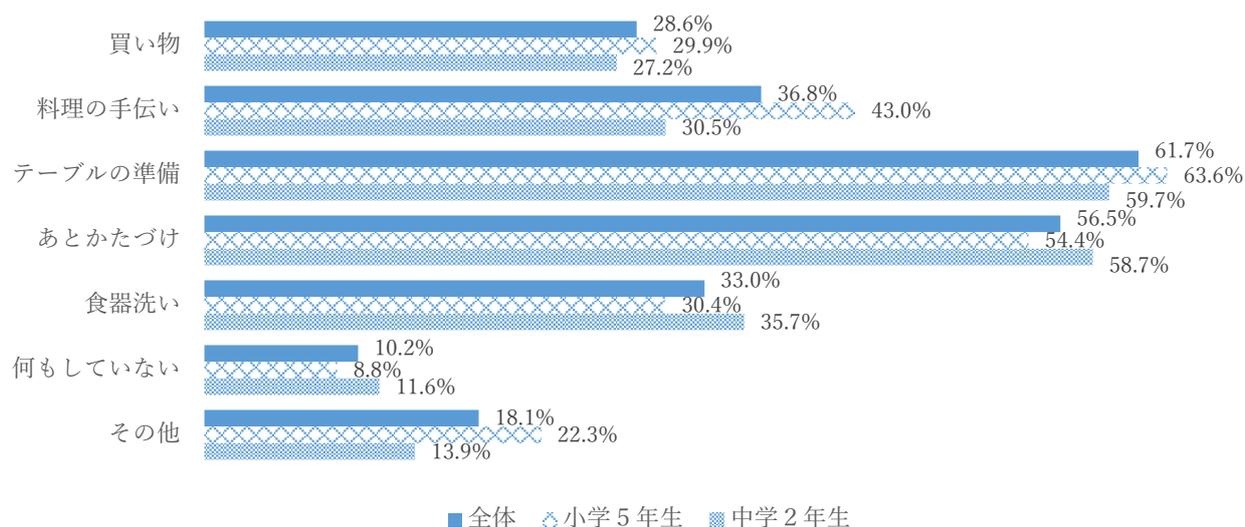
前回調査と比較すると、「1日2本以上」の割合が小学5年生・中学2年生ともに増加し、全体として清涼飲料水を飲む量が増加している傾向が見られます。また、小学5年生では「ほとんど飲まない」割合が4ポイント以上減少しています。



問13 お手伝いをしていますか。あてはまるもの、すべてを選んでください。

食事の手伝いについては、小学5年生では「テーブルの準備」(63.6%)、「あとかたづけ」(54.4%)、「料理の手伝い」(43.0%)、中学2年生では「テーブルの準備」(59.7%)、「あとかたづけ」(58.7%)、「食器洗い」(35.7%)の順となっています。

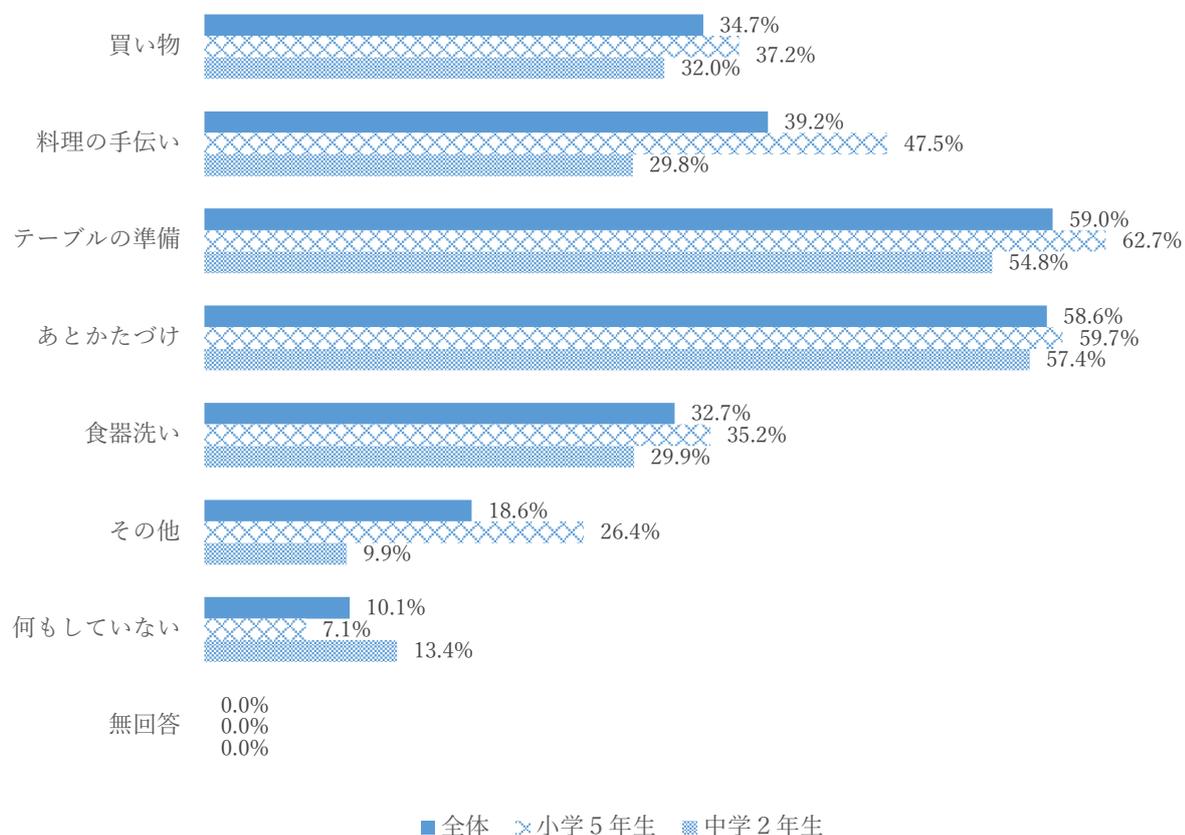
性・学年別では、小学5年生・中学2年生の女子で「テーブルの準備」が6割を超えるなど、特に多くなっています。



		回答者数	買い物	料理の手伝い	テーブルの準備	あとかたづけ	食器洗い	何もしていない	その他
全体		2,059人	28.6%	36.8%	61.7%	56.5%	33.0%	18.1%	10.2%
性別	男子	1,041人	24.9%	32.0%	57.3%	54.8%	30.5%	13.3%	19.8%
	女子	1,008人	32.6%	42.1%	66.9%	58.9%	36.0%	7.0%	16.6%
男子	小学5年生	517人	25.3%	36.6%	60.9%	53.6%	26.3%	12.2%	23.6%
	中学2年生	524人	24.4%	27.5%	53.6%	55.9%	34.5%	14.3%	16.0%
女子	小学5年生	514人	34.8%	50.0%	67.1%	56.0%	35.0%	5.4%	21.2%
	中学2年生	494人	30.4%	33.8%	66.6%	61.9%	37.0%	8.7%	11.7%

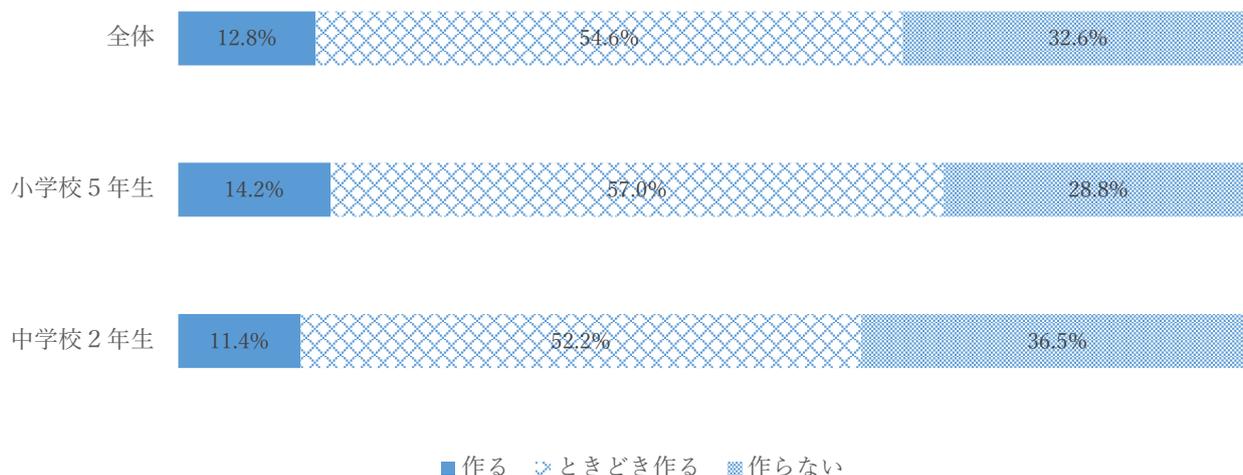
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに、「買い物」の割合が減少しています。また、「何もしていない」割合が、小学5年生では増加している一方、中学2年生では減少しています。



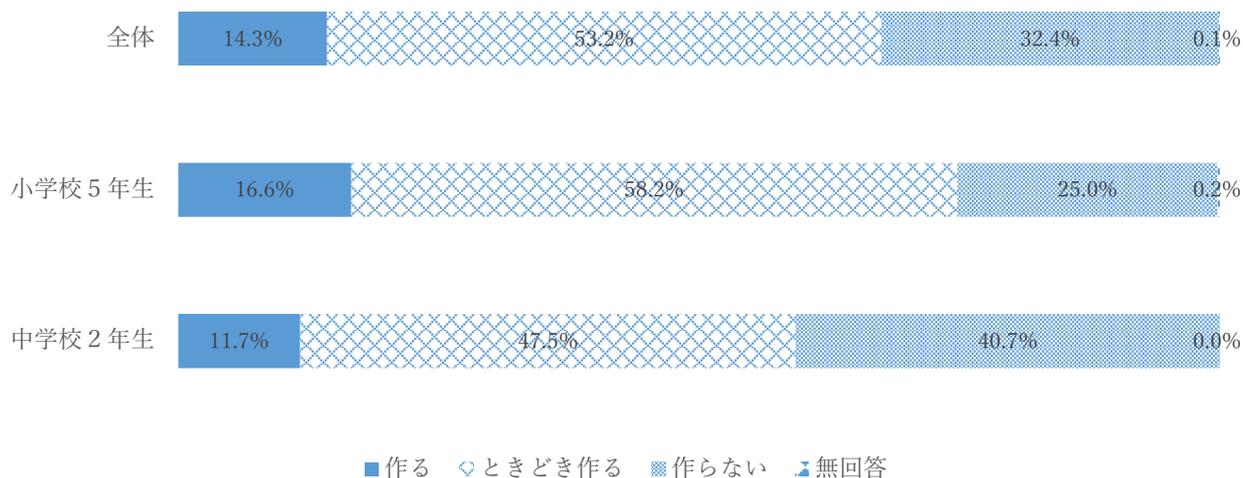
問14 料理を作ることがありますか。1つ選んでください。

料理の習慣では、小学5年生で7割以上、中学2年生で6割以上が料理を作ることがあると回答しています。



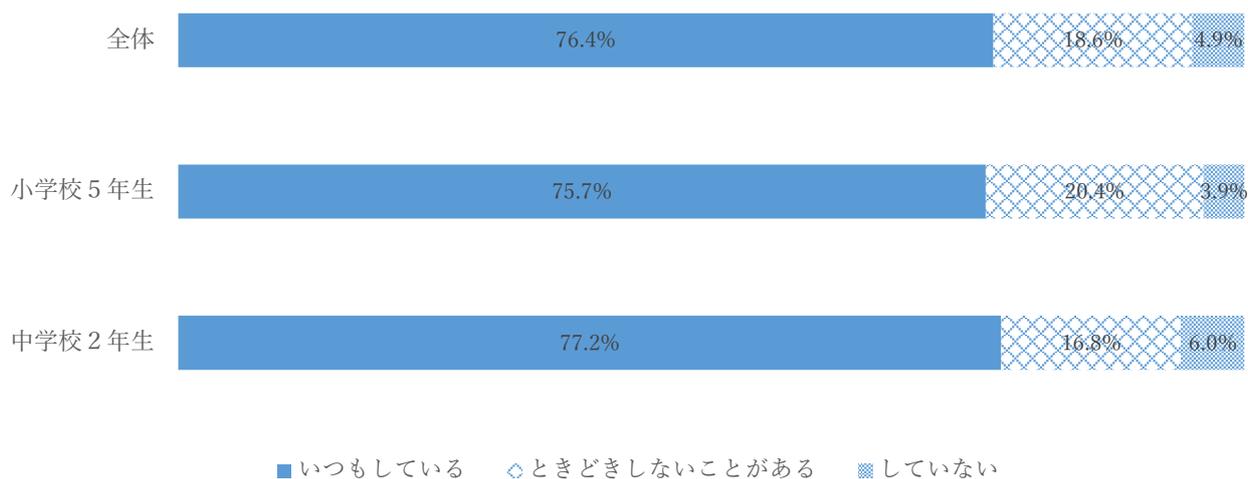
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「作らない」との回答は、小学5年生で3ポイント以上増加していますが、中学2年生では4ポイント以上減少しております。



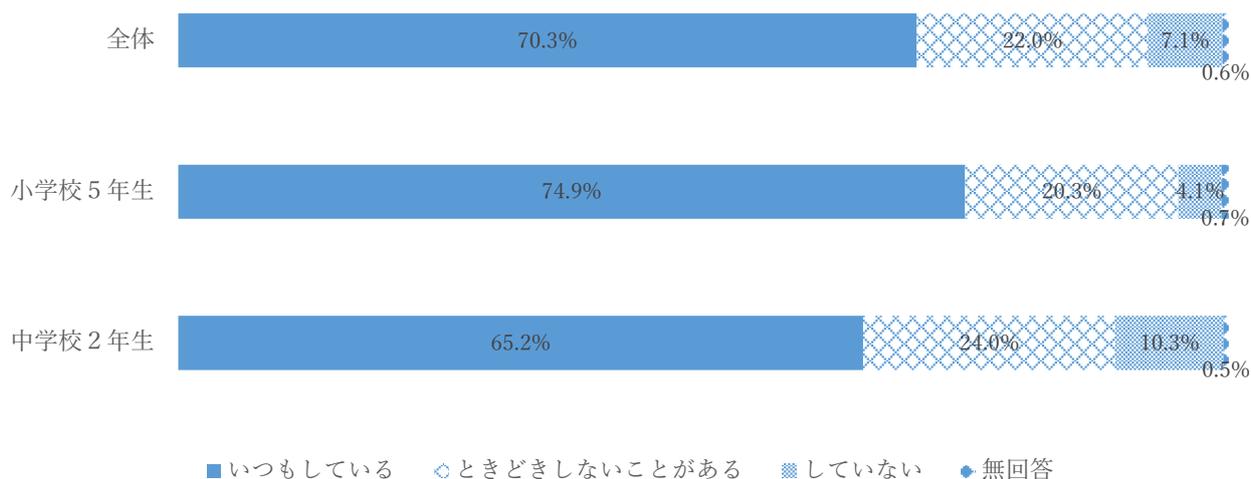
問15 食事のとき、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。
1つ選んでください。

食事のあいさつについては、小学5年生・中学2年生ともにあいさつを「いつもしている」との回答が7割以上となっています。また、「していない」との回答は、小学5年生・中学2年生ともに1割未満となっています。



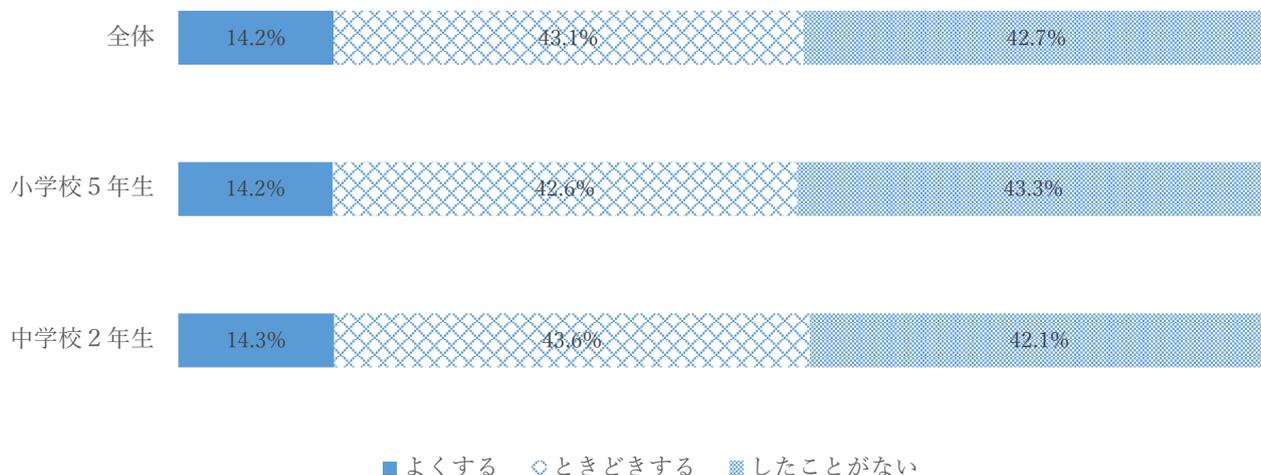
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、中学2年生であいさつを「いつもしている」との回答は12ポイント増加しています。



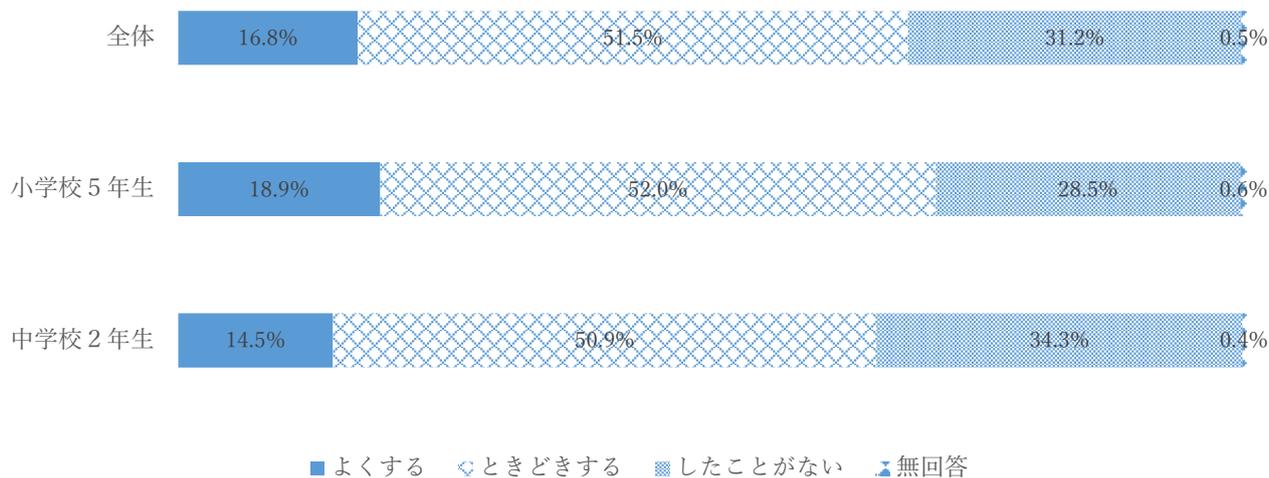
問16 家族と食べ物・食べ方などについて話をしますか。1つ選んでください。

家族と食べ物・食べ方などについて話をすることがあるかどうかでは、「よくする」「ときどきする」を合わせて、小学5年生で56.8%、中学2年生で57.9%となっています。



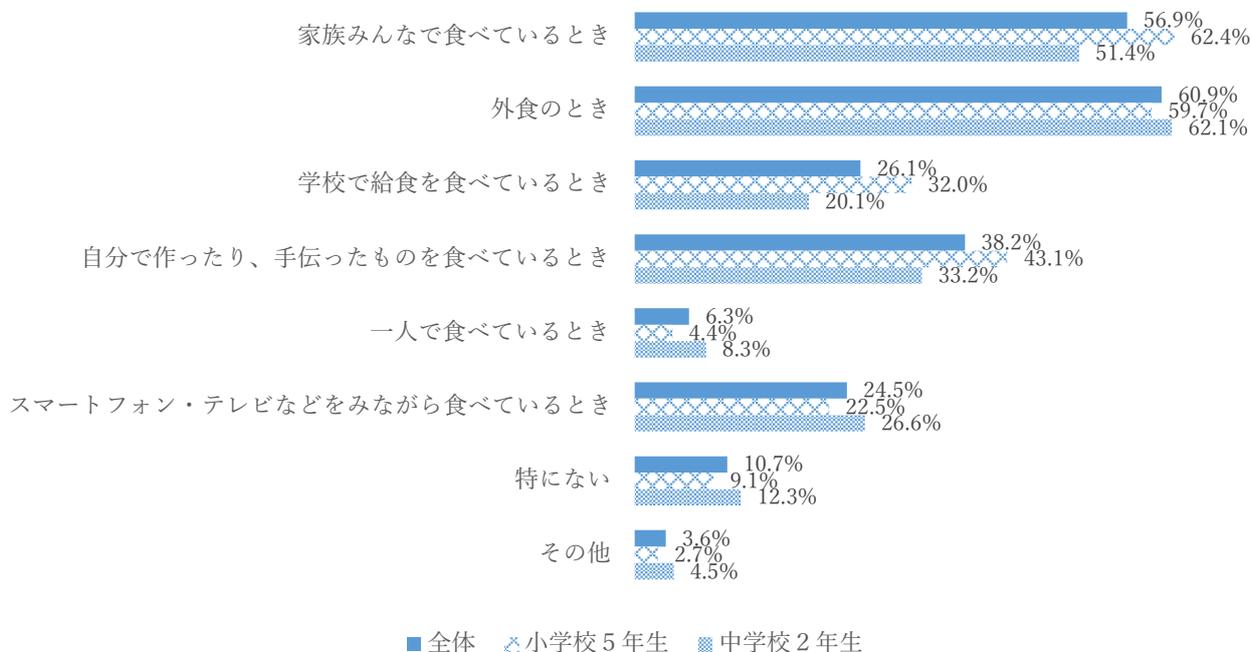
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生とともに「したことがない」割合が増加しております。



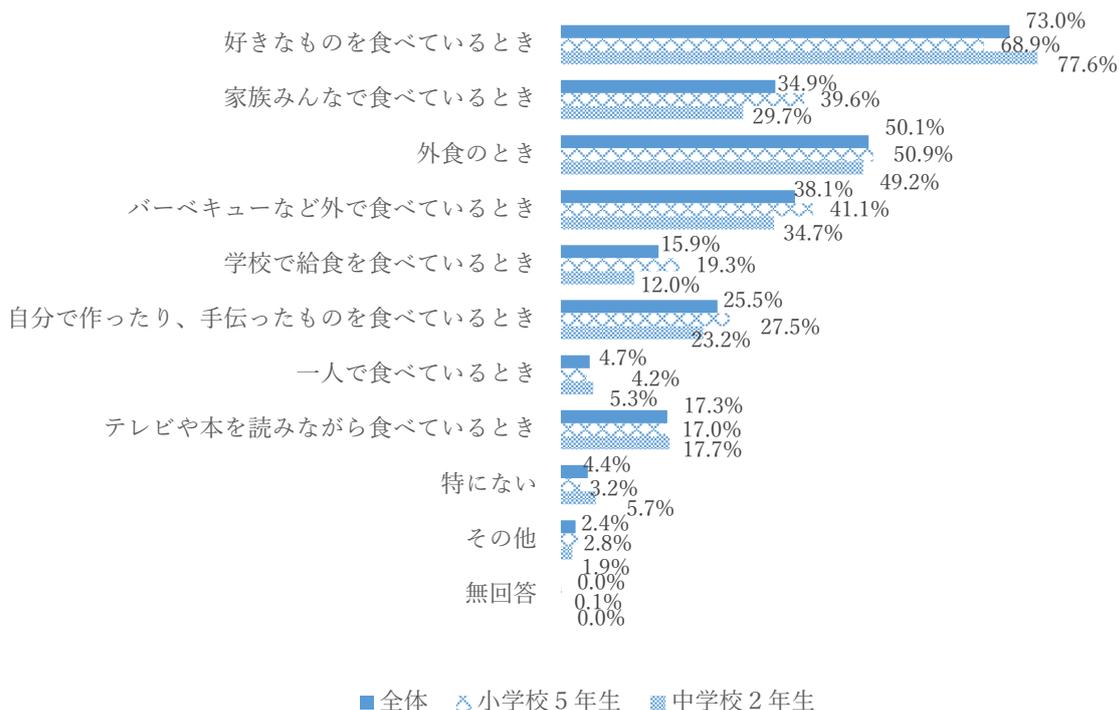
問17 あなたが食事を楽しい・うれしいと感じるときは、どんなときですか。
3つまで選んでください。

食事をしていて楽しいと感じるときでは、小学5年生で「家族みんなで食べているとき」、中学2年生で「外食のとき」が最も多くなっておりま



【前回調査との比較】

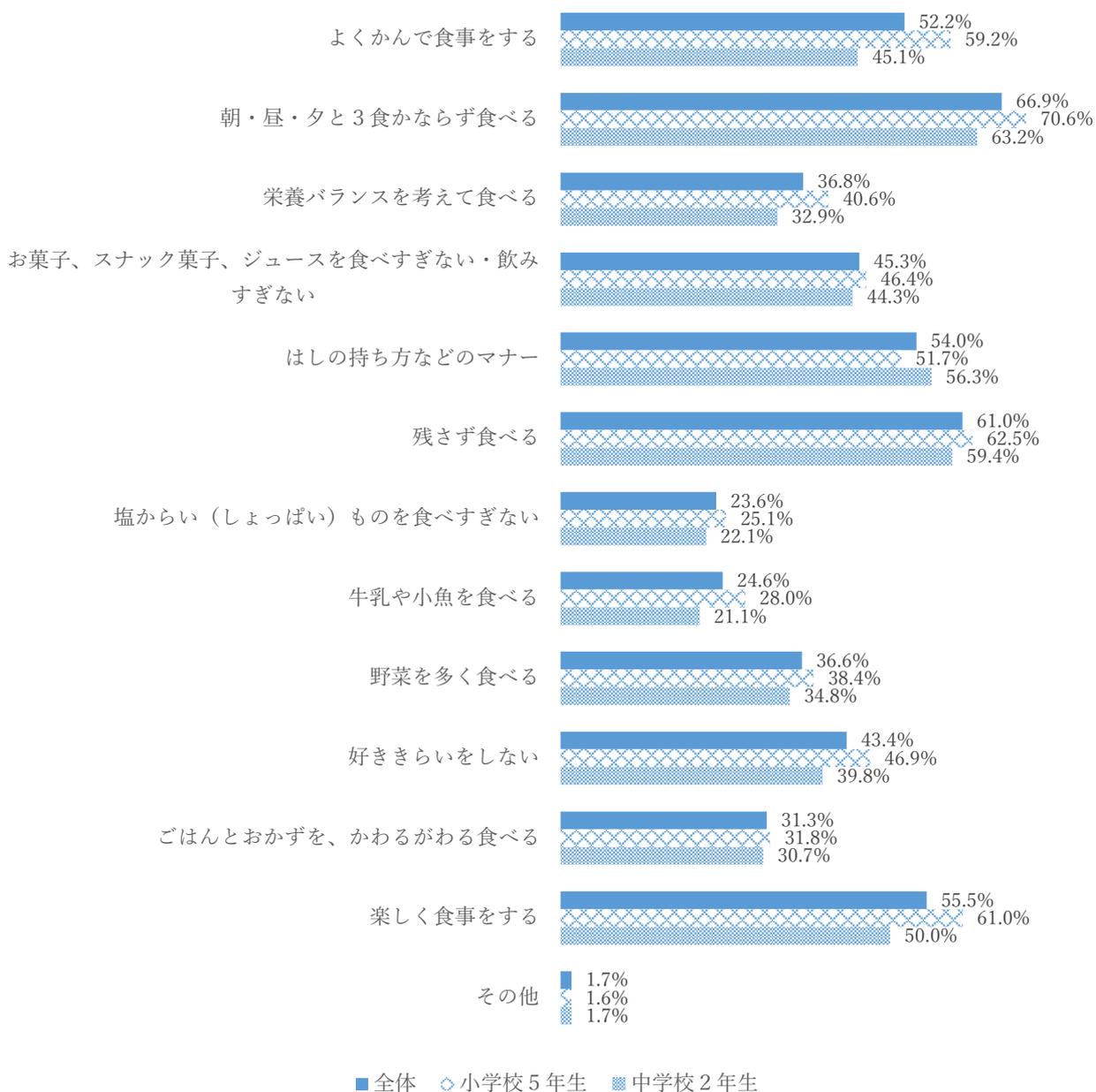
前回調査と選択肢が異なるため、単純な比較はできませんが、「家族みんなで食べているとき」や「自分で作ったり、手伝ったものを食べているとき」との回答が大きく増加しています。



問18 どのようなことに気をつけて食事をしていますか。

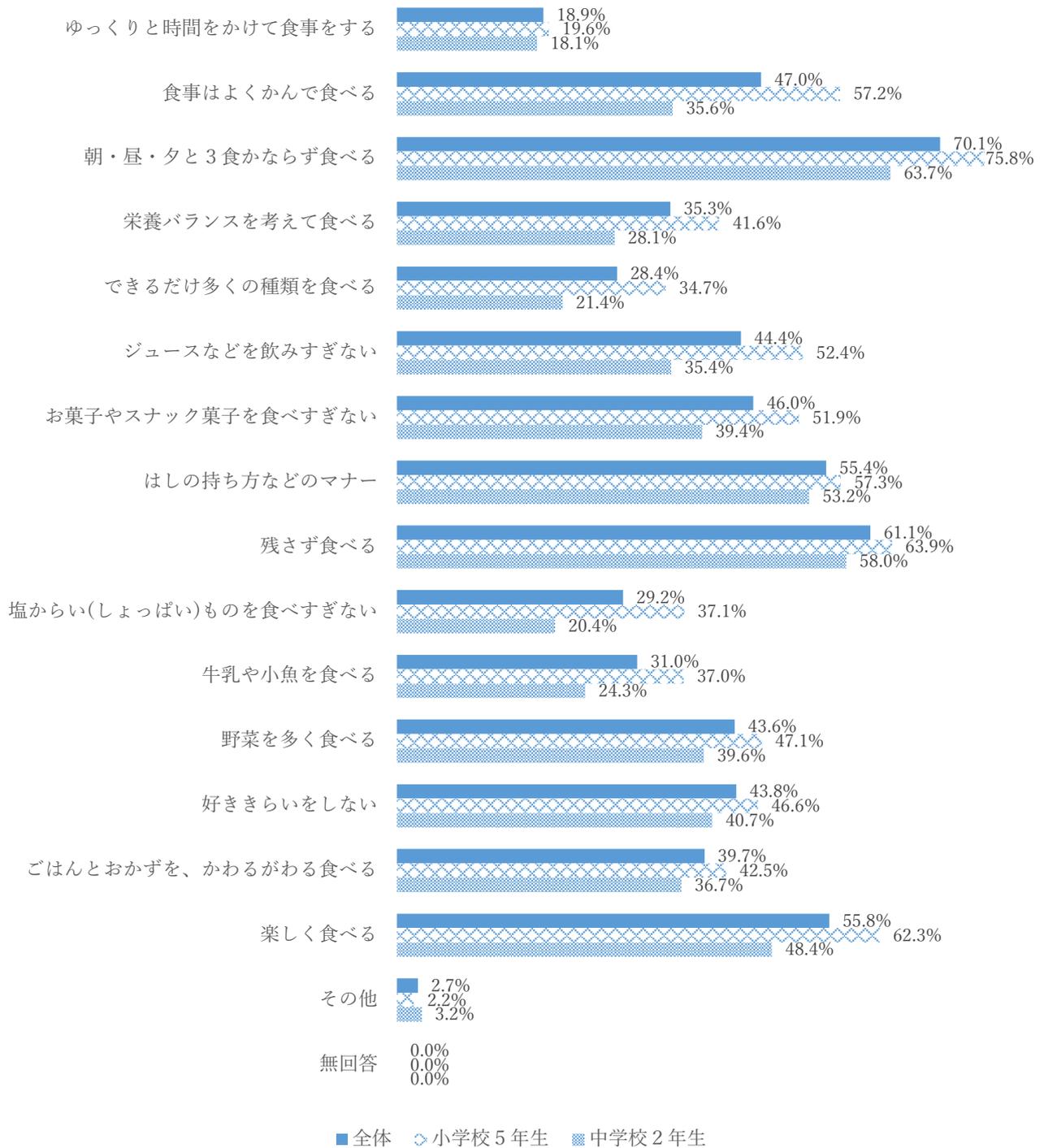
あてはまるもの、すべてを選んでください。

食事をするとき気をつけていることでは、「朝・昼・夕と3食かならず食べる」が最も多く、小学5年生で70.6%、中学2年生で63.2%となっています。次いで、小学5年生では、「残さず食べる」(62.5%)、「楽しく食事をする」(61.0%)の順となっています。中学2年生では、「残さず食べる」(59.4%)、「はしの持ち方などのマナー」(56.3%)の順となっています。



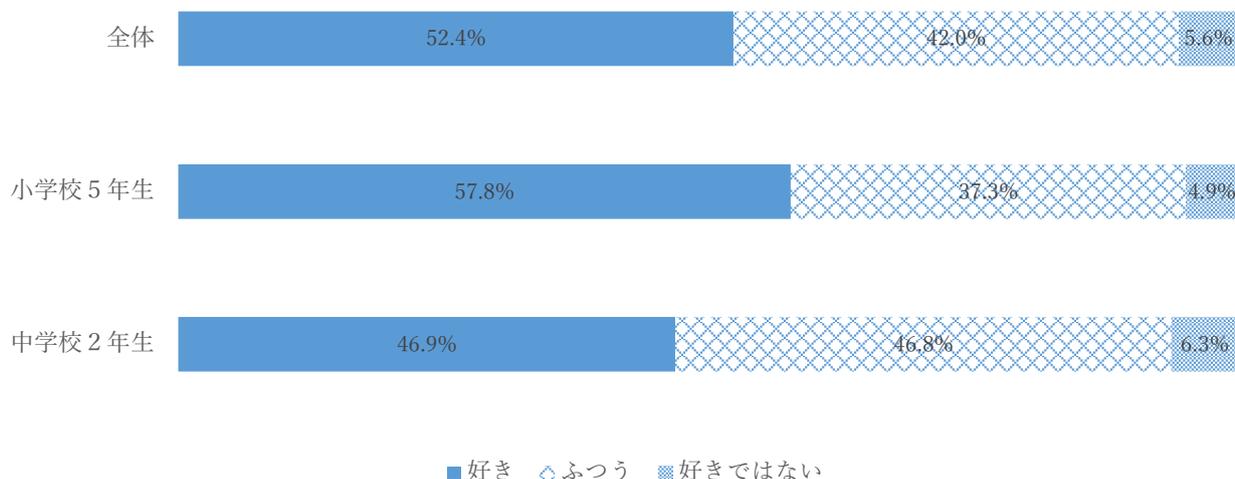
【前回調査との比較】

前回調査から選択肢が変更になっているため、参考としての掲載にとどめます。



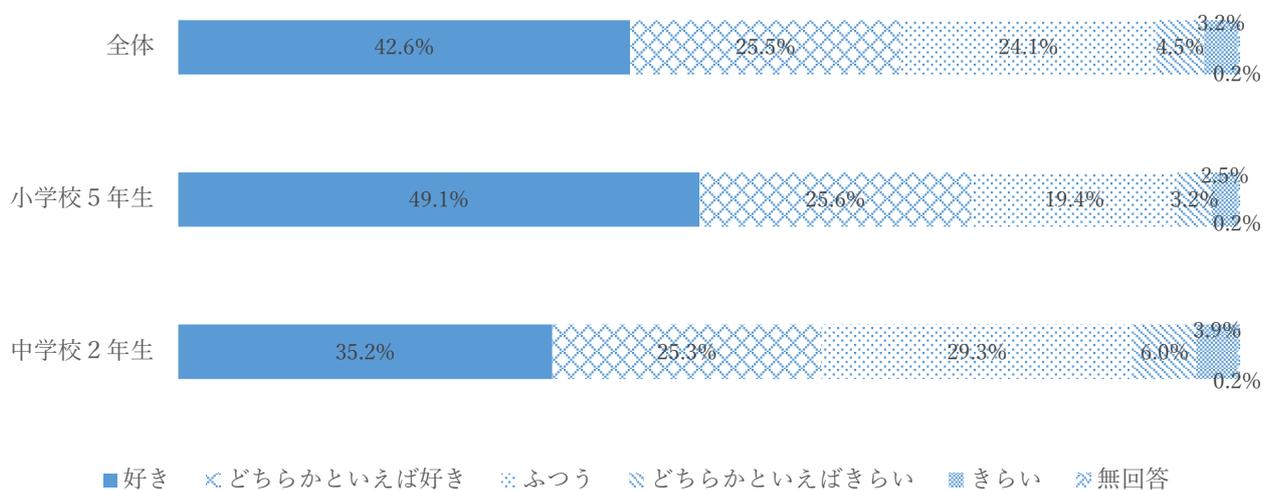
問19 学校の給食は好きですか。1つ選んでください。

学校給食については、小学5年生・中学2年生ともに「好き」が最も多く、「好きではない」は1割未満となっています。



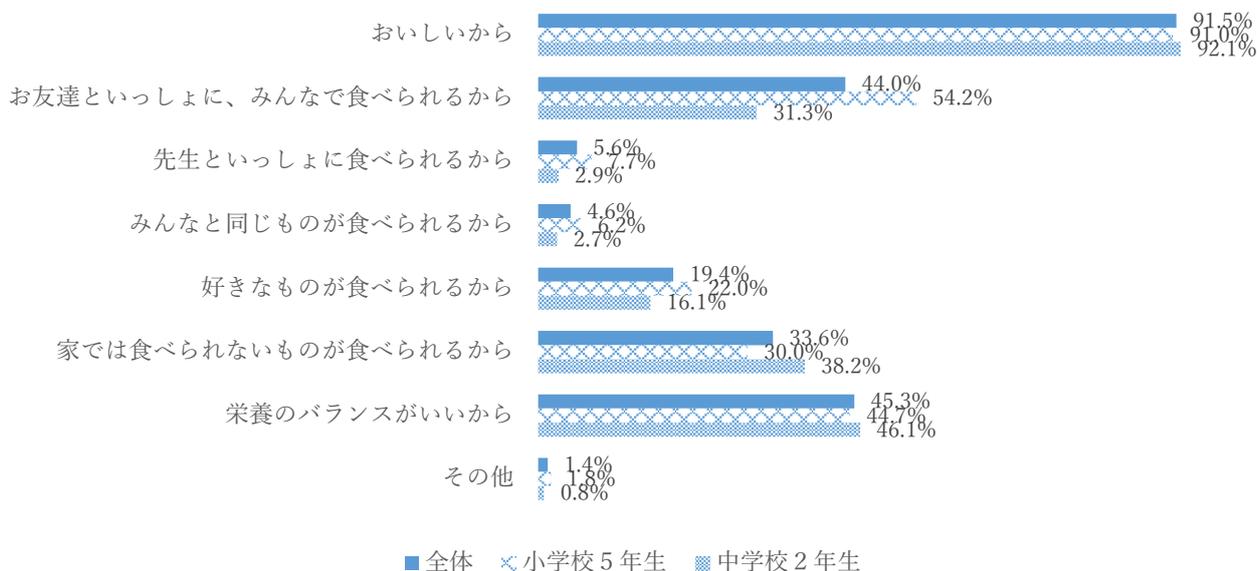
【前回調査との比較】

前回調査から選択肢が変更になっているため、参考としての掲載にとどめます。



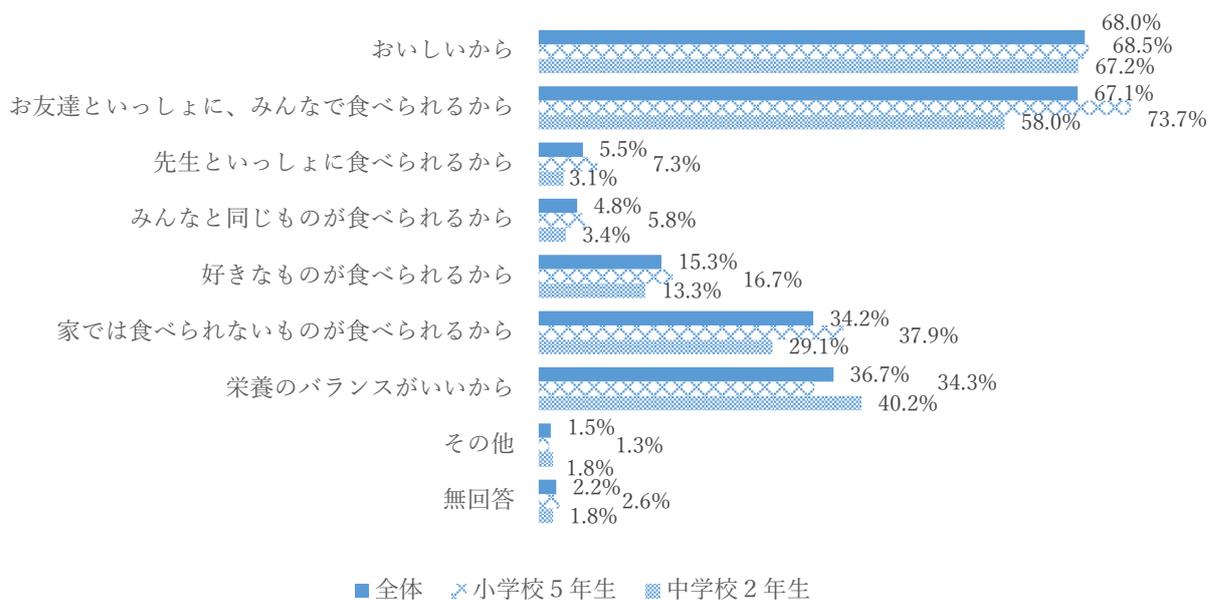
問20 問19で「好き」を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。3つまで選んでください。

給食が好きな理由としては、小学5年生では「おいしいから」(91.0%)が最も多く、次いで「お友達といっしょに、みんなで食べられるから」(54.2%)、中学2年生では、「おいしいから」(92.1%)が最も多く、次いで「栄養のバランスがいいから」(46.1%)の順となっています。



【前回調査との比較】

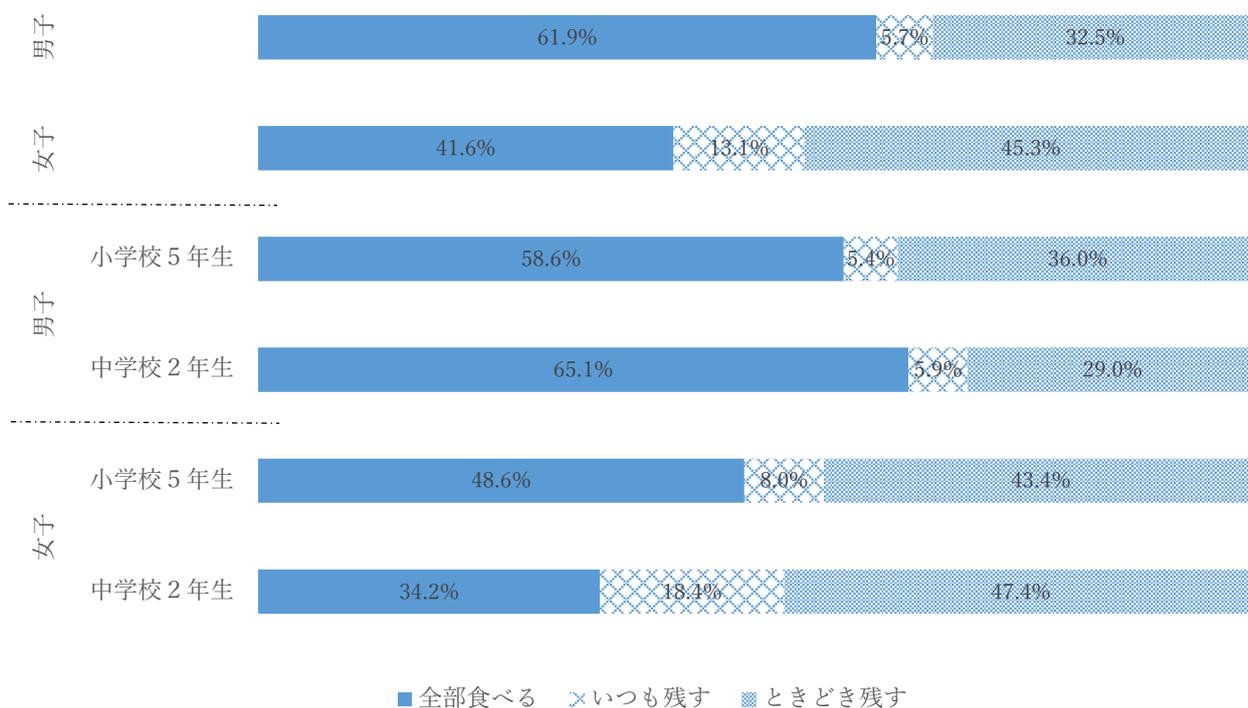
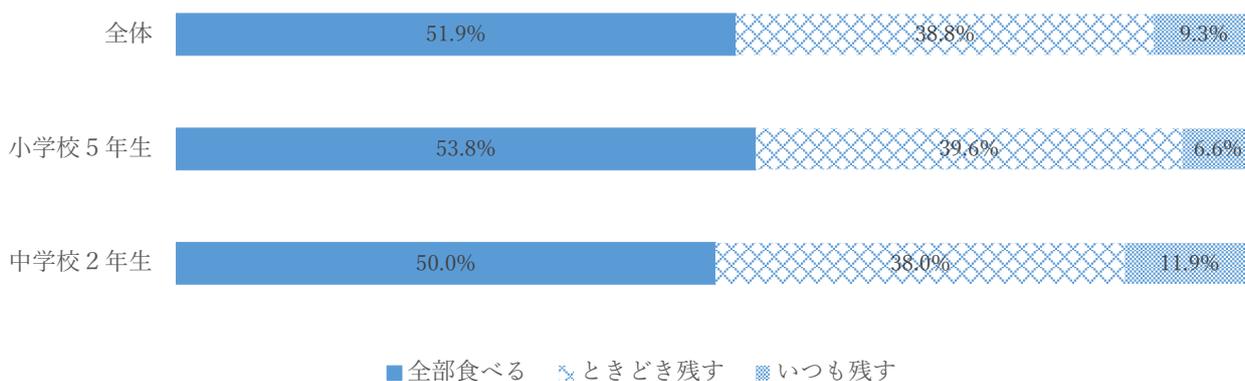
前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「おいしいから」との回答が増加している一方、「お友達といっしょに、みんなで食べられてるから」との回答は減少しており、大きな変化が見られます。



問2 1 給食を残すことがありますか。1つ選んでください。

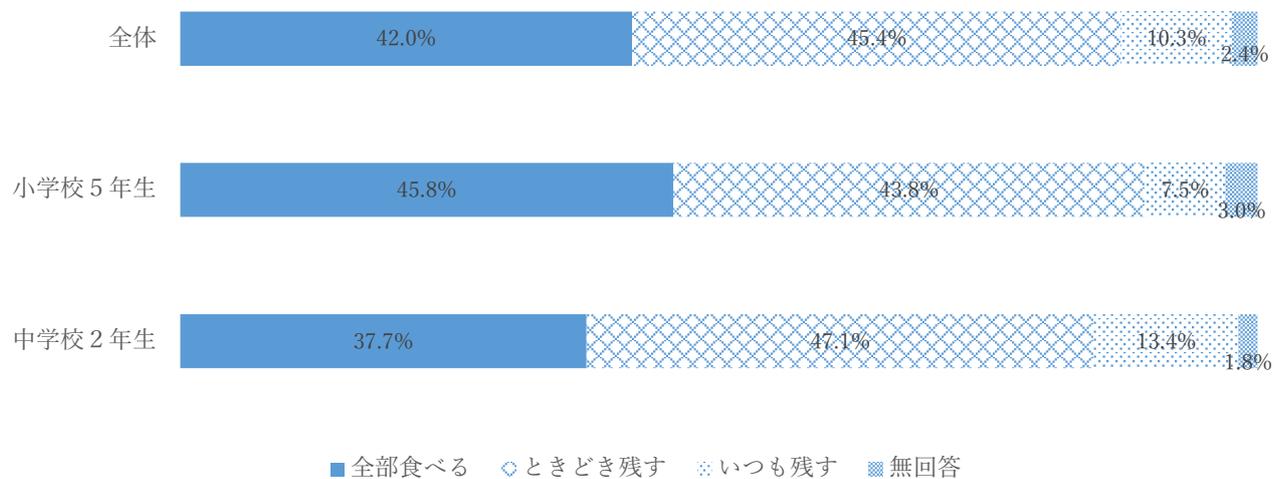
給食を残すことがあるかについては、「全部食べる」が最も多く、小学5年生・中学2年生ともに5割台となっています。

性・学年別では、小学5年生・中学2年生ともに、女子で「いつも残す」「ときどき残す」と回答した割合が多く、特に中学2年生の女子で「いつも残す」が2割近くと多くなっています。



【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「いつも残す」割合は、小学5年生・中学2年生ともに減少しています。

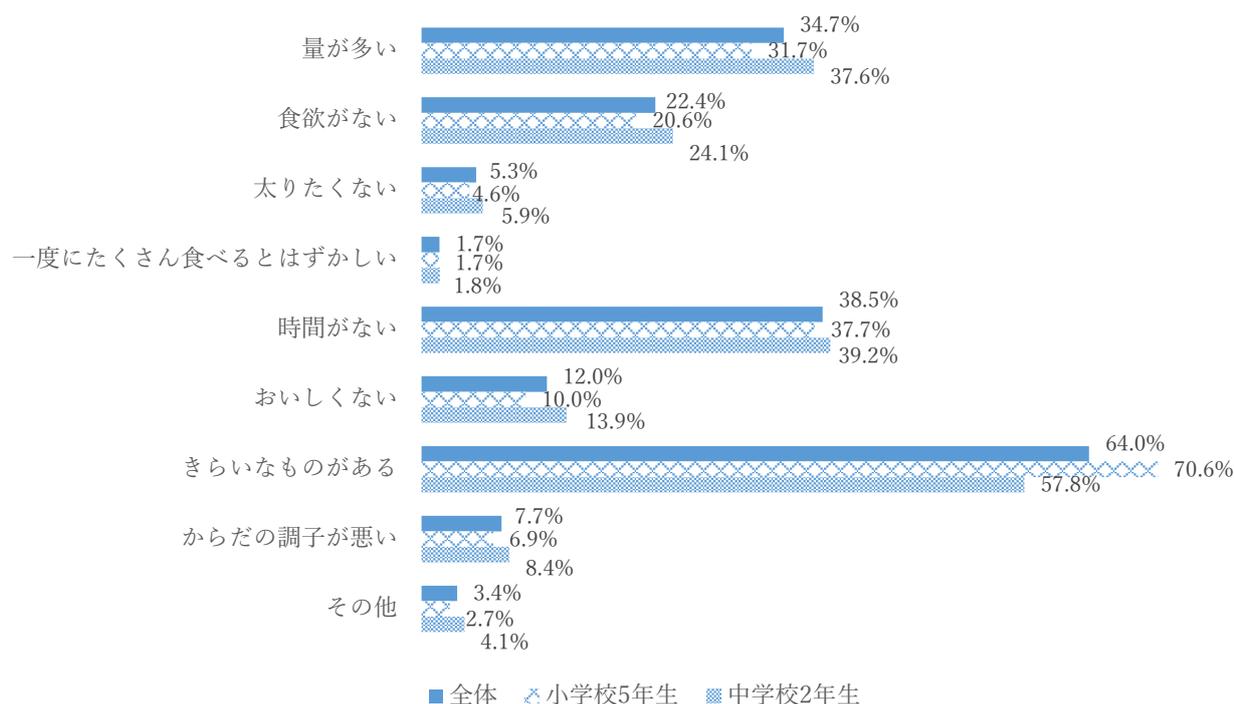


問22 問21で「ときどき残す」「いつも残す」を選んだ人にお聞きします。それはどうしてですか。3つまで選んでください。

給食を残すことがある人に、その理由をたずねたところ、小学5年生・中学2年生ともに「きれいなものがある」が最も多く、次いで「時間がない」「量が多い」などが主な回答となっています。

性別では、「時間がない」「量が多い」との回答は、女子が男子を大きく上回っています。

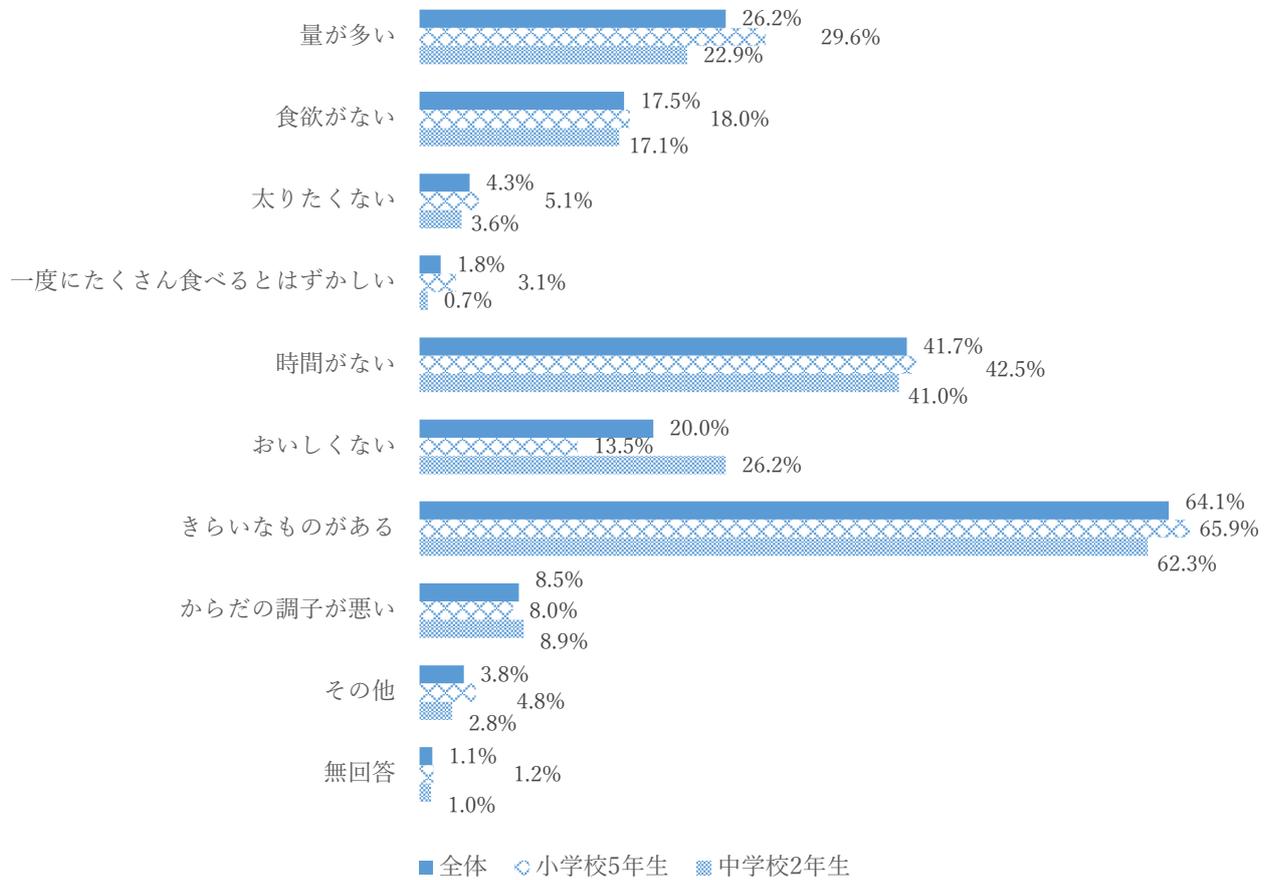
性・学年別で見ると、小学5年生の男子で「きれいなものがある」が7割を超え、特に多くなっています。



		回答者数	量が多い	食欲がない	太りたくない	一度にたくさん食べるとはずかしい	時間がない	おいしくない	きれいなものがある	からだの調子が悪い	その他
全体		990人	34.7%	22.4%	5.3%	1.7%	38.5%	12.0%	64.0%	7.7%	3.4%
性別	男子	397人	18.1%	21.2%	3.5%	0.8%	27.7%	12.8%	67.5%	7.1%	5.3%
	女子	589人	46.0%	23.1%	6.3%	2.4%	45.8%	11.2%	61.8%	8.0%	2.2%
男子	小学5年生	214人	19.6%	18.7%	3.3%	0.9%	31.3%	9.8%	74.3%	6.5%	3.7%
	中学2年生	183人	16.4%	24.0%	3.8%	0.5%	23.5%	16.4%	59.6%	7.7%	7.1%
女子	小学5年生	264人	41.7%	22.0%	5.3%	2.3%	42.8%	9.8%	68.2%	6.8%	1.9%
	中学2年生	325人	49.5%	24.0%	7.1%	2.5%	48.3%	12.3%	56.6%	8.9%	2.5%

【前回調査との比較】

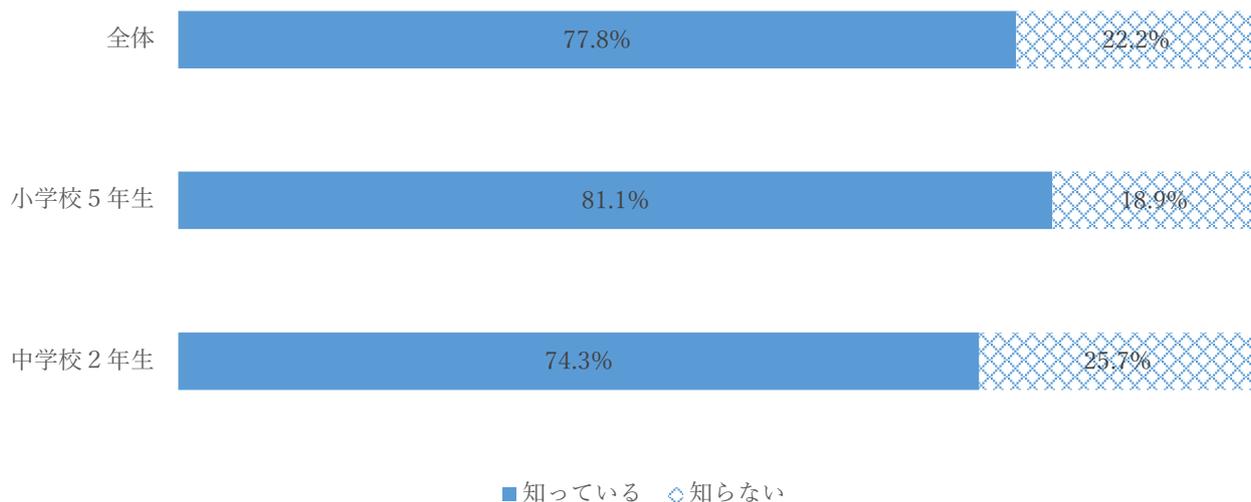
前回調査では、「きれいなものがある」との回答が最も多く、次いで「時間がない」「量が多い」などが上位にあげられており、大きな変化はみられません。



(4)「食文化」について

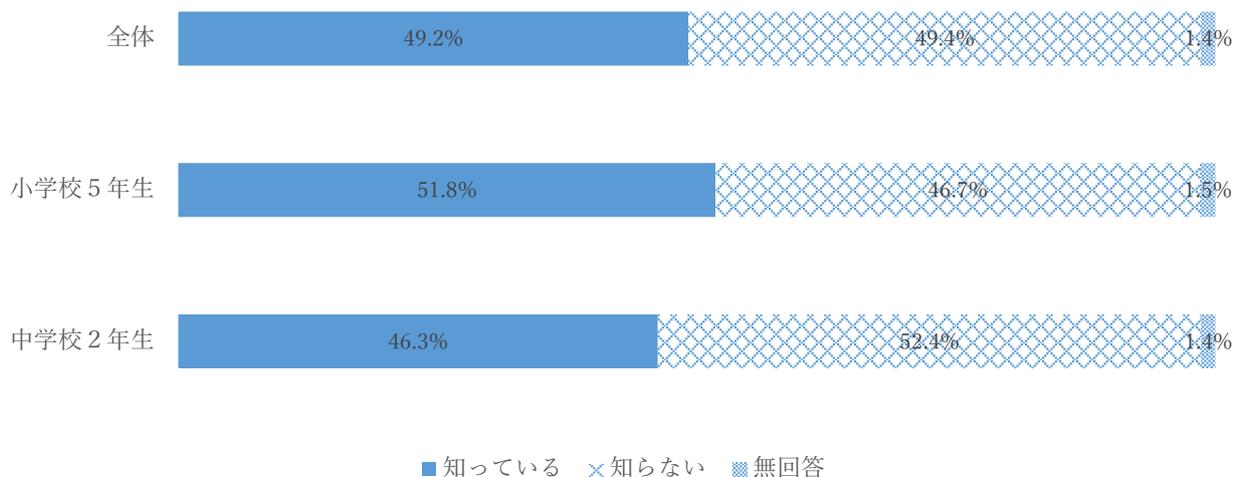
問23 成田市の有名な農産物（さつまいもや米など）や食品を知っていますか。
1つ選んでください。

成田市の有名な農産物については、「知っている」との回答が小学5年生で81.1%、中学2年生で74.3%となっています。



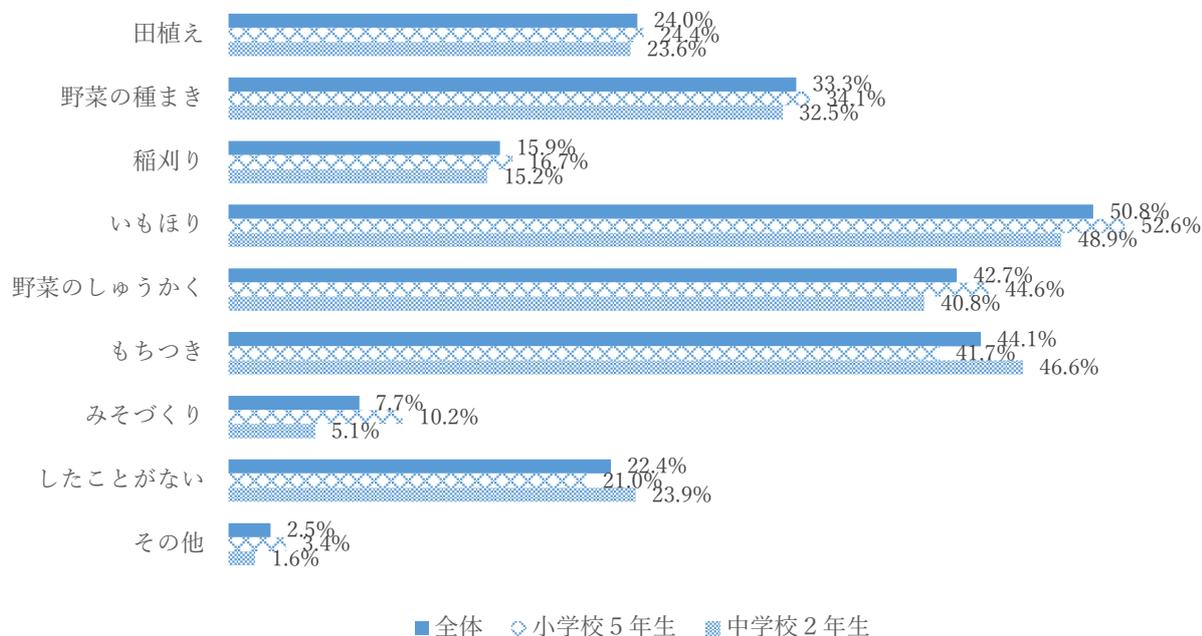
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「知っている」との回答が小学5年生・中学2年生ともに、28ポイント以上増加しており、成田市の有名な農産物の認知度が高まっております。



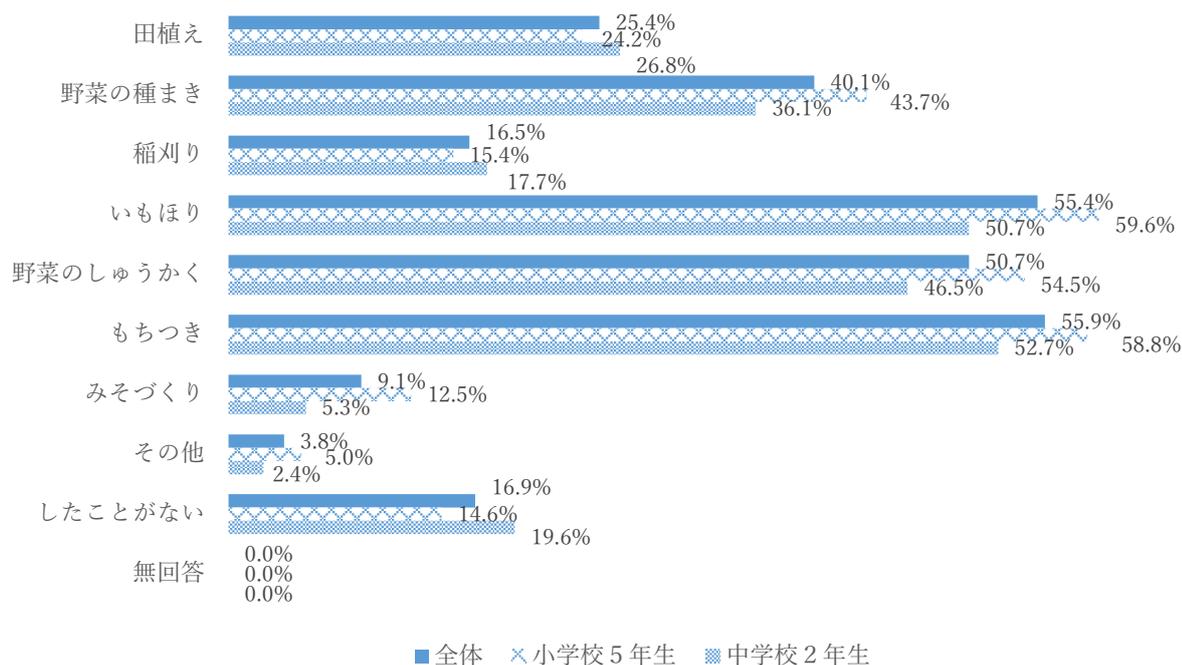
問24 学校以外で、農業に関する体験をしたことはありますか。体験したことがあるもの、すべてを選んでください。

体験したことがある農業体験では、小学5年生・中学2年生ともに「いもほり」の割合が最も多く、その他では「野菜のしゅうかく」「もちつき」との回答が上位にあげられています。



【前回調査との比較】

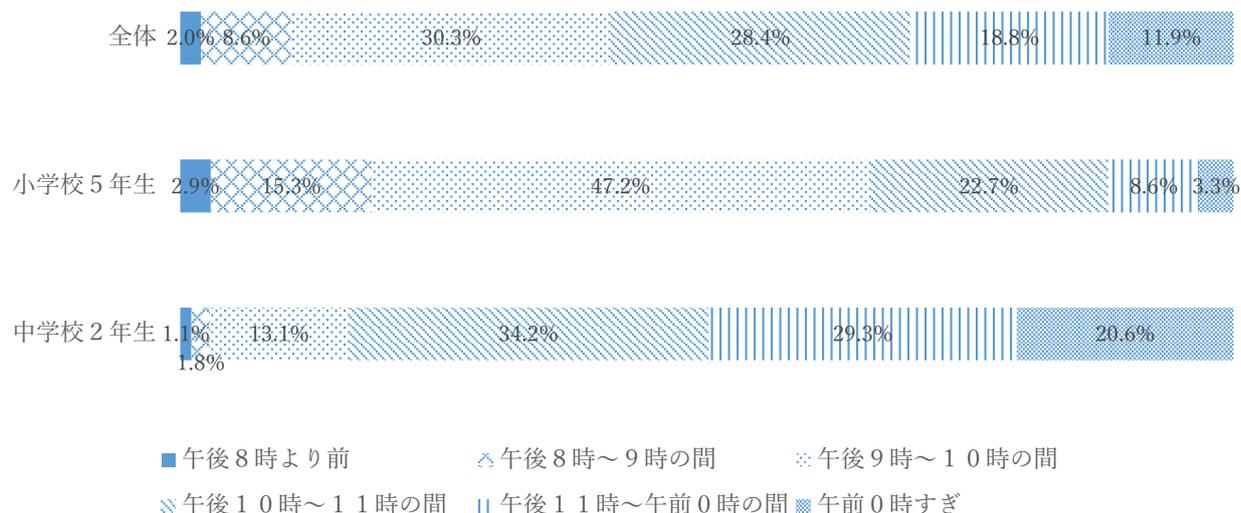
前回調査と比較すると、「いもほり」「野菜のしゅうかく」「もちつき」の回答が上位にあげられており、大きな変化はみられません。



(5) あなたの生活や体について

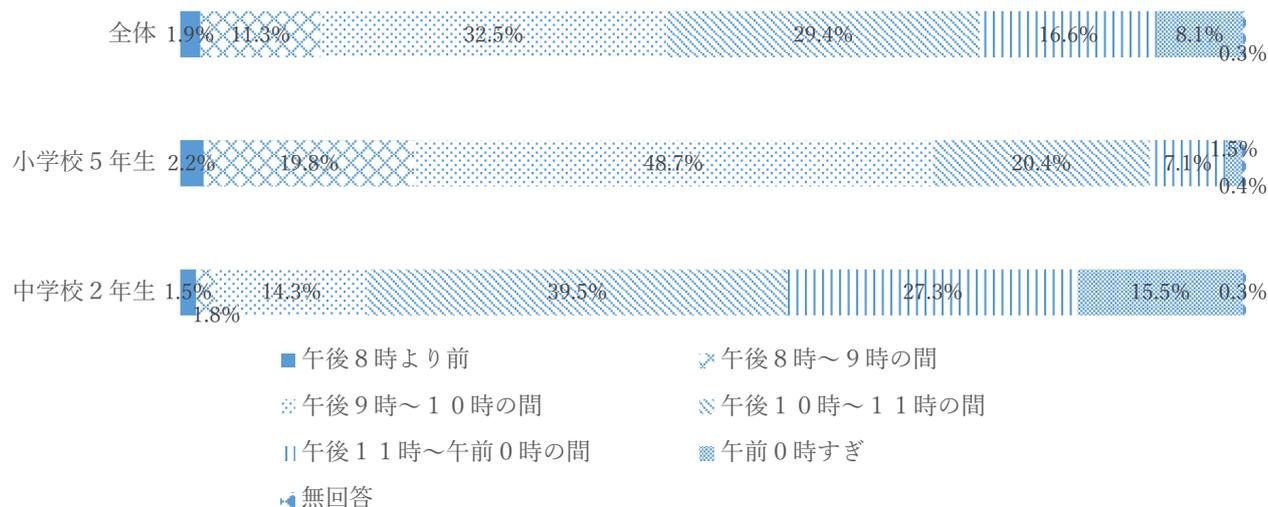
問25 学校へ行く前の日は何時ごろに寝ていますか。1つ選んでください。

平日の就寝時間は、小学5年生では「午後9時～10時の間」(47.2%)が最も多くなっています。中学2年生では「午後10時～11時の間」(34.2%)が最も多く、午後10時以降に就寝する生徒は8割を超えています。



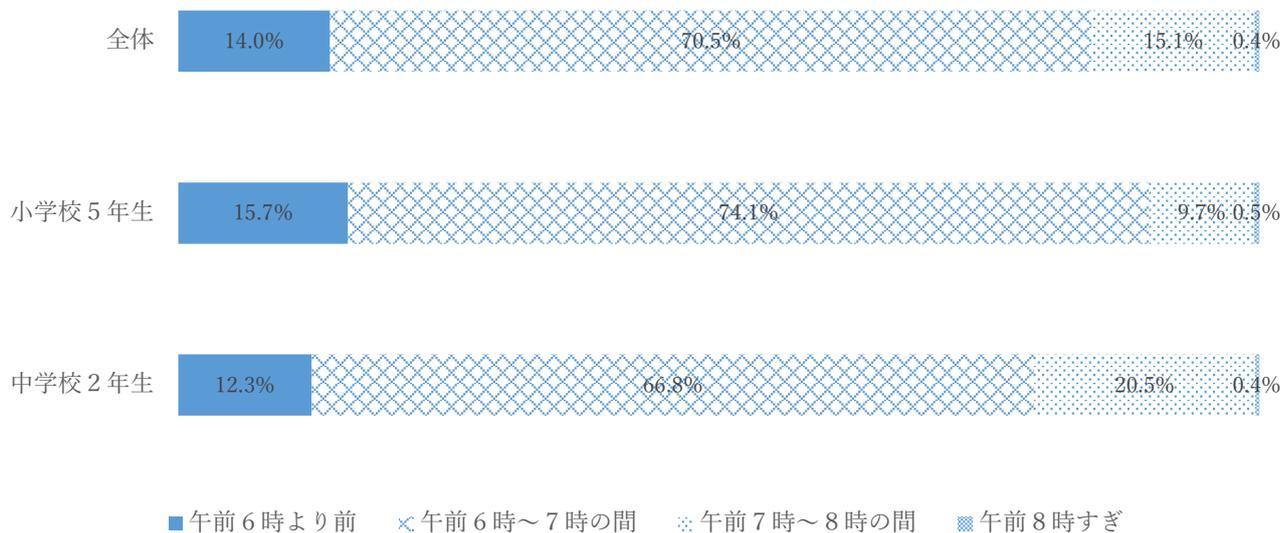
【前回調査との比較】

小学5年生・中学2年生ともに、前回調査との間に大きな変化は見られません。



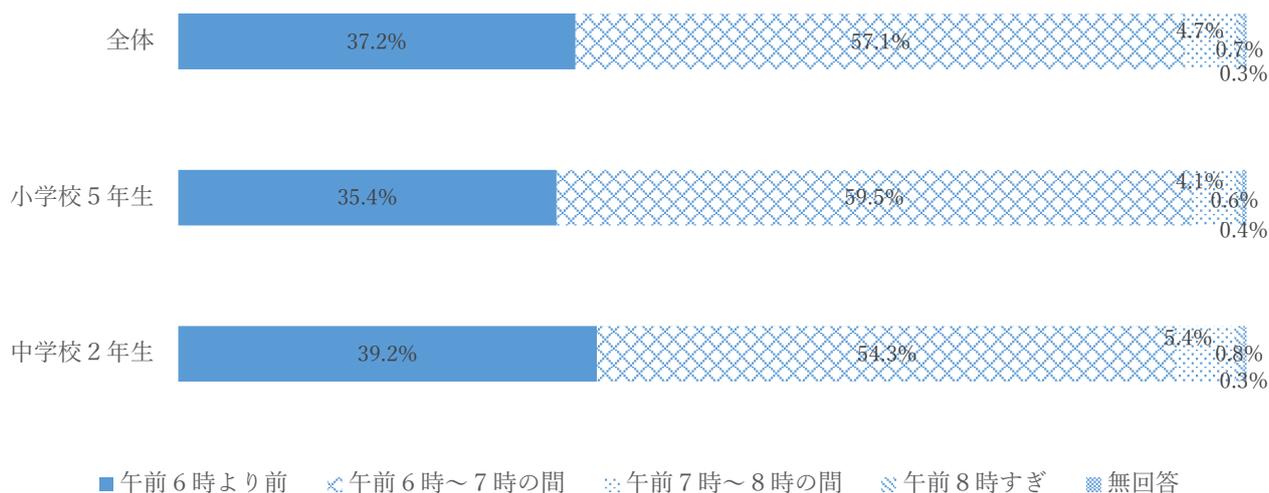
問26 学校へ行く日は何時ごろに起きますか。1つ選んでください。

平日の起床時間は、「午前6時～7時の間」が最も多く、小学5年生で74.1%、中学2年生で66.8%となっています。



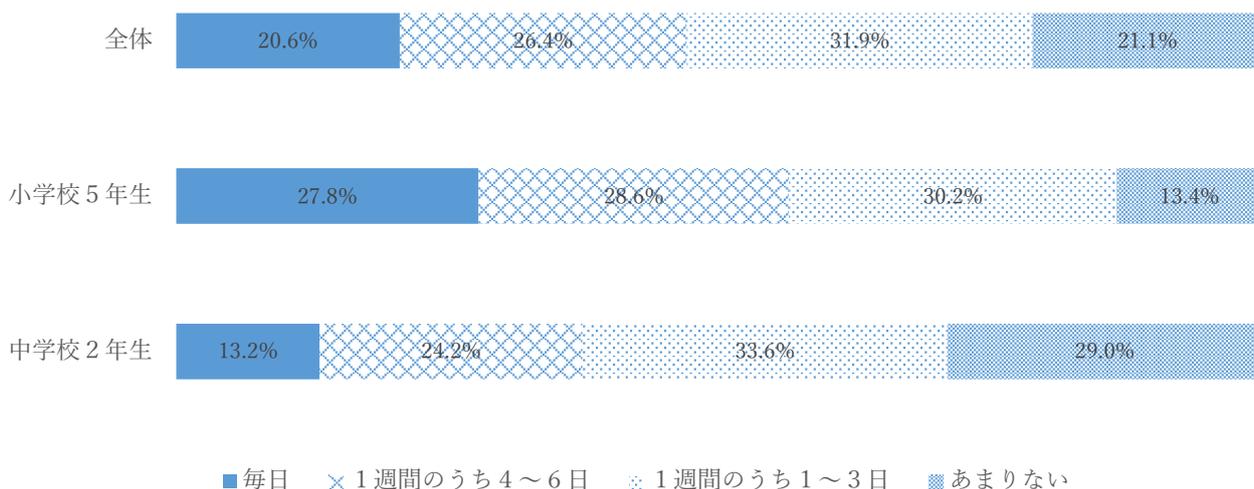
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると小学5年生・中学2年生ともに、「午前6時より前」の割合が減少し、「午前6時～7時の間」の割合が増加しています。



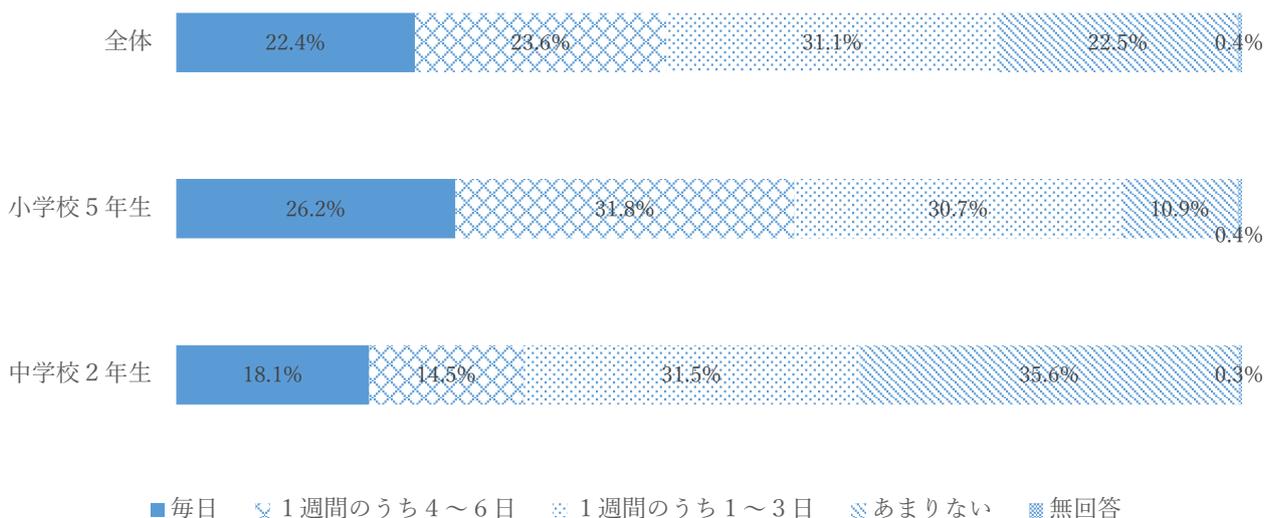
問27 体育の時間やクラブ活動の時間以外で、運動したり、体を使って遊んだりする機会はどのくらいありますか。土曜日、日曜日も含め、1つ選んでください。

学校以外で運動する頻度は、「毎日」「1週間のうち4～6日」「1週間のうち1～3日」を合わせると、小学5年生で86.6%、中学2年生で71.0%となっています。また、中学2年生では「あまりない」が3割近くとなっています。



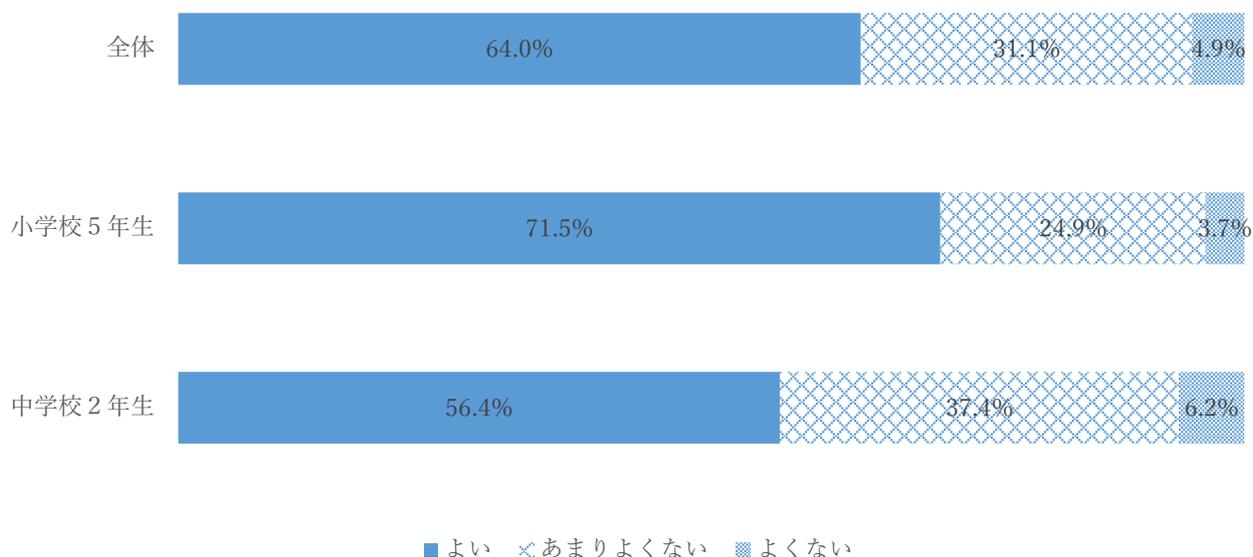
【前回調査との比較】

「毎日」との回答は小学5年生で1.6ポイント増加、中学2年生で4.9ポイント減少しています。



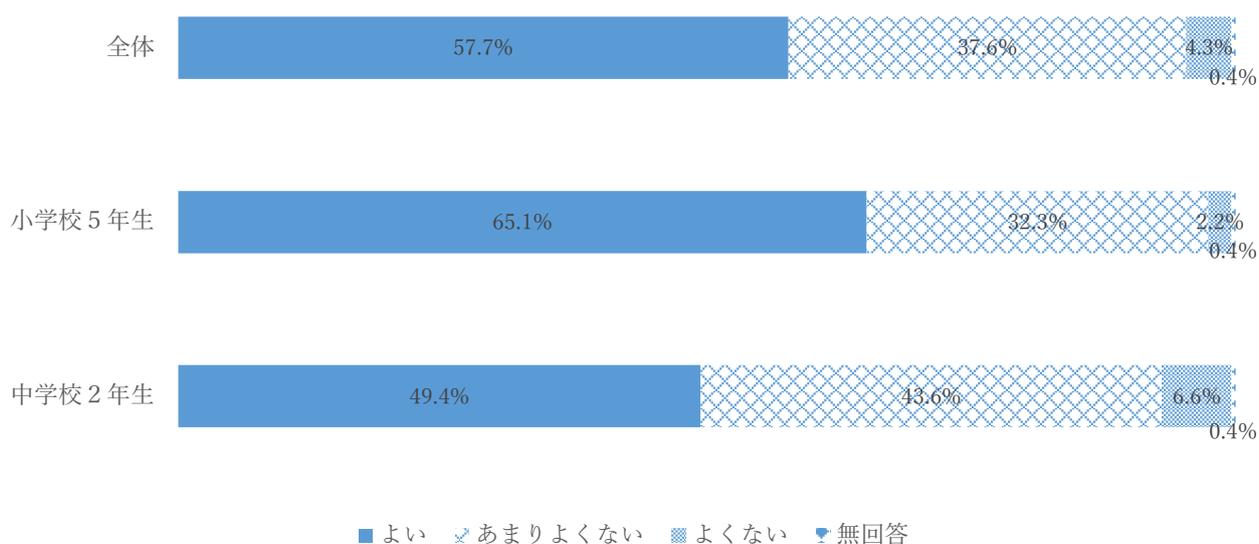
問28 自分の今の食生活を、どう思いますか。1つ選んでください。

自分の食生活については、小学5年生の71.5%が「よい」と回答しています。中学2年生では、「あまりよくない」(37.4%)と「よくない」(6.2%)を合わせると43.6%であり、約4割の生徒が自分の食生活を「よくない」と考えていることがわかります。



【前回調査との比較】

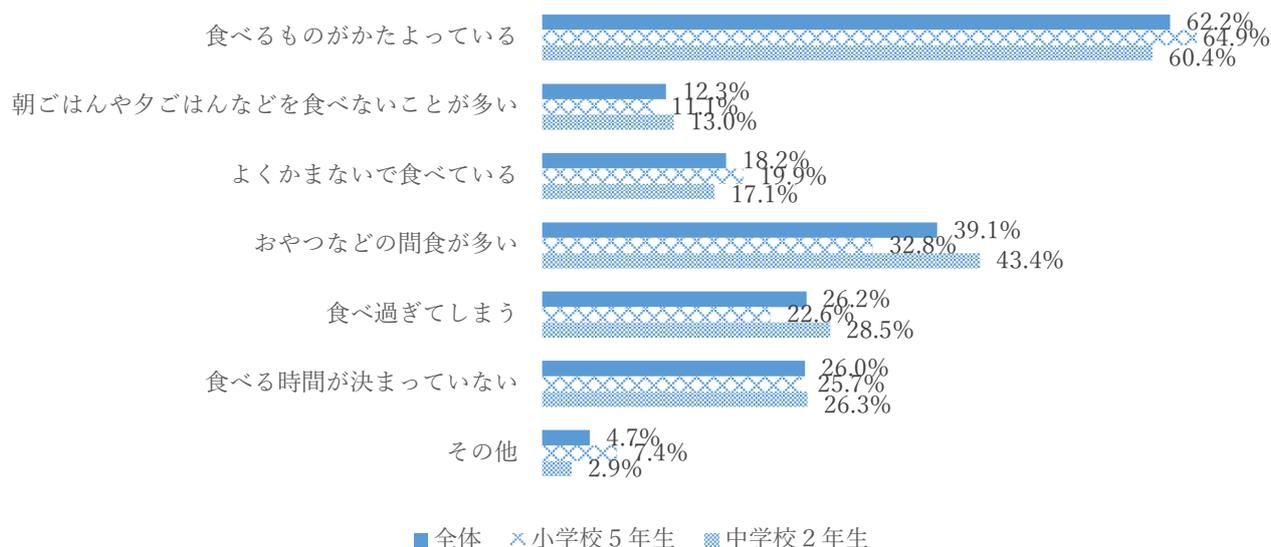
前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに「よい」の回答が6ポイント以上増加しています。



問29 問28で「あまりよくない」「よくない」を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。3つまで選んでください。

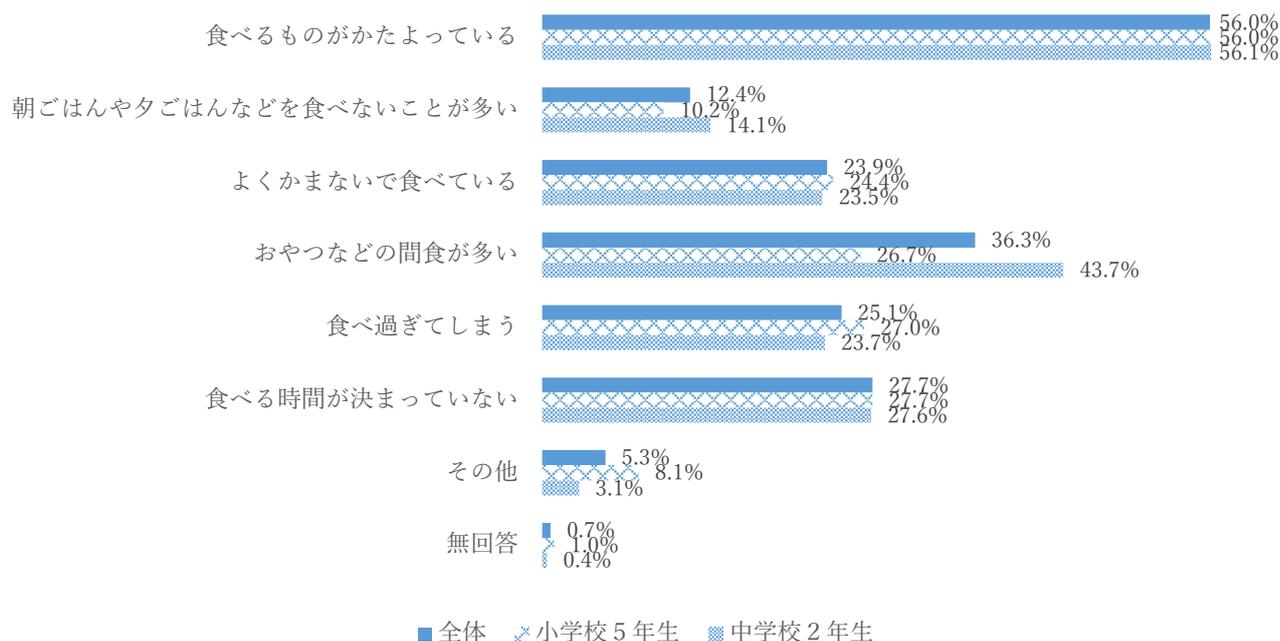
食生活がよくない理由としては、小学5年生・中学2年生ともに「食べるものがかたよっている」が6割台で最も多く、次いで「おやつなどの間食が多い」となっています。

学年別では、「おやつなどの間食が多い」との回答は、中学2年生が小学5年生を大きく上回っています。



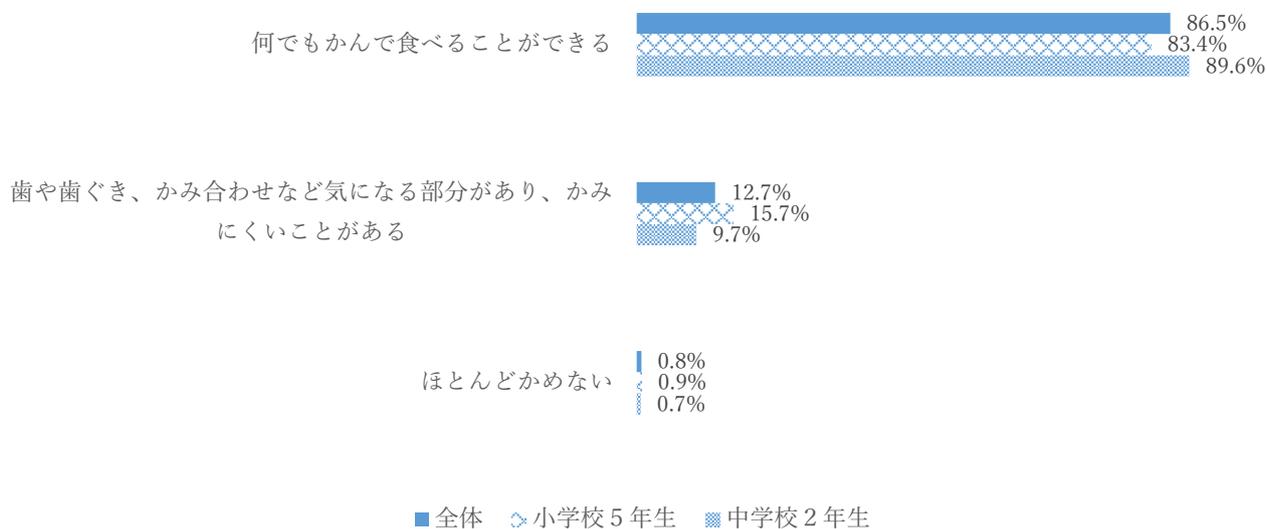
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、小学5年生・中学2年生ともに、「食べるものがかたよっている」割合が増加しています。



問30 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。1つ選んでください。

食事をかんで食べる時の状態は、小学5年生・中学2年生ともに、「何でもかんで食べることができる」との回答が8割を超えています。



【前回調査との比較】

新規設問のため、比較なし。

III. 自由回答

1. 一般市民調査 自由回答

食育に関するご意見・ご要望等について、自由記入方式でたずねたところ、189人の方からご意見を頂きました。

以下は、その内容を抜粋したものです。

【主な記述内容】

食育

・家族や孫たちへの食育。献立、準備の段階で愛情が引き出されています。その気持ちが伝わって楽しい食卓になればいいと思います。いただきます、ご馳走様、おいしかったよ等の一言がさらに食育へとつながります。より安全で、栄養もあり、海、大地の恵みで健康を保ち、健全な精神が育ってほしいと願います。今後、改めて食育について考えさせられました。社会の中のたった一つの家庭、そこから健全な精神は食育から始まるのではないかと思います。老夫婦の食卓に、よく来る嫁、息子夫婦により、安全で栄養価のいいものを考えようと励まされました。元気な限り、心を込めて作りたいたいと思いました。食事を満足に取れていない子供たちがありませんように。願っています。(70歳代以上・性別無回答・ニュータウン)

・国として、市としてより多く食育を進めるならば、年代別の現状を確認し、人々に何が必要かわかりやすく、重要性をアピールしていかなければならない。(40歳代・男性・下総)

・コロナ禍により、黙食が推奨されるようになってしまったが、食を囲んでのコミュニケーションは、人間関係を良好にするために必要不可欠なものだと思いますので、コロナの終息を見据えて、成田市がリーダーシップを取って、食育の重要性をアピールし、推進するのはとても良いことだと思います。食育の推進計画に基づいて、推進していただいていると思いますが、市民として食育推進計画があることを初めて知りました。難しい内容で周知を図るよりも、ざっくりと成田市民が作った食物を、みんなで楽しく、食べて健康で充実した生活を送るために、市民が参加できる楽しいイベントや教育の機会を増やして頂ければ、より良いと思います。よろしく願いいたします。(40歳代・男性・公津)

学校教育

・子供達が増え、農業や水産業に携わる機会が増えると野菜や魚などに対する考え方が変わると思います。スーパーに行けば簡単に野菜、肉、魚が買えますが、そこまで(スーパーに並ぶまで)の過程がどれだけ手間暇をかけているのか知ることにより、大変さ、大事さ、命を学ぶと思います。幼稚園、保育園、学校で直接学ぶ機会が増える事を願います。(40歳代・女性・遠山)

・食育は家庭での比重が多く、家庭環境に左右されやすいものです。こどもが心身ともに健やかに育つためにも公教育での食育の機会が増えていけばと思います。自分の健康のために食べ物を選び、調理でき、自立していける世の中を願います。(30歳代・女性・成田)

・成長途中の小・中学生にはバランスのとれた食事が非常に大切だと思います。学校給食は唯一家庭環境に左右されることなく全ての子どもに等しくゆき渡すことができる食事だと思いますので、まず、学校給食を維持向上させることを第一の目的として取り組んで下さい。

(30歳代・男性・成田)

食生活・食習慣

・最近コロナで家にいる事が多いので楽しみは食べる事になっています。父が家庭菜園をしていてとれた物を食べたりしています。外食はめっきり減り両親が作った手作り料理を食べています。とても美味しいので、前よりも食べる様になり体重増加しましてこれ以上は太らない様に心掛けています。作業所もパン屋さんなので食に囲まれた生活をしています。ありがたい事です。買い物はほぼスーパーなので旬の物は食べる様にしています。両親からは「食べている時が一番幸せそう」と言われています。(40歳代・女性・成田)

・70才になる頃からは、認知症や寝たきりにならない様に”たんぱく質”はより心掛けて取ることにしています。歯も大事なので”カルシウム”も。とにかく他の食品も平均に取っています。お陰で今のところ医者にかかっていません。これからもこの生活を続けたいです。(週3回の運動しています)(70歳代以上・女性・成田)

・給食って、大事ですよ。朝ごはん用意してもかんたんなものですませて、学校行っちゃうし。夜にちゃんとしたもの食べさせても、他2回の食の質が悪いと、成長期の子供の身体は大丈夫なのか?と。私がトレーニーなのでボディメイク知識として栄養の事は少しは知っていますが、他の家庭の話の聞いていると不安ですね。冷凍食品、外食、レトルト、麺になってしまっているそうですよ。特に共働きの家庭は。ちなみに朝はパンという家庭が多いですね。楽だから。うちは農家育ちなので米一択ですけど、他の家庭はどんな食事してるのか・・・。食育が出来ない家庭もあるよね。(40歳代・男性・中郷)

農業体験

・以前、選挙に行った際に小松菜の種をいただき、とてもうれしかったです。種をいただいたことをきっかけに野菜を育てるための環境を作りました。やりたくてもなかなかタイミングやきっかけがないなか、そういった行事などで野菜を作るきっかけを作っていただけなのがとても食育に関して更なる関心に行けたので他の種や苗の配布をしていただけたらもっと嬉しいですし、野菜を育てる喜びをもっと多くの人に知ってもらおうきっかけになると思いました。

(20歳代・女性・成田)

・成田の特徴的な自然と農地(田んぼや畑、林など)のつながり、生物多様性から見た農地の重要性を小学生や中学生に知ってもらうことが必要だと思います。農地があるから自分たちの住む地域の自然が守られているということ、自分が「食べる」ということで農地が守られるということなど、食と地域の農業のつながりが見えてくると、もっと食が身近に感じてもらえるのではないのでしょうか。農業体験をすることで、生産の仕組みも感じられると思います。種をまいて、育てて、収穫するというプロセスは知っていても、実際に体験することで、知識だけのものが具体化できると思います。子どもたちも、大人たちも、自分の健康と食と地域の自然と農業が密接な関係にあることを食育を通して学べたらと思います。(50歳代・男性・成田)

・安全、安心な体づくりは食育の基本だと思います。プランターで作れる野菜づくりなど自分で種などをまいて育てていただく事もこれから考えていきたい。プランターで育てたいのは、カラスから作ったものが食べられないようベランダで作成したいため。我が家のベランダはサンルームになっている。害虫も苦手なので是非プランターで作れる野菜(作る野菜)講座などあるとうれしい。(50歳代・性別無回答・公津)

情報提供

・日々仕事に追われ、疲れて帰ってきて、食事のことなどあまり気にしていませんでした。コロナが世の中の中心となりつつあり、健康な体でいないといけないなど最近思うようになってきています。ですが、バランスの良い食事メニューを考えるだけでも一苦勞。そういうレシピの公開とかあるとよいですね。1か月分とか。そういうイベントとかできる？あるなら行ってみたいかもです。地元の野菜とか肉とかを使ったもので。この野菜でこんな料理とか作り方とかありますよとか教えてもらえると嬉しいです。(40歳代・女性・遠山)

・独身家庭でも取り組める食育を目に見える形でPRして頂けると、すごく参考になります。(20歳代・男性・成田)

・教育関係の仕事をしています。生産側の大変さや努力を知ること、自分で食事を作る機会に触れ、食事への興味や意欲が育つことが大切だと思います。が、集団生活の中での体験や見学を増やそうとすると、学校側の労力・負担が増えるばかりです。各家庭で体験を考えられそうな催しや情報発信をお願いしたいです。(30歳代・女性・成田)

市への要望

・「食育」って何？という人(自分)がいなくなるような工夫をしてほしい。ホームページや広報誌も大事だが、もっと身近な所で目にするような活動。例えば、スーパーでの売場と連動したPR活動等。(50歳代・男性・ニュータウン)

・子供達へ食の大切さを教えること(食料難民も多い)。栽培の楽しみ、豊かな心を育むことを目指し農業体験の実施(植付から収穫まで)が必要ではないか。食品の流通を知らしめ食品のムダを理解することも大切なことである。市民に対し食の大切さをPRしていただきたい。地場製品のアピール(スーパーの一部を借りて定期的に行う)等を積極的に進め農家の活性化を進めていただきたい。魅力的な農業の推進を図るため農業関係団体が知恵を出し合い地場製品の育成から流通までを精査し販売確保に努め、後継者が育つ農政をお願いいたします。世界の食糧危機の一端にも貢献できるよう願っています。(70歳代以上・男性・ニュータウン)

・生産者が直にではなくても、生産品を持ち寄って市を開催してはいかがでしょうか？マルシェ、朝市など。現在でも、開催しているとしたら、常設あるいは定期的にお願ひします。空港関連で言えば、機内食が試食できるレストランを市内中心部に作って欲しい。新成田市場もいままでの成田市場のように気楽に行ける案内をもっとして欲しいです。(60歳代・男性・成田)

農産物直売所

・成田には道の駅の様な直売所が無いと思います。もっと成田地区の野菜・果物等があると皆さんに知っていただくことが大切だと思います。(70歳代以上・性別無回答・遠山)

・地元製品のPRや売場についての情報がほとんど得られない。成田市には「道の駅」もないし、地場産品を置く売場の設置がない。市がもう少し、農村地域と市街地域との交流を図るような施策を増やすべきである。市の中心施設はほとんどニュータウンに集中してしまっている。駐車場なら農村地域には十分に確保できます。朝市の開催など工夫していただきたい。(70歳代以上・男性・豊住)

・近所に農産物直売場があったら週3くらいで行くと思う。なので成田にもっと直売所を作りたいです。(50歳代・女性・公津)

食の安全性

・国産だから安心とは思いません。産地国名の偽装の商品が多いような気がします。ついこの間もあさりの問題がありました。正直に表示してください。(60歳代・女性・ニュータウン)

・日本の残留農薬基準は世界と比べて甘く危険といわれることもあるけれど、その手の話は明確に報道されることも少なく、目に触れる機会も少なく感じる。国際的な基準の違いに対して、年間摂取量の違い、体質の違い、生産手段の違いなどが指摘される。そこで疑問を感じるのは、栄養素の摂取基準に関しては、体質の違いなどが考慮されないこと。例えば、塩分摂取は日本人の特性は加味されていないように思う。日本人の塩分耐性はずっと高いと思うが、一律で語られていると思う。何が正しいのか、科学的な根拠に基づき、もっと積極的に発信されることを望んでいます。(50歳代・男性・遠山)

・食べる事は生命の源であり、特に産地の表示や農薬の使用の有無は購入者の望むところであり、これによって地産地消が進むものと思われる。(70歳代以上・男性・ニュータウン)

地産地消

・千葉県は他県と比べても美味しい農畜産物や水産物が数多くあると感じています。(私は神奈川県からの移住者ですが) 今後なるべく県産品の食品を購入し、千葉県を応援していきたいと思えます。(50歳代・男性・成田)

・成田は自然豊かで気候もよく農業も盛んですから、もっと身近な情報発信を食育や地産地消で地元の人達だから安くて新鮮な食物を手に入れられる仕組みがあると良いですね。昔いた地域には週末になると農家の人達が自分達で作った農作物を売る”朝市””夕市”がありましたが、今では中々見たり聞いたりしなくなった気がします。実売はこのコロナ渦では難しいかもしれませんがオンラインを使った仕組みなどあるとうれしいですね。(50歳代・男性・ニュータウン)

・まずは地産地消からと思います。しかし、地元の食材が実際にどのように作られているのか(安全性など)知る機会が少ないのではないかと。日本の食料自給率は、先進国の中でも極だって低く、かつ、年々低下傾向にある。そして、農業従事者も減少傾向にある。日本は、エネルギー、軍事で外国に依存し、その上食べ物まで依存するようでは安全保障上問題である。もっと国産品を食べるようにPRすべきではないか。(70歳代以上・男性・成田)

アンケートについて

・アンケートも紙ではなくメール等で行えるようにすると良いと思います。統計処理も簡素化されると思えます。(40歳代・女性・ニュータウン)

・アンケート手法について。郵送ではなくQRコード等を配布→インターネット上で回答の方が紙の節約、回答率上昇、集計の簡素化等のメリットがあるのではないかと思いました。

(20歳代・男性・ニュータウン)

・子育てが終わり、しばらく”食育”という言葉をお忘れておりました。そんな時アンケートの機会をいただき、再認識することができました。ありがとうございました。

(40歳代・性別無回答・公津)

健康

・来年は70歳となることを改めて、命、体、健康の大切さを感じます。健康寿命を大切にしていこうと、この”食育”をより一層考え、食物とこれからの体づくりに日頃より関心を持ち、食物、食育を大切に思い過ごしていきたいと改めて思いました。ありがとうございました。食育に関する特集、何かと形で日頃からより無理なく知ることのできる場をお願い致します。

(60歳代・性別無回答・成田)

・日頃から、若い人たちがお菓子ばかり食べて、食事をおろそかにしている所をよく見かけます。子供が小さなうちから、食事の大切さをしっていれば、大人になってからでも体にいいものを選び、心身共に健康に過ごせると思います。このような機会を与えて下さり、色々と食に対して、考える事が出来ました。ありがとうございました。(40歳代・女性・成田)

・今日食べたものが10年後の身体を作るという話を聞きました。小さな子供たちには安全な食品でバランスの良い食事を摂らせてあげたいと思います。でも小さい子を持つお母さんというのは仕事に家庭のことと忙しいことが多くて食に対してむきあうのが大変だと思います。私たちのように年金暮らしで自由な時間がたっぷりあれば食に対していろいろ工夫してバランスの良い食事の支度もできるのですが動きが少ないので食も細くなりそれ程食べられません。若いお母さんは大変ですが、子供たちに十分なバランスの良い食事をとらせてほしいです。

(60歳代・性別無回答・ニュータウン)

農業

・食が生きるためのエネルギーの原点であるため、成田市はまだ農地が数多くあるため、農業のすばらしさをもっと政策に入れて農業の発展に力を入れてもらいたいと思います。

(50歳代・女性・公津)

成田の郷土料理

・全国的な伝統食に関しては知っていましたが、成田固有の郷土料理というものに関しては全くといっていいほど知らなかったもので、もし何かあるようなら、市からもっと積極的にPRしていても良いように感じました。(30歳代・男性・成田)

・例えば、地域で、出荷できなくなった野菜とかを利用して、電車を待つ人や学生達が、気楽に立ち寄れる郷土料理店みたいなお店があったらいいなと思う。(50歳代・性別無回答・成田)

食品や食材の価格

・今年は、コロナのせいもあるが、食品関係も値上がりしているので、食品が安くなることも考えてほしい。(60歳代・男性・ニュータウン)

・いろいろな食材がどんどん値上がっていく中、今はやはり、安いを一番にしています。本当は地産地消に心がけるべきなのですが、野菜等は、スーパーよりも意外に産直の方が安かったりするので、産直はよく利用します。お金に余裕があれば本当は全て国産、産直に心がけていますが、肉や魚はどうしても高いので、外国の物になってしまいます。これから、いろいろ気をつけて、食材を提供して下さる(農家さんなど)に感謝し、バランスのとれた食生活にしていきたいと思っています。(20歳代・女性・成田)

IV. アンケート調査のまとめ

1. アンケート調査のまとめ

■食育について

- ・食育の認知度は一般市民、小中学生ともに高まっており、「言葉も意味も知っている」一般市民 64.5%、小中学生 32.1%）食育への関心や実践についても増加傾向にあります。
- ・食育の推進にかかわるボランティアへの参加意向については低下傾向となっています。（前回 26.2%→今回 24.3%）
- ・参加してみたいボランティア活動では、「生活習慣病予防などのための料理教室」が減少し、「食品廃棄や食品リサイクルに関する活動」への関心が高まっています。
- ・子どもに対する食育についての取組の重要性は、「やや重要」と「重要」との回答がすべての項目で6割を超えており、関心の高さがうかがえます。

■食生活や健康について

①食事のとり方や食習慣

- ・朝食の摂取状況は、一般市民では「ほとんど食べない」割合が増加しており、朝食の欠食状況に改善は見られません。（前回 8.6%→今回 9.6%）
小中学生においては、「毎日食べている」割合は増加し、「食べないことが多い」割合は微減しており、朝食の欠食状況に若干の改善が見られます。
- ・朝食を食べない理由として、小中学生、20～50 歳代の幅広い世代で「時間がない」との回答が多くなっています。
- ・栄養バランスのとれた食事を1日2回以上心がけている割合は、20～30 歳代の若い世代で低くなっています。（全体 66.9%、20 歳代 48.7%、30 歳代 51.7%）
- ・家族、友人との食事状況は、「週1回もない」という“孤食”が他の年代に比べて70 歳以上の高齢者でやや多くなっています。また、小学5年生で約5割、中学2年生で約6割が朝食を一人、または子ども（きょうだい）だけで食べている状況が見られます。
- ・新型コロナウイルス感染症の発生により、自宅で食事を食べる回数が「増えた・広がった」との回答は4割近くとなっており、その一方で、外食の頻度について、「週1回もない」割合は、前回調査に比べ増加しています。（前回 47.3%→今回 55.1%）

②学校給食について

- ・学校給食が好きな割合は、約半数が「好き」と回答しています。
- ・給食が好きな理由として、小学5年生・中学2年生ともに「おいしいから」が9割を超えており、前回調査に比べ大きく増加しています。（前回 68.0%→今回 91.5%）また、給食を残すことがありますかとの質問では、「全部食べる」割合が増加しています。（前回 42.0%→51.9%）

③食事のマナーや栄養成分表示について

- ・食事のあいさつについては、一般市民、小中学生ともに「いつもしている」割合は前回調査に比べ増加傾向にあります。
- ・家族と食べ物・食べ方について話をする（「よくする」+「ときどきする」）児童生徒の回答は、前回調査に比べ大きく減少しています。（前回 68.3%→今回 57.3%）
- ・食品購入時や外食時に栄養成分表示を参考にする人の割合は横ばいとなっています。

■生活や体について

- ・内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知度は横ばいであるものの、生活習慣病の予防や改善に向けた取組については、50歳代以上の年代で実際に対策をしている人が6割を超えています。
- ・学校以外で1週間のうち1日以上運動する頻度は、小学5年生はほぼ横ばい、中学2年生では増加傾向にあります。
- ・自分の食生活がよいとする児童生徒の割合が前回調査に比べ増加しています。（前回 57.7→今回 64.0%）
- ・食事を噛んで食べる時の状態は、60歳代以上で「歯や歯ぐき、噛み合わせなど気になる部分があり、噛みにくいことがある」割合が他の年代と比べ多くなっています。（全体 21.8%、60歳代 31.1%、70歳代以上 28.2%）一方で、「何でも噛んで食べることができる」との回答は、小中学生、20歳代、40～50歳代で8割を超えています。

■食の安全・環境への理解について

- ・食品選びで気をつけていることでは、「賞味（消費）期限」との回答が前回調査・今回調査ともに最も多くあげられています。
- ・食の安全に関して不安に思うことでは、前回調査で最も多くあげられた「輸入食品」が減少し、「食品添加物」や「食品表示の偽り」への関心が高まっています。
- ・食べ残しを減らす努力をしている人や、食べ残しや廃棄についてもったいないと感じている人の割合は横ばいとなっています。

■郷土料理や伝統的な行事食について

- ・一般市民の成田市の郷土料理を知っている割合は前回調査と比べほぼ横ばい、地場産物については大きく増加しています。（前回 41.8%→今回 62.7%）また、小中学生の地場産物を知っている割合は、一般市民を大きく上回っています。（一般市民 45.5%、小中学生 77.8%）
- ・知っている郷土料理は、前回調査と同様で、「うなぎ料理（うなぎの蒲焼き、うな重、うな丼）」「鉄砲漬け」「太巻き寿司、祭り寿司、飾り寿司」などが上位にあげられています。
- ・伝統的な行事食を知っている人の割合は、前回調査に比べ大きく増加しています。（前回 29.2%→今回 45.5%）また、自宅で行っている行事食を伴う伝統行事は、正月や大晦日、節分などが多くあげられています。

■農業体験について

- ・農業体験をしたことのある割合は横ばい、農業体験がない人の今後の体験希望は、40歳代で他の年代を大きく上回っています。
- ・子どもの食育を進めるうえで農業体験が必要であると考える人は、子どものいる人では9割近くに達しています。
- ・小中学生で体験したことのある農業に関する体験は、前回調査と同様で、「いもほり」「もちつき」「野菜のしゅうかく」などが上位にあげられています。

■地産地消について

- ・「地産地消」を知っていて実践している人の割合は、前回調査に比べ増加しています。(前回 47.5% →今回 50.4%) 一方で、知ってはいるが実践していない人の割合は若い世代で高くなっています。
- ・農産物直売所の利用や地元産の購入を心がけている割合は、前回調査と比べ横ばいとなっています。
- ・価格が少し高めでも地元産を購入する人の割合は、前回調査に比べ減少しています。(前回 64.8% →今回 59.5%)

■市に期待することについて

- ・食育に関して市に期待することについて、「地元農産物を購入できる直売所などの情報を発信する」が最も多くあげられています。また、若い世代では、「学校給食の充実を図る」や「学校や幼稚園、保育園での作物栽培や、料理などの体験の機会を増やす」、60歳代以上では、「広報やホームページで、食育の特集など、啓発やPRをする」への関心も高くなっています。

V. 調查票

1. 一般市民調査票

1. あなたご自身のことについて、お答えください。(あてはまるもの1つに○)

●年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
●性別	男性			女性		
●職業	1. 会社員	2. 公務員、団体職員	3. 自営業	4. 農業	5. パート、アルバイト	6. 専業主婦(主夫)
	7. 学生	8. 無職	9. その他()			
●家族	1. 単身(ひとり暮らし) 2. 夫婦のみ(1世代世帯)					
	3. 親と子(2世代世帯) 4. 親、子、子の子(3世代世帯)					
	5. その他()					
※同居しているご家族に、18歳以下のお子様がいいらっしゃる場合、あてはまるもの、すべてに○をつけてください。						
●地区	1. 成田	2. 公津	3. 八生	4. 中郷		
	5. 久住	6. 豊住	7. 遠山	8. ニュータウン		
	9. 下郷	10. 大栄	11. わからない			
※お住まいの地区がわからない方は住所をお書きください。記入例・・・(成田市花崎町)						

II. 食育についてお答えください。

問1 「言葉」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っている

2. 言葉は知っているが意味は知らない

3. 言葉も意味も知らない

問2 「食育」に関心がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある

2. どちらかといえばある

3. どちらかといえばない

4. ない

5. わからない

→ 問4へ

問3 関心がある項目に○をつけてください。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 心身の健康(歯、口を含む)の向上

2. 食生活、食習慣の改善

3. 食品の安全性に関する理解

4. 食を通じたコミュニケーション

5. 食事に関する、あじさつの励行や作法の習得

6. 自然の恩恵や、生産者等への感謝や理解、農林漁業等に関する体験活動

7. 環境との調和、食品廃棄物の削減や食品リサイクルに関する活動

8. 郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の伝承

9. その他()

《食育に関するアンケート調査 ご協力をお願いします》

日頃より、市政にご理解、ご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。本市では、平成17年7月に国で施行されました「食育基本法」に基づき、食育を総合かつ計画的に推進するため、平成30年3月に「第2次成田市食育推進計画」を策定し、健康、農林、教育等の様々な分野において推進活動を進めています。今回お送りしました調査票は、皆様の食育に関する意識や関心、日頃の食生活等についてお話し、その結果を今後の取り組みに活かせるよう参考させていただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年2月
成田市長 小 泉 一 成
(公印増略)

「食育」とは、様々な経験を通じて、「食」に関する知識とバランスを育むことです。食べることが生涯にわたって続く基本的な営みですから子どもはもちろん、大人になっても「食育」は重要です。健康的な食のあり方を考えるとともに、誰かと一緒に食事や料理をしたり、食べ物の収穫をしたり、季節や地域の料理を味わったりするなど食育を通じて「美談の環(わ)」を広げましょう。

《ご記入にあたってのお願い》

- この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為抽出した2,000人を対象に実施するものです。
- ①あて名のご本人がご回答ください。ただし何らかの事情により、ご本人が回答できない場合はご家族又はご本人と日常よく関わっておられる方がお答えください。
- ②選抜陪がある場合は、あてはまるものを○で囲んでください。
- ③「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み()内になるべく具体的にご記入ください。
- ④質問によっては、回答していただく方が限定されていたり、○の数に制限のあるものがありますので、注意してご記入ください。

本調査は無記名で行い、お伺いした内容は、個人情報取扱いに十分配慮し、統計的に処理させていただきます。

※ご回答いただきましたアンケートは同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにご返送ください。



返 送 期 限
令和4年3月10日(木)

お問い合わせ先…〒286-8585 成田市花崎町760番地
成田市経済部農政課 0476-20-1541

※ 令和3年12月31日現在の住民記録データに基づいてお送りしています。

問4 日頃から「食育」を実践していますか。(あてはまるものに1つに○)

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. 積極的にしている | 問6へ |
| 2. できるだけ、するようになっている | |
| 3. あまりしていない | |
| 4. していない | |
| 5. わからない | |

問5 問4で「3. あまりしていない」「4. していない」「5. わからない」と答えた方におたずねします。

あなたが食育を実践していない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 関心がないから | |
| 2. 仕事や趣味などで忙しいから | |
| 3. 食費を安くすることの方が重要だから | |
| 4. 特に意識しなくても問題はないから | |
| 5. よく知らないから | |
| 6. 活動や行動をしたくても、情報が入手できないから | |
| 7. その他() | |
| 8. 特になし | |

問6 18歳以下のお子様がいいらっしゃる方におたずねします。

子どもに対する以下の食育について、どのくらい重要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①料理づくりへのかわり

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

②食生活の改善

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

③食事のマナー

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

④農業、漁業体験

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑤食文化や伝統の継承

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑥食を通じてコミュニケーション

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑦食べ物の無駄を減らす

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑧自然や生産者への感謝

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

⑨安全な食を選ぶ力

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 重要 | 2. やや重要 |
| 3. それほど重要ではない | 4. 重要ではない |

問7 毎年6月は、食育月間であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問8 毎月19日は、食育の日であることを知っていますか。(いずれか1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問9 食育の推進に関わるボランティア活動に、機会があれば参加してみたいと思いませんか。(いずれか1つに○)

- | | |
|----------------|--------|
| 1. 参加したい | 1-間10へ |
| 2. 参加したいとは思わない | 1-間11へ |

問10 問9で「1. 参加したい」と答えた方におたずねします。どのようなボランティア活動に参加してみたいと思いませんか。(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|---------------------------|--|
| 1. 郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動 | |
| 2. 農業、漁業などに関する体験活動 | |
| 3. 心身の健康(歯、口を含む)の向上に関する活動 | |
| 4. 食生活の改善に関する活動 | |
| 5. 生活習慣病予防などのための料理教室 | |
| 6. 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動 | |
| 7. 食品の安全や表示に関する活動 | |
| 8. 食育に関する国際交流活動 | |
| 9. その他() | |
| 10. わからない | |

Ⅲ. あなたの食生活や健康について、おたずねします。

問11 朝食を食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

※栄養ドリンク剤、野菜ジュース等の場合は含みません。

- | | |
|--------------|--------|
| 1. ほぼ毎日食べている | 1-間13へ |
| 2. 週に4~5日食べる | |
| 3. 週に2~3日食べる | |
| 4. ほとんど食べない | |

問12 問11で「2. 週に4~5日食べる」「3. 週に2~3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方におたずねします。

その理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 時間がない | 2. 家族が作ってくれない |
| 3. 食べたくない | 4. 食べない方が調子がいい |
| 5. 健康法として | 6. その他() |

問13 栄養バランスのとれた食事（主食、主菜、副菜を組み合わせた食事）を、1日2回以上心がけていますか。(いずれか1つに○)
※主食は米、パン、麺類を使った料理、主菜は魚、肉、卵、大豆などを使った料理、副菜は野菜、きのこ、海藻などを使った料理を言います。

1. はい	1～4回	2. いいえ	1～5回
-------	------	--------	------

問14 問13で「1. はい」と答えた方におたずねします。
栄養バランスのとれた食事を1日2回以上とっている日は週に何日ありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日	2. 週6日	3. 週4～5日
4. 週2～3日	5. 週1日以下	

問15 普段、料理を作りますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問16 普段、家族や友人と一緒に食事をとっていますか。(あてはまるもの1つに○)
※オンラインを活用した食事を含む。

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問17 食事の際、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. している	2. とまどきしている
3. あまりしていない	4. まったくしていない

問18 普段、次の食品を、どれくらい食べて (飲んで) いますか。

①米 (それぞれ、あてはまるもの1つに○)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

②野菜類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

③果物

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

④魚類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑤肉類

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑥甘いもの(ケーキやまんじゅうなどの菓子、砂糖入りコーヒエ、清涼飲料水など)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑦惣菜や弁当、インスタント食品や冷凍・レトルト食品など(宅配やテイクアウト含む)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

⑧外食(ファーストフードやレストランなど、飲食店の食事)

1. 毎食	2. 1日2回	3. 1日1回
4. 週4～6回	5. 週1～3回	6. 週1回もない

問19 健全な食生活を実践するには、自分にととの必要な食事の量を把握し、その人に適した食事をとることが必要です。これには、食生活上の指針などを参考にすることが有効とされています。

●食事バランスガイド

「何を」「どれだけ」食べたいのかをコマの形で表したものです。

●食生活指針

望ましい食生活を実践するための指針。

●日本人の食事摂取基準

1日に必要なエネルギー、栄養素の摂取量の目安を示したものです。

●6つの基礎食品

栄養成分の類似している食品を6群に分類したものです。

●3色分類

食品の体内での主な働きを3つに分け主な食品を分類したものです。

●ちほ型食生活(クーパー食生活)

健康が良く栄養たっぷりでおいしい千葉県産の農産物や水産物を上手に取り入れたバランスのよい食事。おかずの量はおよそその目安として、主菜は「グー」

副菜は「バー」で示したものです。

健全な食生活を実践するため、このような指針などを参考にしていますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 食事バランスガイド	2. 食生活指針	3. 日本人の食事摂取基準
4. 6つの基礎食品	5. 3色分類	6. ちほ型食生活
7. 特にない	8. その他()	

問20 食品を購入するとき栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 参考にしている	2. とまどき参考にしている
3. あまり参考にしていない	4. 参考にしていない

問21 外食の際、栄養成分表示を参考にしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 参考にしている	2. とまどき参考にしている
3. あまり参考にしていない	4. 参考にしていない

問22 食事は楽しいですか。(いずれか1つに○)

1. 楽しい	2. 楽しくない
--------	----------

問23 日頃の食生活で、悩みや不安はありますか。(いずれか1つに○)
 1. ある →問24へ 2. 特にない →問25へ

問24 問23で「1. ある」と回答した方におたずねします。
 どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 自分の健康(歯、口を含む)
2. 家族の健康(歯、口を含む)
3. 栄養バランスや食事内容
4. 将来の食料供給
5. 食文化の伝承
6. 料理が苦手
7. 食品の安全性
8. 家計や食費
9. 食べ残しや廃棄など、環境への影響
10. 買い物や、食事づくりが困難
11. 孤食 ※
12. その他()

※孤食・・・ひとりで食事をとること。



問25 新型コロナウイルス感染症の発生により、あなたの食生活はどのように変わりましたか。(それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	増えた・広がった	変わらない	減った・狭まった	ほとんどない
栄養バランスのとれた食事				
自宅で料理を作る回数				
自宅で食事を食べる回数				
家族と食事を食べる回数				
オンラインを利用して家族や友人と食事を共にすること				
おいしさや楽しさなど食を通じた精神的な豊かさ				
地場産物の購入				
通販(オンライン)を利用した食品購入				
食事に伴う時間や労力				
食品の安全性への不安				
食に関する情報の入手				
規則正しい食生活のリズム				

IV. あなたの生活や体について、おたずねします。
 問26 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム) という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

メタボリックシンドロームとは・・・

内臓脂肪が蓄積することによって、血圧や血糖が高くなったり、血中の脂質異常がおこったりして、食事や運動などの生活習慣を改善しないと、心筋梗塞や脳卒中などがおこりやすくなる状態をいいます。

問27 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム) や、生活習慣病の予防や改善のため、適切な食事や、定期的な運動などを継続的に実施していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 半年以上継続している
2. 半年未満である
3. 現在はしていないが、近いうちに始めようと思っている
4. 現在していないし、始めようと思わない

問28 「8020運動」という言葉や、その意味を知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

「8020運動」とは・・・

「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。
 20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足できると言われています。

問29 歯や口の健康状態について、現在どのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ満足している
2. やや不満だが、日常は特に困らない
3. 不自由や苦痛を感じている

問30 食事を噛んで食べるときの状態はどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 何でも噛んで食べることができる
2. 歯や歯ぐき、噛み合わせなど気になる部分があり、噛みにくいことがある
3. ほとんど噛めない

2. 小学5年生・中学2年生調査票

小学5年生・中学2年生への調査は、web アンケートにて実施しており、以下に掲載する調査票は、回答時の入力画面と異なりますが、内容は同一です。

夕ごはんは、何時ごろ食べ始めますか。平日の時間で答えてください。1つ選んでください。

午後6時前
午後6時～7時の間
午後7時～8時の間
午後8時～9時の間
午後9時すぎ
決まっていない

夕ごはんは、お風呂の後の間、お風呂の前、お風呂の間に何を食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

朝ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども（きょうだい）だけで食べている
一人で食べている
その他（ ）

夕ごはんは誰と食べていますか。1つ選んでください。

家族全員で食べている
大人の家族の誰かと子どもで食べている
子ども（きょうだい）だけで食べている
一人で食べている
その他（ ）

野菜

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

魚

次の食品を、どのくらい食べていますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日
1週間に3～5日
あまり食べない

I. あなたのことを教えてください。

あなたの学年と性別を選んでください。

●学年 小学5年生 中学校2年生
●性別 男子 女子

II. 食育についてお聞きします。

「食育」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

言葉も意味も知っています
言葉は聞いたことあるけど、意味はよく知らない
言葉も意味も知らない、聞いたこともない

III. ふだんの食卓、食生活について教えてください。

朝ごはんを毎日食べていますか。1つ選んでください。

毎日食べている
1週間に1～2日 食べないことがある
1週間に3～4日 食べないことがある
食べないことが多い

「1週間に1～2日 食べないことがある」「1週間に3～4日食べないことがある」「食べないことが多い」を選んだ人にお聞きします。

その理由は何ですか。1つ選んでください。

食卓がないから
おなかがすいていないから
太りたくないから
時間がないから
いつも食べないから
用意がされていないから
その他（ ）

ふだん、どのような朝ごはんを食べていますか。

あてはまるもの、すべてを選んでください。

ごはん、パン、めん（主食）
肉、魚、たまご、大豆、大豆製品（主菜）
野菜、きのこ、海そう、いも（副菜）
牛乳、チーズ、ヨーグルト
くだもの
お菓子類（菓子パンを含む）
ジュース類
その他（ ）

学校から帰って、夕ごはんまでの間、おやつを食べますか。1つ選んでください。

ほとんど毎日食べている
1週間に4～5日 食べている
1週間に2～3日 食べている
ほとんど食べない

あなたは、水、お茶、牛乳以外の飲み物をどのくらい飲みますか。
(1本というのはペットボトル500mlのことです。)
1つ選んでください。

- 1日に2本以上
- 1日1本くらい
- 1週間に3～5本くらい
- 1週間に1～2本くらい
- ほとんど飲まない

お手伝いをしていますか。
あてはまるもの、すべてを選んでください。

- 買い物
- 料理の手伝い
- テーブルの準備
- あとかたづけ
- 食器洗い
- 何もしていない
- その他 ()

料理を作ることがありますか。1つ選んでください。

- 作る
- ときどき作る
- 作らない

食事のとき、「いただきます」「ごちそうさまでした」のあいさつをしていますか。
1つ選んでください。

- いつもしている
- ときどきしないことがある
- していない

家族と食べ物・食べ方などについて話をしますか。1つ選んでください。

- よくする
- ときどきする
- したことがない

具体的にどのような話をしますか。(自由記述)

あなたが食事を楽しいな・うれしいなと感じるときは、どんなときですか。
3つまで選んでください。

- 家族みんなで食べているとき
- 外食のとき
- 学校で給食を食べているとき
- 自分で作ったり、手伝ったものを食べているとき
- 一人で食べているとき
- スマートフォン・テレビなどをみながら食べているとき
- 特にない
- その他 ()

どのようなことに気をつけて食事をしていきますか。あてはまるもの、すべてを選んでください。

- よくかんで食事をする
- 朝・昼・夕と3食かならず食べる
- 栄養バランスを考えて食べる
- お菓子、スナック菓子、ジュースを食べすぎない・飲みすぎない
- はしの持ち方などのマナー
- 残さず食べる
- 塩からい(しょっぱい)ものを食べすぎない
- 牛乳や小魚を食べる
- 野菜を多く食べる
- 好き嫌いをしていない
- ごはんとおかずを、かわるがわる食べる
- 楽しく食事をする
- その他 ()

学校の給食は好きですか。1つ選んでください。

- 好き
- ふつう
- 好きではない

「好き」を選んだ人にお聞きします。
その理由は何ですか。3つまで選んでください。

- おいしいから
- お友達といっしょに、みんなで食べられるから
- 先生といっしょに食べられるから
- みんなと同じものが食べられるから
- 好きなものが食べられるから
- 家では食べられないものが食べられるから
- 栄養のバランスがいいから
- その他 ()

給食を残すことがありますか。1つ選んでください。

- 全部食べる
- ときどき残す
- いつも残す

「ときどき残す」「いつも残す」を選んだ人にお聞きします。それはどうしてですか。3つまで選んでください。

- 量が多い
- 食欲がない
- 太りたくない
- 一度にたくさん食べるとはずかしい
- 時間が短い
- おいしくない
- きれいなものがある
- からだの調子が悪い
- その他()

IV.

食文化について、お聞きします。成市の有名な農産物(さつまいもや米など)や食品を知っていますか。1つ選んでください。

- 知っている
- 知らない

学校以外で、農業に関する体験をしたことはありますか。体験したことのあるもの、すべてを選んでください

- 田植え
- 野菜の種まき
- 稲刈り
- いもほり
- 野菜のしゅうかく
- もちつき
- みそづくり
- したことがない
- その他()

V.

ふだんの生活や、体のことについて教えてください。学校へ行く前の日は何時ごろに寝ていますか。1つ選んでください。

- 午後8時より前
- 午後8時～9時の間
- 午後9時～10時の間
- 午後10時～11時の間
- 午後11時～午前0時の間
- 午前0時すぎ

学校へ行く日は何時ごろに起きますか。1つ選んでください。

- 午前6時より前
- 午前6時～7時の間
- 午前7時～8時の間
- 午前8時すぎ

体育の時間やクラブ活動の時間以外で、運動したり、体を使って遊んだりする機会はどのくらいありますか。土曜日、日曜日も含め、1つ選んでください。

- 毎日
- 1週間のうち4～6日
- 1週間のうち1～3日
- あまりない

自分の今の食生活を、どう思いますか。1つ選んでください。

- よい
- あまりよくない
- よくない

「あまりよくない」「よくない」を選んだ人にお聞きします。その理由は何ですか。3つまで選んでください。

- 食べるものがたよっている
- 朝ごはんや夕ごはんなどを食べないことが多い
- よくかまないで食べている
- おやつなどの間食が多い
- 食べ過ぎてしまう
- 食べる時間が決まっていない
- その他()

食事をかんで食べる状態はどれに当てはまりますか。1つ選んでください。

- 何でもかんで食べることができる
- 歯や齧ぐき、かみ合わせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
- ほとんどかめない

食育に関するアンケート調査
報告書

発行：成田市

編集：経済部農政課

〒286-8585

千葉県成田市花崎町 760 番地

TEL 0476-20-1541

発行日：令和4年6月